

判所ノ管轄ヲ異ニスルコトナシ

第二、審級ノ順序ニ拘ハルコトヲ要セス 私訴ヲ民事裁判所ニ提起スルトキハ必ス第一審裁判所ニ爲サ、ヘカラス乍併私訴ヲ刑事裁判所ニ提起スルトキハ此順序ヲ經由スルコトヲ要セス

第三、第三者ハ公訴附帶ノ私訴ニ參加スルコトヲ得 第三者ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ主參加、從參加、告知參加、指名參加ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第五條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖トモ 民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償、返還ヲ要ムル妨礙ト爲ルコトナカル可シ

(講義)本條ハ公訴ニ付キ免訴又ハ無罪ノ言渡アリシモ被告人ハ必スシモ民事ノ賠償、返還ノ責ヲ免カレサル旨ヲ定メタルモノナリ刑事上ノ責任ハ其犯罪成立シテ初メテ生スルモノナレトモ民事上ノ責任ハ犯罪構成ノ如何ニ拘ハラス苟モ法律上ノ原因ナクシテ他人ニ損害ヲ加ヘタル事實カナル場合ハ其責任スルモノトス

第六條 公訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

- 第一 被告人ノ死去
- 第二 告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄
- 第三 確定判決
- 第四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因ヨリ其刑ノ廢止
- 第五 大赦

第六 時効

(講義)公訴消滅ノ原因ハ本條ニ記載スル六種ノ原因アレハ其原因カ發生シタル時ハ最早公訴ヲ提起スルヲ得サルハ勿論既ニ提起シタル公訴モ亦當然消滅スヘキモノナリ

第一、被告人ノ死去 公訴ノ目的ハ刑ノ適用ニアリ而シテ刑ハ犯人ノ一身ニ止マルヲ原則トセリ果シテ然ラハ被告人カ死去シタルトキハ最早公訴ノ目的ヲ達スルニ由ナク從テ其死去

ト共ニ公訴權ノ消滅スルハ當然ナリ 第二、告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄 告訴ヲ待テ受理ス可キ事件トハ親告罪ニシテ親告罪ナルモノハ法律カ自ラ之ヲ干渉シテ公訴ヲ提起スルコトアラシカ國家カ其犯人ヲ處罰シテ得タル所ノ利益ハ反テ一私人ノ被リタル損害ヲ償フニ足ラス故ニ公訴權ハ告訴ノ拋棄ニヨリテ消滅スルモノトセシナリ

第三、確定判決 確定判決カ公訴權消滅ノ一原因ナルコトハ所謂一事不再理ノ原則ニ基クモノニシテ如何ナル判決ニテモ一旦確定シタル以上ハ公訴權ハ總テ消滅スルモノトス乍併管轄違ノ判決、公訴不受理ノ判決例ハ確定スルモ例外トシテ公訴權消滅セス何トナレハ管轄

違ハ檢察官カ公訴ヲ提起スルニ付キ其手續ヲ誤リタルカ爲メニ裁判所カ公訴不受理ノ判決ヲ爲シタルモノナレハ檢察官ハ更ニ相當ノ手續ヲ履行シ再ヒ公訴ヲ提起スルコトヲ得レハナリ

第四、犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止 公訴權ハ刑罰權ヲ實行スルニアリ故ニ刑罰權ヲ實行スルニハ公訴權ヲ行使セサルヘカラス然ルニ新タニ法律ヲ頒布シテ刑ヲ廢止シタルトキハ最早犯罪ヲ證明シテ刑ヲ適用スル目的ナキヲ以テ公訴權モ亦消滅ニ歸スルハ當然ナリ

第五、大赦 大赦トハ一定ノ所爲ニ付キ其罪質ヲ湮滅セシメ會テ社會ニ存在セザリシ如ク全ク之ヲ遺忘セシムルノ處分ニシテ君主其大權ニ基キ之ヲ行フモノトス故ニ大赦ハ公訴提起

總則

ノ前後タルト確定判決ノ前後タルトナ間ハ一度之ヲ行ハル、トキハ公訴權及執行權ハ消滅ニ歸スルモノトス

第六、時効 時効トハ法律ニ定メタル時間ノ經過ニ因リテ生スル効力ヲ謂ヒ此効力ハ即チ公訴權ヲ消滅セシムルモノナリ更ニ其ハ犯罪ノ日ヨリ法律ニ定メタル時間ヲ經過シ終ルマテ檢察官公訴ヲ提起セザレハ爾後復之ヲ提起スルコトヲ得サルコトナリ公訴權ハ消滅ニ歸スルナリ

第七條 私訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

- 第一 拋棄又ハ和解
- 第二 確定判決
- 第三 時効

(釋義) 私訴權消滅ノ原因ハ本條ニ記載スル三種ノ原因アレハ消滅ス

第一、拋棄又ハ和解 檢察官公訴提起ノ機關ナルモ被害者ハ私訴提起ノ機關ニ非ス故ニ檢察官一旦公訴ヲ提起シタルトキハ公訴權ノ全部若クハ一部ヲ拋棄スルヲ得サルモ被害者ハ自己ノ自由ヲ以テ私訴權ヲ拋棄スルコトヲ得去レハ被害者カ私訴ヲ爲ス權利ヲ拋棄シ若クハ相手方ト和解ヲ爲シタルトキハ私訴權ハ自ラ消滅スルモノトス

第二、確定判決 茲ニ確定判決ト云フハ贓物ノ返還、損害ノ賠償ノ請求ニ對スル確定判決ヲ云フモノニシテ公訴ニ付テ確定判決アルモ私訴ハ之カ爲メニ消滅スルコトナシ

第三、時効 私訴ハ公訴ノ時効ニ從テ消滅スルモノナリ元來私訴ハ公訴ト同一ノ犯罪ヨリ生スルモノニシテ公訴ノ時効ハ社會ノ既ニ遺忘セシ時ニ及ンテ之ヲ罰スルハ却テ公安ニ害アリト爲スニ出ツルモノトス然ルニ爾後同一ノ犯罪ニ付キ私訴ノ提起ヲ許シテ其犯罪ノ有

無キ審理裁判スレハ之ニ因リテ再ヒ社會ノ記憶ヲ喚起シ公安ヲ害スルニ至ルヘシ故ニ私訴モ亦公訴ノ時効ニ從テ消滅スルモノトナシタルナリ

第八條 公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ完成ス

- 一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年
- 二 無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年
- 三 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年
- 四 長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年
- 五 刑法第百八十五條ノ罪ニ付テハ一年
- 六 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

(明治四十一年三月法律第二十九號ヲ以テ改正)

(釋義) 本條ハ犯罪ノ種類ニ依リ公訴時効ノ期間ヲ定ムルヲ以テ目的トス即チ死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年、無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年、長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年、長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年、刑法第百八十五條ノ賭博罪ニ付テハ一年、拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月ナリトス

犯罪ノ種類ニ因リ公訴ノ時効ニ長短アルノ理由ハ蓋シ其罪大ナルモノハ社會ノ安寧秩序ヲ害スルコト亦大ナルヲ以テ社會ノ犯人ヲ惡ムノ情甚シク其自然ニ回復スルノ期モ自ラ長カラサズルヲ得ズ然ルニ其罪輕キ者ハ公安ヲ害スルコト小ナルカ故ニ社會ノ之ヲ遺忘スルコトモ亦隨

テ早キハ自然ノ道理ナレハナリ

第九條 私訴ノ時効ハ被害者無能力ナルトキ又ハ公訴ニ附帶セスシテ其訴ヲ爲シタルトキト雖モ公訴ノ時効ト其期間ヲ同クス

公訴ニ付キ既ニ刑ノ言渡アリタルトキハ民法ニ定メタル時効ノ例ニ從フ

(講義)私訴ノ時効ハ公訴ノ時効ト其期間ヲ同フス故ニ期間ノ起算點中斷ノ方法總テ公訴ノ時効ト異ル處ナシ私訴ノ時効カ公訴ト其運命ヲ共ニスヘキハ獨リ公訴ニ附帶シテ私訴ヲ提起シタル場合ノミナラス私訴ヲ獨立シテ民事裁判所ニ提起シタルトキト雖トモ尙公訴時効ト運命ヲ共ニスヘキモノトス
本條第一項ノ規定ハ私訴ノ時効ハ民法ノ時効ト異ニシテ被害者即チ原告人ノ無能力ナルトキト雖モ其經過ヲ停止スルコトナキヲ明示シ併セテ公訴ノ時効モ其經過ヲ停止スルコトナキヲ默示スルモノナリ何故ニ然ルカ他ナシ公訴權カ時効ニ依リ消滅シタルトキハ國家ハ最早其犯人ヲ處罰スルコト能ハス然ルニ被害者ノミ尙ホ犯罪ヲ鳴シ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得トスレハ明ニ公訴時効ヲ設ケタル立法上ノ趣旨ニ反スルモノト云ハサルヘカラス何トナレハ既ニ社會ヨリ遺忘セラレタル後ニ至リテ尙ホ犯人ヲ處罰セントスルハ反テ社會ノ秩序ヲ亂スヲ以テナリ乍併一旦刑ノ言渡シアリタル以上ハ例ヘ被害者其犯罪ヲ鳴ラスモ何等社會ノ秩序ヲ紊スコトナクレハ宜シク民法ニ定メタル時効ノ例ニ從フヘキモノトス之レ第二項ノ規定アル所以ナリ

第十條 公訴、私訴ノ時効ハ犯罪ノ日ヨリ其期間ヲ起算ス但繼續犯罪

ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算ス

(講義)本條ハ公訴私訴ノ時効ノ期間ヲ計算スルニ付キ其起算點ヲ定メタルモノナリ本條ノ規定ニ從ヘハ此期間ノ起算點ハ犯罪ノ日即チ犯罪成立ノ日トス故ニ今日殺人罪ヲ犯セハ其時効ハ直チニ今日ヨリ初マルモノトス而シテ若シ最終ノ日カ休暇ニ當ルトキト雖モ尙ホ期間ニ算入ス
以上ハ即時犯ノ期間ノ起算點ナレトモ繼續犯ノ場合ハ少シク之ニ異ルモノアリ繼續犯トハ多少ノ時日繼續スヘキ性質ノ犯罪ニシテ例ヘハ罪人藏匿ノ罪、贓物寄藏ノ罪ノ如キ數日或ハ數月ニ涉リテ繼續スルモノナレハ犯罪成立ノ日ハ結局其最終ノ日ヨリ起算セサルヘカラス故ニ本條ハ但書ヲ設ケテ行爲ノ最終ノ日ヨリ起算スルコトト爲シタルナリ

第十一條 時効ハ起訴、豫審又ハ公判ノ手續アリタルニ因リ其期間ノ經過ヲ中斷ス其未タ發覺セサル正犯、從犯及民事擔當人ニ付テモ亦同シ

時効ノ經過ヲ中斷シタルトキハ起訴、豫審又ハ公判ノ手續ヲ止メタル日ヨリ更ニ其期間ヲ起算ス

(講義)本條ハ時効期間ノ經過ヲ中斷スルノ理由及中斷ヨリ生スル效果ヲ定メタルナリ時効中斷ノ手續ニ三種アリ起訴、豫審、公判之ナリ中斷トハ時効期間ノ經過ヲ中斷シ以前ノ日子ヲ經タルコトナキニ至ラシムルヲ云フ例ヘハ重罪ノ成立シタル日ヨリ七年ヲ經過シタルトキ中斷ノ原因發生センカ其既ニ經過シタル七年ハ全ク水泡ニ歸シ中斷ノ原因カ止ミタルトキヨリ更ニ二十年ヲ經過スルニ非サレハ時効ハ完成セサルカ如シ

起訴豫審又ハ公判ノ手續ハ既ニ發覺シタル犯人ニ對シテ時效中斷ノ效果ヲ生スルノミナラス未タ發覺セサル正犯從犯ニ對シテモ亦公訴私訴ノ時效ヲ中斷スルノ效アルモノトス蓋シ時效ハ犯罪事件ニ關スルモノニシテ人ニ對スルモノニ非サレハ其事件ニ關係アル被告人ニ對シテハ既ニ發覺シタルモノト否トナ間ハス時效經過ノ中斷アルモノトス

民事擔當人トハ他人ノ所爲ヨリ生スル損害ニ付キ其責任スルモノニシテ訴訟事件ニ關係アル人ナレハ均シク起訴、豫審、公判ノ手續ニ因リテ時效中斷ノ效ヲ生ス

第十二條

起訴、豫審又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スルトキハ時效ノ經過ヲ中斷スル效ナカル可シ但裁判所ノ管轄違ナルニ因リ其手續ノ無効ニ屬スルトキハ此限ニ在ラス

(附義)本條ハ起訴、豫審又ハ公判ノ手續アリト雖モ時效ノ經過ヲ中斷スルノ效果ヲ生セサルコトアル旨ヲ規定セルナリ蓋シ起訴、豫審又ハ公判ノ手續ニシテ時效ヲ中斷スルニハ其規則ニ適合スルコトヲ要ス若シ其規定ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スルトキハ時效ノ經過ヲ中斷スル效ナキモノトス乍併裁判所ノ管轄違ナルニ因リ其手續無効ニ屬スルトキハ本條ノ例外トス何トナレハ素裁判所ノ管轄ハ法律上極メテ明瞭ナレトモ其果シテ何レノ裁判所ノ管轄ニ屬スルカハ審判ノ上ニアラサレハ確知シ難キ場合アリテ其起訴ノ手續ニ往々誤謬アルヲ免レサレハナリ

第十三條

被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由告訴人、告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重過失ニ出タルトキハ是等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得

被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人、告發人又ハ民事原告人ヨリ惡意若クハ重過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタルトキ亦同シ

民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキハ被告人其上訴ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得
要償ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

(附義)本條ハ被告人カ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキ其告訴告發ニ錯誤アリタルトキハ被告人カ蒙ル不利益至大ナルヲ以テ告訴人、告發人及ヒ民事原告人ノ被告人ニ對シテ有スル責任即チ損害ノ賠償ヲ規定シタルナリ

告訴トハ被害者カ犯罪事件ヲ當該官吏ニ申告スルモノニシテ告發トハ被害者以外ノ者犯罪事件ヲ當該官吏ニ申告スルモノトス然レトモ公訴ノ提起ヲ促スノ效力ニ至リテハ二者異ル所ナキナリ故ニ檢察官カ告訴告發ニ基キ公訴ヲ提起シタル以上ハ其告ケル所確實ナラスシテ被告人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ損害賠償ノ義務ヲ負擔スヘキモノトス又民事原告人カ私訴ヲ提起シ得ヘキ場合ハ前ニ述ヘタルカ如ク被害者カ損害ノ賠償、贓物ノ返還ヲ公訴ニ附帶シ若クハ單獨ニ民事裁判所ニ求ムル訴ニシテ犯罪ヲ原由トシテ之ヲ爲スモノナレハ其訴フル所ノ者ハ確實ナラサルヘカラサルナリ然ルニ其訴フル所確實ナラスシテ害ヲ被告人ニ加フルトキハ告發ノ場合ト同シク損害賠償ノ責任セサルヘカラス而シテ本條ニ所謂惡意トハ故意ヲ意

味シ重過失トハ裁判官ノ認定ニヨリ決スヘキ事實問題ニシテ一定ノ標準ヲ設クルコトヲ得サルモノトス

本條第二項ハ被告人カ刑ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於ケル告訴發人又ハ民事原告人ノ之ニ對スル責任ヲ定メタルモノニシテ第三項ハ上訴ヲ爲シテ敗訴シタル民事原告人カ負擔スヘキ賠償ノ責任ヲ規定シタルナリ而シテ第四項ハ要償ニ付テノ裁判管轄ヲ規定セルモノトス

本條ニ就テハ反對論者アリ曰ク本條第一項ニハ民事原告人ノ語アリト雖トモ本法ニ對シテハ無用ノ語ナリ何トナレハ舊治罪法ニ於テハ民事原告人カ私訴ノ申立ヲ豫審判事ニ爲セハ其申立ニ因リ當然公訴ノ提起アリタルモノト看做サレシヲ以テ此民事原告人ノ私訴提起ハ恰モ告訴發人ト同一ノ效力アリ隨テ民事原告人ヲ告訴人ト同視セシモノナルカ本法ハ此規定ヲ改正シ私訴ノ申立ハ公訴提起ノ後ニ於テスヘキモノト爲セシニ因リ二者ヲ同一ニ視ルノ理ナケレハナリト

此說ヲ反駁スルモノハ曰ク論者ノ說ハ一理ナキニ非サルモ被告人ニ對シ公訴ノ既ニ起リタル場合ニ民事原告人カ之ニ附帶シテ私訴ヲ爲ストキハ訴訟ノ原由民事原告人ニ在ラサルヲ以テ其被告人ニ對シテ本條ニ規定スル賠償ヲ爲スノ責任ナシト雖モ若シ公訴ノ起ラサル前民事原告人カ被告人ノ犯罪ヲ鳴ラシ私訴ヲ民事裁判所ニ起シタルカ爲メ裁判官ノ告發ニ因リ公訴ノ起リタルトキハ民事原告人ハ間接ニ公訴ノ提起ヲ促シタルモノト云フヘシ然ラハ害ヲ被告人ニ加フル點ヨリ觀察スルトキハ何ソ直接ニ告訴告發ヲ爲シ檢察ニ公訴ノ提起ヲ促シタルト異ナラン故ニ民事原告人ハ其主張スル事實ノ虛構ニ出テタルトキモ誣告ノ罪ハ之ヲ免カルヘシト雖モ其不正ニ加ヘタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任スルハ固ヨリ至當ノコト、云ハサルヲ得サルヘシト

以上ニ就中反駁論者ノ說ハ其當ヲ得タルモノト云フヘシ何トナレハ民事原告人ハ今日公訴提起ノ權ナシト雖モ苟モ私訴ヲ起シテ害ヲ被告人ニ加フルトキハ猶ホ其責ニ任スヘキノ理由アリ

リテ存スレハナリ之レ民法ノ他人ニ損害ヲ加フル者ハ賠償ノ責ニ任スト云ヘル原則ニ徴スルモ明ナレハナリ

第十四條 被告人無罪ノ言渡ヲ受タタリト雖モ判事、檢事、裁判所書記、執達吏、司法警察官又ハ巡查、憲兵卒ニ對シ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但是等ノ官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合ハ此限ニ在ラス

(講義)本條ハ司法ニ屬スル官吏ニ對シ被告人ノ爲スヘキ要償ノ訴ヲ規定セルモノニシテ被告人カ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖トモ司法ニ屬スル官吏カ公務ノ執行ニ付キ惡意ヲキ以上ハ損害賠償ノ責任ナキコトハ一般ノ原則ナリ然レトモ若シ之等ノ官吏故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ノ罪ヲ犯シタルニ因リ損害ヲ加ヘタルトキハ責任ヲ負ハサルヘカラサルナリ刑法ニ定メタル罪下ハ例ヘハ逮捕官吏法律ニ定メタル程式規則ヲ遵守セスシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタルトキ若クハ裁判官、檢事及警察官吏、被告人ニ對シ罪狀ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ凌虐ノ所爲ヲ爲シタル等ノ如シ

第十五條 此法律ニ於テ期間ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ起算シ日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス若シ最終ノ日休暇ニ當ルトキハ期間ニ算入ス可カラズ但時効ノ期間ハ此限ニ在ラス一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

(講義)本條ハ期間ノ計算法ヲ定メタルモノニシテ法律ニ於テ期間ノ計算法ヲ一定セサルトキハ實際ニ於テ種々ノ困難ヲ生シ權利ノ消長ニ關スルコト大ナレハ豫メ之ヲ定メ議論ノ餘地ナカラシメタルナリ

第十六條 此法律ニ定メタル期間ニハ海陸路八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ加

フ八里ニ滿サルモノト雖モ三里以上ナルトキ亦同シ

島嶼又ハ外國ニ付テハ裁判所ニ於テ特ニ附加期間ヲ定ムルコトヲ得

(講義)本條ハ法律ニ定メタル期間ニ關スル猶豫ヲ定メタルモノニシテ猶豫期間トハ一定ノ期間内ニ或行爲ヲ爲スヘキニ當事者カ裁判所々在地ヨリ隔リタル地ニ住居シ數多ノ日子ヲ要セザレハ裁判所ニ至ルコト能ハサルカ例ヘ辛フシテ到着シ得トスルモ僅少ノ殘餘時間ヲ以テシテハ或行爲ヲ爲スニ十分ナル能ハサル等ノ事アルニ因リ其距離ノ遠近ニ應シ一定ノ期間以外ニ或期間ノ猶豫ヲ與フルモノヲ云フ

本條ノ規定ニ從ヘハ海陸路八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ加ヘ八里ニ滿サルモノト雖モ三里以上ナルトキハ均シク一日ノ猶豫ヲ加フトアリ之レ不公平ヲ防カントノ趣旨ニ出タル規程ニシテ例ヘハ七里ノ地ニ住スル者ハ旅行ニ一日ヲ費スニ拘ハラス八里ノ地ニ住スル者ト僅ニ一里ノ差アルノミニシテ猶豫ノ期間ナク其八里ニ達スルヤ直ニ一日ノ猶豫ヲ得ルカ如キ不公平ヲ避ケタルナリ故ニ裁判所ヨリ十五里ヲ距ツル地ニ住スルトキハ其八里ニ付キ一日殘餘七里ニ付キ又一日併セテ二日ノ猶豫期間ヲ生ス乍併島嶼又ハ外國ニ住スルモノハ内地ノ旅行ニ比シ不便少ナカラサルヲ以テ裁判所ニ於テ特ニ事情ヲ斟酌シ實際ノ必要ニ應シ附加ノ期間ヲ定ムルコトヲ得セシメタリ

第十七條 此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期間ヲ經過シタ

トキハ特別ノ場合ヲ除ク外其訴訟ヲ爲ス權ヲ失フ可シ

(講義)本條ハ法律ニ定メタル期間ヲ遵守セサル者ニ對スル制裁ヲ規定シタルモノナリ此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期間トハ豫審、公判ノ決定又ハ判決ニ對スル故障控訴、抗告上告ノ期間ヲ云フ之等ノ期間ヲ怠リタルトキハ訴訟ヲ爲スノ權ヲ失フモノトス然レトモ左ノ特別ノ場合ニ限リ例ヘ期間ヲ怠ルモ訴訟ヲ爲ス權ヲ有ス

第一、第七十三條ノ場合 本條ニ依レハ重罪公判ニ付スル豫審終結ノ決定ニハ抗告ヲ爲スヲ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ記載ス可シ其記載ナキトキハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ決定ノ送達アルマテ抗告期間ノ經過ヲ停止スヘシトアリ故ニ法定ノ期間ヲ經過スルモ爲メニ權利ヲ失フコトナシ

第二、第二百七條ノ場合 本條ニ依レハ公判ノ對席判決ニ因リ刑ノ言渡アリタルトキハ裁判長ヨリ上訴ヲ爲シ得ルコト及ヒ其期間ヲ告知スヘク又缺席判決ニ因リ刑ノ言渡アリタルトキハ故障ヲ爲シ得ルコト及ヒ其期間ヲ記載スヘキモノナルニ若シ此告知又ハ記載ヲ爲サザリシトキハ其上訴及故障ノ期間ノ經過ヲ停止シ實際ニ其期間ヲ經過スルモ爲メニ其權利ヲ失フコトナシ

第三、第二百四十七條ノ場合 本條ニ依レハ訴訟關係人ハ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メ上訴期間ヲ經過スルモ其旨ヲ疏明スルトキハ期間ノ經過ニ因リ喪失シタル權利ヲ回復スルコトヲ得ヘシ

第十八條 訴訟關係人ハ裁判所所在ノ地ニ住セサルトキハ其他ニ假住

所ヲ定メ裁判所ニ届出ツ可シ否ラサルトキハ書類ノ送達ナシト雖モ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

第十九條 書類ノ送達ハ此法律ニ於テ別ニ規定アラサルトキハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

(講義)本條ハ訴訟關係人ヲシテ假住所ヲ選定セシムルヲ定メタルモノニシテ法律カ訴訟關係人ニ裁判所々在ノ地ニ假住所ヲ定メシメタル所以ノモノハ訴訟ヲシテ可及的速ニ終局セシメントスルノ意ト且ツ冗費ヲ省カシメントノ二目的ニ出テタルモノナルナリ故ニ訴訟關係人カ本條ノ規定ニ違背シ假住所ヲ定メサルトキハ自ら書類ノ送達ヲ受クル權利ヲ拋棄シタルモノト看做サレ後日ニ至リ異議ヲ申立ルコトヲ得サルナリ

第二十條 官吏、公吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署、公署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ毎葉ニ契印ス可シ若シ官署公署ノ印ヲ用ユルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載スヘシ此規定ニ背キタルトキハ其書類ノ效ナカル可シ

(講義)本條ハ書類ノ送達ニ關スル規則ヲ示セルモノニシテ書類ノ送達ハ此法律ニ於テ別ニ規定ヲ設ケサルモノハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用スルモノトス而シテ準用セラルヘキ規定ハ民事訴訟法第百三十六條乃至第百五十八條ニ詳細規定セリ

第二十一條 官吏、公吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人自ら署名捺印ス可シ

(三十二年法律第七十三號改正ニ依ル)

(講義)本條ハ官吏、公吏其他ノ者ノ作ルヘキ書類ニ必要ナル方式規則ヲ定メタルモノニシテ官吏、公吏ノ作ルヘキ書類トハ例ヘハ調書公判始末書、裁判書渡書、令狀、公正證書等ニシテ之等ノ書類ニ其所屬官署公署ノ印ヲ用フル所以ノモノハ其職務上作為シタル者ナルコトヲ確證シ書類ノ真正ヲ保メルカ爲メナリ故ニ本條ノ規定ニ背キタル書類ハ後日ノ紛争ヲ防クノ目的ヲ以テ之ヲ無効トス

第二十一條 官吏、公吏訴訟ニ關スル書類ノ原本、正本又ハ謄本ヲ作ルニ付文字ヲ改竄ス可カラズ若シ挿入、削除及ヒ欄外ノ記入アルトキハ之ニ認印ス可シ文字ヲ削除スルトキハ之ヲ讀ミ得ヘキ爲メ字体ヲ存シ其數ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其變更増減ノ效ナカル可シ(三十二年法律第七十三號ヲ以テ改正)

(講義)本條ハ書類ヲ作ル者カ誤字衍字脱字等ヲ正誤スルノ方式ヲ定メタルモノニシテ書類ノ變更増減ニ依リ訴訟關係人ノ權利ヲ害スルヲ防禦スルヲ以テ目的トス

本條末段ニ規定セル此規定ニ背キタルトキハ其變更増減ノ效ナカルヘシトノ條項ニ付テハ書類ノ全部無効ナリヤ將タ變更増減ヲ爲シタル一部無効ナリヤハ由來議論ノ存スル所ナルモ變更増減ヲ爲シタル一部ノミ無効トナルニ止リ他ハ有効ナリト解スル方穩當ナルヘシ

第二十一條ノ二 官吏、公吏ニ非サル者ノ署名捺印ス可キ場合ニ於テ捺印スルコト能ハサルトキハ署名ノミヲ爲シ署名スルコト能ハサル

トキハ立會人ヲシテ代署セシメ捺印ノミヲ爲シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシム可シ

立會人ハ其代署ノ事由ヲ記載シテ署名シ又ハ署名捺印スヘシ

官吏、公吏ノ面前ニ於テハ本人署名スルコト能ハサル場合ト雖モ立會人ヲ要セス官吏、公吏代署シテ其事由ヲ附記ス可シ(三十二年法律第七十三號ヲ以テ本條追加)

(講義)本條ハ官吏、公吏ニ非サル者カ署名捺印ス可キ場合ニ於テ署名捺印スルコト能ハサルトキ書類作製ニ必要ナル方式ヲ規定シタルモノナリ本條ニ所謂立會人トハ一種特別ノ證人ニシテ本人ノ署名捺印スル能ハサルコトヲ證スルモノナリ故ニ本法第百十五條以下ニ規定セル證人トハ大ニ其性質ヲ異ニスルモノトス

第二十二條 此法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス

頒布以前ニ爲シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カサルトキハ其效アリトス

(講義)本條ハ刑事訴訟法ノ規定ハ頒布以前ノ犯罪ニモ溯及スルノ原則ヲ規定シタルモノナリ凡ソ法律ハ其効力ヲ既往ニ及ホササルハ一般ノ原則ニシテ刑事訴訟法モ亦他ノ法律ト同シク公布ニ因リテ其効力ヲ生シ默示又ハ明示ノ廢止ニ因リテ其効力ヲ失フテ當然トセサルヘカラサルナリ然ルニ刑事訴訟法ハ之ニ反シ總テ公布以前ノ犯罪ニ適用スルコトセリ其故何ゾヤ他ナ

シ不溯及ノ原則ハ既得ノ權利ヲ害スヘカラストノ理由ニ基テ生シタルモノナレハ若シ既往ニ溯及スルモ既得ノ權利ヲ傷害セサル以上ハ敢テ此原則ニ從フテ要セサルナリ而シテ刑事訴訟法ハ單ニ犯罪ノ有無ヲ取調ヘ其犯罪ヲ處分スルノ手續ヲ定メタルモノニシテ手續ニ付テハ既得權ナルモノナク舊法ノ下ニ犯罪ヲ爲スモ舊法ノ手續ニ依リ取調ヘテ受ケ處分サルノ權利アリト云フヲ得ヘカラサレハナリ

第二十三條 此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分ス可キ者ニ適用スルコトヲ得ス

(講義)本條ハ陸海軍人軍屬ニ付テノ例外ヲ規定シタルモノニシテ陸海軍人軍屬ニハ本法ヲ適用

セス總テ軍法會議ノ特別ナル法律ニ依リ處分スルモノトス

抑軍人軍屬ハ常ニ嚴格ナル軍律ニ從ヒ居ルモノナレハ普通人トハ其取扱ヲ異ニシ可及的軍律ニ從ハシメサレハ軍紀ヲ以テ軍人軍屬ヲ支配スルノ力薄弱ニシテ遂ニハ軍紀ノ紊亂ヲ來ス虞ナシトセス故ニ本條例外ヲ設ケタル所以ナリ然レトモ本條ノ意義ハ絕對的軍人軍屬ニ對シ本法ヲ適用セスト云フニアラスシテ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分スヘキ者ニ適用セスト云フニ止リ軍律ニ何等規定ナク本法ニ明文アル場合ハ本法ヲ適用スヘキモノトス

第二十四條 (明治四十一年三月法律第二十九號ヲ以テ削除)

第二編 裁判所

第一章 裁判所ノ管轄

裁判所

(講義)裁判所ノ管轄トハ裁判所カ其裁判權ヲ行フ區域ヲ云フ裁判所ノ管轄ニ二種アリ曰ク事物ノ管轄曰ク土地ノ管轄之ナリ事物ノ管轄ハ裁判所構成法ノ規定セル處ニシテ區域裁判所事物ノ管轄地方裁判所事物ノ管轄控訴院事物ノ管轄大審院事物ノ管轄等ノ區別アリ

土地ノ管轄トハ事物ノ管轄ニ依リテ定マリタル裁判權ヲ行ヒ得ヘキ範圍ヲ土地ノ區域上限定シタルモノヲ云フ蓋シ同等ノ裁判所カ日本全國ニ涉リテ裁判權ヲ行フトキハ其間互ニ權限ノ爭ヲ見ルニ至リ種々ノ弊害ヲ生スヘケレハ土地ニ依リテ管轄ヲ區別シ以テ裁判權行使ノ範圍ヲ定メタルナリ

第二十五條 犯罪ノ種類ニ關スル裁判所ノ管轄ハ裁判所構成法ノ規定ニ從フ

管轄ヲ異ニスル數個ノ犯罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴アリタルトキハ上級ノ裁判所併セテ之ヲ管轄ス

(講義)本條ハ犯罪ノ種類ニ關スル裁判所ノ管轄則チ事物ノ管轄ヲ規定セシモノニシテ事物ノ管轄トハ事件ノ性質ニ依リテ定マル管轄ヲ云フ此管轄ハ裁判所構成法ノ規定セル處ニシテ同法ハ裁判ノ統一主義ヲ執リ裁判所ニ階級ヲ設ケ最下級ヲ區域裁判所トシ次チ地方裁判所次チ控訴院トシ最上級ヲ大審院トス而シテ下級ノ裁判所ハ常ニ同一事件ニ付テハ上級裁判所ノ法律上ノ見解ニ服從スヘキ義務ヲ有スルモノニシテ事物ノ管轄ハ此裁判所ノ階級ト審級トニ因リ分ルモノトス

本條第二項ニ依レハ數個ノ犯罪中最モ重キ事件ヲ管轄スル裁判所カ他ノ總テノ事件ヲモ併セテ之ヲ管轄スルモノニシテ凡ソ一人ニテ數罪ヲ犯シ事物并ニ土地ノ管轄方同一裁判所ニ屬スルトキ又ハ數人ニテ一罪ヲ犯シ若クハ數罪ヲ犯スモ事物并ニ土地ノ管轄方同一裁判所ニ屬ス

トトキハ管轄ニ付キ權限ノ爭ヲ生スルコトナシト雖モ一人ニテ數罪ヲ犯シ事物ノ管轄ヲ異ニスルトキ例ヘハ強盜ヲ爲シタルトキハ其事件當然地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモ被告人カ更ニ國事ニ關スル罪ヲ犯シタルトキハ其事件ハ大審院ノ管轄ニ屬ス如斯場合ハ何レノ裁判所カ管轄權ヲ有スルヤニ付キ爭ヲ生スヘク之ヲ決スルハ本項ノ規定ヲ俟タサルヘカラサルナリ故ニ如斯場合ハ大審院カ地方裁判所ノ管轄スル事件ト共ニ管轄スルナリ

第二十六條 同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及公判ノ管轄ナリトス

(講義)本條ハ土地ノ管轄ニ付キ規定シタルモノニシテ土地ノ管轄トハ前ニ述ヘタルカ如ク同等裁判所ノ間ニ於ケル裁判權行使ノ範圍ヲ云フナリ例ヘハ大阪ノ犯罪ヲ神戸ニテ管轄シ京都ノ犯罪ヲ東京ニテ管轄スル等自由ニ定メ得ヘキモノトセハ屢々權限ノ爭ヲ生シ事務ノ繁閑ハ到底平均ヲ保ツコトヲ得ス故ニ本條ハ同等裁判所ノ間ニ區別ヲ設ケ事件ノ管轄ヲ定メタルナリ而シテ其管轄ハ犯罪ノ地ト被告人所在ノ地ト裁判所ヲ以テ其管轄トス

第一、犯罪ノ地 犯罪地トハ犯罪ノ成立シタル土地ヲ云フ例ヘハ竊盜罪ニ付テハ竊盜ナル行爲ノ完成シタル地又ハ偽造文書行使ノ罪ナレハ偽造文書ヲ行使シタル地ノ如シ凡ソ犯罪ノ地ハ證據ノ集積上便利ニシテ且ツ犯罪ノ根據ヲ認メ其端緒ヲ得ルニ容易ナルノミナラス其事件ノ關係人モ亦多ク犯罪地ニ在ルヲ以テ證人調モ又迅速ニ爲シ得ヘシ故ニ犯罪ノ地ノ裁判所ヲ以テ其事件ノ管轄裁判所ト爲シタルナリ

第二、被告人所在ノ地 被告人所在ノ地トハ民法第二十一條ニ所謂住所トハ異リ例ヘハ大阪ニ居住スル商人カ商用ノ爲メ東京ニ在ル場合ハ其商人ノ居所ハ大阪ニシテ其所在地ハ東京ナルヘシ故ニ若シ其商人カ東京ニ赴ク以前ニ於テ或罪ヲ犯シタルトキハ東京ハ即チ其者ノ所在地トシテ管轄地ナリトス前ニモ陳ヘタル如ク犯罪ノ檢舉ニ便利ナルハ犯罪地ニ若クモ

ノナシト雖モ犯罪地ノミニ限ルトキハ往々ニシテ不便ヲ生スルコトヲ免レヌ故ニ本法ハ犯罪ノ地ト被告人所在ノ地トヲ併セテ土地ノ管轄トセシナリ

第二十七條 數個ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

〔譯義〕本條ハ一人ニテ一罪又ハ數罪ヲ犯シタル場合ニ於テ土地ノ管轄ヲ異ニスルトキ孰レノ裁判所カ管轄權ヲ有スルカヲ規定シタルモノニシテ若シ此規定ナキトキハ同等ナル數個ノ裁判所カ互ニ其管轄權ヲ争ヒ歸着スル所ナカルヘシ故ニ本條ハ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄裁判所トシタルナリ果シテ然ラハ豫審又ハ公判ニ着手シタル時トハ如何ナル時期ヲ謂フモノナルヤヲ定メサルヘカラス

豫審又ハ公判ニ着手シタル時期ハ豫審判事又ハ公判判事カ豫審又ハ公判ニ於ケル第一着手ノ行爲例ヘハ臨檢ヲ爲シ又ハ令狀ヲ發シ又ハ呼出狀ヲ發スル等ノ手續ヲ爲シタル時ヲ云ヘルモノニシテ一人ニテ一罪ヲ犯シタル場合トハ例ヘハ大阪ニ於テ殺人罪ヲ犯シタル者カ東京ニ逃亡シタル場合ノ如キ大阪地方裁判所ハ犯罪地ノ裁判所タルノ故ヲ以テ管轄權ヲ有シ東京地方裁判所ハ被告人所在ノ裁判所タルノ故ヲ以テ管轄權ヲ有スルカ如シ又一人ニテ土地ノ管轄ヲ異ニスル數個ノ罪ヲ犯シタル場合トハ例ヘハ大阪ニテ殺人罪ヲ犯シタルモノカ去テ京都ニ赴キ同地ニテ強姦罪ヲ犯シ亦去テ神戸ニ至リ更ニ強盜罪ヲ犯シタルトセンカ此場合ハ大阪、京都、神戸ノ各地方裁判所ハ共ニ各犯罪ニ付キ管轄權ヲ有スルカ如シ以上ノヲ要スルニ一人ニテ一罪ヲ犯シタルトキト一人ニテ數罪ヲ犯シタルトキトニ論ナク苟モ其犯罪カ土地ノ管轄ヲ異ニスル場合ハ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄裁判所トスルナリ何故ニ然ルカ他ナシ最初着手ノ裁判所ハ其事件ニ付キ搜索審理ノ程度他ノ裁判所ヨリ進捗シアルカ故ニ着手ノ前後ヲ以テ管轄權ヲ定メタルナリ

第二十八條 從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アルトキハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

裁判所構成法第五十八條第二號ニ記載シタル皇族ノ犯罪ニ付テハ其正犯、從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス大審院ニ於テ之ヲ管轄ス

〔譯義〕本條ハ正犯、從犯及ヒ數人ニテ一罪ヲ犯シタル土地ノ管轄ヲ異ニスル場合ニ於テ孰レノ裁判所カ管轄權ヲ有スルヤヲ規定シタルモノニシテ正犯トハ犯罪構成要件ノ一部ニ接合スル行爲則チ犯罪ヲ行フモノヲ云ヒ從犯トハ犯罪ノ發生ニ加工シタルモノ則チ犯罪ヲ補助シタルモノヲ云フ從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス規定シタル所以ハ從ハ主ニ從フトノ原則ヨリ出テタルモノニシテ裁判所ノ前後ヲ問ハサルナリ例ヘハ甲乙共ニ一罪ヲ犯シ甲ハ正犯ニシテ乙ハ從犯ナリトセハ甲カ大阪地方裁判所ノ管轄ナルトキハ乙ハ其犯罪地及ヒ所在地ノ如何ヲ問ハス大阪地方裁判所ノ管轄ナルカ如シ

數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アルトキハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトストハ例ヘハ甲者乙者共謀シテ東京ニ於テ殺人罪ヲ犯シ甲者ハ大阪ニ逃レ乙者ハ京都ニ逃レタリトセンニ東京地方裁判所ハ犯罪地ノ裁判所ナルヲ以テ起訴ヲ受ケ甲者ニ付テハ大阪地方裁判所ハ被告人所在ノ地ノ裁判所タルノ故ヲ以テ起訴リ又乙者ニ付テハ京都地方裁判所ハ被告人所在ノ地ノ裁判所タルノ故ヲ以テ起訴リタル場合ハ若シ大阪地方裁判所カ犯罪ノ一八タル甲者ニ對シ最初豫審又ハ公判ニ着手シタルトキハ東京、京都ノ各地方裁判所ノ管轄權ハ移リテ大阪地方裁判所ニ專屬スルカ如シ

モノナリトス

第二十九條 外國ニ在テ犯シタル罪本邦ノ法律ニ依リ處斷ス可キモノニシテ内地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタルトキハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス又外國ヨリ送致シタルトキハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

闕席判決ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ被告人最後ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

(譯註)本條ハ外國ニ在テ犯シタル罪ニシテ本邦ノ法律ニ依リ處斷スヘキモノニ付テ其對席判決ト闕席判決ヲ爲スヘキ場合ノ管轄裁判所ヲ定メタルモノナリ凡ソ犯罪ノ地方内國ニ在ルトキハ疑ヒナケレトモ外國ニ在リタルトキハ孰レノ裁判所ヲ以テ管轄裁判所ト爲スヤ疑ナキ能ハス故ニ本法ハ第一内地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタルトキハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄トシ第二外國ヨリ被告人ヲ送致シタルトキハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄トシ第三闕席判決ヲ爲スヘキ場合ニハ被告人最後ノ住所ノ地ヲ以テ其管轄ナリトス乍併本條ノ規定ヲ果シテ實地ニ適用スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ由來學說ノ存スル所ナレハ參考ノ爲メ左ニ之ヲ紹介セ

消極論者ハ曰ク外國ニ在テ罪ヲ犯シタル内外人内國ニ來リタル場合ハ常ニ非現行犯ノ場合ナリ而シテ此場合ニ被告人ヲ逮捕スルニ付テハ令狀ヲ必要トス而シテ其令狀ハ管轄裁判所ニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得ヌ然ルニ法律ハ管轄裁判所ハ被告人ヲ逮捕シタル地ノ裁判所ナリト爲スカ故ニ逮捕シタル後ニ非サレハ管轄裁判所定マラス從テ被告人ヲ逮捕スルニ付テ必要

ナル令狀ヲ發スルコト能ハサルノ不都合アリ故ニ此逮捕ノ地ヲ以テ管轄ト爲ス第二十六條ハ内國ニ於テ他ノ罪ヲ犯シ逮捕セラレタル場合ノ外ニ適用ヲ見ス又送致ノ地ト云フモ同一ニシテ外國ニ於ケル犯罪人ノ送致ハ我ヨリ之ヲ請求スルヲ要シ若シ罪人引渡條約ナキトキハ例ヘ之ヲ請求スルモ外國政府ハ好意ヲ以テ之ニ應スレハ格別之ニ應シテ送致スヘキノ義務アルモノニアラス條約ヲ締結アルニ依ル請求ト雖モ令狀ヲ要スルモノニシテ令狀ニ依ラスシテ人ヲ拘束スルヲ得ス引渡ヲ請求シテ之ヲ送致スルニハ必スヤ令狀ヲ發シ令狀ハ管轄裁判所ヨリ發スヘキモノナレハ送致以前ニ管轄裁判所ノ既ニ定マレルコトヲ要シ從テ送致ノ地ヲ管轄ト云フハ亦行フヘカラサル事ナリト

積極論者ハ曰ク本條ノ規定ハ治罪法第四十五條ト同一ニシテ同法ノ起草者ノ說明ニ依ルモ本條ハ外國ニ於テ罪ヲ犯シ内國ニ來リタル犯人ニ付キ管轄ヲ定ムルニハ原則トシテハ其所在地ニ依ルモ若シ逮捕シタルトキハ逮捕地ノ裁判所ヲ以テ管轄ト云フニ外ナラス例ヘハ犯人神戸ニ上陸シ檢事ノ知ル所トナレハ神戸ハ所在地ナルヲ以テ檢事ハ起訴ヲ爲スヘシ若シ起訴ノ後ヲ大阪ニ走り大阪ニ於テ逮捕シタルトキハ其後ハ大阪ヲ以テ管轄裁判所ナリトス而シテ神戸ニ上陸シ檢事ノ知ル所トナレハ神戸ハ所在地ナルヲ以テ檢事ハ起訴ヲ爲スヘシ若シ起訴ノ後ヲ大阪ニ依リ一日管轄裁判所トナリタルモノナルヲ以テ其令狀ハ正當ナリ此令狀ニ依リテ逮捕セラレタルトキ大阪裁判所ヲ以テ管轄トス蓋シ神戸ハ上陸地ト云フマテニシテ犯罪地ニ非スシテ所在地ト云フニ過キス而シテ犯人現在ニ付管轄テ現在セシ神戸ヨリモ所謂現在スル大阪ヲ以テ審理ノ便アリ且ツ犯人護送等ノ手續ヲ省クノ利益アル爲メ大阪ヲ以テ管轄ナリトス其罰金刑ニ該ル犯罪ノ如キハ外國ニ於テ犯シタルモノハ概ネ日本ニ於テ處罰セサルヲ以テ逮捕地ヲ管轄トナスモ前ニ述ヘタル如キ不都合ナルヘシ第二十九條ノ正文ニ依ルモ内地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタルトキハトアリ若シ逮捕セサルハ管轄ハ如何管轄裁判所ナシトハスルヲ得サルヘシ原則ニ依リ所在地ヲ以テ管轄ヲ定メサルヘカラス逮捕セラレタル犯人モ其逮捕セラレサル内ハ所在地ヲ管轄トナスモノナルヲ知ルヘキナリ又外國ヨリ送致シタル場合モ

令狀ノ必要アルトキハ先ツ管轄裁判所ヲ指定スルヲ要スルモ現行法ニハ其規定ナク草案第十
 五條ニ於テハ大審院ニ裁判管轄指定ノ請求ヲ爲スモノトセリ然レトモ犯人引渡ヲ請求スルハ
 裁判所ノ行爲ニアラスシテ行政權ノ行使ナレハ若シ行政官ニ於テ令狀ナクシテ引渡ヲ請求シ
 外國政府之ニ應シ引渡シタルトキハ日本裁判所ハ如何ナル重大ノ犯罪ニテモ之ヲ看過スヘキ
 ヲ決シテ看過スルコトヲ得サルヘシ爰ニ於テカ原則ニ依リ犯人所在地即チ送致アリタル地ノ
 裁判所ヲ以テ管轄裁判所ナリトシテ取りテ以テ審理ヲ爲スヘク本條ハ必スシモ徒法ニアラサ
 ルナリト之ヲ要スルニ消極論ハ立法論トシテハ或ハ價值アランモ解釋論トシテハ積極論ニ依
 ラサルヘカラス何トナレハ法律ハ可及的有效ニ解スルヲ以テ本旨トスレハナリ

第三十條 海船内ノ犯罪ニ付テハ定繫港又ハ犯罪後最初ニ着船シタル

地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

(審議)本條ハ海船内ノ犯罪ニ對スル管轄裁判所ヲ規定シタルモノナリ定繫港トハ通例船籍ノ所
 在地ニシテ船籍ノ在ル所ハ常ニ定繫港ナルヲ失ハス蓋シ海船内ニ於ケル犯
 罪ニ付テハ内海ニ於テハ犯罪地アルモ外洋ニ於テハ犯罪地ナク若シ海上ニ於テ他船ニ乗移リ
 タルトキハ犯人所在地ナルモノモナキ等ノ場合ヲ生スヘケレハ特ニ船籍アル港口即チ定繫港
 及ヒ犯罪後最初ニ着船シタル地ヲ以テ土地ノ管轄ヲ定メタルナリ

第三十一條 管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲ス場合及ヒ其決定ヲ爲

ス裁判所ハ裁判所構成法第十條ノ規定ニ從フ

(講義)本條ハ管轄裁判所ノ定マリ難キ場合ニ其裁判所ノ指定ヲ申請スヘキ場合ト其決定ヲ爲ス
 裁判所トニ付テ規定シタルモノナリ蓋シ法律ハ裁判所ノ事柄及ヒ土地ノ管轄并ニ其管轄ニ付
 キ争ヲ生シタル場合ニ關スル詳細ノ規定ヲ設ケタルモ仍ホ裁判所ノ管轄ニ付キ疑義ノ生スル

トナキヲ保セス故ニ本條ハ斯ル場合ヲ豫想シ裁判所ノ裁判ヲ以テ管轄裁判所ヲ定ムトキモノ
 トナシタルナリ而シテ其管轄指定ノ申請ヲ爲スヘキ場合ト其指定ヲ爲スヘキ裁判所トハ裁判
 所構成法第十條ノ規定ニ從フヘキモノトス今同法ニ依ルトキハ左ノ數個ノ場合アリ

(一) 權限アル裁判所ニ於テ法律上ノ理由若クハ特別ノ事情ニ因リ裁判權ヲ行フコトヲ得ス且
 ヲ構成法第十三條ニ依リ之ニ代ハルヘキコトヲ定メラレタル裁判所モ亦之ヲ行フコトヲ得
 サルトキ

(二) 裁判所ノ管轄區域ノ境界明確ナラサルタメ其權限ニ付キ疑ヲ生シタルトキ

(三) 法律ニ從ヒ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトキ

(四) 二以上ノ確定裁判ニ因リ二以上ノ裁判所裁判權ヲ互有スルトキ

(五) 二以上ノ裁判所權限ヲ有セストノ確定裁判ヲ爲シタルモ其裁判所ノ一二於テ裁判權ヲ行
 フヘキトキ

(六) 二以上ノ裁判所權限ヲ有セストノ確定裁判アリタルモ其裁判所ノ一二於テ裁判權ヲ行フ
 へキトキ

以上(一)乃至(六)ノ場合ニ於テ管轄裁判所指定ノ申請アルトキハ關係アル各裁判所ヲ併セテ
 之ヲ管轄スル直近上級ノ裁判所ハ何レノ裁判所ニ於テ本件ヲ裁判スルノ權アルヤヲ裁判ス

第三十二條 管轄裁判所ノ指定ニ付テノ申請ハ、檢事其他訴訟關係人ヨ

リ之ヲ爲スコトヲ得

大審院ニ於テ管轄裁判所ヲ指定ス可キ場合ニ於テハ、檢事總長ハ司法

大臣ノ命ニ由リ又ハ職權ヲ以テ其申請ヲ爲スコトヲ得

(審議)本條ハ何人カ管轄指定ノ申請ヲ爲シ得ルカチ規定シタルモノニシテ管轄指定ノ申請ヲ爲

シ得ルモノハ普通検事其他ノ訴訟關係人ナルモ大審院ニ於テ管轄裁判所ヲ指定ス可キ場合ニ於テハ檢事總長ハ司法大臣ノ命ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其申請ヲ爲スコトヲ得ルモノトス。本條ニ所謂訴訟關係人トハ被告人、民事原告人、被告人ノ法律上代理人、辯護人ヲ云フ尤モ辯護人ニ就テハ多少議論ノ餘地アルモ之ヲ訴訟關係人中ニ包含セシムルヲ可ト信ス。

第三十三條 管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲サントスル者ハ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ其趣意書ヲ差出ス可シ

裁判所ハ書類ニ依リ其申請ヲ決定ス可シ

(講義)本條ハ管轄裁判所ノ指定ニ關スル手續ヲ規定シタルモノニシテ管轄指定ノ申請ヲ爲サントスルモノハ關係裁判所ヲ併セテ之ヲ管轄スル直近上級裁判所ニ其趣意書ヲ差出スヘキモノニシテ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ハ其書類ニ基キ申請ノ當否ヲ決シ其申請ヲ理由アリト認ムルトキハ管轄裁判所ヲ指定スヘキモノナルモ其申請ヲ理由ナシト認ムルトキハ決定ヲ以テ其申請ヲ棄却スヘキモノトス

第三十四條 犯罪ノ性質、被告人ノ身分、員數、地方ノ民心其他重大ナル事情ニ由リ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スル恐アルトキハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スルヲ得

(講義)本條ハ公安ノ爲メ裁判所管轄ノ移轉ヲ規定シタルモノニシテ裁判所管轄ノ移轉トハ一定ノ管轄裁判所アル場合ニ於テ或事情ニ依リ事件ヲ他ノ非管轄裁判所ニ移スヲ云フ蓋シ本條ハ或事情ノ爲メニ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スルトキハ公ノ秩序ニ關スルヤ重且ツ大ナルハ之ヲ他ノ同等ナル裁判所ニ移シ以テ公安ヲ維持セントシタルナリ

第三十五條 公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ司法大臣ノ命ニ因リ大

審院檢事總長ヨリ其院ニ之ヲ爲ス可シ

大審院ニ於テハ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クコトナク其申請ヲ決定スベシ

(講義)本條ハ公安ノ爲メ裁判ノ管轄ヲ移ス申請ニ付テノ手續ヲ規定シタルモノニシテ公安ノ爲メニ裁判管轄ヲ移ス申請ハ司法大臣ノ命ニ因リ大審院檢事總長ヨリ大審院ニ之ヲ爲シ大審院ハ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クコトナク其申請ヲ決定スルモノトス而シテ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クコトナクハ書面審理ヨリ來ル當然ノ結果ナリ

第三十六條 被告人ノ身分、地方ノ民心又ハ訴訟ノ模様ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルヲ能ハサル恐アルトキハ嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

(講義)本條ハ嫌疑ノ爲メ裁判所管轄ノ移轉ヲ規定シタルモノニシテ第三十四條ノ規定ト共ニ裁判所管轄移轉ノ二個ノ場合タルナリ第三十四條ハ裁判所行爲ノ進行上紛擾又ハ危險ヲ生スルノ恐レアルトキ則チ裁判所力正規ニ從ヒテ裁判事務ヲ執ル能ハサルノ恐レアル場合ナルモ本條ハ事情ノ程度力裁判事務ノ進行ヲ妨クルニハ至ラサルモ裁判ノ信用上世人チシテ公平ヲ失フモノタルノ嫌疑ヲ生セシムルコトアルヘキ場合ナリトス

第三十七條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ管轄裁判所ノ檢事其他訴訟關係人ヨリ上級裁判所ニ之ヲ爲ス可トヲ得

民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ナクシテ本案ニ付キ辯論ヲ爲シタルトキハ前項ノ申請ヲ爲ス爲スコトヲ得ス

(講義)本條ハ嫌疑ノ爲メ裁判ノ管轄ヲ移ス申請ニ付テノ手續ヲ規定シタルモノニシテ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ管轄裁判所ノ檢事其他訴訟關係人ヨリ上級裁判所ニ之ヲ爲スモノナルモ若シ民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ナクシテ本案ニ付キ辯論ヲ爲シタルトキハ申請ヲ爲スコトヲ得サルモノトス何トナレハ民事原告人カ私訴ヲ提起シタル後及ヒ被告人カ辯論ヲ爲シタル後ニ尙ホ此申請ヲ爲シ得ヘキモノトセハ往々ニシテ訴訟人カ訴訟ヲ遅延セシムルノ口實トナリ何等裁判ノ信用ニ於テ害セラル、コトナキニ拘ハラズ訴訟關係人ニ取リテハ迷惑ナカラサレハナリ

第三十八條 嫌疑ノ爲メ裁判所管轄ヲ移ス申請ヲ爲スニハ其趣意書ニ

通ヲ原裁判所ニ差出ス可シ裁判所書記ハ速ニ一通ヲ相手方ニ送達シ相手方ハ其送達アリタルヨリ三日内ニ答辯書ヲ差出スコトヲ得

裁判所ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ其訴訟手續ヲ停止ス可シ

(講義)本條ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ニ付テノ手續并ニ答辯書差出期間等ヲ規定シタルモノニシテ申請者ハ申請ニ付テノ趣意書ニ通テ其事件ノ繫屬スル裁判所ニ差出スヲ要ス而シテ裁判所書記カ一紙ヲ相手方ニ送達シタルトキハ相手方ハ管轄移轉ニ付キ利害ノ關係ヲ有スレハ其申請ニ對シ三日内ニ答辯書ヲ差出スコトヲ得ルナリ而シテ裁判所ハ管轄移轉ノ申請ヲ

受ケタルトキハ裁判ノ公平ヲ維持スル爲メ訴訟手續ヲ停止スヘキモノトス

第三十九條 前條ノ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ於テハ書類ニ

依リ其申請ヲ決定ス可シ

(講義)本條ハ管轄移轉ノ決定ニ付キ規定シタルモノニシテ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ於テハ書類ニ基テ其申請ヲ理由アリトスルトキハ同等ナル他ノ裁判所ニ事件ヲ移スノ決定ヲ爲シ若シ理由ナシトスルトキハ其申請ヲ棄却スヘキモノトス

第二章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避回避

(講義)刑事裁判ヲ爲スニハ常ニ公平無私ナラサルヘカラス併判事其事件ニ付テ直接又ハ間接ニ利害ノ關係ヲ有スルトキハ或ハ私情ヲ挿ミテ偏頗ナル裁判ヲ爲ス疑ヒナキ能ハス又例ヘ判事ハ自己ノ利害ノ爲メニ偏頗ナル裁判ヲ爲スコトナシトスルモ訴訟關係人ヨリ見ルトキハ或ハ偏頗ナル裁判ヲ爲スニハ非サルカチ疑フニ足ルヘキ狀況ナシトセス之ン本法力裁判ノ獨立ト公平ヲ維持スルカ爲メニ本章ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

第四十條 判事ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ依リ其職務ノ執行ヨリ除斥セ

ラル可シ

第一 判事被害者ナルトキ

第二 判事又ハ其配偶者ト被告人、被害者又ハ是等ノ者ノ配偶者ト

親屬ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

第三 判事其事件ニ付キ證人、鑑定人ト爲リタルトキ又ハ被告人若クハ被害者ノ法律上代理人ナルトキ

第四 判事其事件ノ豫審終結ニ干與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ前審ニ干與シタルトキ

(講義)本條ハ判事カ其職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキ場合ヲ規定シタルモノニシテ除斥トハ裁判所職員カ特定ノ場合ニ於テ法律上其職務ノ執行ヲ禁止セラル、ノ謂ナリ

第一 判事被害者ナルトキ 判事自カラ被告事件ノ被害者ナルトキハ民事原告人トナリテ損害ヲ回復スルコトヲ得ルモノナレハヨリ多クノ回復ヲ得ント欲スルハ人情ノ自然ナリ然ルニ自己カ其裁判ヲ爲セハ自己利害ノ關係上公平無私ナル判斷ヲ爲シ得サルハ免レ難キノ通弊タリ

例ハ判事ハ自己ノ利害ノ爲メ裁判ヲ枉ケストスルモ不公平ノ嫌疑ヲ招クノ虞ナキ能ハス故ニ法律ハ裁判ノ威信ヲ保ツ爲メ判事ヲシテ其裁判ニ干與スルコトヲ得サラシム

第二 判事又ハ其配偶者ト被告人、被害者又ハ是等ノ者ノ配偶者ト親屬ナルトキ 判事ト被告人又ハ其配偶者ト親屬ナルトキハ其被告人ヲ曲庇スルノ虞アルヘク又判事ト被害者又ハ其配偶者ト親屬ナルトキハ被告人ヲ陷害スルノ虞アルヘク又判事ト配偶者ト被害者ト被告人又ハ其配偶者ト親族ナルトキハ被告人タル親屬ニ厚カルヘク又判事ト配偶者ト被害者又ハ其配偶者ト親族ナルトキハ被告人ヲ害シ被害者ヲ助ケントシテ公平ヲ維持シ得サルノ嫌アリ此故ヲ以テ除斥ノ原因トスルナリ

但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタトキト雖モ亦同シク法カ規定シタル所以ハ姻族關係ノ存スル間ニ成立シタル親近ノ關係 尙ホ其後ニ繼續シ又ハ反對ニ敵視スルノ狀態ニ在ルモノナラハ公平ヲ維持スルコト能ハサルヲ慮リ同シク除斥ノ原因トセシナリ

第三 判事其事件ニ付證人鑑定人ト爲リタルトキ 判事カ或事件ノ證人トシテ裁判所ニ呼出サレ証言ヲ爲ストキハ宣誓シテ誠實ノ陳述ヲ爲スヘク若シ虚偽ノ陳述ヲ爲セハ偽證罪トシテ罰

セラル又鑑定人ト爲リテ鑑定ヲ爲シ意見ヲ述フルトキモ同一ナルナリ然ルニ判事カ其後其事件ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ以前此露シタル意見ヲ固守シ證言又ハ鑑定ニ反スル斷定ヲ下スチ得ス不知不知不公平ナル裁判ヲ爲スナキヲ保セス故ニ法律ハ除斥ノ原因ト認メタルナリ

第四 判事カ被告人若クハ被害者ノ法律上代理人ナルトキ 此場合ニ於テハ判事ハ被告人若クハ被害者ヲ保護スヘキ地位ニ在リテ其保護ノ資格ト判事ノ資格トハ同時ニ同一人ノ上ニ併立スルコトヲ得ス故ニ法律ハ判事ヲシテ其事件ノ裁判ヲ爲スコトヲ得サラシメタリ

第五 判事其事件ノ豫審終結ニ干與シタルトキ 豫審判事トシテ豫審處分ヲ爲シ之カ終結ノ決定ヲ爲シタルトキハ其事件ニ付キ更ニ公判判事ト爲リテ裁判スルコトヲ得サルモ單ニ豫審處分ノ一部分ニ干與シタルモノ例ハ豫審判事カ或事件ノ臨檢又ハ證人訊問等ノ豫審處分ヲ爲シ未タ其終結ニ到ラスシテ公判々事ニ轉シタル場合ノ如キハ除斥ノ原因トハナラサルナリ何トナレハ豫審終結ニ干與シタルモノハ其事件ニ付キ豫審ヲ生シ公平ノ裁判ヲ爲シ得サルノ虞アレハナリ

第六 判事不服ヲ申立テラレタル裁判ノ前審ニ干與シタルトキ 前二ノ裁判アリテ其裁判ニ對シ不服ノ申立アリタルトキニ於テ其第一ノ裁判ニ干與シタル判事ハ第二ノ裁判ニ干與スルコトヲ得サルナリ例ハ地方裁判所ノ裁判ニ干與シタル判事ハ其事件ニ付控訴、上告アルモ控訴院若クハ大審院ノ判事トシテ裁判スルコトヲ得スシテ其裁判ヨリ除斥セラル、カ如シ

第四十一條 判事法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラル、場合及ヒ偏頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ情況アル場合ニ於テハ檢事

其他訴訟關係人ヨリ之ヲ忌避スルコトヲ得

（講義）本條ハ忌避ノ場合ヲ規定セルモノニシテ忌避トハ訴訟關係人カ或裁判官ノ裁判ヲ受クルコトヲ欲セスシテ之ヲ拒ムノ方法ナリ其原因ニ二種アリ左ノ如シ

第一 判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラル、場合 除斥ノ原因アル場合ハ又當然忌避ノ原因タルナリ元來除斥ノ原因アルトキハ判事ハ法律上其職務ノ執行ヲ禁止セラル、モノニシテ敢テ訴訟關係人ヨリ忌避スルヲ俟タサルモノナレトモ判事又ハ裁判所カ其事ニ心付カス依然其職務ノ執行ヲ爲ス場合ニ於テハ當事者ヲシテ除斥ノ原因アルコトヲ主張シテ忌避ノ申請ヲ爲サシムルノ必要生スルナリ

第二 判事偏頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ルヘキ狀況アル場合 如何ナル場合ニ判事ニ偏頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ルヘキ狀況アリヤハ事實問題ニシテ之ヲ豫定シ難シト雖モ判事カ被告人若クハ被害者ト親族ニハアラサルモ情交親密ナルトキノ如キ判事カ賄賂タラサルモ或贈與ヲ受クルノ如キハ偏頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ルヘキ場合ナルヘシ

第四十二條 忌避ノ申請及ヒ其裁判所ニ付テハ 民事訴訟法第三十四條

乃至第三十八條ノ規定ニ從フ

（講義）本條ハ忌避ノ申請ノ手續ヲ規定セシモノニシテ本法ニハ別段ノ規定ヲ設ケス民事訴訟法ノ規定ヲ準用スルコトトセリ而シテ同法ニ依ルトキハ左ノ如シ

第一 忌避ノ申請ヲ爲ス時期 判事カ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルル場合ニ於ケル判事ノ忌避ハ其訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルナ間ハ之ヲ爲スコトヲ得偏頗ノ恐レアル場合ニ於テハ原告若クハ被告其覺知シタル忌避ノ原因ヲ主張セスシテ判事ノ面前ニ於テ申立ヲ爲シ又ハ相手方ノ申立ニ對シ陳述ヲ爲シタル後ハ其判事ヲ忌避スルコトヲ得ス（民事訴訟法第三十四條）

第二 忌避申請ノ方式 忌避ノ申請ハ判事所屬ノ裁判所ニ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

得忌避ノ原因ハ之ヲ疏明スルコトヲ要ス忌避セラレタル判事ノ職務上ノ陳述ハ其疏明ノ用ニ充ツルコトヲ得原告若クハ被告カ判事ノ面前ニ於テ申立ヲ爲シ又ハ相手方ノ申立ニ對シ陳述ヲ爲シタル後其判事ニ對シ偏頗ノ忌避ヲ爲スヘキハ忌避ノ原因其後ニ生シ又ハ之ヲ其後ニ覺知シタルコトヲ疏明スヘシ（民事訴訟法第三十五條）

第三 忌避ノ申請ニ對スル裁判 忌避セラレタル判事合議裁判所ニ屬スルトキハ其裁判所忌避ノ申請ヲ裁判ス但忌避セラレタル判事ハ其裁判ニ參與スルコトヲ得ス若シ其裁判所右判事ノ退去ニ因リ決定ヲ爲スコト能ハサルトキハ直近上級ノ裁判所其申請ヲ裁判ス區裁判所判事忌避セラレタルトキハ上級ノ地方裁判所其申請ヲ裁判ス若シ區裁判所判事カ忌避ノ申請ヲ正當ナリト爲ストキハ裁判ヲ要セス（民事訴訟法第三十六條）

忌避ノ申請ニ付テハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得忌避セラレタル判事ハ先ツ申請ノ理由ニ付キ職務上意見ヲ述フヘシ（民事訴訟法第三十七條）
第四 忌避ノ申請ニ付テハ裁判ニ對スル上訴 忌避ノ申請ヲ正當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス其申請ヲ不當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得（民事訴訟法第三十八條）爰ニ疑問ニ屬スルハ此決定ニ對スル抗告ノ期間ハ刑事訴訟法ノ抗告期間（三日）ニ依ルヘキヤ將タ民事訴訟法ノ即時抗告期間（七日）ニ從フヘキヤノ問題之ナリ今日ノ判例ニ於テハ民事訴訟法ノ即時抗告ノ期間ニ從ヘルカ如シト雖モ本法ハ民事訴訟法第三十八條ノ規定ニ從フトアリテ即時抗告ノ期間ヲ規定セル同法第四百六十六條ニ從フト云ハサル點ヨリ見レハ抗告ノ期間ハ本法ニ依リ三日ト爲スヲ穩當ト信ス

第四十三條 忌避ノ申請アリタルトキハ 公判ニ付テハ 其辯論ヲ中止ス可シ豫審ニ付テハ 仍ホ其處分ヲ繼續ス可シ但急速ヲ要セサル事件ニ付テハ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得

(講義)本條ハ忌避申請ノ結果ニ付キ規定シタルモノニシテ忌避ノ申請力不當ナリトシテ却下セラレタルトキニ於テハ訴訟關係人ハ其判事ノ裁判ヲ受ケサルヘカラス之ニ反シテ忌避ノ申請カ理由アリト認メラルルトキハ其判事ノ爲シタル行爲ハ總テ無効トナルナリ故ニ本條ハ公判ト豫審トチ區別シ公判ニ付テハ其決定アルマテ辯論ヲ中止スヘク豫審ニ付テハ急速ヲ要セサル事件ニ付テハ其手續ヲ中止スルコトヲ得ルモノトセリ蓋シ豫審處分ハ證據ノ蒐集ヲ目的トスルモノナレハ若シ之中止センカ爲メニ有力ノ證據ヲ失シ犯罪ノ端緒ニ得易カラサルコトアレハ手續ヲ繼續スルチ原則トセシナリ

第四十四條 判事自ラ第四十條ニ定メタル理由アルコトヲ認メ又ハ回避ス可キモノト思料シタルトキハ忌避ノ申請ノ管轄裁判所ニ回避ノ申立ヲ爲ス可シ

其裁判所ニ於テハ回避ノ申立ヲ裁判ス可シ

(講義)本條ハ判事自ラ裁判ニ干與スルチ辭スル場合ニ付キ規定シタルモノニシテ回避トハ判事カ嫌疑ヲ避クル爲メニ自ラ裁判ニ干與スルコトヲ避止スルチ云フ而シテ本條ハ回避ノ原因ニ個ヲ認ム左ノ如シ

- 第一 判事自ラ除斥ノ原因アルコトヲ認メタルトキ
 - 第二 其他回避スヘキモノト思料シタルトキ 此場合ハ事實問題ニシテ其事件ニ依リ判定スヘキモノナルモ偏頗ナル裁判ヲ爲スノ嫌疑ヲ受クル虞アル場合ノ如キハ回避スルコトヲ得ルモノトス
- 回避ハ忌避申請ノ管轄裁判所則チ判事所屬ノ裁判所ニ爲スヘキモノニシテ其裁判所ハ申立ニ付キ之カ當否ヲ裁判スヘキモノトス而シテ其申立ハ何等規定ナキヲ以テ書面ニ因ルモ口頭ニ

依ルモ隨意ナルナリ

第四十五條 本章ノ規定ハ裁判所書記ニモ之ヲ準用ス但其裁判ハ書記所屬ノ裁判所之ヲ爲ス可シ

(講義)本條ハ裁判所書記ニ對スル忌避ヲ規定シタルモノニシテ忌避ハ獨リ判事ニ對スルノミナラス裁判所書記ヲモ忌避スルコトヲ得ルナリ而シテ裁判所書記ニ付テハ忌避申請ノ裁判ハ書記所屬ノ裁判所ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス

第三編 犯罪ノ搜查、起訴及ヒ豫審

第一章 搜查

(講義)犯罪ノ搜查ハ事件カ未ダ裁判所ニ繫屬セサル以前ノ行爲ニシテ公訴提起ノ準備ニ過キサルナリ公訴提起ノ準備トハ公訴ヲ提起スル目的ヲ以テ爲ス諸般ノ準備ヲ云フ而シテ檢事ハ公訴提起ノ機關ナレハ犯罪ヲ搜查スルノ職權モ亦從テ檢事ニ屬ス然レトモ總テハ犯罪ヲ搜查スルハ到底檢事ノミチヲ以テシテハ不可能ナレハ司法警察官ハ檢事ヲ補助シ共ニ犯罪ノ搜查ヲ爲スヘキモノトス

第四十六條 檢事ハ後ニ記載シタル告訴、告發、現行犯其他ノ原因ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ其證據及ヒ犯人ヲ搜查ス可シ

(講義)本條ハ搜查處分ノ範圍ヲ規定シタルモノニシテ檢事ハ告訴告發其他ノ原因ニヨリ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ其證據及ヒ犯人ヲ探知スルチ要ス作併檢事ノ

犯罪ノ搜查、起訴及ヒ豫審

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

四〇

捜査處分ノ範圍ナルモノハ絶對無限ニ非スシテ一ノ制限アリ則チ現行犯ノ場合ニ於テハ強制
處分例ヘハ證人訊問、犯人逮捕、家宅搜索、墳墓發掘等ヲ爲シ得ルモ非現行犯ノ場合ハ強制
的ノ手段ニ依ラスシテ犯罪ノ捜査ヲ爲ササルヘカラス如斯檢事ノ職權ヲ制限シタル所以ハ何
ソヤ他ナシ若シ檢事ニ絶對無限ノ職權ヲ與ヘンカ爲メニ人民ノ自由ヲ束縛スルノ慮リアレハ
ナリ學者或ハ檢事ノ職權狹隘ニ失スルヲ批難スルモノアリト雖モ此問題タルヤ重且ツ大ナル
モノアレハ宜シク熟慮スヘキモノタランカ

第四十七條

警視總監及ヒ地方長官ハ各其管轄地内ニ於テ司法警察官

トシテ犯罪ヲ捜査スルニ付キ地方裁判所檢事ト同一ノ權ヲ有ス但東

京府知事ハ此限ニ在ラス

左ニ記載シタル官吏公吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ司法警察

官トシテ犯罪ヲ捜査ス可シ

第一 警視警部長、警部、警部補

第二 憲兵將校下士

第三 島司

第四 郡長

第五 林務官

第六 市町村長

〔講義〕本條ハ犯罪捜査ノ職權ヲ有スル者ヲ規定シタルモノニシテ警視總監（東京府ニ限ル）府
縣知事、北海道廳長等ハ其管轄地内ニ於テ司法警察官トシテ檢事以外ニ獨立シ犯罪捜査ノ權
ヲ有ス而シテ警視、警部長（現今ノ事務官）警部、警部補、憲兵將校、下士、島司、郡長、
林務官（林務官トハ官名ヲ云フニ非スシテ森林取締ノ職ヲ司ル官吏全体ヲ云フ）市町村長ハ
檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ司法警察官トシテ犯罪ノ捜査ヲ爲ス可キモノトス
司法警察官ハ檢事ト異リ事物ノ管轄ニ付テハ何等ノ制限ナケレハ其區裁判所ノ事件タルト地
方裁判所ノ事件タルト將又大審院ノ事件タルトニ論ナク總テ管轄權ヲ有スト雖トモ土地ノ管
轄ニ至リテハ行政區劃ニ制限セララルルヲ以テ捜査權モ亦自ラ其以外ニ及ホスコトヲ得ス故ニ
司法警察官ノ管轄區域ハ裁判所ノ管轄區域ヨリ廣キコトアリ或ハ狹キコトアリテ素ヨリ相一
致スルモノニ在ラス

第四十八條

海船内ノ犯罪ニ付テハ 船長ニ於テ司法警察ノ職務ヲ行フ

可シ

〔講義〕本條ハ海船内ニ於ケル犯罪ニ付テ捜査權ヲ有スルモノヲ規定シタルモノニシテ船長ハ海
船内ノ犯罪ニ付テ司法警察官ノ職務ヲ行フヘキモノトス

第一節 告訴及ヒ告發

〔講義〕告訴ト云ヒ告發ト云フモ同シク犯罪ノ申告ニ外ナラスシテ此點ニ關シテハ二者何等區別
ノ存スル處ナシト雖モ告訴ハ犯罪ニヨリ害ヲ被リシ者ヨリ申告スルノ方法ニシテ告發ハ犯罪
アルコトヲ認知シ若クハ思料シタル者ヨリ申告スルノ方法ナリ故ニ告訴ヲ爲ス者ハ必ス被害
者タラサルヘカラサルモ告發ハ之ニ反シテ何人ト雖モ爲シ得ヘキモノトス

第四十九條

何人ニ限ラス犯罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

四一

クハ被告人所在ノ地ノ検事又ハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得
司法警察官告訴ヲ受ケタルトキハ違警罪ニ付キ即決ヲ爲ス場合ヲ除
ク外速ニ其書類ヲ管轄裁判所ノ検事ニ送致ス可シ

(講義)本條ハ告訴ハ何人ヨリ如何ナル官衙ニ對シテ爲ス可キヤナリ規定シタルモノニシテ凡ソ犯
罪ニ因リ損害ヲ受ケタルトキハ何人ニ限ラス犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ検事又ハ司法
警察官ニ申告スルヲ得ヘキモノニシテ此申告ヲ受理シタルモノハ直チニ公訴提
起ノ準備ヲ爲シ相當裁判所ニ起訴スヘキモノナルモ之ニ反シテ司法警察官ナルトキハ司法警
察官ハ公訴提起ノ職權ナキヲ以テ違警罪ニ付キ即決ヲ爲シ得ヘキ場合ノ外ハ速ニ其書類ヲ管
轄裁判所ノ検事ニ送致スヘキモノトス

第五十條 告訴人ハ成ル可ク其證據及ヒ事實參考ト爲ル可キコトヲ申
立ツ可シ

(講義)本條ハ告訴告發ヲ爲スニ付テノ注意事項ヲ規定シタルモノニシテ檢事ハ公訴ヲ提起セシ
トスルニハ先ツ其證據ヲ集蒐セサルヘカラス然ルニ告訴告發人ハ其犯罪ニ付キ證據并ニ事實
參考ト爲ルヘキコトヲ申立ツルニ於テハ檢事ノ犯罪捜査上ニ至大ノ便利ヲ供スヘケレハ特ニ
本條ヲ設ケタルナリ

第五十一條 告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ
又告訴ハ口述ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其告訴ヲ受ケタル官吏ハ調書
ヲ作り告訴人ニ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印スヘシ若シ告訴人署名捺

印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

(講義)本條ハ告訴告發ノ手續ヲ規定シタルモノニシテ告訴告發ヲ爲スニハ書面、口頭孰レヲ以
テ爲スモ妨ケナシト雖トモ書面ヲ以テ爲ストキハ告訴人ニ署名捺印セサルヘカラス又口頭
ヲ以テ爲シタル場合ハ告訴告發ヲ受ケタル官吏ハ調書ヲ作り之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印スヘ
キモノトス而シテ若シ告訴告發人カ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スルモノト
ス

第五十二條 官吏、公吏其職務ヲ行フニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又
ハ犯罪アリト思料シタルトキハ速ニ其職務ヲ行フ地ノ検事ニ告發ス
可シ

告發ハ官吏、公吏ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ成ル可ク證
憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ添フ可シ

(講義)本條ハ官吏公吏ノ資格ニテ告發スル場合ヲ規定シタルモノニシテ官吏公吏カ其職務ヲ行
フニ當リテ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ速ニ其職務ヲ行フ地ノ檢
事ニ告發スヘキモノトス故ニ此場合ニ於テハ告發ハ官吏公吏ノ職務上ノ職務ナリトス若シ此
職務ヲ怠ルトキハ刑法上ノ制裁ヲ受ケサルモ懲戒上ノ處分ハ到底免ルルコトヲ得ス但シ官吏
公吏ト雖モ其職務ニ關係ナキ事件ニ付テハ私人トシテ告發スルハ格別官吏公吏ノ資格ニ於
テハ素ヨリ本條ノ規定ニ從フヲ要セス
官吏公吏ノ告發ハ必ス署名捺印シタル書面ヲ以テ爲スヘキモノニシテ口頭ノ告發ハ之ヲ許サ
サルモノトス

第五十三條

何人ニ限ラス犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタルトキハ第五十條第五十一條ノ規定ニ從ヒ其所在ノ地若クハ犯罪ノ地ノ檢察官又ハ司法警察官ニ告發スルコトヲ得

告發ヲ受ケタル司法警察官ハ第四十九條ノ規定ニ從ヒ其處分ヲ爲ス可シ

(講義)本條ハ告發ハ何人ヨリ如何ナル官衙ニ對シテ爲スヘキヤナ規定シタルモノニシテ告發ハ前ニモ述ヘタルカ如ク何人ニテモ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル場合ハ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ告發セント欲スルモノハ上述ノ第五十條第五十一條ノ規定ニ從ヒ告發人所在ノ地及犯罪ノ地ノ檢察官又ハ司法警察官ニ爲スコキモノトス但シ官吏ノ爲スヘキ告發ハ第五十二條ノ規定ニ從ヒ其職務ヲ行フ地ノ檢察官ニ爲スハ勿論ナリトス而シテ告發ヲ受ケタル司法警察官ハ上述ノ第四十九條ノ規定ニ從ヒ其處分ヲ爲スヘキモノトス

第五十四條

告訴、告發ハ代人ニ委任シテ之ヲ爲スコトヲ得但第五十二條ノ場合ハ此限ニ在ラス
無能力者ノ告訴ハ法律上代理人之ヲ爲スモ其效アリトス

(講義)本條ハ代人ノ告訴告發ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ官吏公吏ニ非サル者ハ必スシモ自ラ之ヲ爲スヲ要セス代人ニ委任シテ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ而シテ又無能力者ノ告訴ハ法律上代理人モ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第五十五條

告訴、告發ハ其取下ヲ爲シ又ハ其申立ヲ變更スルコトヲ

得此場合ト雖モ第十三條ノ規定ニ從ヒ被告人ヨリ要償ノ訴ヲ受クルコトアル可ヘシ

(講義)本條ハ告訴告發ハ一旦之ヲ爲スト雖モ後日其願下ヲ爲シ又ハ之ヲ變更スルヲ得ル旨ヲ規定シタルモノナリ法律カ本條ヲ設ケタル所以ハ告訴告發人カ惡意又ハ過失ニ因リ不實若クハ過實ノ申立ヲ爲シ他日ニ至リ悔悟シタルトキ自由ニ其願下ヲ爲シ又ハ其申立ノ増減變更ヲ爲スコトヲ許サレハ之レ告訴告發人ヲシテ其非ヲ遂ケシムルニ均シケレハナリ然レトモ爰ニ注意スヘキハ檢察官例ヘ告訴告發ノ取下又ハ變更アリト雖モ親告罪ニ付キ公訴權消滅スルノ外ハ其取下又ハ變更ニ拘束セラルルコトナク自己カ知リタル事實ニ基キ何時ニテモ訴追スルコトヲ得ルモノトス
告訴告發人ハ何時ニテモ曾テ爲シタル告訴告發ヲ取下又ハ其申立ヲ變更スルコトヲ得ト雖モ之カ爲メ必ス刑法又ハ民法上ノ責任ヲ免レ得ヘキモノニ非ス故ニ惡意ヲ以テ人ヲ陷害シタルトキハ刑法上ノ責任ト共ニ其被告人ノ受ケタル損害ヲ賠償セサルヘカラスヨシ告訴告發人ニ惡意ナキモ重過失アルトキハ尙ホ第十三條ニ依リ損害賠償ノ義務ヲ負擔スヘキモノトス

第二節 現行犯罪

(講義)總テノ犯罪ハ其發覺ノ模樣ニ依テ現行犯及非現行犯ノ二種ニ區別ス而シテ現行犯ト非現行犯ノ區別ハ犯罪發覺ノ時期ニ依リテ異リ犯罪カ現行ノ場合ニ發覺スレハ現行犯ニシテ日時ヲ經過スルモ之カ爲メニ變シテ非現行犯トナルモノニ非ス故ニ現行犯ト非現行犯トハ大ニ捜査處分ノ範圍ヲ異ニス蓋シ現行犯ノ場合ニ於テ通常ノ訴訟手續ニ依ルトキハ犯人逃走證據湮滅ノ恐アリ從テ特別ノ手續ヲ設ケ之ヲ防禦セサルヘカラス之レ現行犯ト非現行犯トノ區別ヲ存シタル所以ナリトス

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

第五十六條 現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ヲ謂フ

(講義)本條ハ現行犯罪ノ定義ヲ與ヘタルモノニシテ本條ニ依レハ現行犯罪ニ二種アリ一ハ現ニ行ヒツツアル際ニ發覺シタル罪假ヘハ現ニ刀ヲ擧ケテ人ヲ斬リツツアル場合ニ發覺シタルノ類ニシテ一ハ現ニ行ヒ終リタル際發覺シタル罪假ヘハ人ヲ殺ス者アリ犯人既ニ逃走スルモ其所ヲ去ル未タ遠カラズ鮮血淋漓タル屍体途上ニ横ハル場合又ハ他人ノ物件ヲ竊取スル者アリテ犯人僅ニ其所ヲ去ルヤ被害者直チニ之ヲ覺知シタルノ類之ナリ

一 本條ニ所謂發覺トハ單ニ官其罪ヲ覺知スルヲ謂フニ非ス又單ニ公衆ノ之ヲ覺知スルヲ謂フニ非ス當該官吏ト普通人民トヲ問ハス現ニ其犯罪ヲ處分スル者カ覺知スルヲ云フナリ

第五十七條 重罪、輕罪ニ付キ左ノ場合ハ現行犯ニ准ス

第一 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セララルトキ

第二 兇器、贓物其他ノ物件ヲ携帶シ又ハ身體、被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料ス可キトキ

第三 家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯人ト思料ス可キ者ヲ逮捕スル爲メ戸主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタルトキ

(講義)本條ハ現行犯ノ外ニ准現行犯ナルモノヲ規定シタルナリ蓋シ現行犯ノ範圍狹隘ニシテ其効益多大ナラサルニ依リ更ニ本條ヲ設ケ之ヲ補充シタルモノトス而シテ本條ニ准現行犯ヲ重罪輕罪ニ限リ違警罪ヲ除外シタルハ重罪輕罪ハ急速ノ處分ヲ要スルモ違警罪ハ其罪輕微ニシ

テ特ニ變例ヲ設ケ急速ノ處分ヲ要スルコトナケレハナリ

第一 犯人トシテ一人又ハ數人ニ追呼セララルトキ 此場合ニ現行犯ニ准スル所以ハ假ヘハ甲者盜犯ナリトシテ追呼セララルニモ拘ハラス現行犯ニ非スシテ逮捕セシメサルトキハ罪證湮滅ノ恐れアルノミナラス十分犯人ト推測スルニ足ルヘキ者所在ニ出沒シテ公安ヲ害スルコト多大ナレハナリ

第二 兇器贓物其他ノ物件ヲ携帶シ又ハ身體被服ニ顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ犯人ト思料ス可キトキ 此場合ハ例ヘハ刀槍其他犯罪ノ用ニ供ス可キ兇器強盜ノ贓物其身分ニ相應セサル巨額ノ金圓等ヲ携帶シ又ハ身體ニ創傷ヲ負ヒ被服ニ鮮血淋漓タル血痕ヲ存スル等顯著ナル犯罪ノ痕跡アリテ一見犯人ト思料スルニ十分ナルトキハ現行犯ニ准スヘキモノトス

第三 家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯人ト思料スヘキ者ヲ逮捕スル爲メ戸主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタルトキ 此場合ハ戸主ヨリ請求スルコト最モ必要ニシテ家宅内ノ犯罪ニ限ラルルモノトス家宅以外ニ於テハ檢證其他ノ處分ヲ請求スルモ現行犯ニ准スルヲ得ス家宅内ニ犯罪アリテ其家宅ヲ支配スル戸主ニ於テ之ヲ知り檢證ヲ求ムルトキハ犯罪ノ推測頗ル重ク事顯著ニシテ切迫ナルヲ以テ現行犯ニ准スヘキモノトス而シテ此場合ハ犯罪後幾多ノ日時ヲ經過スルモ相當要件ヲ具備スルトキハ准現行犯トシテ處分スルコトヲ得ルナリ

第五十八條 司法警察官及ヒ巡查、憲兵卒其職務ヲ行フニ當リ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アルコトヲ知りタルトキハ令狀ヲ待タスシテ被告人ヲ逮捕ス可シ

罰金ノ刑ニ該ル可キ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯アルコトヲ知りタルト

キハ被告人ノ氏名、住所ヲ問ヒ輕罪ニ付テハ檢事、違警罪ニ付テハ

即決ヲ爲ス可キ官署ニ告發ス可シ其氏名、住所分明ナラス又ハ逃亡ノ恐アル者ハ檢事若クハ官署ニ引致スルコトヲ得

(講義)本條ハ司法警察官、巡查、憲兵卒方其職務ヲ行フニ當リ現行犯罪アルヲ知リタルトキハ其處分ニ付キ如何ナル權利義務ヲ有スルヤヲ規定シタルモノニシテ非現行犯ノ場合ニハ司法警察官及ヒ巡查、憲兵卒ハ令狀ナクシテ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得サルモ現行犯ノ場合ハ之カ例外トシテ何人ニ限ラス重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ルヘキ輕罪ニ對シテハ令狀ナクシテ直チニ被告人ヲ逮捕スルノ權利ヲ有ス故ニ權利ノ點ヨリ見ルトキハ司法警察官及ヒ巡查、憲兵卒ト一般人民トノ區別ナキモ乍併前者ハ管ニ權利アリトモミナラス之ト共ニ亦義務アルモノトス故ニ現行犯アル場合ニ被告人ヲ逮捕セサルトキハ之レ其職務ヲ怠リタルモノナレハ懲戒上ノ處分ヲ受クヘキモノトス

第二項ハ前項ニ規定シタル重罪及禁錮ニ該ル輕罪ヲ除キ罰金ニ該ルヘキ輕罪又ハ違警罪ノ現行犯アリタルトキハ司法警察官、巡查及ヒ憲兵卒ハ如何ナル處分ヲ爲スヘキヤヲ定メタルモノニシテ司法警察官、巡查及ヒ憲兵卒ハ右ノ現行犯アルコトヲ知リタルトキハ必ス犯人ノ氏名住所ヲ問ヒ輕罪ニ付テハ管轄裁判所ノ檢事ニ告發シ違警罪ニ付テハ即決ヲ爲ス可キ官署假ハ警察署長、分署長、憲兵屯所長等ニ告發シ手續ヲ爲ササルヘカラス乍併被告人ノ氏名住所分明ナラサルカ若クハ逃走ノ恐レアルトキハ檢事若クハ官署ニ引致スルコトヲ得ルナリ

第五十九條 巡查、憲兵卒被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ

其被告人ヲ受取りタル司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付テノ調書ヲ作

ル可シ

(講義)本條ハ巡查又ハ憲兵卒方現行犯ノ被告人ヲ逮捕シタルトキハ如何ニ之ヲ處分スルヤ又司法警察官被告人ヲ受取りタルトキハ如何ナル手續ヲ爲スヘキヤヲ規定シタルモノニシテ巡查憲兵卒方現行犯ノ被告人ヲ逮捕シタルトキハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致スヘキモノトス而シテ司法警察官ハ其被告人ヲ受取りタルトキハ他日ノ證據ニ供スル爲メ巡查、憲兵卒ノ申立ニ依リ逮捕シタル事由及ヒ告發ニ付テノ調書ヲ作製スヘキモノトス蓋シ巡查、憲兵卒ハ自ら捜査又ハ起訴スルノ權ナキニ依リ現行犯人ヲ逮捕シタル場合ハ必ス告發ヲ爲ササルヘカラサルナリ而シテ官吏ノ告發ハ其職務ヲ行フ地ノ檢事ニ書面ヲ以テ爲ス正則トスルモ現行犯人逮捕ノ場合ハ之等書類ヲ調製スルノ暇ナキヲ常トスレハ便宜上變例ヲ設ケ司法警察官ノ逮捕調書ニ告發ノ趣旨ヲ併記セシムルコトト爲セシナリ

第六十條 何人ニ限ラス重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ直チニ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得

(講義)本條ハ司法警察官及ヒ巡查憲兵卒以外ノ者モ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ルヘキ輕罪ノ現行犯人ヲ逮捕スルノ權アル旨ヲ規定シタルモノニシテ凡ソ犯罪アルトキハ社會ノ安寧ヲ害スルコト多大ナレハ現行犯ノ場合ニ於テハ何人モ之ヲ逮捕シ公安ヲ維持スルト同時ニ一面ニ於テハ被告人ノ逃亡ヲ防止シ證據ノ湮滅ヲ禦クハ國家ノ上ヨリ見ルモ利アリテ害ナクハ特ニ本條ヲ設ケタルナリ

第六十一條 前條ノ場合ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ司法警察官ニ引致ス可シ若シ引致スルコトヲ得サルトキハ自己ノ氏名、職業

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

住所及ヒ其逮捕ノ事由ヲ陳述シ假ニ之ヲ巡查憲兵卒ニ引渡スコトヲ得

被告人ヲ巡查憲兵卒ニ引渡シタルトキハ速ニ告訴又ハ告發ヲ爲スコトヲ求ムルヲ得但逮捕シタル者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其求

ヲ拒ムコトヲ得ス
被告人又ハ巡查、憲兵卒ハ逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ其ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルヲ得但逮捕シタル者ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其求ヲ拒ムコトヲ得ス

(講義)本條ハ司法警察官及ヒ巡查、憲兵卒以外ノ者カ被告人ヲ逮捕シタルトキハ如何ナル手續ヲ爲スヘキヤナ規定シタルモノニシテ重罪又ハ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ノ現行犯人ヲ逮捕シタルモノハ速ニ之ヲ司法警察官ニ引致セサルヘカラス乍併時トシテハ被告人カ抵抗ヲ爲スカ又ハ其他ノ事由ニヨリ引致スルコトヲ得サルトキハ自己ノ氏名、職業、住所及ヒ其逮捕ノ事由ヲ陳述シテ之ヲ巡查、憲兵卒ニ引渡スコトヲ得但此場合ニハ速ニ告訴又ハ告發ノ手續ヲ爲ササルヘカラス

逮捕者カ被告人ヲ假ニ巡查、憲兵卒ニ引渡シタルトキハ被告人又ハ其引渡ヲ受ケタルモノハ逮捕者ニ對シテ官署ニ同行スルコトヲ求ムルコトヲ得ルナリ蓋シ現行犯ノ場合ハ何人モ之ヲ逮捕シ得ルモノナレハ逮捕者ハ現行犯ヲ口實トシ安ニ他人ヲ逮捕シ爲メニ其自由、名譽ヲ害シ自己ノ利ヲ計ルコトナシトセス故ニ被告人及ヒ其引渡ヲ受ケタルモノハ逮捕ノ事由違法ナルカ又ハ違法ノ疑ヒアルトキハ逮捕ノ當否ヲ明ニスル爲メ逮捕者ニ對シ共ニ官署ニ至ルコトヲ求ムルコトヲ得トセシナリ此場合ニ於テハ逮捕者ハ必ス之ニ應スルノ義務アルモノトス

第二章 起訴

(講義)起訴トハ裁判所ナシテ公訴ヲ受理セシムルノ手續ヲ云フ公訴ノ提起準備カ十分ナルヤ否ヤハ一ニ檢事ノ判斷ニアリ然レトモ犯罪ヲ認定スヘキ材料ノ具備スルニアラサレハ國家ハ起訴ノ要ヲ見ス故ニ檢事ハ其材料ノ具備シタリト確信シタルトキ始メテ起訴スヘキモノトス而シテ檢事ハ如何ニ公訴ヲ提起スヘキモノナルカハ第六十二條以下ニ詳細ニ之ヲ規定セリ

第六十二條 地方裁判所檢事犯罪ノ捜査ヲ終リタルトキハ左ノ手續ヲ爲スコシ

第一 重罪ト思料シタル事件ニ付テハ豫審判事ニ豫審ヲ求ム可シ

第二 輕罪ト思料シタル事件ニ付テハ其輕重難易ニ從ヒ豫審ヲ求メ又ハ直チニ其裁判所ニ訴ヲ爲スコシ

第三 區裁判所ノ管轄ニ屬スル罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書

類ニ意見書ヲ添へ之ヲ區裁判所檢事ニ送致ス可シ (明治四十一年

三月法律第二十九號ヲ以テ改正)

(講義)本條ハ地方裁判所檢事カ犯罪ノ捜査ヲ終リタルトキ爲スヘキ手續ヲ規定シタルモノニシテ重罪ト思料シタルトキハ豫審判事ニ豫審ヲ求メ輕罪ト思料シタルトキハ其事件ノ輕重難易ニ從ヒ難重ナルモノハ豫審ヲ求メ輕易ナルモノハ直チニ公判ニ移スヘシ而シテ事件輕微ニシテ區裁判所ノ職權ニ屬スルモノト思料シタルトキハ之ヲ區裁判所檢事ニ送致スヘシ蓋シ重罪ハ事件重大ナルヲ以テ其審理ヲ慎重ニセンカ爲メ豫審ヲ求ムルモノニシテ輕罪ニ付テハ其輕

重難易ニ從ヒ豫審ヲ求ムルト否トハ檢事ノ自由ナル判斷ニ一任セリ而シテ區裁判所檢事ハ地方裁判所檢事ノ指揮監督ヲ受クヘキモノナレハ地方裁判所檢事ハ起訴ノ手續ヲ爲サシムル爲メ其事件ト共ニ證據書類及ヒ意見書ヲ送付スルモノトセシナリ

第六十三條 (明治四十一年二月法律第二十九號ヲ以テ削除)

第六十四條 檢事ハ被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノト思料シタルトキハ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致ス可シ

被告事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理ス可カラサルモノト思料シタルト

キハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラス

(講義)本條ハ地方裁判所及區裁判所ノ檢事ニ共通スル規定ニシテ檢事カ捜査ヲ終リタル後被告事件其管轄ニ非スト思料シ又ハ其事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理ス可カラサルモノト思料スル

トキハ如何ナル手續ヲ爲スヘキヤナ定メタルモノナリ而シテ管轄ニハ被告人ノ身分ニ關スル

管轄、犯罪ノ種類ニ關スル管轄、犯罪ノ性質ニ關スル管轄、土地ニ關スル管轄等ノ區別アリ

之等管轄カ其裁判所ニ屬セサルモノト思料シタルトキハ其事件ヲ相當管轄裁判所ノ檢事ニ送

致スヘク又被告事件罪トナラス又ハ公訴受理ス可カラサルモノト思料シタルトキハ公訴提起

ヲ見合スヘキモノトス而シテ被告事件罪トナラストハ例ヘハ同居ノ親屬相盜ムノ所爲又ハ他

人ノ所有物ナリト誤信シ自己ノ物件ヲ窃取スルノ類ナク又公訴受理スヘカラサルモノトハ

例ヘハ本夫以外ノ者ヨリ姦通ノ告發ヲ爲シ若クハ時效經過ノ後告訴ヲ爲シタル場合ノ如キチ

第六十五條 前數條ノ場合ニ於テ被告事件告訴ニ係ルトキハ檢事ヨリ

其處分ヲ被害者ニ通知ス可シ

(講義)本條ハ前數條ノ規定ニ從ヒ檢事カ爲シタル處分ヲ被害者ニ通知スヘキ旨ヲ規定シタルモ

ノニシテ告訴人ハ犯罪ニヨリ直接私法上ノ損害ヲ受ケタルモノナレハ其告訴シタル事實カ起

訴セラレタルヤ否又他ノ裁判所ニ移サレタルヤ否ヤハ利害ノ關係ナシト云フヲ得ス故ニ事件

若シ告訴ニ係ルトキハ檢事ヨリ其處分ヲ被害者ニ通知スヘキモノトス

第六十六條 檢事豫審ヲ求ムルトキハ證據及ヒ事實參考ト爲ル可キ事

物ヲ送致シ且臨檢ス可キ場所、逮捕ス可キ人名及ヒ證人ト爲ル可キ

者ヲ指示ス可シ

(講義)本條ハ檢事カ豫審ヲ求ムルトキ爲スヘキ手續ヲ規定シタルモノニシテ檢事カ豫審ヲ求ム

ヘキ場合ハ其收受シタル證據徵憑及ヒ事實參考トナルヘキ事物ヲ豫審判事ニ送致シ以テ其豫

審ヲ容易ナラシメサルヘカラス又犯罪ノ捜査ニ當リ事實發見ノ爲メニハ如何ナル場所ニ臨檢

スヘキカ如何ナル人ヲ逮捕スヘキカ又如何ナル者ヲ證人ト爲スヘキカナ同シク豫審判事ニ指

示スヘキモノトス

第三章 豫 審

(講義)豫審トハ公判ニ先チ爲ス所ノ取調ニシテ被告事件ヲ公判ニ移スニ足ルヤ否ヤヲ審理決定

スル爲メ諸般ノ證據ヲ蒐集スルヲ云フ故ニ豫審ノ目的ハ被告人ノ有罪無罪ヲ判定スルニ非ス

シテ事實ノ發見ニ必要ナル材料ヲ蒐集スルニ在リ若シ其犯罪自体重大ニシテ慎重ノ取調ヲ要

スルカ例ヘ其罪ハ重大ナラサルモ其事件錯雜ニシテ證據ヲ抽出スルニ困難ナルニモ拘ハラヌ

豫審ヲ經由セスシテ直チニ公判ニ於テ裁判セシカ證據蒐集等運轉不自由ニシテ徒ラニ時日ヲ

費スノミナラス事實ノ真相ヲモ得難カルヘシ何トナレハ公判ハ合議制ナルカ爲メ單獨ニテ爲スカ如ク敏活ノ作用ヲ爲シ得サレハナリ

豫審ノ手續ハ總テ之ヲ密行ス如何ナル場合ニ於テモ決シテ公開スルコトナシ之レ豫審ハ證據ノ蒐集ヲ目的トスルモノナルカ故ニ之ヲ公開スルニ於テハ共犯者互ニ氣脈ヲ通スルヲ得ヘク或ハ偽證ノ證人ヲ出タシ豫審ノ進行ノ模様ニ依リテハ賄賂ヲ行ハルヘク又證據湮滅ノ方法モ數テ盡クシテ行ハルヘク嫌疑者ニ恨ヲ懷クニ於テハ進行ノ模様ニ依リ事實ヲ捏造シ之ヲ陷ントスルモノモアルヘシ果シテ然ラハ何ニ依テカ證據蒐集ノ目的ヲ達セン故ニ豫審ハ之ヲ於テハナルモノトシタルナリ乍併豫審公行ノ可否ハ立法上學者間ノ一大論間タルナリ佛國ニ於テハ近年新ニ一法ヲ制シ被告人ハ豫審ニ於テ辯護士ヲ選定シ得ルコトトシ又辯護士ニモ自由ニ豫審全部ノ記録ヲ閱覽スルコトヲ許セリ大勢既ニ如斯ナレハ我國ニ密行モ或ハ近キ將來豫審公開主義ヲ採ルナランカ

第六十七條 現行ノ重罪、輕罪ヲ 除ク外豫審判事ハ 檢事ノ請求アルニ

非サレハ豫審ニ取掛ルコトヲ得ス 此規定ニ背キタルトキハ 其請求ヨリ以前ニ係ル手續ノ效ナカル可シ

〔講義〕本條ハ豫審ハ檢事ノ請求アルニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ規定シタルモノニシテ之レ告ケサレハ理セストノ原則ヲ適用シタルナリ而シテ豫審判事ハ審理ノ權アルモ起訴ノ權ナク起訴ノ權ハ檢事獨リ之ヲ有スルモノナレハ現行ノ重罪輕罪ヲ除クノ外豫審判事ハ檢事ノ起訴アルニ非サレハ豫審ニ着手スルコトヲ得ス若シ檢事ノ起訴ヲ待タスシテ豫審ニ着手シタルトキハ檢事ノ請求ヨリ以前ニ係ル手續ハ無効タルヘキナリ乍併之レ單ニ普通ノ場合ニ於ケル原則ニシテ之ニ對スル例外ナキニ非ス今左ニ檢事ノ起訴ヲ待タスシテ豫審判事カ豫審

ニ着手スヘキ場合ヲ列記セン

- 第一 豫審判事カ證人ヲ呼出シタルトキ其呼出ニ應セサル者ニ對シ罰金ヲ言渡シ更ニ之ヲ呼出シ尙ホ之ニ應セサルトキハ拘引狀ヲ發スルコトヲ得又必要ナルトキハ更ニ之ヲ拘留スルコトヲ得之レ檢事ノ請求ヲ待タスシテ之ヲ爲スナリ
- 第二 公判ニ於テ證人又ハ鑑定人カ故意ニ不實ノ供述ヲ爲セルトキハ偽證罪トナルヲ以テ裁判所ハ檢事ノ請求ナキモ職權ヲ以テ豫審判事ニ其事件ヲ送付スヘキモノトス故ニ此場合ニハ豫審判事ハ檢事ノ請求ナキモ尙ホ豫審處分ヲ爲スコトヲ得ルナリ (第九十五條參照)
- 第三 第九十五條ニ記載シタル附帶犯ノ場合ニ於テハ檢事ノ起訴ナシト雖モ豫審ニ着手スルコトヲ得ヘシ
- 第四 地方裁判所ノ公判中輕罪トシテ檢事ヨリ起訴セラレタル事件カ取調ノ結果重罪ナリト認メタルトキ又ハ檢事ヨリ先ニ輕罪トシテ起訴セルニ更ニ其事件ヲ重罪トシテ訴追スルコトヲ申立タルトキハ豫審判事ニ送致スルノ決定ヲ爲スナリ此場合ハ豫審判事ハ檢事ノ起訴ヲ待タズシテ直チニ之ヲ審理スルコトヲ得ルモノトス (第二百四十一條參照)
- 第五 大審院ノ特別權限ニ屬スル事項ニシテ豫審判事カ大審院長ノ命令ニヨリ之ヲ審理スル場合ハ之亦例外タルヲ失ハサルモノトス

第六十八條 檢事ハ豫審中何時ニテモ 豫審判事ニ請求シテ 訴訟記録ヲ

檢閱スルコトヲ得但二十四時内ニ之ヲ還付ス可シ

又必用ナリトスル處分ニ付キ臨時其請求ヲ爲スコトヲ得

〔講義〕本條ハ檢事カ豫審處分ニ付キ干渉スル範圍ハ如何ナル程度ニ於テナスヘキモノナルカヲ規定シタルモノニシテ元來檢事ハ公訴權ヲ實行スルモノナレハ公訴ノ目的ヲ貫ク爲メニハ其

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

事件ノ成行ヲ知ラサルヘカラス故ニ檢事ハ豫審中何時ニテモ豫審判事ニ請求シテ訴訟記録ヲ檢閱シ豫審ノ模様ヲ覺知スルコトヲ得ルモノトス而シテ二十四時内ニ還付ヲ命シタル所以ハ永ク豫審ノ記録ヲ檢事ノ手許ニ差置クトキハ豫審ノ進行ヲ妨害スルコトアレハナリ尙ホ又檢事ハ豫審中何時ニテモ必要ト思料スル處分ヲ豫審判事ニ請求スルノ權チ有ス乍併公訴一タヒ起ルトキハ豫審判事ハ其事件ニ付キ處分ノ全權チ有スレハ絕對ニ檢事ノ請求ニ應スルチ要セス若シ其請求ニシテ必要ナラズト認ムルトキハ之ヲ拒絕シテ可ナルナリ

第一節 令 狀

(譯義)令狀トハ當該官吏力重罪輕罪ノ犯人タル嫌疑チ受ケタル人ニ對シ發スル出廷又ハ逮捕監禁ノ命令書ヲ云フ而シテ令狀ヲ發スヘキ當該官吏トハ豫審判事、受命判事、受託判事及ヒ現行犯ノ場合ニ於ケル檢事ヲ云フ蓋シ人民ノ自由ハ刑ヲ執行スル場合ノ外妄リニ之ヲ拘束スヘキモノニ非ス然レトモ實際ノ必要ニ依リテハ強テ被告人ヲ法廷ニ引致シ又ハ之ヲ監倉ニ拘禁セザルヘカラサルコトアリ假ヘハ被告人逃亡ノ虞アルトキ又ハ證據ヲ湮滅スルノ虞アルトキ若クハ未遂犯ヲ遂ケントスル恐レアルトキ等ノ如シ故ニ法律ハ必要ナル場合ニ於テハ被告人ヲ拘引シ若クハ拘留スルコトヲ許セリ然レトモ此處分チ當該官吏ニ放任センカ或ハ擅極ノ弊チキチ保スル能ハサルチ以テ特ニ本節ヲ設ケ人身ノ自由ヲ保護シタルナリ

令狀ニハ召喚狀、拘引狀、拘留狀ノ三種アリ而シテ召喚狀拘引狀ハ共ニ被告人チ出廷セシムルチ目的トシ拘留狀ハ被告人チ拘禁スルチ以テ目的トス今少シク之チ左ニ説明セン

第一 召喚狀 召喚狀トハ被告チ指定ノ時日場所ニ出頭セシムルノ命令書ナリ即チ豫審判事ハ檢事ノ公訴ヲ受ケタルニ際シ檢事ヨリ豫令狀ヲ求メラレサルニ於テハ必ス召喚狀ヲ發セザルヘカラス而シテ之チ發スルモ被告人出頭セザルトキハ其被告人ニ對シテ直チニ拘引狀ヲ發シ之チ強制シテ裁判所ニ引致スルコトヲ得ルモノトス

第二 拘引狀 拘引狀トハ其人ノ意思ニ反シテ豫審判事ノ面前ニ出頭セシムルチ強フルノ命令ナリ若シ此命令ニ應セザルトキハ之チ逮捕スルコトヲ得又ハ屋内ニ隠ルルカ又ハ逃亡シタルニ於テハ家宅ヲ搜索シ又ハ之チ追跡搜索スルコトヲ得ルナリ而シテ任意ニ出頭スルトキハ必スシモ捕縛シテ引致スルチ要セス執行者ハ單ニ之チ護送スルチ以テ足レリトス

第三 拘留狀 拘留狀トハ被告人チ其地方ノ監獄内ニ在ル拘留監ニ拘禁スルコトヲ命スル命令ナリ而シテ此命令ハ召喚狀、拘引狀ト異リ一定ノ期限ナク其事件ノ落着スルマテ留置スルチ得ルモノニシテ其効果重大ナレハ無條件ニテ發スヘキ性質ノモノニアラス故ニ第七十五條ハ之ニ付キ二條件ヲ設ク第一被告人チ訊問シタル後ナルコト第二禁錮以上ノ刑ニ該ルモノト思料シタルトキ則チ之ナリ

第六十九條 豫審判事ハ檢事ノ起訴ニ因リ重罪、輕罪ノ事件ヲ受理シ

タルトキハ被告人ニ對シ先ツ召喚狀ヲ發ス可シ 但召喚狀ノ送達ト被告

告人出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可シ

召喚狀ニ因リ出頭シタル被告人ハ即時ニ之ヲ訊問ス可シ 又遅クトモ出頭ノ日ヲ過クルコトヲ得ス

(譯義)本條ハ召喚ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ豫審判事カ公訴ヲ受理シタルトキハ其被告

ヲニ訊問ヲ爲スチ要ス例ヘ裁判所ノ都合ニ依ルモ其當日ニ取調ヲ爲ササルトキハ其召喚狀ハ無効ニ歸シ更ニ之ヲ發セサルヘカラス

第七十條 豫審判事ハ召喚狀ヲ受ク可キ被告人其管轄地内ニ住セサルトキハ訊問スヘキ條件ヲ明示シテ被告人所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

〔講義〕本條ハ召喚ヲ受クヘキ被告人其管轄地内ニ住セサルトキハ如何ナル手續ヲ爲スヘキヤチ規定シタルモノニシテ若シ被告人カ其管轄地内ニ住セサルトキハ豫審判事ハ被告人所在ノ地ノ判事カ未タ其事件ノ要領ヲ知ラサルヲ以テ訊問スヘキ要點ヲ明示シテ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ其訊問ヲ囑託スルコトヲ得ルナリ之レ嫌疑ノ爲メ被告人ヲ遠隔ノ地ヨリ召喚スルハ鄭重ニ失シ費用ト歲月ヲ徒費セシムルハ其被告人ニ對シテモ苛酷ニ失スルノ嫌ナキ能ハサルハナリ

第七十一條 豫審判事又ハ受託判事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出頭セサルトキハ拘引狀ヲ發スルコトヲ得

〔講義〕本條ハ召喚ヲ受ケタル被告人其指定ノ日時ニ出頭セサルトキハ豫審判事又ハ受託判事ハ之ニ對シ如何ナル手續ヲ爲スヘキヤチ定メタルモノニシテ此場合ハ直チニ拘引狀ヲ發シ得ヘキモノトス蓋シ被告人故ナク裁判所ノ命令ニ違背シ出頭セサルトキハ或ハ逃亡シ又ハ證據湮滅ヲ謀ルノ恐シナシトセス故ニ豫審判事又ハ受託判事ハ公益ノ爲メ被告人ヲ強制シ公力ヲ以テ之ヲ引致スルコトヲ得トシタルナリ

第七十二條 豫審判事又ハ受託判事ハ左ノ場合ニ於テ直チニ拘引狀ヲ發スルコトヲ得

- 第一 被告人定リタル住所アラサルトキ
- 第二 被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡スル恐レアルトキ
- 第三 被告人未遂罪又ハ脅迫ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂ケントスル恐レアルトキ

〔講義〕本條ハ召喚狀ヲ發セス直チニ拘引狀ヲ發シ得ル場合ヲ明示シタルモノニシテ前條ニ對スル變例ナリトス
蓋シ法律ハ人ノ權利ヲ侵害スルチ目的トセサルモ社會ノ安寧ヲ維持シ刑ノ執行ヲ確實ニシ及ヒ事實ノ發見ヲ容易ナラシムルカ爲メニハ公益ノ保護ニ必要ナル手段ニ從ヒ人身ヲ檢束スルハ亦止ムヲ得サルノ次第ナリ之レ法律カ本條ヲ設ケタル所以ナリトス而シテ直チニ拘引狀ヲ發シ得ヘキ場合ハ左ノ如シ
第一 被告人定リタル住所ナキトキ 此場合ニ於テハ被告人チシテ豫審ニ出頭ヲ命スルモ逃走ノ虞レ在リテ召喚狀ヲ發スルモ何等ノ效力アラサレハナリ
第二 被告人罪證ヲ湮滅シ又ハ逃亡スル恐レアルトキ 證據ヲ以テ罪ヲ斷スルノ今日ニ於テハ假ヘ犯罪ノ事實ハ歴然タルモ其證據ナキニ於テハ之ヲ處分スルノ途ナクハ豫メ罪證ノ湮滅又ハ逃亡等ニ備フルノ手段ヲ講セサルヘカラス之レ直チニ拘引狀ヲ發スルコトヲ得セシメタル所以ナリ
第三 被告人未遂罪又ハ脅迫罪ヲ犯シ尙ホ其目的ヲ遂ケントスル恐レアルトキ 脅迫罪ノ人ニ

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

恐怖心ヲ與フルコトノ大ナルハ未遂犯者ノ尙ホ其目的ヲ達セント欲シ人ヲシテ畏怖セシムルコトノ大ナルト共ニ等シク公安ヲ害スルコト少ナカラサレハ之等ノ徒ヲシテ自由ナラシメス直チニ拘束スルノ必要アリ之レ拘引狀ヲ發スルコトヲ得セシメタル所以ナリ

第七十三條 勾引狀執行ノ命ヲ受ケタル者ハ其令狀ヲ發シタル判事ニ被告人ヲ引致ス可シ

拘引狀ヲ以テ引致シタル被告人ハ四十八時内ニ之ヲ訊問ス可シ若シ其時間ヲ經過スルトキハ勾留狀ヲ發スルニ非サレハ當然之ヲ釋放ス可シ

(講義)本條ハ拘引狀ノ目的及ヒ其効力ヲ定メタルモノニシテ拘引狀執行ノ命ヲ受ケル者ハ巡査憲兵卒ナリ此等ノ執行者カ拘引狀ヲ以テ被告人ヲ引致シ來リタルトキハ之ヲ令狀ヲ發シタル判事ノ前面ニ致スヘキモノトス而シテ判事ハ四十八時間内ニ被告人ヲ訊問スヘク若シ其時間ヲ經過シタルトキハ拘留狀ヲ發スルニ非サレハ拘引狀ノ効力並ニ消滅シ當然放還セサルヘカラス

第七十四條 豫審判事又ハ受託判事ハ召喚狀又ハ拘引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ疏明シタルトキハ被告人ノ所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得

(講義)本條ハ召喚狀又ハ拘引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ疏明シタルトキ爲スヘキ手續ヲ定メタルモノニシテ豫審判事又ハ受託判事ハ召喚

狀又ハ拘引狀ヲ受ケタルモノカ疾病其他相當ナル事故ニヨリ出頭スルコト能ハサルコトヲ認メタルトキハ之ニ出頭ヲ命スルハ事實不能ニ屬スレハ判事ノ都合ニ依リ其所在ニ就テ之ヲ訊問スヘキモノトス

第七十五條 拘留狀ハ被告人ヲ訊問シタル後禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思料スルニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得ス但被告人逃亡シタル場合ニ於テハ其訊問ヲ爲サシテ之ヲ發スルコトヲ得

(講義)本條ハ拘留狀ヲ發スルニ付テノ二條件ヲ定メタルモノニシテ拘留狀ハ前ニモ述ヘタル如ク被告人ノ身体ノ自由ヲ拘束スルノ効力アルモノナレハ之ヲ發スルニハ慎重ノ手續ニ依ラサルヘカラス本條ニ依レハ被告人ヲ訊問シ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思料シタル場合ニ非サレハ之ヲ發スルコトヲ得スト規定ス然レトモ之ニ對シテハ一ノ例外アリ則チ被告人ニシテ逃亡シタルトキハ例ヘ一則ノ訊問ヲ爲サスト雖モ直チニ之ヲ發スルコトヲ得ルナリ茲ニ注意スヘキハ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノト思料シタルトキト云ヒテ罰金科料拘留等ノ刑ヲ除外シタルコトノナリ之レ罰金、科料、拘留等ノ刑ニ該ルヘキ被告人ハ其罪輕微ニシテ證據湮滅ヲ豫防スル必要ナク又刑ノ執行モ身体ノ自由ニ及ハサレハ監禁セサルモ爲メニ社界ニ危害ヲ及ホスノ虞ナキニ依リ特ニ之ヲ除外シタルナリ

第七十六條 總テ令狀ニハ被告事件及ヒ被告人ノ氏名、職業、住所ヲ記載ス可シ但召喚狀ヲ除ク外其氏名分明ナラサルトキハ容貌、体格等ヲ明示スヘシ

又令狀ニハ之ヲ發スル年月日時ヲ記載シ判事及ヒ裁判所書記署名捺

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

印ス可シ

召喚狀ハ執達吏ヲシテ被告人ニ送達セシメ 拘引狀、拘留狀ハ巡查、

憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム

〔備考〕本條ハ令狀執行ノ方法ヲ規定シタルモノニシテ召喚狀ノ執行ハ執達吏ヲシテ其召喚狀ヲ被告人ニ送達セシメテ之ヲ爲スモノナリ拘引狀及ヒ拘留狀ハ巡查若クハ憲兵卒ヲシテ之ヲ執行セシム而シテ召喚狀ハ裁判所書記ヨリ直チニ執達吏ニ渡スモノニシテ拘引狀拘留狀ハ檢事之ヲ執行ヲ命スルモノトス
右各種ノ令狀ニハ被告人ヲシテ如何ナル事件ノ爲メニ令狀ヲ受ケタルカチ知ラシムル爲メ被告事件ノ記載ヲ爲シ其人違ナキヲ保スル爲メ被告人ノ氏名、職業、住所ヲ記載シ召喚狀ヲ除ク外被告人ノ氏名分明ナラサルトキハ其容貌体格等ヲ記載スヘキモノトス而シテ令狀ニ之ヲ發スル年月日ヲ記載シ刑事及ヒ裁判所書記署名捺印スルヲ要スルハ其令狀ノ正確ナルヲ保スルカ爲メナリ

第七十七條 拘引狀、拘留狀ハ時宜ニ因リ正本數通ヲ作り 巡查、憲兵

卒數人ニ分付スルコトアル可シ

拘引狀、拘留狀ヲ執行スルニハ其正本ヲ携帶シ被告人ノ請求アルト

キハ之ヲ示ス可シ

拘引狀、拘留狀ヲ執行シタルトキハ其正本ニ執行ノ場所及ヒ日時ヲ

記載シ若シ執行スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ記載シテ署名捺印

ス可シ

巡查、憲兵卒ハ令狀ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出ス可シ

〔備考〕本條ハ拘引狀及ヒ拘留狀ノ執行ニ關スル規定ニシテ拘引狀、拘留狀ヲ執行スルニ正本數通ヲ作ル所以ノモノハ被告人ノ所在分明ナラサルカ又ハ逃走後各所ニ潜匿ノ疑アル場合ニ當リテハ荷モ逮捕ノ機會ヲ失セザラント欲セハ勢ヒ巡查、憲兵卒數人ニ各自正本ヲ分付スルノ必要存スレハナリ而シテ巡查憲兵卒力之ヲ執行スルニハ其正本ヲ携帶シ被告人ノ請求アルトキハ之ヲ示スヘク又之ヲ執行シタルトキハ其正本ニ執行ノ場所及ヒ日時ヲ記入シ被告人ヲシテ署名捺印セシムルヲ要ス被告人若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ付記シ署名捺印ノ上之等令狀ニ關スル書類ヲ自己ノ指揮官タル檢事ニ提出スヘキモノトス

第七十八條 令狀執行ノ命ヲ受ケタル 巡查、憲兵卒ハ 被告人其家宅若

クハ他人ノ家宅ニ潜匿シタルト思料シタルトキハ其地ノ市町村長又

ハ其差支アルトキハ隣祐二名以上ノ立會ヲ求メ之ヲ搜索ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ被告人ヲ發見シタルト 否トニ拘ハラヌ搜索調書

ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

家宅搜索ハ日出前日没後之ヲ爲スコトヲ得ス 但旅店、割烹店其他夜

間ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニ付テハ其公開時間内ニ限り 何時ニテ

モ搜索ヲ爲スコトヲ得

(講義)本條ハ令狀執行ノ命ヲ受ケタル者カ被告人ヲ逮捕スル爲メ家宅搜索ヲ必要トスル場合ハ如何ニ處分スヘキカヲ規定シタルモノニシテ令狀執行ノ命ヲ受ケタル巡查憲兵卒ハ被告人カ其家宅若クハ他人ノ家宅ニ潛匿シタリト思料シタルトキハ其地ノ市町村長又ハ隣祐二名以上ノ立會ヲ求メ其家ニ侵入シ之ヲ搜索スルコトヲ得ルモノトス蓋シ居住ノ安寧ハ憲法ノ保障シタル所ナレハ巡查、憲兵卒ニシテ單身家宅ニ侵入セシメンカ或ハ擅横他人ノ權利ヲ害スルコトナシトセス故ニ法律ハ豫メ之ヲ慮リ立會ヲ必要トシタルナリ而シテ此搜索ヲ爲シタル場合ハ被告人ヲ發見シタルト否トニ拘ハラヌ搜索調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印スヘキモノトス

右ノ家宅搜索ハ日出前日没後之ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ夜間ハ家内ノ安息ヲ妨害スルノ恐アレハナリ然レトモ旅店割烹店其他夜間ト雖モ衆人ノ出入スル場所ニ付テハ其公開時間内ニ限り何時ニテモ搜索スルコトヲ得ルナリ之レ公開時間ハ夜間ト雖トモ各業務ヲ營ムノ時間ナレハ搜索ヲ爲スモ爲メニ家内ノ安息ヲ害スルコトナケレハナリ

第七十九條 豫審判事ハ被告人他ノ管轄地内ニ 潛匿シタルコトヲ知り

又ハ潛匿シタリト 思料シタル場合ニ於テ被告事件急速ヲ 要スルトキハ 巡查、憲兵卒ニ令狀ヲ帶行セシムルコトヲ得

巡查、憲兵卒ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事、檢事又ハ 司法警察官ニ令狀ヲ示シテ即時ニ執行ヲ求ム可シ

(講義)本條ハ被告人カ裁判所ノ管轄外ニ潛匿シタルトキハ如何ニスヘキヤニ付キ規定シタルモノニシテ豫審判事ハ被告人他ノ管轄地内ニ潛匿シタルコトヲ知り又ハ潛匿シタリト思料シタ

ル場合ニ於テハ普通被告人所在ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ令狀ヲ送致シ其逮捕ヲ囑託スヘキモノナレトモ事若シ急速ヲ要スルトキハ普通ノ手續ニ從ハンカ或ハ逮捕ノ機ヲ失スルコトナシトセス故ニ本條ハ便法ヲ設ケ巡查、憲兵卒ニ令狀ヲ帶行セシメ其地ニ進入スルヲ得セシメ併巡査、憲兵卒ハ其地ノ豫審判事、檢事又ハ司法警察官ニ令狀ヲ示シ即時ニ執行ヲ求ムヘキモノニシテ自ラ之ヲ執行スルヲ得ス之レ或ハ制肘ニ過キ犯人逮捕ノ時期ヲ愆ル憂ナキカ

第八十條 豫審判事ハ被告人所在ノ地ヲ覺知スルコト 能ハサルトキハ

各檢事長ニ被告人ノ 人相書ヲ送致シ捜査及ヒ 逮捕ヲ爲スコトヲ 請求スルヲ得

請求ヲ受ケタル 檢事長ハ其管轄地内ノ檢事ヲシテ 搜索及ヒ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ此場合ニ於テ 檢事ノ發シタル逮捕狀ハ 拘留狀ト同一ノ效力有ス

(講義)本條ハ豫審判事カ被告人所在ノ地ヲ覺知スルコト能ハサルトキハ如何ニス可キカヲ規定シタルモノニシテ此場合ハ被告人ノ人相書ヲ作り各控訴院檢事長ニ送致シ捜査及ヒ逮捕ヲ爲スコトヲ請求スヘキモノトス而シテ人相書トハ被告人ノ人相ヲ付記シタル令狀ナリヤ將又被告人ノ人相ヲ記シタル逮捕ノ請求書ナルヤ疑ナキ能ハサルモ本條第二項ニ請求ヲ受ケタル檢事長ハ其管轄地内ノ檢事ヲシテ搜索及ヒ逮捕ノ處分ヲ爲サシムヘシ此場合ニ於テ檢事ノ發シタル逮捕狀ハ拘留狀ト同一ノ效力有スト規定シ檢事ニ拘留狀ニ均シキ效力アル逮捕狀ヲ發スル特權ヲ與ヘタル點ヨリ見ルモ人相書トハ被告人ノ人相ヲ記シタル逮捕ノ請求書ナリト解スルコト穩當ナルヘシ

第八十一條 豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人、軍屬ニ對シ令狀ヲ發シタルトキハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ令狀ヲ示ス可シ其長官又ハ隊長ハ己ムコトヲ得サル差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速ニ令狀ニ應セシム可シ

(講義)本條ハ陸海軍在營又ハ行軍中ノ軍人軍屬ニ對シ令狀ヲ執行スル場合ノ規定ニシテ豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人軍屬ニ對シテハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ令狀ヲ示スヘク其長官又ハ隊長ハ己ムコトヲ得サル差支アルニ非サレハ本人ヲシテ速ニ令狀ニ應セシムヘキモノトス
蓋シ軍人軍屬ハ常ニ軍律ニ從ヒ居ルモノナレハ普通人トハ其取扱チ異ニスルノ必要アルカ故ニ特ニ本條ヲ設ケタルナリ

第八十二條 拘留狀ヲ受ケタル被告人ハ速ニ其令狀ニ記載シタル監獄署ニ引致ス可シ若シ其監獄署ニ引致スルコト能ハサルトキハ假ニ最近ノ監獄署ニ引致スルコトヲ得
何レノ場合ニ於テモ監獄署長ハ令狀ヲ檢閲シテ被告人ヲ受取リ其證書ヲ渡ス可シ

(講義)本條ハ拘留狀ニ依リ被告人ヲ逮捕シタルトキ爲スヘキ手續ヲ規定シタルモノニシテ拘留狀ノ執行ニ依リ被告人ヲ引致シタルトキハ速ニ其拘留狀ニ記載シタル監獄署ニ拘留スヘキモノトス

ノトス乍併若シ遠隔ノ地ニ於テ拘留狀ヲ執行シ直チニ其令狀ニ記載シタル監獄署ニ引致スルコト能ハサルトキハ其執行シタル場所ニ最モ近キ監獄署ニ假ニ之ヲ引致スルコトヲ得ルモノトス而シテ何レノ場合ニ於テモ監獄署長ハ令狀ヲ檢閲シタル上被告人ヲ受取リ其證書ヲ渡スヘキモノトス

第八十三條 (三十二年法律第七十三號ヲ以テ削除)

第八十四條 在監中ノ被告人ニ對シ發シタル拘留狀ハ司獄官吏ヲシテ之ヲ執行セシム (三十二年法律第七十三號ヲ以テ本條改正)

拘留狀執行ニ關シテハ第七十七條ノ規定ヲ適用ス

(講義)本條ハ在監中ノ被告人ニ對シ發シタル拘留狀ノ執行ニ關スル規定ニシテ拘留狀ハ普通巡査、憲兵卒ヲシテ執行セシム可キモノナレトモ在監中ノ被告人ニ對シテ發シタル拘留狀ハ特ニ司獄官吏ヲシテ之ヲ執行セシムヘキモノトス而シテ執行ノ手續ハ第七十七條ニ同シ

第八十五條 拘留ヲ受ケタル被告人ハ官吏ノ立會ニ依リ他人ト接見スルコトヲ得

書類ハ豫審判事又ハ檢事ノ檢閲ヲ經タル後他人ト之ヲ授受スルコトヲ得

豫審判事ハ必要ナリト思料シタルトキハ被告人ハ監房ヲ別異シ、他人ノ接見、書類物件ノ授受ヲ禁シ又ハ其書類物件ヲ差押フルコトヲ

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

得(同上)

【講義】本條ハ在監ノ被告人外人ト接見シ若クハ之レト交通スル規則ヲ定メタルモノニシテ法律ハ一定ノ制限ノ下ニ被告ハテシテ他人ト接見シ又ハ他人ト書類ノ授受ヲ爲スコトヲ許シタリ然レトモ相對ニ之ヲ許ストキハ危險ヲ生スル虞レナシトセテ豫審判事ハ必要ヲ認メタルトキハ被告人ノ監房ヲ別異ニシ他人トノ接見、書類、物件ノ授受ヲ禁シ又ハ書類、物件ヲ差押フルコトヲ得ルナリ

第八十六條 豫審判事ハ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノニ非ス

ト思料シタルトキハ豫審中何時ニテモ拘留狀ヲ取消ス可シ

【講義】本條ハ豫審判事カ拘留狀ヲ取消スヘキ場合ヲ規定シタルモノニシテ既ニ述ヘタル如ク拘留狀ハ常ニ禁錮以上ノ刑ニ該ルモノト思料シタル場合ニノミ發スヘキモノナルカ故ニ若シ其被告事件カ進行ノ模様ニヨリテ禁錮以上ノ刑ニ該ルモノニ非スト思料シタルトキハ拘留狀ヲ發セル條件消滅シタルヲ以テ例ヘ其事件ハ豫審ノ終結ヲ見スト雖トモ豫審判事ハ之ヲ取消サルヘカラス假ヘハ故殺罪トシテ豫審ヲ爲シタル事件カ過失罪ナルコト明瞭シタル場合ノ如シ

第二節 密室監禁(三十二年法律第七十三號ヲ以テ削除)

第八十七條 (同上削除)

第八十八條 (同上削除)

第八十九條 (同上削除)

第三節 證據

【講義】證據トハ原告人又ハ被告人カ裁判所ヲシテ其主張スル所ヲ確認セシムル爲メ用ユル所ノ方法ニシテ證據ナル意義ハ法律上及ヒ實際上ニ於テ常ニ二様 使用セラルル曰ク證明ノ方法曰ク證明ノ力之ナリ證明ノ方法トハ例ヘハ殺人犯ニ在リテハ犯人カ使用シタル血痕付ノ刀劍ヲ以テシ又ハ其兇行ヲ目撃シタル人ノ言ニ依リテ之ヲ證明スルカ如シ證明ノ力トハ例ヘハ或事件ニ關スル數多証人ノ證言中或者ノ證言ハ證據タルモ他ノ或者ノ證言ハ證據タラスト云フハ證明力即チ證據ノ効力ノ有無大小ヲ指スニ外ナラサルナリ而シテ證據ニ三種アリ第一口頭證據第二書面證據第三人證之ナリ口頭證據トハ被告人ノ自白ニ基クモノヲ云ヒ書面及ヒ人證トハ書面及ヒ其事件ニ關係シタル人ノ口頭ニ依ル陳述ヲ證據ト爲スモノヲ云フ

第九十條 被告人ノ自白、官吏ノ檢證調書、證據物件、證人及ヒ鑑定

人ノ供述其他諸般ノ徵憑ハ判事ノ判斷ニ任ス

【講義】本條ハ證據及徵憑ハ如何ナルモノト雖モ一ニ裁判官ノ判斷ニ任スル旨ヲ規定シタルモノニシテ被告ハノ自白トハ犯罪者自ラ行ヒタル犯罪事實ヲ供述スルヲ云ヒ官吏ノ檢證調書トハ相當職權ヲ有スル官吏カ其職務ニ依リ現ニ見聞シタル事實ヲ記録シタルモノヲ云ヒ證據物件トハ犯罪事實ノ實況ノ全部又ハ一部ヲ表現スヘキ有形ノ物件ナク云フ例ヘハ犯罪ノ場所ニ於テ押收シタル書類若クハ殺人ノ用ニ供セル兇器ノ如キ竊盜ノ用ニ供セル梯子ノ如キ苟モ犯罪事實ノ實況ヲ表現スヘキ物体ハ悉ク證據物件ナリトス徵憑トハ證據ノ別名タルニ過キスシテ證據ハ或事ヲ證明スルニ直接ナルモノナレトモ徵憑ハ其事件ニ間接タルモノナリ故ニ徵憑ハ間接ノ證據ト云フモ不可ナキナリ

判事ハ右述ヘタル證據又ハ徵憑ニ依リ何等他人ノ拘束ヲ受ケス自己ノ自由ナル心證ニ基キ罪犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

ノ有無ヲ断定スヘキモノトス

第九十一條 豫審判事ハ檢事若クハ被告人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル證據徴憑ヲ集取ス可シ

(講義)豫審判事ハ自己ノ職權ニヨリ證據ヲ蒐集シ争點ヲ一定スルノ義務アルノミナラス完全ニ豫審處分ヲ終決スルニハ檢事若クハ被告人ノ請求ニヨリテ必要ナリト認メタル證據ヲ蒐集セサルヘカラス之レ利事ノ訴訟ハ公益ヲ主トスルモノナレハ社會ノ安寧ヲ維持スル上ニ於テ檢事ノ請求ヲ容ルルト共ニ被告人ノ利益ノ爲メニモ亦其請求ヲ容レサルヘカラサルナリ乍併檢事又ハ被告人ノ請求メアリタルトキハ如何ナル證據モ皆之ヲ蒐集セサルヘカラサルニ非ズ唯事實發見ニ必要ナルモノヲノミ集取スルヲ以テ足レリトス

第九十二條 豫審判事臨檢、搜索、物件差押又ハ被告人證人ノ訊問ヲ爲スニハ裁判所書記ノ立會ヲ必要トス書記ハ調書ヲ作り豫審判事ト

共ニ署名捺印ス可シ

裁判所外ニ於テ急遽ノ際書記ノ立會ヲ得ルコト能ハサルトキハ立會人三名アルヲ要ス但監獄署ニ就テ被告人ヲ訊問スルトキハ其監獄署ノ官吏一名ヲシテ立會ハシム可シ

前項ノ場合ニ於テハ豫審判事自ラ調書ヲ作り之ヲ讀聞カセ立會人ト共ニ署名捺印ス可シ

書記又ハ立會人ナクシテ爲シタル處分ハ其效ナカル可シ

(講義)元來豫審ハ密行ヲ主義トスレハ豫審判事ハ自ラ總テ豫審處分ヲ爲スヘキモノナレトモ臨檢搜索物件差押調書被告人證人ノ訊問調書等ハ刑事ノ證據中肝要ナルモノナレハ其處分ハ公明ナラサルヘカラス故ニ豫審判事ノ專擅ヲ防止シ其處分ヲ公明ナラシムル爲メ裁判所内ニ於テハ必ズ書記ノ立會ヲ必要トス而シテ立會シタル書記ハ其作製シタル調書ニ豫審判事ト共ニ署名捺印セサルヘカラス

豫審判事ハ證據集取ニ書記ノ立會ヲ得ル能ハサルトキ例ヘハ現行犯ノ急遽ヲ要スル事件ニ書記ヲ同行スル違ナキ場合等ニ於テハ相當ナル立會人二名ヲシテ立會セシムルヲ要ス若シ監獄署内ニ於テ被告人ヲ訊問スルトキハ監獄署ノ官吏一名ノ立會ニテ足ル乍併之等ノ場合ニ於テハ豫審判事自ラ調書ヲ作り之ヲ立會人ニ讀聞カセ立會人ト共ニ署名捺印シテ其正確ナルコトヲ證明セシメサルヘカラス蓋シ本條ハ豫審處分ノ公平ヲ維持スルヲ以テ目的トセハ此規定ニ背キタル場合則チ立會人ナクシテ爲シタル處分ハ其效力ナキモノトス

第四節 被告人ノ訊問及對質

(講義)被告人ノ訊問トハ被告人ノ供述ヲ促スチ云ヒ對質トハ同一事件ノ共同被告人又ハ證人ト同一席ニ立タシメ其中ノ一方ノ供述ニ依リ他ノ一方ヲ推問スルヲ云フ被告人ノ訊問ハ一面ニ於テハ事實ノ發見一面ニ於テハ被告人辯護ノ方法タルナリ何トナレハ豫審判事ハ被告人ノ自狀其他陳述ノ模様ニ依リ犯罪ノ有無ヲ發見スルコトヲ得又被告人ノ辯解ヲ聞テ其冤ナルヲ推知スルコトヲ得レハナリ然ルニ英米ノ學者ハ此制ヲ非難シテ辯護ノ道ヲ害スル惡法ト爲スモ之レ或ハ誤レルナランカ

第九十三條 豫審判事ハ先ツ被告人ヲ訊問ス可シ但檢證ヲ爲シ又ハ證

人ヲ訊問スルニ付キ急速ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

(講義)豫審判事カ公訴ヲ受理シタルトキハ證據集取處分ノ第一着手トシテ被告人ヲ訊問セサルヘカラス之レ其自白ヲ求ムルト證據湮滅ノ恐れヲ避ケ速ニ證據ヲ蒐集シ被告人ノ辯解ニ應ジ適當ナル處分即チ檢證鑑定其他必要ナル處分ヲ爲サンカ爲メナリ乍檢證ヲ爲シ又ハ證人ヲ訊問スルニ付キ急速ヲ要スルトキ例ヘハ急ニ檢證ヲ爲ササレハ證據湮滅ノ恐れアル場合若クハ急ニ訊問ヲ爲ササレハ證人ノ死亡ニ依リ其陳述ヲ聞ク能ハサルノ恐れアル場合ノ如キニ於テハ被告人ノ訊問ニ先テ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第九十四條 豫審判事ハ被告人ヲシテ其罪ヲ自白セシムル爲メ恐嚇又ハ詐言ヲ用ユ可カラス

(講義)恐嚇トハ人ノ精神ニ對スル拷掠ノ一種ニシテ言語又ハ行爲ニ依リ畏懼ノ念慮ヲ生セシムルヲ云ヒ詐言トハ虚事ヲ構造シテ被告人ヲ欺罔スル所ノ言語ヲ云フ被告人ノ自白ハ有力ナル證據ナレハ豫審判事ハ其自白ヲ得ンカ爲メニ種々ナル發問ヲ爲シ自白ヲ求メサルヘカラサルモ其自白タルヲ被告人ノ自由意思ニ依リ爲シタル自白ニ非サレハ信憑スルニ足ラサルノミナラス却テ無辜ヲ罰シ罪アルモノヲ逃レシムルカ如キ過チ生スルカ故ニ自白ヲ求ムルニ當リテハ正當ナル手續ニ依リ恐嚇又ハ詐言ヲ用ユル等ノコトアルヘカラス

第九十五條 裁判所書記ハ訊問及ヒ供述ヲ録取シ被告人ニ之ヲ讀聞カス可シ
豫審判事ハ被告人ニ其供述ノ相違ナキヤ否ヤヲ問ヒ署名捺印セシム

可シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

(講義)豫審ノ調査ハ被告人ノ自由意思ニ基ク供述ヲ記載セルモノナルカ故ニ其效力ハ極メテ大ナルモノナレハ若シ被告人ノ意思ニ反シテ之ヲ記載スルカ又ハ書記ノ書損ノ爲メニ被告人ノ意思ヲ誤解スルニ於テハ被告人ノ不利益ナルノミナラス事實ノ眞摯ヲ穿ツコト能ハサルヲ以テ如斯擲重ナル手續ヲ規定シタルナリ

第九十六條 被告人其供述ニ付キ變更増減ス可キコトヲ申立タルトキハ更ニ訊問ヲ爲シ其訊問及ヒ供述ヲ録取シ之ヲ讀聞カセ署名捺印ス可シ

(講義)本條ハ被告人其供述ニ付キ變更増減ヲ爲シ得ヘキコト及ヒ變更増減ノ申立アリタルトキ履行スヘキ手續ヲ定メタルモノナリ爰ニ注意スヘキハ被告人カ變更増減ヲ爲シタルトキハ先キニ作リタル調査ハ之カ爲メニ其效力失フヘキヤ否ヤノ點ナリ我大審院ハ一度無効ナリトノ判決ヲ與ヘタルモ後ニ之ヲ改メテ有效ナリト判決シタリ

第九十七條 被告人ハ供述書ノ謄本ヲ求ムルコトヲ得

(講義)被告人ニ供述書ノ謄本ヲ求ムルノ權利ヲ與フルトキハ他日其陳述ヲ翻録シ法網ヲ免ルルノ弊ナキヲ保セスト雖モ若シ被告人ニ此權利ヲ與ヘシランカ後日公判ニ於テ更ニ同一事件ニ付キ訊問セラレルニ際シ豫審ノ申立ト符合セサル陳述ヲ爲シ延テ不利益ヲ蒙ムルコト少ナシトセス故 法律ハ被告人ノ利益ヲ保護スル爲メ特ニ本條ヲ設ケタルナリ

第九十八條 豫審判事ハ被告人ノ共犯ナルコト人違ナキコト、其他事
犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

實ヲ發見ス可キ一切ノ模様ヲ證スル爲メ必要ナリトスルトキハ被告人ト他ノ被告人、證人又ハ其他ノ者ト對質セシムルコトヲ得

(講義)對質トハ被告人ト他ノ被告人證人又ハ其他ノ者ト併テ訊問スルモノニシテ被告人ト他ノ者ト裁判官ノ面前ニ對席シ交々論難辯駁スルモノニ非ラス凡ソ被告人ノ訊問ハ各別ニ之ヲ爲シ證人ノ訊問モ亦被告人ノ面前ニ於テセサルヲ原則トスルモ或場合ニ於テハ共同被告人對席セシメ其言語ノ緩急舉動等心證ヲ得ル上ニ於テ必要缺クヘカラサルコトアリ故ニ本法ハ特ニ對質ノ例外ヲ設ク乍併對質ハ豫審ノ模様ヲ漏洩シ却テ事實ノ發見ヲ妨害スルノ恐れアレハ時機ニ應シ之ヲ施スニ非サレハ不可ナルナリ

第九十九條 書記ハ對質人ノ供述及ヒ對質ニ因リ生スル一切ノ事件ヲ錄取シ對質人ニ其對質ニ關スル部分ヲ讀聞カス可シ

第九十五條第九十六條ノ規定ハ對質ニ付テモ亦之ヲ適用ス

(講義)本條ハ對質調書ノ形式ヲ規定シタルモノニシテ對質ニ因リ生スル一切ノ事件トハ被告人證人ニ對シテ正視スル能ハス被害者ヲ見テ顔色ヲ失ヒ若クハ答辯ニ苦ミ語塞カリテ默示スル等對質ニ原因スル一切ノ模様ヲ云フ書記ハ通常ノ如ク之ヲ書キ取レバ後對質ノ事項ニ付各供述シタル本人ニ讀聞カセ書取ノ過ヲ防カサルヘカラス

第一百條 被告人又ハ對質人聾ナルトキハ書面ヲ以テ問ヒ啞ナルトキハ書面ヲ以テ答ヘシム若シ聾者、啞者文字ヲ知ラサルトキハ通事ヲ命ス可シ

被告人又ハ對質人國語ニ通セサルトキ亦同シ

(講義)被告人又ハ對質人カ聾ニシテ耳聞ク能ハサルトキニ於テハ書面ヲ解シ得ル場合ハ書面ヲ以テ問ヒ又啞ニシテ口言フ能ハサルトキハ書面ヲ以テ答ヘシムルヲ要ス若シ聾者啞者共ニ文字ヲ知ラサルニ於テハ問答ハ書面ニ依ルコト能ハサルカ故ニ通事ヲシテ相互ニ意思ヲ通達セシムヘシ被告人、對質人カ日本語ヲ解セサルトキモ亦通事ニ依ルヘキモノトス

第一百一條 通事ハ正實ニ通譯ス可キ宣誓ヲ爲ス可シ

書記ハ通事ニ調書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム可シ

第三十六條第三十七條第四十一條ノ規定ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

(講義)通事ハ豫審ニ於テ重要ナル職務ヲ有スルモノナレハ若シ通事ニシテ誠實ニ其職務ヲ盡ササルトキハ事實ノ真相ヲ誤リ公平ナル裁判ヲ爲スコト能ハサルハ其職ニ就クニ先チ必ラス誠實ニ通譯ヲ爲ス誓ヲ爲サシメサルヘカラス宣誓トハ偽ナキ誠ヲ盡スヘシトノ意思ノ標準ニシテ此宣誓ニ違ヒシトキハ刑法偽證ノ罪ニ照シ所罰スヘキモノトス
通事カ職務ヲ履行タルトキハ書記ハ調書ヲ通事ニ讀ミ聞カセ誤ナキヲ確メタル後之ニ署名捺印セシムヘシ而シテ通事ニ付テハ證人及鑑定人等ノ守ルヘキ規則ヲ適用スルモノトス此點ニ關シテハ後ニ詳細説明スヘシ

第五節 檢證、搜索及物件差押

(講義)檢證トハ犯所其他ノ場所ニ臨ミ其實況ニ付キ事實ヲ審察スルヲ云フ蓋シ犯罪ハ其種類ニ

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

依リ往々ニシテ根跡ヲ殘スモノナレハ既往ノ犯罪行為カ如何ニ行ハレシヤチ想像シ又被告人ノ利益ト爲ルヘキ模様ヲ觀察シ諸般ノ證據ヲ集取セント欲セハ急速犯所ニ臨ミ實況ヲ目撃シテ相當ノ處分ヲ爲スノ必要アルナリ

搜索トハ被告人ノ住所又ハ證據物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ住居ニ臨ミ若クハ此等ノ者ノ身体ニ就テ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ證據ヲ索求スル行為ヲ云フ

物件差押トハ檢證又ハ拘索ニ因リ事實ヲ知ルニ足ルヘキ物件ヲ發見シタルトキハ其占有ヲ裁判所ニ移轉スル強制手段ヲ云フ

第二百二條 豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ犯所又ハ其他ノ場所ニ臨ミ檢證ヲ爲ス可シ

(講義)豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ犯所其他ノ場所ニ臨ミテ其地ノ狀況ヲ觀察シ或ハ犯罪ノ痕跡ヲ證明シ證據ノ集取ニ努メサルヘカラス之レ坐シテ證人ノ陳述ヲ聞クニ比シ事實ノ眞想ヲ看破シ得ルノ利益アレハナリ例ヘハ今一人カ路傍ニ斃死スルトセンニ豫審判事カ臨檢スルトキハ其死因故意ニ依リシヤ將又過失ニ依リシヤ謀殺ナリヤ故殺ナリヤ又毆打致死ナリヤハ屍体ノ實況關係人ノ調査等ニヨリ容易ニ之ヲ識別スルコトヲ得ルカ如シ

第二百三條 豫審判事ハ犯罪ノ性質、方法、日時、場所及ヒ被告人ノ人違ナキコトヲ證明ス可キ模様ニ付キ調書ヲ作ル可シ

又被告人ノ利益ト爲ル可キ模様ヲモ記載ス可シ

(講義)豫審判事カ事實發見ノ爲メニ檢證ヲ爲シタルトキハ檢證調書ヲ作ラサルヘカラス此調書ハ豫審終結ノ基礎トナルノミナラス他日公判ニ於テ判事ノ心證ヲ作爲スル材料タルヘキモノ

ナレハ其調書ニハ犯罪ノ性質例令ハ謀殺ナルカ故殺ナルカ又過失殺ナルカノ類方法例令ハ毒殺セシカ銃殺セシカ絞殺セシカノ類日時場所及ヒ被告人ノ人違ナキコトヲ證明スヘキ模様又ハ被告人ノ利益ト爲ルヘキ模様等ヲ詳細公平ニ記載セサルヘカラス

第二百四條 豫審判事ハ被告人ノ住居又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ住居ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得

被告人又ハ物件ヲ藏匿スル者其住居ニ在ラサルキハ同居ノ親屬若シ其在ラサルトキハ市町村長ノ立會アルヲ要ス

第七十八條第三項ノ規定ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

(講義)住居ノ安寧ハ憲法ノ保障スル處ナルモ犯罪ノ證據ヲ集取スルハ尋常一樣ノ手段ヲ以テシテハ其目的ヲ達スルコト能ハサレハ豫審判事ニ格段ナル方法手段ヲ許與シ其目的ヲ達セシメシコトヲ努メタリ作伴家宅搜索ハ國民ノ城壁ニ侵入シ其秘密ヲ發クモノナレハ其處分タルヤ必ラス公明正大ナラサルヘカラス故ニ被告人又ハ物件ヲ藏匿スル者不在ナルトキハ同居ノ親屬ヲ立會ハシメ又其不在ナルトキハ市町村長ノ立會ヲ要スト規定シ其處分ノ公明無私ナルヲ明ニシタリ

第二百五條 豫審判事ハ被告人又ハ事實ヲ證明ス可キ物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ身体及ヒ之ニ屬スル物件ニ付キ搜索ヲ爲スコトヲ得

(講義)犯罪ハ千種萬様ナルカ上ニ之ヲ隱匿セントスルハ普通ノ人情ナレハ豫審判事ニ家宅搜索ノ權ノミヲ與ヘ人身搜索ノ權ヲ與ヘサルトキハ容易ニ其真相ヲ探知スルヲ得サルヘシ故ニ本犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

條ハ貴重ナル身体ノ自由ヲ制限シ檢擧ノ爲メ犯スコトヲ得セシメタリ之ニ屬スル物件トハ例
ヘハ犯人汽車ニ乗シ手荷物ヲ荷車ニ託シタル場合ノ如キ其物品ハ附屬品ナリ故ニ物品ノ大小
又ハ實際身体ニ附屬シアルヤ否ヤハ問フ所ニアラサルナリ

第六六條

豫審判事ハ臨檢搜索ニ因リ發見シタル物件其事實ヲ證明ス
ルニ足ル可シト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘテ認印ヲ爲シ目錄ヲ作
ル可シ但其物件ヲ監護シ又ハ遞送スルハ裁判所書記之ヲ擔任ス可シ

(講義)豫審判事犯所其他ノ場所ニ臨檢シ又ハ家宅搜索ヲ爲シ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ物件ヲ
發見スルトキハ之ヲ差押ヘ認印ヲ爲シ目錄ヲ作ル可シ蓋シ日本臣民ハ法律ニ依ラスシテ其所
有權ヲ侵ササルコトナキハ憲法ノ保障スル處ナルモ證據物件ヲ放置スルトキハ被告人其他ノ
隱蔽毀滅ニ懼リ豫審ノ目的ヲ貫クコト能ハサレハ特ニ憲法ノ保障ヲ除外シ豫審判事ヲシテ差
押ノ手續ヲ爲スヲ得セシム而シテ其物件ハ裁判所書記監護遞送ノ責ニ任スルモノトス

第六七條

豫審判事ハ臨檢、搜索、物件差押ニ付キ其日ニ處分ヲ終ラ
サルトキハ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クコトヲ得

(講義)家宅搜索ハ日出前日没後ニ於テスルヲ得スト雖モ有モ適法ノ時間ニ着手セシ以上ハ日没
後ニ至ルモ其搜索ヲ繼續スルモ妨ケナシ然レトモ夜間ハ諸事不便ナルヲ以テ其日ニ處分ヲ終
了セサルトキハ物件ノ紛失現狀ノ變更ヲ防止スル爲メ其場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置
キ他人ノ侵入ヲ防止シテ處分ヲ次日ニ讓ルコトヲ得ルモノトス

第六八條

被告人ハ臨檢、搜索、物件差押ノ處分ニ立會ヒ又ハ代人ヲ

シテ立會ハシムルコトヲ得

若シ被告人拘留ヲ受ケタルトキハ自ラ立會フコトヲ得ス但豫審判事
本人ノ立會ヲ必要ナリトスルトキハ此限ニ在ラス

(講義)被告人ハ臨檢搜索物件差押ノ處分ニ立會フコトヲ得若シ自ラ之ニ立會フコト能ハス又ハ
之ニ立會フコトヲ欲セサルトキハ代人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得ルナリ蓋シ被告人ノ
立會ハ豫審判事ニ幾多ノ便宜ヲ與フルノミナラス豫告人自身モ自己ノ利益ヲ辯護スルコトヲ
得ルナリ乍併被告人ヲ拘留ヲ受ケタルトキハ原則トシテ立會ヲ許サス之レ證據ノ湮滅并ニ逃
亡ノ恐ヲ避クルニ在リ然レトモ豫審判事本人ノ立會ヲ必要ナリトスルトキハ相當ノ準備ヲ爲
シ立會ハシムルコトヲ得ルモノトス

第六九條

豫審判事ハ被告人物件差押ノ處分ニ立會ヒタルト否トヲ問
ハス其物件ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシム可シ

其訊問及供述ハ之ヲ調書ニ記載ス可シ

(講義)豫審判事ハ被告人物件差押ノ處分ニ立會ヒタルト否トヲ問ハス之ニ差押ヘタル物件ヲ示
シテ其辯解ヲ爲サシムヘシ之レ被告人ノ利益ヲ慮リタタモノニシテ若シ豫審判事ハ被告人ノ
辯解ヲ聞クコトナクシテ其物件ニ依リ直チニ心證ヲ形クルトキハ爲メニ被告人ヲシテ冤枉ヲ
訴フルノ機會ヲ失ハシムレハナリ

第七十條

豫審判事ハ臨檢、搜索ノ場所ニ於テ證人ノ供述ヲ聽クコト
ヲ必要ナリトスルトキハ第七十五條以下ノ規定ニ從ヒ之ヲ訊問ス可

條ハ貴重ナル身体ノ自由ヲ制限シ檢學ノ爲メ犯スコトヲ得セシメタリ之ニ屬スル物件トハ例
ヘハ犯人汽車ニ乗シ手荷物ヲ荷車ニ託シタル場合ノ如キ其物品ハ附屬品ナリ故ニ物品ノ大小
又ハ實際身体ニ附屬シアルヤ否ヤハ問フ所ニアラサルナリ

第六六條 豫審判事ハ臨檢搜索ニ因リ發見シタル物件其事實ヲ證明ス
ルニ足ル可シト、思料シタルトキハ之ヲ差押ヘテ認印ヲ爲シ目錄ヲ作
ル可シ但其物件ヲ監護シ又ハ遞送スルハ裁判所書記之ヲ擔任ス可シ

(講義)豫審判事犯所其他ノ場所ニ臨檢シ又ハ家宅搜索ヲ爲シ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ物件ヲ
發見スルトキハ之ヲ差押ヘ認印ヲ爲シ目錄ヲ作ル可シ蓋シ日本臣民ハ法律ニ依ラスシテ其所
有權ヲ侵サルルコトナキハ憲法ノ保障スル處ナルモ證據物件ヲ放置スルトキハ被告人其他ノ
隱蔽毀滅ニ罹リ豫審ノ目的ヲ貫クコト能ハサルハ特ニ憲法ノ保障ヲ除外シ豫審判事ヲシテ差
押ノ手續ヲ爲スヲ得セシム而シテ其物件ハ裁判所書記監護遞送ノ責ニ任スルモノトス

第六七條 豫審判事ハ臨檢、搜索、物件差押ニ付キ其日ニ處分ヲ終ラ
サルトキハ場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置クコトヲ得

(講義)家宅搜索ハ日出前日没後ニ於テスルヲ得スト雖モ苟モ適法ノ時間ニ着手セシ以上ハ日没
後ニ至ルモ其搜索ヲ繼續スルモ妨ケナシ然レトモ夜間ハ諸事不便ナルヲ以テ其日ニ處分ヲ終
了セサルトキハ物件ノ紛失現狀ノ變更ヲ防止スル爲メ其場所ノ周圍ヲ閉鎖シ又ハ看守者ヲ置
キ他人ノ侵入ヲ防止シテ處分ヲ次日ニ讓ルコトヲ得ルモノトス

第六八條 被告人ハ臨檢、搜索、物件差押ノ處分ニ立會ヒ又ハ代人ヲ

シテ立會ハシムルコトヲ得

若シ被告人拘留ヲ受ケタルトキハ自ラ立會フコトヲ得ス但豫審判事
本人ノ立會ヲ必要ナリトスルトキハ此限ニ在ラス

(講義)被告人ハ臨檢搜索物件差押ノ處分ニ立會フコトヲ得若シ自ラ之ニ立會フコト能ハス又ハ
之ニ立會フコトヲ欲セサルトキハ代人ヲシテ之ニ立會ハシムルコトヲ得ルナリ蓋シ被告人ノ
立會ハ豫審判事ニ幾多ノ便宜ヲ與フルノミナラス豫告人自身モ自己ノ利益ヲ辯護スルコトヲ
得ルナリ乍併被告人ヲ拘留ヲ受ケタルトキハ原則トシテ立會ヲ許サス之レ證據ノ湮滅并ニ逃
亡ノ恐ヲ避クルニ在リ然レトモ豫審判事本人ノ立會ヲ必要ナリトスルトキハ相當ノ準備ヲ爲
シ立會ハシムルコトヲ得ルモノトス

第六九條 豫審判事ハ被告人物件差押ノ處分ニ立會ヒタルト否トヲ問
ハス其物件ヲ被告人ニ示シ辯解ヲ爲サシム可シ

其訊問及供述ハ之ヲ調書ニ記載ス可シ

(講義)豫審判事ハ被告人物件差押ノ處分ニ立會ヒタルト否トヲ問ハス之ニ差押ヘタル物件ヲ示
シテ其辯解ヲ爲サシムヘシ之レ被告人ノ利益ヲ慮リタタモノニシテ若シ豫審判事ハ被告人ノ
辯解ヲ聞クコトナクシテ其物件ニ依リ直チニ心證ヲ形クルトキハ爲メニ被告人ヲシテ冤枉ヲ
訴フルノ機會ヲ失ハシムレハナリ

第七十條 豫審判事ハ臨檢、搜索ノ場所ニ於テ證人ノ供述ヲ聽クコト
ヲ必要ナリトスルトキハ**第七十五條**以下ノ規定ニ從ヒ之ヲ訊問ス可

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

シ
〔講義〕豫審判事ハ必要ナリト認メタルトキハ檢證搜索ノ場所ニ於テ證人ノ供述ヲ聞クコトヲ得而シテ臨檢ノ場所ト云フハ必スシモ臨檢シタル現所ヲ云フニアラス臨檢ニ引續キテ之ヲ爲ストキハ他ノ場所ニ於テ證人ヲ訊問スルモ可ナルナリ

第一百一十條 豫審判事ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス允許ヲ得スシテ其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得

若シ其禁ヲ犯ス者アルトキハ之ヲ逐斥シ又ハ處分ヲ終ルマテ之ヲ留置スルコトヲ得

〔講義〕豫審判事ハ臨檢搜索及ヒ物件差押等ノ處分中ハ事實發見ノ妨害ヲ爲スモノニ對シ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ何人ニ限ラス許可ナクシテ其場所ニ出入スルヲ得ス若シ之ヲ犯スモノアルトキハ公力ヲ用ヒ逐放又ハ抑留スルコトヲ得ルモノトス

第一百一十二條 豫審判事ハ其管轄地内ト雖モ時宜ニ因リ臨檢、搜索、物件差押ノ事ヲ區裁判所判事ニ囑託スルコトヲ得

〔講義〕管轄地内ニ於テハ豫審判事自ラ之ヲ爲スチ本則トスルモ便宜上區裁判所判事ニ囑託シ臨檢搜索物件差押ノ處分ヲ爲サシムルコトヲ得本條ニ依ルトキハ管轄地内ト明言シ管轄地外ニ及ハサルモ管轄地内ハ當然自己ノ職權ヲ以テ之カ處分ヲ爲スヘキモノナルニ拘ハラスモ區裁判所、判事ニ囑託スルコトヲ許セハ管轄地外ハ無論囑託シ得ト解セサルヘカラス法方何等此事ニ關シ規定セサルハ自明ノ理タルヲ以テナリ然ルニ反對論者ハ本條ヲ解シ管轄地内ニ限り

囑託シ得ヘキモノニシテ管轄地外ハ囑託スルコトヲ得スト論スルハ誤レルナキカ

第一百一十三條 豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ驛遞、電信、鐵道ノ官署、諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ豫審判事ニ關係アルモノヨリ發シ若クハ此等ノ者ニ對シ發シタル書類、電報又ハ物件ヲ受取開披スルコトヲ得但受取證書ヲ渡ス可シ

〔講義〕信書ノ秘密ハ憲法之ヲ保障シ郵便法ニ於テモ正當ノ理由ナクシテ開披毀損匿棄シタルモノ又ハ受取人ニアラサルモノニ交付シ若クハ情ヲ知りテ之ヲ受取リタル者ヲ罰シ信書ノ秘密ヲ犯サラシム然レトモ事實發見ノ必要上之ニ對シ特ニ例外ヲ認メ豫審判事カ檢證搜索等ニヨリ證據トナルヘキ信書ヲ發見シタルトキハ之ヲ押收開披スルハ勿論未タ郵便電信官署ノ手ニ存スルモノト雖モ之等官署ニ其事由ヲ通知シ受取證書ヲ交付シテ之ヲ受取リ自由ニ開披スルコトヲ得セシム

第一百一十四條 證言ヲ拒ムコトヲ得ル者ノ所持スル物件ニシテ其默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルモノハ其承諾アルニ非サレハ之ヲ差押ヘ及ヒ開披スルコトヲ得ス

〔講義〕證言ヲ拒ムコトヲ得ルモノトハ醫師、產婆、辯護士等ノ如キ其職務上ヨリ人ノ秘密ヲ漏スコトヲ得サル者ヲ云フ之等ノ者ハ其託セラレタルコトニ付テハ證言ヲ拒ムコトヲ得ルモノナリ故ニ證言ヲ拒ムコトヲ得ル者ノ所持スルモノニシテ其默秘スヘキ事件ニ關係アルモノヲ差押又ハ開披スルニハ其承諾ヲ得サルヘカラス若シ其承諾ヲ要セストセンカ法方之等ノモノ

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

ニ對シ證言ヲ拒ムコトヲ得セシメタル立法ノ精神ヲ没却シ去ルニ至ルヘシ

第六節 證人訊問

〔義務〕證人トハ或事實ニ現ニ遭遇シタル人ヲ謂フ例ヘハ殺人アリタル場合ニ其現場ニ遭遇シタル者ハ殺人ノ證人ナリ「ベンサム」曰ク證人ハ裁判官ノ耳目ナリト故ニ證人ハ證據ノ點ニ就テ其五官ノ作用ニ依リ感知シタルコトヲ陳述シ豫審判事カ未タ見聞セサル所ヲ補ヒ以テ其證據ヲ完全ナラシムルヲ要ス而シテ訊問ナル意義ハ供述ヲ聽聞タルノ謂ニシテ裁判官ハ之ニ依リテ犯罪ノ真相ヲ看破シ斷罪ノ基礎トス蓋シ證人タルコトハ公ノ義務ニシテ日本臣民ハ勿論外國人ト雖モ或例外ノ場合ヲ除クノ外ハ帝國ノ法律ニ從ヒ證人タルノ義務ヲ負フモノトス

第百十五條

證人ノ呼出狀ニハ其氏名、住所及ヒ職業ヲ記載ス可シ

又出頭ノ日時、場所及ヒ呼出ニ應セサルトキハ罰金ヲ言渡シ且拘引スルコトアル可キ旨ヲ記載ス可シ

呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫アル可シ

〔義務〕證人トシテ呼出ニ應シ證言スルハ國民ノ公法上ノ義務ニシテ國民ハ正當ノ事由ナク之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキハ相當ノ制裁ヲ加フルノ必要アリ故ニ呼出狀ニハ強制處分ヲ施サルヘキコト則チ罰金ヲ言渡シ拘引スルコトアル旨ヲ豫告シ法律ヲ知ラサル爲メ不測ノ災害ヲ受クルコト無カラシメサルヘカラス而シテ呼出狀ニ二十四時間ノ猶豫期間ヲ存セシハ證人ノ利益ヲ計リタルモノニシテ突然召喚セラルルノ迷惑ヲ慮リタルナリ

第百十六條

證人疾病其他正當ノ事故ニ因リ呼出ニ應スル能ハサルコ

トヲ疏明シタルトキハ豫審判事其所在ニ就テ之ヲ訊問ス可シ

〔評義〕呼出ニ應スルコトハ公ノ義務ナレハ何人モ之ヲ免ルルコト能ハサルモ疾病其他正當ノ事故例ヘハ傳染病ノ爲メ交通ヲ遮斷セラレタルノ類ニ因リ呼出ニ應スルコト能ハサルコトヲ辯明シタルトキハ出頭ノ義務ヲ免除シ其事件急速ナルトキハ豫審判事其所在ニ出張シ之ヲ訊問スヘキモノトス

第百十七條

證人ト爲ル可キ者豫備、後備ノ軍箱ニ在ラサル軍人、軍

屬ナルトキハ其所屬ノ長官又ハ隊長ヲ經由シテ呼出狀ヲ送達ス其長官又ハ隊長ハ即時ニ出頭セシム可キコトヲ認可シ又ハ職務上已ムコトヲ得サル差支アルトキハ其事由ヲ付シテ出頭ノ延期ヲ豫審判事ニ

請求ス可シ

〔義務〕陸海軍ノ軍人軍屬ハ常ニ嚴正ナル軍律ニ服從シ國家ノ獨立ヲ保維スル所ノモノナレハ之レヲ常人ト同一ニ取扱フ可カラサルモノアリ故ニ本條ハ現役ノ軍人ニ付キ特例ヲ設ケタルナ

第百十八條

豫審判事ハ前二條ニ定メタル差支ノ場合ヲ除ク外證人呼

出ニ應セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ其不參ニ因リ生シタル費用ノ賠償及ヒ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ言渡ス可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效力ヲ有ス

豫審判事ハ其證人ニ對シ罰金ノ言渡書ト共ニ再度ノ呼出狀ヲ送達シ又ハ直チニ拘引狀ヲ發スルコトヲ得
 若シ證人再度ノ呼出ニ應セサルトキハ費用賠償ノ外ニ倍ノ罰金ヲ言渡ス可シ又拘引狀ヲ發スルコトヲ得
 豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對スル罰金ノ言渡及ヒ執行ハ軍事裁判所又ハ所屬ノ長官又ハ隊長ニ囑託シテ之ヲ爲ス可シ其拘引ニ付テモ亦同シ

〔講義〕證人ニシテ出頭ノ義務ヲ怠リタル者ニ對シテハ公力ヲ以テ之ニ臨マサルトキハ豫審ノ目的ヲ達スル能ハサルハ勿論裁判所ノ威信ヲ傷クル恐レナシトセサレハ豫審判事ニ特別ノ權能ヲ付與シ以テ證據ノ集蒐ヲ便ナラシム而シテ本條ニ所謂罰金ハ普通ノ罰金刑ト異リ一種ノ變態ニシテ檢事ノ公訴ヲ俟タス審理スルコトナク缺席ノ言渡ヲ爲シ而モ故障又ハ控訴ヲ許サス只抗告ノミ爲スコトヲ得セシメタリ

第一百十九條 豫審判事ハ證人罰金言渡書ノ送達アリタルヨリ三日内ニ其出頭セサリシコトヲ正當ノ理由ヲ以テ辨解シタルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ其罰金及ヒ賠償ノ決定ヲ取消ス可シ

〔講義〕證人ノ不參ニ對シ罰金及ヒ賠償ヲ言渡スハ畢竟證人トシテ呼出ヲ受ケタル者カ故意懈怠ニ依リ其呼出ニ應セサリシ制裁ニ過キサレハ其不參ノ原因ヲ正當ノ理由ヲ以テ證明シタルト

キハ尙ホ其言渡ヲ維持スルノ必要ナシ故ニ此場合ニ於テハ豫審判事ハ檢事ノ意見ヲ聽キ罰金及ヒ賠償ノ決定ヲ取消ササルヘカラス

第一百二十條 證人呼出狀ニ因リ出頭シタルトキハ其呼出狀ヲ差出ス可シ
 シ若シ之ヲ遺失シタルトキハ其人違ナキコトヲ疏明ス可シ

〔講義〕證人呼出狀ニ因リ出頭シタルトキハ其呼出狀ヲ書記ニ差出スヲ要ス之レ證人ニ非サルモノ證人ノ氏名ヲ詐稱シ爲メニ爲スアラントシテ裁判所ニ出頭スルモノ無キヲ保セサルヲ以テナリ故ニ若シ呼出狀ヲ遺失シタルトキハ其人違ニ非サルコトヲ證明セサルヘカラス

第一百二十一條 豫審判事ハ證人トシテ呼出シタル者ニ對シ其氏名、年齢、職業、住所及ヒ**第一百二十三條**ニ記載シタル者ナリヤ否ヤヲ問フ可シ

〔講義〕豫審判事ハ證人訊問ニ先チ證人タルモノニ向ヒ第一ニ證人ノ氏名、年齢、職業、住所及ヒ後ノ**第一百二十三條**ニ記載シタルモノナルヤ否ヤヲ問フコトヲ要ス之レ證人ノ人違ニ非サルコトヲ確實ニシ尙ホ證人タルノ資格ヲ備フルヤ否ヤヲ確ムルカ爲メナリ

第一百二十二條 豫審判事ハ證人ヲシテ良心ニ從ヒ眞實ヲ述ヘ何事ヲモ黙秘セス又何事ヲモ附加セサル旨ヲ宣誓セシム可シ
 裁判所書記ハ證人ニ宣誓書ヲ讀聞カセ之ニ署名捺印セシム若シ署名捺印スコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

(講義)豫審判事ハ證人ナシテ虚偽ノ陳述ヲ爲サス又臆斷附加セサルコトヲ誓ハシムヘシ之ヲ宣誓ト云フ宣誓ヲ命スルハ一ハ良心ニ從テ虚構ヲ爲ササルコトヲ證人ニ銘記セシムルト一ハ之ニ違反シタルトキハ偽證罪トシテ處罰セラルルノ結果ヲ生スルナリ故ニ證人ハ訊問ニ對シテハ威權ノ爲メニ畏ルルコトナク怨恨ノ爲メニ加フルコトナク愛情ノ爲メニ托クルコトナク苟モ事實ノ存スル所ハ之ヲ陳述セサルヘカラス

第二百二十三條 左ニ記載シタル者ハ證人ト爲ルコトヲ許サス 但宣誓ヲ爲サシメスシテ事實參考ノ爲メ其供述ヲ聽クコトヲ得

第一 民事原告人

第二 民事原告人及ヒ被告人ノ親屬但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

第三 民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ此等ノ者ノ後見ヲ受クル者

第四 民事原告人及ヒ被告人ノ雇人又ハ同居人

(講義)證人ノ陳述ハ重要ナル斷罪ノ資料ト爲ルモノナレハ被告人ト利害ノ關係ヲ同フスルモノ又ハ利害關係相反スルモノニアリテハ之ニ向ヒ責任アル證言ヲ求ムルハ危險ニシテ且ツ不條理ナレハ之等ノ者ニ對シテハ證人タルコトヲ許サス作併單ニ事實ノ參考トシテ其供述ヲ聞クハ何等差支フル所ナキヲ以テ之ヲ許シタリ

第一 民事原告人 民事原告人トハ犯罪ニ依リ生シタル損害ノ賠償、贓物ノ返還ヲ目的トスル

請求ヲ公訴ニ附帶シテ訴狀ヲ提起スルモノヲ云フ之ヲ除外シタルハ利ニ偏シ害ヲ避クルハ人情ノ常ナルヲ以テナリ

第二 民事原告人及ヒ被告人ノ親屬 本項但書ニ依レハ姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シトノ規定アリ然ラハ離婚セラレタル妻ハ證人タルノ資格アルカ民法上姻族ノ語ニハ固ヨリ妻ヲ包含セス去レハ離婚セラレタル妻ハ尙ホ證人タルコトヲ得ト云ハサルヘカラス然レトモ本條ノ精神ヨリ見ルトキハ證人タルヲ許ササルモノト認ムルヲ穩當トス何トナレハ妻ノ親族タニ既ニ除外セラレタルニ其姻族ノ根元タル妻ヲ除外セサルノ理由ナケレハナリ

第三 民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ此等ノ者ノ後見ヲ受クル者 後見被後見ノ關係ハ直接ニ訴訟自体ニ利害關係ヲ有セスト雖モ常ニ權力關係ニ立ツモノナレハ本人ノ利益ニ反スル供述ハ望ムヘカラサルヲ以テ除外セシナリ

第四 民事原告人及ヒ被告人ノ雇人又ハ同居人 之等ノ者ハ常ニ被告人、原告人ヲ利スヘキ地位ニ立ツモノナレハ證人タルコトヲ許ササルナリ

第二百二十四條 左ニ記載シタル者亦前條ニ同シ

第一 十六歳未満ノ幼者

第二 知覺精神ノ不十分ナル者

第三 瘡痍者

第四 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者

第五 重罪事件又ハ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ニ付キ 公判ニ附

セラレタル者

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

第六 現ニ供述ヲ爲ス可キ事件ニ付キ會テ訴ヲ受テ其證憑十分ナラサルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者

(講義)本條ハ無能力者ニシテ證人ト爲ルコトヲ得サルモノヲ列舉シタルナリ前條ノ場合ハ唯關係ノ無能力者ナルモ本條ハ之ニ異リ絕對的ノ無能力者ヲ規定シタルモノニシテ左ノ六種ノ人ハ如何ナル事件ニ付テモ證人タルコトヲ得サルモノトス

第一 十六歳未満ノ幼者 幼者ハ經驗ニ乏シク事物ノ觀察力未ダ發達セサルモノナレハ其供述ハ信用シ難キ點多キヲ以テ證人タルヲ許サス

第二 知覺精神ノ不十分ナル者 精神ノ錯亂シタルモノハ證人ト爲ルヲ得スト雖モ單ニ一時錯亂セルノミニテ既ニ回復シタルモノハ證人タルノ資格アルモノトス知覺精神ノ不十分ナル者トハ例ヘハ癡癩白痴者ノ如キヲ云フ

第三 瘖啞者 瘖啞者ハ耳聞ク能ハス口言フ能ハス事物ノ辨識不十分ナレハ證人タルヲ許サス

第四 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル者 之等ノ者ハ社會ノ安寧ヲ傷ツケ秩序ヲ紊リ刑法上ノ制裁ヲ受ケタルモノナレハ證人ノ如キ公ノ事務ニ對スル權利ヲ行フコトヲ得セシメサルナリ

第五 重罪事件又ハ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ニ付キ公判ニ付セラレタル者 之等ノ者ハ既ニ犯罪アリトシテ公訴ヲ提起セラレタルモノナレハ社會ノ信用ハ爲メニ地ニ墜テ其供述ハ最早信憑スルニ足ラサレハ證人タルヲ得サラシメタルナリ

第六 現ニ供述ヲ爲ス可キ事件ニ付キ會テ訴ヲ受ケ其證憑十分ナラサルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者 此者ハ若シ信實ノ供述ヲ爲ストキハ或ハ自己ノ犯罪ニ關係ヲ惹起シ新ナル證據現出シテ再ヒ訴ヲ起サルルコトヲ恐レ自己ノ不利益トナル事實ハ之ヲ秘シ其陳述ハ決シテ信スヘキモノニ非サレハ證人タルヲ許ササルナリ而シテ證憑不十分ニ依ル免訴ノ言渡トハ豫審免

証ノ場合ノミニ限ルナリ何トナレハ公判ニ於テハ免訴ト云ハスシテ無罪ト稱スルヲ以テナリ

第二百二十五條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ證言ヲ拒ムコトヲ得

第一 官吏、公吏又ハ官吏、公吏タリシ者其職務上默秘ス可キ義務アル事情ニ關スルトキ

第二 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者及ヒ宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ 知得タル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ (明治四十一年三月法律第二十、九號ヲ以テ改正)

證言ヲ拒ム者ハ拒絕ノ原因タル事實ヲ開示シ且之ヲ説明ス可シ

(講義)證人タルハ公ノ義務ナレトモ或身分職業ナ有スル者ハ特 證言ノ義務ヲ免ルルコトアリ乍併其人ハ證人タルノ資格ヲ失フニ非スシテ只證言ヲ拒ムコトヲ得ルモノトス左ニ少シク説明セシ

第一 官吏公吏又ハ官吏公吏タリシ者其職務上默秘スヘキ義務アル事情ニ關スルトキ職務上默秘スヘキ義務アル事情ニ關スルトキトハ例ヘハ軍事ノ秘密ニ付キ默秘スヘキ場合又ハ外交ニ關シ秘密ヲ遵守スヘキ場合ノ類ニシテ官吏公吏又ハ官吏公吏タリシ者ハ其職務上取扱ヒタル事實ニシテ默秘スヘキ義務アルトキハ其義務ト證言ノ義務トハ相抵觸シテ到底兩立スヘカラ

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

サルモノナレハ公益上特ニ證言ヲ拒ムコトヲ得セシメタルナリ

第二 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者及ヒ宗
教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者等ハ常ニ其身分又ハ職業上他人ノ秘密ヲ
聞知スルモノナレハ其聞知シタル事項ヲ社會ニ發表セシカ各人ノ利益ヲ損スルコト多大ニシ
テ爲メニ社會ノ安寧ヲ害スル恐レナシトセス故ニ之等ノ者ニ對シテハ證言ヲ拒ムコトヲ得セ
シメサルヘカラス

然リト雖モ證言ヲ拒ムコトヲ得ル範圍ハ絕對的ニ非スシテ相對的ノモノナレハ其默秘スヘキ事
實ハ果シテ秘密ニ屬スヘキモノナルヤ否ヤハ裁判官ノ判定ニ一任セサルヘカラス故ニ證言ヲ拒
ム者ハ拒絕ノ原因タル事實ヲ開示シ之カ辯明ヲ爲ササルヘカラサルナリ

第二百二十六條 證人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ供述ヲ肯セサルトキハ

豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ四十圓以下ノ罰金又ハ科料ヲ言渡ス可シ
但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止スル效
力ヲ有ス

豫備、後備ノ軍籍ニ在ラサル軍人、軍屬ニ對スル罰金又ハ科料ノ言
渡及執行ハ軍事裁判所ニ囑記シテ之ヲ爲ス可シ(明治四十一年三月
法律第二十九號ヲ以テ改正)

(註義)本條ハ宣誓ニ付テノ制裁ヲ規定シタルモノニシテ證人カ裁判所ヨリ呼出テ受ケ出頭スル
モ宣誓ヲ爲スヲ肯セサルトキ又ハ宣誓スルモ裁判官ノ訊問ニ對シテ供述ヲ肯セサルトキハ之レ

明ニ證人タル公ノ義務ヲ盡ササルモノナレハ豫審判事ハ檢事ノ意見ヲ聽キ四拾圓以下ノ罰金
又ハ科料ヲ言渡スヘキモノトス而シテ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ノ落着ス
ルマテハ其執行ヲ停止スルモノトス現役ノ軍人軍屬ニ對スル例外ハ前ニ述ヘタル理由ニ同シ

第二百二十七條 證人ハ他ノ證人及ヒ被告人ト各別ニ之ヲ訊問ス可シ
但事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ證人ト他ノ證人又ハ被告人
ト對質セシムルコトヲ得

(註義)證人ノ供述ハ判決ノ基礎トナルヘキモノナレハ之ヲ訊問スルニ付テモ可及的信實ヲ得ル
ノ方法ヲ擇ハサルヘカラス故ニ證人ト證人及ヒ被告人トハ各別ニ之ヲ訊問スルヲ要ス之レ相
互通謀ヲ未然ニ防止スルノ利益アレハナリ然レトモ或場合ニ依リテハ對質ノ中ニ於テ事實ノ
真相ヲ得ルコトナシトセス如斯場合ハ分離訊問ヲ棄テ對質セシムルコト却テ利益ナレハ特ニ
本條但書ヲ設ケタルナリ

第二百二十八條 豫審判事ハ證人ノ供述ヲ確實ナラシムル爲メ必要ナリ
トスルトキハ犯所又ハ其他ノ場所ニ同行スルコトヲ得

若シ證人同行スルコトヲ肯セサルトキハ第百十八條ノ規定ニ從フ

(註義)證人オシテ現場ニ就テ實況ヲ指示セシムルハ供述ノ確否ヲ知ルカ爲メニ最モ必要ナリ例
ヘハ證人ハ甲カ乙ヲ水中ニ擠シテ溺死セシメタリト云フモ其乙カ擠倒セラレタル水深ハ溺死
ニ適スルヤ否ヤハ現場ニ同行シテ供述ヲ聞クニ非サレハ確實ナルコトヲ知ル能ハサルカ如シ
故ニ證人ノ同行ハ判決ノ基礎ヲ作ルニ付キ必要缺クヘカラサルモノナレハ此義務ニ違背シタ

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

ルトキハ其制裁トシテ罰金ヲ言渡スヘキモノトス

第二百二十九條 第一百條第一條ノ規定ハ證人ニ付テモ亦之ヲ適用ス

(講義) 證言ハ原則トシテ口頭ノ供述ヲ以テ爲スモノナレトモ若シ證人ニシテ聲啞者ナランカ此原則ヲ固守スル能ハサルヲ以テ第一百條第一條ノ規定ヲ適用スルコトトセシナリ

第二百三十條 皇族證人ナルトキハ豫審判事其所在ニ就キ訊問ヲ爲ス可シ

各大臣ニ付テハ其官廳ノ所在地ニ於テ之ヲ訊問ス若シ其所在地外ニ滞在スルトキハ其現在地ニ於テ之ヲ訊問ス可シ

帝國議會ノ議員ニ付テハ開會期間其議會ノ所在地ニ滞在中ハ其所在地ニ於テ之ヲ訊問ス可シ

(講義) 皇族ハ國家ノ高貴ナレハ其威嚴ヲ尊ブノ必要アリ又各大臣ハ國家ノ柱石ニシテ一日モ職務ヲ空フスル能ハス而シテ又帝國議會ノ議員ハ國家ノ立法權ニ參與スルモノナレハ此大權ノ進行ヲ防止スル能ハス故ニ本條ハ之等證人タル場合ノ特例ヲ設ケタルナリ

第二百三十一條 豫審判事ハ證人ニ其供述ノ相違ナキヤ否ヤヲ知ラシムル爲メ裁判所書記ヲシテ調書ヲ讀聞カセシム可シ
證人ハ其供述ヲ變更増減センコトヲ請求スルヲ得書記ハ其請求アリ

タルコト及ヒ變更増減ノ條件ヲ調書ニ記載ス可シ

調書ニハ豫審判事、書記及ヒ證人共ニ署名捺印ス可シ 若シ證人署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記ス可シ

(講義) 豫審ハ證據蒐集ヲ目的トスルモノナレハ調書ノ作成ハ後日唯一ノ證據タルナリ故ニ供述者ヲシテ供述ヲ承認セシメ調書ノ誤謬ナキヲ保セサル可カラズ而シテ證人ヨリ供述ノ變更増減ヲ求メタルトキハ之ヲ調書ニ記載スルヲ要ス證人ニ此權利ヲ與ヘタルハ一旦爲シタル供述ト雖モ再考シテ變更増減ヲ必要トスルコトアレハナリ

第二百三十二條 豫審判事ハ證人裁判所所在ノ地ニ住セサルトキハ其住居ノ地ノ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得
若シ證人管轄地外ニ在ルトキハ其所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ訊問ノ事ヲ囑託スルコトヲ得

(講義) 證人ハ之ヲ裁判所ニ呼出シテ訊問スルヲ原則トスルモ裁判所所在ノ地ニ住居セサルトキハ便宜上管轄内ノ區裁判所判事若シ證人管轄外ニ在ルトキハ證人所在ノ地ノ豫審判事又ハ區裁判所判事ニ訊問ヲ囑託シ得ヘキナリ而シテ受託判事ノ權限ハ囑託判事ノ權限ト同一ナリト雖モ若シ囑託事項ニ付範圍ヲ制限シタルトキハ之ニ拘束セラルルモノトス

第二百三十三條 第一百八條第一百九條及ヒ第二百二十六條ニ掲ケタル證人ニ對スル豫審判事ノ權ハ受託判事ニモ屬ス

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

(講義)本條ハ受託判事ノ權限ヲ示シタルモノニシテ受託判事ノ權限ハ囑託判事ノ權限ト同一ナルナリ之レ豫審處分上素ヨリ當然ノコトニシテ特ニ明示ノ必要ナキカ如キモ罰金言渡ノ如キハ或ハ疑チ生スル恐レナシトセス故ニ本條ヲ設ケ之ヲ明ニシタルナリ

第三百三十四條 證人ハ出頭ニ付テノ旅費、日當ヲ要ムルコトヲ得

(講義)證人タルハ國民ノ義務ナリト雖モ之カ爲メニ生シタル費用ハ訴訟ニ基因シ生スル損失ナレハ證人ナシテ負擔セシムルヲ得ス之レ本條ノ規定アル所以ナリ

第七節 鑑定

(講義)鑑定トハ學術、技藝又ハ職業ニ因リ特別ノ智識アルモノヲシテ事物ノ性質、方法、結果ヲ鑑別セシムル手續ヲ云フ蓋シ裁判官ハ萬能萬識ノ腦力ヲ有スルモノニ非サレハ特別ノ學術又ハ職業ニ係ル事實ノ性質、方法及ヒ結果ハ一々之ヲ判斷スルコト能ハサルナリ故ニ鑑定人ヲシテ其意見ヲ申述セシメ其判斷スル能ハサル事項ヲ判斷セシムルナリ

第三百三十五條

豫審判事ハ犯罪ノ性質、方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定ヲ必要ナリトスルトキハ學術、職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得ヘキ者一名又ハ數名ヲシテ鑑定ヲ爲サシム可シ

鑑定ノ爲メ必要ナリトスルトキハ死體ノ解剖ヲ命シ又既ニ埋葬シタル死體ヲ解剖シ若クハ檢視スル爲メ墳墓ノ發掘ヲ命スルコトヲ得

(講義)犯罪ノ性質トハ例ヘハ毒殺ナルヤ將タ疾病ノ爲メニ死亡シタルモノナルヤ又ハ墮胎ナルヤ將タ流産ナルヤノ類ヲ云ヒ犯罪ノ方法トハ絞殺シタルモノナリヤ將タ毆打シテ死ニ至ラシム

メシモノナルヤノ類ヲ云ヒ犯罪ノ結果トハ其死亡ハ毆打ニ因ルカ將又疾病ニ因ルカ等ノ類ヲ云フ鑑定人ハ裁判所ヨリ鑑定ヲ命セラレタルトキハ自己ノ學術職業ニ因リ鑑定ヲ爲スヘキモノニシテ鑑定ヲ爲スニ必要ナル事項ハ鑑定人之ヲ裁判所ニ請求シ裁判所其手續ヲ爲スヘキモノトス尤モ鑑定ヲ爲スニ就テノ手續例ヘハ解剖、分拆等ハ必スシモ裁判所ニ於テスルヲ要セス自宅其他ノ場所ニ於テスルモ不可ナキナリ又鑑定ニ必要ナルトキハ死體ノ解剖又ハ墳墓ノ發掘ヲ爲シ得ルハ本條第二項ニ之ヲ規定セリ

第三百三十六條

鑑定ニ付テハ、第三百十五條第三百十八條乃至第三百二十一條

百二十三條乃至第三百二十五條及第三百二十八條ノ規定ヲ準用ス、但鑑定

人ニ對シテハ拘引狀ヲ發スルコトヲ得ス

第三百條第一條ノ規定ハ鑑定人ニ付テモ亦之ヲ適用ス。(三十二年法

律第七十三號ヲ以テ追加)

(講義)證人ト鑑定人トハ同シク人ヨリ出ツル所ノ證據ヲ爲ス點ニ付テハ二者同一ナリト雖モ其性質ニ至リテハ之ト異ナルモノアリ元來證人ハ犯罪ヨリ生スルモノニシテ犯罪ニ遭遇シ又ハ見聞シタルモノナルハ證人ハ裁判官ニヨリテ作ラルモノニ非スシテ犯罪アレハ爰ニ證人アルナリ之ニ反シテ鑑定人ハ裁判所之ヲ作ルモノニシテ若シ裁判所ノ撰定ナクンハ鑑定人ナルモノモ無キナリ故ニ證人ト鑑定人トハ同一法條ヲ以テシテハ之ヲ律スルヲ得ス只二者ニ共通スヘキ場合ノミ證人ニ關スル規定ヲ鑑定人ニ準用シ得ヘキナリ故ニ本條ハ之カ準用ニ就テノ各場合ヲ規定セルモノニシテ鑑定人ニ對シ拘引狀ヲ發スルヲ許ササルハ鑑定人モ亦證人ト同ク裁判所ヨリ呼出テ受ケ出頭スヘキモノナルモ其呼出狀ノ性質ニ於テ多少異ナル所アルチ

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

以テナリ即チ鑑定人ニ對シテハ囑託ノ意味ヲ包含スルカ故ニ強制的拘引狀ヲ發スルコトヲ得
サラシメタルナリ之レ畢竟證人ハ見聞セル事實ヲ述ヘシムルニ過キサレハ強制ニ因ルモ之ヲ
爲サシメ得ト雖モ鑑定ハ一ノ技術ニ屬スルカ故ニ強制シテ之ヲ行ハシムルモ其結果ヲ得ル能
ハサルヲ以テナリ

第三百二十七條 鑑定人ハ公平且正實ニ鑑定ス可キ宣誓ヲ爲ス可シ 其宣
誓ハ**第二百二十二條ノ式ニ從フ**

(講義)鑑定人ノ鑑定書ナルモノハ證人ノ爲シタル證言ト同シク裁判官判定ノ必要ナル材料ニ屬
スルヲ以テ必ラス公平ニシテ且正實ナラサルヘカラス故ニ鑑定人モ亦證人ト同シク宣誓ヲ爲
ササルヘカラサルナリ

第三百二十八條 鑑定人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯セサルト
キハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ四十圓以下ノ罰金又ハ科料ヲ言渡ス
可シ但其決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得此抗告ハ執行ヲ停止ス
ル效力ヲ有ス (明治四十一年三月法律第二十九號ヲ以テ改正)

(講義)本條ハ鑑定人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯セサル場合ニ於ケル豫審判事ノ權力ヲ
定メタルモノニシテ鑑定人ノ力言渡ヲ受ケタルトキハ之ニ對シ直チニ抗告ヲ爲ス事ヲ得ヘク
抗告ヲ爲シタルトキハ罰金又ハ科料言渡ノ執行ヲ停止セラルヘキモノトス

第三百二十九條 豫審判事ハ鑑定人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ鑑定人
ヲ増加シ又ハ別人ヲシテ鑑定セシムルコトヲ得

(講義)豫審判事ハ事件ノ繁雜ナルカ又ハ困難ニシテ最初定メタル鑑定人ノミヲ以テシテハ正當
ノ鑑定ヲ爲シ得スト思料シタルトキハ鑑定人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ鑑定人ヲ増加シ又
ハ別人ヲシテ鑑定セシムルコトヲ得而シテ此事タルヤ一ニ豫審判事ノ職權ニ在ルヲ以テ鑑定
人ヨリ請求アリト雖モ其必要ヲ認メサルトキハ之ヲ拒絕シ得ルナリ

第三百四十條 鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其手讀、結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル
時間ヲ詳記ス可シ

若シ結果ヲ得サルトキハ其推測スル所ヲ記載ス可シ
鑑定人意見ヲ異ニスルトキハ各自鑑定書ヲ作り又ハ各自ノ意見ヲ一
個ノ鑑定書ニ記載ス可シ

(講義)鑑定人ハ鑑定書ヲ作り裁判官ニ提出スヘキモノニシテ其鑑定書ニハ如何ナル物ニ對シ知
何ナル方法ニヨリ鑑定ヲ遂ケタリヤノ手續并ニ鑑定ヲ爲シ得タル所ノ成績及ヒ鑑定ニ要シタ
ル時間等ヲ記載セサルヘカラス而シテ鑑定ノ結果ヲ得サルトキ例ヘハ死体ヲ解剖シタルモ其
死体長時日ヲ經過セシ爲メ腐爛シテ如何ナル原因ニヨリ死シタルヤ不明ナルトキノ如キニ於
テハ自己カ推測スル所ヲ記載セサルヘカラス又鑑定人數人アル場合ニ其鑑定人カ意見ヲ異ニ
スルトキハ各自鑑定書ヲ作り各別ニ之ヲ差出スカ又ハ各自ノ意見ヲ一個ノ鑑定書ニ記載シテ
差出ササルヘカラス

第三百四十一條 鑑定人ハ旅費、日當及ヒ立替金ノ辨濟ヲ要ムルコトヲ
得

(講義)鑑定人鑑定ノ爲メニ出費シタルトキハ相當ノ辨償ヲ要ムルコトヲ得ルナリ何トナレハ鑑定人タルハ公ノ義務ニ屬スト雖モ之カ爲メ自己ノ資産努力ヲ犠牲ニ供スルノ理由ナケレハナリ

第八節 現行犯ノ豫審

豫審ノ原則トシテハ豫審判事ハ檢事ノ請求ヲ受クルニ非サレハ豫審ニ着手スルコトヲ得ス請求前ニ着手スレハ其行爲ハ總テ效ナキニ終ラシムルニ然レトモ此原則ヲ現行犯ノ場合ニ適用セシムルカ或ハ犯人ノ逃亡、證據ノ湮滅ヲ來ス愛ナキヲ保セス故ニ現行犯ノ場合ニ於テハ之ニ例外規定ヲ設ケ之ヲ處スルニ普通非現行犯ノ規則ヲ以テス可カラサルヤ明カナリ爰ニ於テカ法律ハ本節ヲ規定シ現行犯ニ於ケル豫審ノ特別ヲ定ム

第四百二十二條

豫審判事ハ檢事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知りタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ檢事ノ請求ヲ待タス直チニ其旨ヲ通知シ豫審ニ取掛ルコトヲ得

豫審判事ハ犯所ニ臨檢シ令狀ヲ發シ其他此章ノ規定ニ從ヒ豫審ノ處分ヲ爲スコトヲ得

(講義)訴ナケレハ理セストハ法ノ一大原則ナルモ現行犯ノ場合ニ於ケル豫審判事ノ職權ハ之カ例外ニシテ左ノ場合ニ限リ檢事ノ請求ヲ待タスシテ豫審ニ取掛ルコトヲ得ルナリ

第一 豫審判事ハ檢事ヨリ先ニ現行犯アルコトヲ知りタル場合現行犯ノ場合ハ多クハ犯人尙未

キ犯所ニ在リテ犯跡猶ホ暖カク容易ニ證據ヲ蒐集スルコトヲ得ヘキモノナレハ豫審判事カ檢事ヨリ先ニ現行犯アルコトヲ知りタルトキハ檢事ノ起訴ヲ待タスシテ豫審ニ着手シ得ヘキナリ而シテ豫審判事カ檢事ヨリ先キニトハ反對論ナキニ非サルモ檢事若クハ司法警察官力取調ニ着手シタルコトヲ確知セサルヲ以テ足レリ檢事カ豫審判事ヨリ先キニ知りタリヤ否ヤハ之ヲ問フヲ要セス

第二 重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯 違警罪ハ事輕微ナルヲ以テ特別處分ヲ爲スノ必要ナク又輕罪ニシテ區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ハ違警罪ト同視スルヲ以テ特別處分ノ必要ヲ感セス故ニ之等ノ事件ニ付テハ普通手續ニ從フヘキモノトス

第三 其事件急速ヲ要スルトキ 之レ實ニ即行犯ニ付キ豫審ノ特別ヲ設ケタル主眼ニシテ事件急速ヲ要スルニモ不拘檢事ノ請求ヲ待テ豫審ニ着手スヘキモノトスレハ遂ニ犯人逃亡シ證據散逸シ豫審ノ目的ヲ達スルコトヲ得サルヘシ而シテ事件急速ヲ要スルモノナルヤ否ヤハ全ク豫審判事ノ認定ニ屬ス

第四 其旨ヲ檢事ニ通告スルコト 豫審判事豫審ニ取掛ルニハ必ス先ツ其旨ヲ檢事ニ通告スルヲ要ス之レハ檢事ヲシテ直チニ犯罪ノ場所ニ至リ搜索ヲ爲スヲ得セシムルトトハ檢事ヲシテ早く豫審ノ請求ヲ爲サシメ以テ普通ノ規則ニ復センコトヲ期スルニ在リ

第四百二十三條

前條ノ場合ニ於テハ檢事ノ起訴ナシト雖モ豫審判事檢證調書ヲ作ルヲ以テ公訴ヲ受理シタルモノトス其調書ニハ現行ノ重罪又ハ輕罪ナルコトヲ記載ス可シ

豫審判事ハ速ニ書類ヲ檢事ニ送致ス可シ但檢事ヨリ其豫審手續ヲ繼續ス可キモノニ非サル意見アリト雖モ通常ノ規定ニ從ヒ之ヲ終結ス可

シ
〔講義〕檢證調書トハ犯罪ノ模様ヲ記載スルモノニシテ豫審判事カ此調書ヲ作りタルトキハ公訴ヲ受理シタルモノトス蓋シ法律ノ原則トシテ訴ヲ受ケサルニ理スルヲ得セシムルコト能ハサレハ檢證調書ノ作成ヲ以テ公訴提起ノ效力ヲ有スルモノト定メタルナリ現行犯ノ書類ヲ檢事ニ送致スル所以ハ豫審判事ハ處分ノ着手以前ニ於テハ檢事ノ請求ヲ俟ツノ暇ナキモ豫審ノ調査ニ着手スルノ後ニ於テハ原告官タル檢事ニ其處分ノ成行ヲ知ラシムルノ必要アルヲ以テナリ而シテ檢事其事件ニ對シ豫審手續ヲ續行スヘキモノニ非ラストノ意見ヲ付シ書類ヲ還付シ來ルトモ豫審判事ハ檢事ノ意見ニ拘束セラレズ豫審手續ヲ續行スヘキモノトス之レ豫審判事カ檢證調書ヲ作りタルトキハ公訴ヲ受理シタルモノトナス法律ノ精神ヨリ當然生スルノ結果ナリトス

第四百四十四條 地方裁判所檢事及ヒ區裁判所檢事ハ豫審判事ヨリ先ニ重罪又ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ豫審判事ヲ待ツコトナク其旨ヲ通知シテ犯所ニ臨檢シ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得但罰金又ハ科料及費用賠償ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ス (明治四十一年三月法律第二十九號ヲ以テ改正)
證人及ヒ鑑定人ノ供述ハ宣誓ヲ用ユルコトナク之ヲ聽ク可シ
〔講義〕普通原則トシテハ檢事ハ犯罪ノ捜査及ヒ公訴ノ提起實行ニ任スル職權ノミチ有シ豫審ニ

屬スル處分ハ之ヲ爲スコトヲ得サルモ本條ハ之カ例外ヲ設ケ檢事ナシテ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得セシム之レ豫審判事ニ檢事ノ請求ヲ待ツコトナクシテ豫審ニ着手スルヲ得セシメタルト同一歩調ニシテ犯人ノ逃走證據ノ湮滅ヲ防クノ目的ニ出テタルモノトス然レトモ證人ノ訊問鑑定人ノ鑑定等ハ裁判所ニ於ケル訊問鑑定ト其性質ヲ異ニシ單ニ參考ノ爲メ訊問鑑定ヲ命スルニ過キサレハ從テ宣誓ヲ爲サシムルコト又ハ費用ノ賠償罰金又ハ科料ノ言渡等ハ之ヲ許サス

第四百四十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方裁判所檢事ハ證憑書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ豫審判事ニ送致シ區裁判所檢事ハ之ヲ地方裁判所檢事ニ送致ス可シ

〔講義〕本條ハ檢事カ前條ノ場合ニ於テ豫審處分ヲ終リタルトキハ如何ナル手續ヲ爲スヘキヤテ定メタルモノニシテ區裁判所檢事カ地方裁判所檢事ニ證憑書類ヲ送致スヘキ理由ハ其事件區裁判所ノ管轄ニ屬セス地方裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ自カラ起訴スルノ權ナキヲ以テナリ

第四百四十六條 區裁判所檢事其裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スルトキハ**第四百四十四條**ニ規定シタル處分ヲ爲スコトヲ得

若シ被告人ニ對シ拘留狀ヲ發シタルトキハ三日内ニ起訴ノ手續ヲ爲ス可シ

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

(講義)本條ハ區裁判所檢事カ區裁判所ノ管轄ニ屬スル輕罪ノ現行犯アルコトヲ知りタル時ノ處分法ヲ規定シタルモノニシテ三日内ニ起訴ノ手續ヲ爲スヘシトハ區裁判所檢事ノ爲シタル處分ハ未ダ公訴受理ノ効力ナキヲ以テ更ニ起訴スヘキモノトナシタルナリ

第四百四十七條 第四百四十四條第百四十六條ニ於テ檢事ニ許シタル職務ハ司法警察官モ亦假ニ之ヲ行フコトヲ得但拘留狀ヲ發スルコトヲ得ス司法警察官ハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ速ニ之ヲ管轄裁判所ノ檢事ニ送致シ且被告人ヲ逮捕シタルトキハ共ニ之ヲ送致ス可シ

(講義)第四百四十四條以下ノ規定ニ檢事ニ付テハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得トアリ司法警察官ニ付テハ檢事ニ許シタル職務ハ司法警察官モ亦假ニ之ヲ行フコトヲ得トアリ之ニ依リ之ヲ見レハ司法警察官モ亦豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲シ得ルナリ而シテ假リニ之ヲ行フコトヲ得ト規定シタル所以ハ蓋シ司法警察官ハ之等處分ヲ行フヘキ固有ノ權ナキモ事急速ヲ要スルヲ以テ檢事ノ爲スヘキ職務ヲ攝行セシムルノ意ニ外ナラサルナリ故ニ司法警察官現行犯ノ處分ヲ爲シタルトキハ被告人ヲ逮捕シタルト否トニ拘ハラス自己ノ裁量ヲ用ヒスシテ其事件ヲ檢事ニ送致スルヲ要ス何トナレハ之ヲ起訴スルト不爲トハ一ニ檢事ノ認定ニ依ルヘキモノナレハナリ

第四百四十八條 地方裁判所檢事ハ區裁判所檢事又ハ司法警察官ヨリ事件ノ送致ヲ受ケタルトキハ一切ノ書類ニ請求書ヲ添ヘ豫審判事ニ送致ス可シ

若シ同時ニ被告人ヲ受取リタルトキハ二十四時間内ニ之ヲ訊問シ拘留狀ヲ發シ又ハ發セシテ前項ノ手續ヲ爲スコシ

(講義)地方裁判所檢事カ區裁判所檢事又ハ司法警察官ヨリ事件ノ送致ヲ受ケタルトキハ一切ノ證據書類ニ豫審ヲ求ムルノ請求書ヲ添ヘ豫審判事ニ送致スヘキモノトス若シ事件ト共ニ被告人ヲ受取リタルトキハ先少被告人ヲ訊問シテ調書ヲ作り訊問ノ結果拘留狀ヲ發スルノ事由アルモノト思料シタルトキハ拘留狀ヲ發シ否ラサルトキハ拘留狀ヲ發セシテ豫審判事ニ送致セサルヘカラス而シテ二十四時間内トハ被告人ヲ受取リタルヨリ訊問シテ豫審判事ニ送致シ又ハ直チニ公判ニ付スル迄ノ時間ニシテ若シ二十四時ヲ空過スルトキハ拘留狀ヲ發スルニ非サレハ被告人ヲ放免セサルヘカラサルナリ

第四百四十九條 地方裁判所檢事ハ何レノ場合ニ於テモ輕罪ノ現行犯ニ係リ豫審ヲ求ムルニ及ハスト思料シタルトキハ拘留狀ヲ發シタルト否トニ拘ハラス直チニ其裁判所ニ訴ヲ爲スコトヲ得

被告事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理ス可カラサルモノト思料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲スコカラス

(講義)地方裁判所檢事ハ自ラ豫審處分ヲ行ヒタルト又區裁判所檢事又ハ司法警察官ヨリ其送致ヲ受ケタルト間ハ其事件輕罪ノ現行犯ニシテ罪跡顯著豫審ヲ求ムルニ及ハスト思料シタルトキハ拘留狀ヲ發シタルト否トニ拘ハラス證據書類ニ意見書ヲ添ヘ直チニ其裁判所ノ公判ニ付スルコトヲ得ルナリ而シテ被告事件罪トナラス又ハ公訴受理スヘカラサルモノト思料シタルト

ルトキ假ヘハ其行爲ハ全ク知性精神ノ喪失ニ出タル場合ノ如キニ於テハ豫審若クハ公判ヲ求ムルモ何等利益ナケレハ初メヨリ起訴ノ手續ヲ爲スヘカラサルモノトス

第九節 保 釋

(講義)保釋トハ拘留ヲ受ケタル被告人ニ對シ或條件ヲ以テ假ニ自由ヲ與フルノ處分ニシテ拘留狀ノ執行ヲ一時中止スルモノナリ故ニ保釋ハ如何ナル場合ニテモ之ヲ許スモノニ非スシテ必スヤ逃亡又ハ證據湮滅ノ恐ナク且何等ノ危険ナキ場合ニ限り之ヲ許スモノトス而シテ許可スルト否トハニ裁判官ノ職權ニ屬ス

第二百五十條 豫審判事ハ豫審中拘留狀ヲ受ケタル被告人ノ請求ニ因リ

檢事ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ呼出ニ應シ出頭ス可キ證書ヲ差出シ且保證ヲ立テシメ保釋ヲ許スコトヲ得

被告人無能力ナルトキハ法律上代理人ヨリ保釋ヲ求ムルコトヲ得

(講義)豫審判事ハ豫審中何時ニテモ左ノ條件ヲ具備シタルトキハ拘留狀ヲ受ケ未決監ニ留置セラルル被告人ヲ保釋スルコトヲ得

第一 被告人ノ請求アルコト 被告人カ保釋ヲ請求シタル場合ニ於テ之ヲ許スト否トハ豫審判事ノ職權ニ屬スト雖モ其未タ請求ナキニ於テハ自ラ進テ保釋ヲ與フルコトヲ得然レトモ若シ被告人無能力ナルトキ假ヘハ未成年者又ハ有夫ノ婦ノ如キ者ナルトキハ法律上ノ代理人即チ未成年者ノ父若クハ母又ハ親族、後見人、夫等ヨリ被告人ニ代リ保釋ヲ求ムルコトヲ得ルナリ

第二 檢事ノ意見ヲ聽クコト 保釋ハ被告人ニ對シ身体ノ自由ヲ得セシムル目的トスト雖モ

妄リニ之ヲ許ストキハ犯人ノ逃亡證據湮滅等ノ危険ヲ生シ公安ヲ害スルコト無シトセズ故ニ之カ手續ヲ鄭重ニシ檢事ノ意見ヲ聽クヘキモノトシタルナリ然レトモ豫審判事ハ檢事ノ意見ニ拘束サルルコトナク自由ニ保釋スルコトヲ得ルナリ

第三 保證ヲ立テシムルコト 保釋ヲ許サレタル被告人ハ何時ニテモ呼出ニ應シ出頭スヘキ證書ヲ裁判所ニ差出シ且ツ之ヲ確實ナラシムル爲メ第二百五十二條ニ定メタル保證ヲ立ツルコトヲ要ス

第二百五十一條 保證ノ金額ハ豫審判事之ヲ定メ保釋ヲ許ス言渡書ニ記載ス可シ

(講義)保證ノ金額ヲ定ムルハ豫審判事ノ職權ニシテ豫審判事ハ犯罪ノ輕重被告人ノ貧富又ハ身分等ヲ標準トシ自由ニ之ヲ定ムルコトヲ得ルナリ

第二百五十二條 保證ヲ爲スニハ被告人又ハ法律上代理人ヨリ金錢若クハ有價證券ヲ差出ス可シ

又裁判所ノ管轄地内ニ住シ且十分ナル資力アル者ヨリ金額ニ充ツ可キ保證書ヲ差出スコトヲ得

(講義)保證ヲ爲スハ被告人ノミニ限ラズ法律上代理人ヨリモ亦之ヲ爲シ得ヘキモノトス保證ハ普通金錢又ハ有價證券ヲ以テ立ツヘキモノナルモ若シ此二者ニ限ルトキハ時トシテ不便ヲ感スルコトナシトセズ故ニ裁判所ノ管轄地内ニ住シ且十分ナル資力アル第三者ヲシテ被告人ノ爲メニ保證書ヲ差出スコトヲ得ヘキ便法ヲ設ケタリ

第五百二十三條 保釋中被告人ヲ呼出ストキハ出頭ヨリ二十四時前ニ其

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

報告ヲ爲ス可シ

(釋義)本條ハ保釋中被告人ヲ呼出スニ付テノ時間ヲ定メタルモノニシテ二十四時前ト定メタルハ即時出頭ノ不便ヲ察シ特ニ猶豫ヲ與ヘタルナリ

第百五十四條

保釋中被告人呼出ラ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セザルトキハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ沒收ス可シ

(釋義)保釋ヲ許サレタル被告人カ呼出テ受ケ正當ノ事由ナクシテ出頭セザルトキハ保證金ヲ沒收ス可キモノナリ然レトモ常ニ必スシモ其全部ヲ沒收スヘキモノニ非スシテ時ニ其一部ノミヲ沒收スルコトアリ而シテ其全部ヲ沒收スヘキヤ將一部ヲ沒收スヘキヤハ一ニ判事ノ意見ニ依リ決定スヘキモノナリ

第百五十五條

保證金ヲ沒收スルニハ檢事ノ意見ヲ聽キ豫審判事其言渡ヲ爲ス可シ

(釋義)保證金ヲ沒收スルニハ先ツ檢事ノ意見ヲ聽キ言渡ヲ爲ササルヘカラス之レ蓋シ保釋ヲ許スルモ既ニ檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ許シタルモノナレハ沒收スルニ付テモ亦其意見ヲ聽クハ至當ト云フヘシ然レトモ豫審判事ハ檢事ノ意見ニ拘束サレサルハ尙ホ前二同シ

第百五十六條

豫審判事保證金ヲ沒收シタルトキハ保釋ノ言渡ヲ取消ス可シ

又豫審中保釋ノ言渡ヲ取消スコトヲ必要ナリトスルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ其言渡ヲ取消ス可シ

見テ聽キ其言渡ヲ取消ス可シ

(釋義)保釋ノ言渡ヲ取消スニ二個ノ場合アリ則チ左ノ如シ

第一 保證金ヲ沒收シタルトキ保證金ヲ沒收セラレタルトキハ保釋ニ必要ナル一條件ヲ失フモノナレハ保釋ハ茲ニ其效力ヲ失シ當然ノ結果トシテ保釋ノ言渡ヲ取消サルナリ

第二 保釋ノ言渡ヲ取消スコトヲ必要ナリトスルトキ 此場合ハ全ク判事ノ自由ナル判斷ニ依ルヘキモノニシテ唯々判事ハ參考ノ爲メ檢事ノ意見ヲ聽クコトヲ要スルノミ

第百五十七條

豫審判事保證金ヲ沒收シタル後免訴ノ言渡、違警罪又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付キ公判ニ付スル言渡ヲ爲シタルトキハ檢

事ノ意見ヲ聽キ前ニ沒收シタル金額ヲ還付ス可シ

(釋義)保釋ハ前ニモ説明シタル如ク拘留狀ヲ受ケタル被告人ニ對シ許スヘキモノニシテ拘留狀ヲ發スルニハ必ラス犯罪事實成立シ其犯罪ハ禁錮以上ノ刑ニ該ルモノナラサルヘカラサルナリ然ルニ豫審判事保證金ヲ沒收シタル後免訴ノ言渡、違警罪又ハ罰金ニ該ルヘキ輕罪ニ付キ公判ニ付スル言渡ヲ爲シタルトキハ之レ被告人ハ元來拘留狀ヲ發セラルヘキモノニ非ラス從テ保釋ヲ許サルヘキモノニ非ラサリシニ誤テ保釋セラレタルモノナレハ裁判官ハ檢事ノ意見ヲ聽キ前ニ沒收シタル金額ヲ還付セサル可カラサルナリ

第百五十八條

豫審判事免訴ノ言渡、違警罪又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ニ付キ公判ニ付スル言渡ヲ爲シ若クハ保釋ノ言渡ヲ取消シタルトキハ保證金ヲ還付ス可シ

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

(講義)本條モ同シク保證金ヲ還付スヘキ場合ヲ定メタルモノニシテ前條ノ場合ハ一旦沒收シタル金額ヲ還付スルニ在リト雖モ本條ノ場合ハ沒收ノ言渡ヲ受ケサル保證金ヲ還付スルニ在リ

第五百五十八條ノ二 保釋ヲ許サ、ル言渡ニ對シテハ其裁判所ヘ異議ノ

申立ヲ爲スコトヲ得 (三十二年法律第七十三號ヲ以テ追加)

裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ其許否ヲ決定ス可シ

(講義)保釋ノ決定ニ二種アリ一ハ保釋ヲ許ス決定ニシテ一ハ保釋ヲ許ササル決定之ナリ保釋ヲ許ササル決定ニ對シテハ言渡シタル裁判所ヘ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ此申立アリタルトキハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ其許否ヲ決定スヘキモノトス而シテ保釋ノ許否ヲ決スルハ口頭辯論ヲ爲スヲ要セサルナリ

第五百五十九條 豫審判事ハ保釋ノ請求アルト否トヲ問ハス檢事ノ意見

ヲ聽キ被告人ヲ其親屬又ハ故舊ニ責付スルコトヲ得

責付ヲ爲スニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應シ被告人ヲ出頭セシム可キ證書ヲ差出サシムヘシ

(講義)責付モ亦保釋ト同シク豫審中被告人ニ身体ノ自由ヲ與フルモノニシテ裁判所カ被告人ヲ親屬又ハ故舊ニ預ケルヲ云フ然レトモ責付ハ保釋ト異リ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ爲スモノニシテ只檢事ノ意見ヲ聽クノ必要アルノミ而シテ責付ヲ許可スルニハ被告人ヲ預ケル親屬故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應シ被告人ヲ出頭セシムヘキ證書ヲ差出サシムルヲ要ス今左ニ二者ノ異リタル點ヲ擧ケン

- 第一 被告人ノ請求ヲ要セサルコト 保釋ハ被告人ノ請求ヲ待テ許ス可キモノナリト雖トモ責付ハ被告人ノ請求アルヲ要セス然レトモ之ヲ許スハ保釋ト同シク逃亡、證據湮滅、及ヒ危險ノ恐レナキ場合ニ限ルハ勿論ナリトス
- 第二 保證ヲ立ツルニ及ハサルコト 保釋ヲ得ルニハ必ラス保證ヲ立テサルヘカラスト雖モ責付ハ之ヲ立ツルヲ要セス之レ豫審判事カ被告人ニ對シテ有スル疑ノ深淺ニ依ルヘキモノトス
- 第三 親屬又ハ故舊ニ責付スルコト 保釋ハ被告人ニ對シテ爲スモノナリト雖モ責付ハ被告人ノ親屬又ハ故舊ニ對シテ之ヲ爲スモノトス
- 第四 親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應シ被告人ヲ出頭セシム可キ證書ヲ差出セシムルコト 保釋ノ場合ハ被告本人ヨリ證書ヲ差出サシムルモノナリト雖モ責付ニ付テハ親屬故舊ヨリ差出スヘキモノトス此條件ニ付テハ殆ント條件タル效ナキカ如シ何トナレハ親屬故舊ト雖モ被告人ノ身体ヲ拘束シ強制的ニ出頭セシムルノ權ナキヲ以テナリ故ニ此證ハ徒ラニ能ハサルヲ約定スルモノニシテ其證書ニ違背スルモ德義上ノ問題ハ兎ニ角法律上何等ノ制裁ナキナリ故ニ今日ニ在テハ責付ノ制ハ殆ント之ヲ實用スルニ由ナク稀ニ其必要アルモ保釋ニ依リテ其目的ヲ達スルヲ常トセリ

第六十條 責付中被告人ヲ呼出ストキハ出頭ヨリ二十四時前ニ其報

知ヲ爲ス可シ

被告人正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ檢事ノ意見ヲ聽キ責付ノ言渡ヲ取消ス可シ

(講義)本條ハ責付中ノ被告人カ呼出ヲ受ケ出頭ヲ爲スニ付テノ猶豫及ヒ出頭セサルトキニ爲スヘキ手續ヲ規定シタルモノニシテ被告人呼出ヲ受ケ出頭セサルトキハ其出頭セサル原因カ正

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

當ノ理由ニ依ルニ非サレハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ其責付ヲ取消スコトヲ得ルナリ
 本節ヲ終ルニ臨ミ一言スヘキコトアリ即チ保釋及ヒ責付ハ豫審ノ部ニ規定シアリテ公判ノ部
 ニ其規定ナケレハ或ハ公判ニハ之ヲ許サルヤノ疑問ヲ生スル恐レナシトモ然レトモ拘留
 ハ其必要アルカ爲メニ之ヲ命スルモノナレハ若シ其必要ナキニ至レハ當ニ豫審ニ於テノミ保
 釋シ得ヘキノ理ナク公判ニ於テモ亦保釋ヲ許スノ必要アリ蓋シ法律ノ精神モ亦當サニ然ルヘ
 シ之ヲ豫審ノ部ニ規定シタルハ深キ意味ノ存スルニ非ラズシテ唯豫審中ニ最モ多ク生スルノ
 事項タルヲ以テ豫審ノ章中ニ規定シタルニ過キサルナリ

第十節 豫審終結

(講義)豫審終結トハ豫審判事其裁判所ノ管轄ニ非ストシ又ハ他ニ取調ヲ要ス可キ事無シトシタ
 ルトキ豫審ニ屬屬セル事件公判ニ付スヘキヤ否ヤヲ決定シ其局ヲ結フ決定ヲ云フ故ニ豫審判
 事カ檢事ノ起訴ニヨリ又ハ現行犯ノ發見ニヨリ豫審處分ニ取掛リタルトキハ令狀ノ發送、被
 告人ノ訊問、證人ノ訊問及ヒ臨檢、家宅搜查等ノ手續ニ依リ被告事件ノ證據ヲ蒐集シ其事實
 ナ確的ナラシメタルトキハ其判斷ノ如何ニ依リ其事件ヲ公判ニ移スト免訴ノ言渡ヲ爲スト將
 又管轄違ノ言渡ヲ爲ストナリハ豫審ノ段落ヲ結フヘキモノニシテ本節ハ之等ニ關シ詳細ノ
 手續ヲ規定シタルナリ而シテ此處分ハ豫審事項中最モ重要ナル事ニ屬シ有無罪ノ因テ別ル
 基礎ヲ爲スモノナレハ常ニ慎重鄭重尙且輕卒ナラサルヲ要ス

第六十一條

豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非ストシ又ハ他ニ取調ヲ
 要スルコトナシト思料シタルトキハ豫審終結ノ處分ニ付キ檢事ノ意
 見ヲ求ムル爲メ訴訟記録ヲ送致ス可シ
 檢事ハ訴訟記録ニ意見ヲ付シ三日内ニ之ヲ還付ス可シ

(講義)豫審判事ハ犯罪ノ性質又ハ場所及ヒ被告人ノ身分等ニ依リ被告事件自己ノ管轄ニ非スト
 認メタルトキ又ハ他ニ取調ヲ要セスト認メタルトキハ檢事ノ意見ヲ求ムル爲メ訴訟記録ヲ檢
 事ニ送致セサルヘカラス檢事ハ自己ノ意見ヲ付シ三日内ニ訴訟記録ヲ還付スヘキモノニシテ
 此三日ノ期間ハ記録受取ノ日ヨリ起算スヘキモノトス而シテ豫審判事ハ檢事ノ意見ニ拘束セ
 ラルコトナク獨立シテ任意ノ終結處分ヲ爲シ得ルナリ

第六十二條

檢事ハ豫審十分ナラスト思料シタルトキハ其條件ニ付
 キ更ニ取調ヲ請求スルコトヲ得若シ豫審判事其請求ヲ肯セサルトキ
 ハ檢事ハ訴訟記録ニ意見ヲ付シ二十四時内ニ之ヲ還付ス可シ

(講義)檢事ハ豫審十分ナリト思料シタルトキハ其點ニ付キ更ニ取調ヲ爲サンコトヲ請求スル
 コトヲ得ルナリ然レトモ豫審判事ハ決シテ之ニ服従スヘキ義務ナケレハ檢事ノ請求ヲ至當ト
 セサルハ之ヲ拒絕スルコトヲ得ルナリ此場合ニ於テハ檢事ハ其儘ニテ意見ヲ付シ二十四時内
 ニ訴訟記録ヲ還付スヘキモノトス

第六十三條

豫審判事ハ檢事ノ意見如何ナルヲ問ハス後數條ニ記載
 シタル決定ヲ以テ豫審ヲ終結ス可シ

(講義)豫審判事ハ檢事ノ檢束ヲ受クルコトナク獨立シタル職權ヲ有スルモノナレハ檢事ノ意見
 如何ニ拘ハラス豫審ヲ終結スルコトヲ得ルモノトス故ニ本條ハ之ニ關スル豫審判事ノ權限ヲ
 明ニシタルナリ

第六十四條

豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非サルコトヲ認メタルト
 犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

キハ其旨ヲ言渡ス可シ 若シ拘留ヲ要スルモノト認メタルトキハ前ニ
發シタル令狀ヲ存シ又ハ新ニ令狀ヲ發シ其事件ヲ 檢事ニ交付スヘシ
〔譯義〕豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非ラスト認メタルトキ例ヘハ其犯罪カ國事犯又ハ軍事犯等
ニ關スルトキハ管轄違フ言渡ヲ爲スヘキモノニシテ爾後其事件ニ對シテハ何等ノ關係ヲ有ス
ルコトナク從テ既往ノ處分ハ其效力ヲ失フヘキモノナルモ元來管轄違フ言渡ハ其罪ヲシトシ
テ放免セラレタルモノトハ異リ只タ起訴ヲ受ケタル豫審判事ノ管轄ニ非ストスルニ過キスシ
テ其事件ハ再ヒ執レカノ裁判所ニ繫屬スヘキモノナレハ之ヲ放免センカ或ハ逃亡、證據湮滅
等ノ恐レナシトセス故ニ本條末段ハ之ニ一ノ例外ヲ設ケ若シ其被告人ヲ拘留スルノ必要アリ
ト認ムルトキハ假令管轄違フ言渡ヲ爲スモ猶ホ前ニ發シタル拘留狀ヲシテ其效力ヲ存セシメ
又ハ新ニ拘留狀ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付スヘキモノトシタルナリ

第六十五條

豫審判事ハ左ノ場合ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲シ 且被告人

拘留ヲ受ケタトキハ放免ノ言渡ヲ爲ス可シ

- 第一 犯罪ノ證據十分ナラサルトキ
- 第二 被告事件罪ト爲ラサルトキ
- 第三 公訴ノ時効ニ罹リタルトキ
- 第四 確定判決ヲ經タルトキ
- 第五 大赦アリタルトキ

第六 法律ニ於テ其罪ヲ全免スルトキ

〔譯義〕免訴ノ言渡トハ公訴關係ヲ免脱セシムルノ言渡ニシテ被告事件公判ニ付ス可カラスト認
ムルトキハ此言渡ヲ爲スヘキモノトス免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ハ本條之ヲ規定スト雖モ此
他免訴ノ原因タルヘキモノ非サルニアラス例ヘハ親告罪ニ付キ被害者ノ告訴ナキニ檢事之ヲ
起訴シタルトキノ如キ又ハ適法ニ起訴セラレシ親告罪ニ對シ豫審ノ中途ニ於テ被害者カ告訴
ヲ取下ケタル場合ノ如キ或ハ被告人トシテ公訴セラレタルモノハ全ク其實事ニ關係ナキ人違
ナリシトキノ如キ又ハ犯罪ノ後ヲ頒布シタル法律ニ因リ其刑ヲ廢止シタルトキノ如キ此等ハ
何等明文ノ存スルモノナシト雖モ苟モ公判ニ付ス可カラサルモノナル以上ハ固ヨリ免訴ノ言
渡ヲ爲ササルヘカラス今左ニ本條第一乃至第六ノ場合ヲ簡單ニ說明セン

第一 犯罪ノ證據十分ナラサルトキ 豫審判事ハ諸般ノ證據ヲ蒐集シタル結果被告事件公判
ニ付スルニ足ラスト判定シタルトキハ其被告人ニ對シ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

第二 被告事件罪ト爲ラサルトキ 本場合ハ犯罪ノ證據十分ナラサルニ非サルモ其犯罪タル
ヤ由來罪ト爲スヘキ性質ノモノニアラサルトキ假令ハ知覺精神ヲ喪失シタルモノノ犯罪ノ如
キ之レナリ

第三 公訴ノ時効ニ罹リタルトキ 公訴ノ時効ニ關シテハ第八條以下ニ詳細説明アレハ就テ
見ルヘシ

第四 確定判決ヲ經タルトキ 確定判決ニ關シテハ第六條ニ詳説セルモ要スルニ一事不再理
ノ原則ノ適用ニ外ナラス

第五 大赦アリタルトキ 大赦ニ關シテハ第六條ニ説明アリ參觀スヘシ

第六 法律ニ於テ其罪ヲ全免スルトキ 其罪ヲ全免ストハ唯主刑ノミチ免スルニ非スシテ主
刑ト共ニ附加刑ヲモ免シタル場合ヲ云フ

第六十六條 被告事件違警罪アリト思料シタルトキハ區裁判所ニ移ス言渡ヲ爲シ且被告人拘留ヲ受ケタルトキハ釋放ノ言渡ヲ爲ス可シ

(講義) 本條以下三條ハ公判ニ移スヘキ場合ヲ規定シタルモノニシテ公判ニ附スル言渡ハ豫審取調ノ結果充分ナル有罪ノ推定ヲ下スコトヲ得ル場合ニ爲スヘキ豫審終結ノ決定ナリ
違警罪事件ハ元來豫審ヲ經ヘキモノニ非サルモ誤テ豫審ニ付セラレタルトキハ豫審判事ハ區裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲スヘキモノニシテ若シ被告人拘留ヲ受ケ居ルトキハ同時ニ釋放ノ言渡ヲ爲ササルヘカラス何トナレハ拘留ハ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキモノニ科スルモノニシテ違警罪ニ科スルコトヲ得サレハナリ

第六十七條 被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト思料シタルトキハ公判ニ付スル言渡ヲ爲ス可シ (明治四十一年三月法律第二十九號ヲ以テ改正)

被告人拘留ヲ受ケタル場合ニ於テ罰金ノ刑ニ該ルモノト思料シタルトキハ釋放ノ言渡ヲ爲ス可シ

(講義) 被告事件カ豫審判事ノ屬スル地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト思料シタルトキハ之ヲ其裁判所ノ公判ニ付スル言渡ヲ爲スヘキモノニシテ此言渡ヲ爲ス當時豫審判事ニ於テ被告事件罰金刑ニ相當スルモノト認メタルトキハ罰金刑ニ付テハ被告人ヲ拘留スルコト能ハサレハ若シ被告人拘留ヲ受ケ居ルトキハ必ス釋放ノ言渡ヲ爲ササルヘカラス

第六十八條 (明治四十一年三月法律第二十九號ヲ以テ削除)

第六十九條 豫審終結ノ決定ニハ事實及法律ニ依リ其理由ヲ付ス可シ

管轄違ノ言渡ヲ爲スニハ其理由ヲ明示シ若シ被告人ヲ拘留ス可キトキハ其理由ヲ明示ス可シ

免訴ノ言渡ヲ爲スニハ被告事件ト爲ラサルコト、公訴受理ス可カラサルコト及ヒ其理由又犯罪ノ證據十分ナラサルトキハ其旨ヲ明示ス可シ

區裁判所ニ移ス言渡又ハ公判ニ付スル言渡ヲ爲スニハ犯罪ノ性質様、證據ノ十分ナルコト及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條ヲ明示ス可シ

(講義) 本條ハ豫審終結ノ決定書ニ記載ス可キ事項ヲ規定シタルモノニシテ豫審終結ノ決定ニハ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ付スヘキモノトス故ニ決定書ニハ必ス先ツ其訴ヘラレタル事實即チ公訴ノ目的タル事實ヲ記載シ之ニ次テ其事實ニ適用ス可キ法律ヲ掲グルモノトス而シテ事實ノ理由トハ例ヘハ其行為ハ精神ノ錯亂ニ出テタルトカ又ハ故意ヲ以テ他人ノ物ヲ窃取シタルトカ云フノ類ニシテ又法律ノ理由トハ其犯罪ハ大赦ヲ得タルトカ又ハ罰則第何條ニ該當スルトカノ類ナリ之等舉示ヲ要スルハ若シ之ヲ舉示セザルトキハ豫審判事ハ如何ナル事實ヲ確認シテ如何ナル法律ヲ適用シタルカヲ知ル能ハサレハナリ而シテ此原則ハ決定ノ種類ニ依

犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

其適用ヲ異ニセリ今少シク之ヲ陳ヘン

第一 管轄違ヲ言渡ス場合 管轄違ノ言渡ヲ爲スニハ訴ヘラレタル事實ヲ記シ犯罪ノ場所、被告人ノ所在地等ノ外管轄ニ非ストスヘキ理由ヲ記載スルヲ要ス若シ又被告人ヲ拘留スヘキトキハ其理由例ヘハ被告人逃亡ノ恐れアリトカ證據湮滅ノ恐れアリトカノ理由ヲ記載セサルヘカラス

第二 免訴ヲ言渡ス場合 免訴ノ言渡ヲ爲スニハ被告事件罪ト爲ラサルコト(例ヘハ被告人ノ行爲ハ正當防衛ナリシコト又ハ知覺精神ヲ喪失シタリシコト等ノ類) 公訴受理ス可カラサルコト例ヘハ公訴カ時効ニ罹リタリトカ又ハ確定判決アリシトカ等ノ類ノ理由ヲ明示シ而シテ犯罪ノ證據十分ナラサルトキハ其理由ヲ記載セスシテ單ニ不十分ナル旨ヲ記載スヘキモトス

第三 區裁判所ニ移ス言渡又ハ公判ニ付スル言渡 此場合ニハ犯罪ノ性質、模様、證據ノ十分ナルコト及其罪ヲ罰スヘキ法律ノ正條ヲ明示セサルヘカラス而シテ犯罪ノ性質トハ謀殺トカ故殺トカノ類ヲ云ヒ又模様トハ自首シタリトカ加重スヘキ原因アリトカノ類ヲ云フナリ

第七十條 前條ノ決定ニハ 第七十六條ノ規定ニ從ヒ 被告人ノ氏名等ヲ明示ス可シ

(講義)豫審ノ決定ニハ必ラス第七十六條ノ規定ニ從ヒ被告人ノ氏名、住所及ヒ職業ヲ明示セサルヘカラス何トナレハ之ヲ明示スルニ非ラサレハ確然其人ヲ指示スルコト能ハサレハナリ

第七十一條 豫審終結ノ決定ノ正本ハ速ニ 檢事及ヒ被告人ニ送達ス可シ

(講義)豫審終結ノ決定ノ正本ヲ檢事及ヒ被告人ニ送達スル所以ノモノハ豫審ノ終結アルトキハ被告人ハ豫審ヲ離脱シ公判ノ被告人ト爲ルカ又ハ免訴セララルモノナレハ被告人ニシテ公判ニ付セラレンカ被告人ノ不利益ナルハ勿論若シ之ニ反シテ免訴セラレンカ檢事ハ公訴ノ目的ヲ達セサルニ至ルヘク二者共ニ此決定ニ對シ重大ナル關係ヲ有スレハ豫審ハ如何ナル決定ヲ與ヘタリヤチ知ラシムルノ必要アルヲ以テナリ

七十二條 檢事ハ免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對シ 抗告ヲ爲スコトヲ得 (明治四十一年三月法律第二十九號ヲ以テ改正)

(講義)豫審ノ決定ニ對シ檢事カ抗告ヲ爲シ得ヘキ場合ニ二個アリ曰ク免訴ノ決定曰ク管轄違ノ決定則チ之ナリ抑抗告トハ終決ノ決定ヲ攻撃スル豫審ノ上訴方法ニシテ檢事ニ此權ヲ許シタル所以ノモノハ檢事ハ固ト之レ國家公益ノ代表者タレハナリ

七十三條 (明治四十一年三月法律第二十九號ヲ以テ削除)

七十四條 豫審終結ノ決定ハ抗告ノ 期間内又抗告アリタルトキハ其決定アルマテ執行ヲ停止ス (明治四十一年三月法律第二十九號ヲ以テ改正)

(講義)本條ハ抗告ノ効果ヲ規定シタルモノニシテ被告人ト檢事ノ別ナク抗告ヲ爲セシトキハ其抗告ニ對スル決定アルマテ執行ヲ停止シ公判ヲ開始スルコトヲ得サルモノトス而シテ例ヘ抗告ヲ爲ササルトキト雖モ其抗告期間ナルトキハ決定ノ執行ヲ停止セサルヘカラス

七十五條 豫審ニ於テ被告人免訴ノ言渡ヲ受ケ 其決定確定シタル 犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審

トキハ罪名ノ變更アルモ同一ノ事件ニ付キ再ヒ訴テ受クルコトナカ
ル可シ但新ナル證據アルトキハ此限ニ在ラス
新ナル證據アルトキハ檢事ヨリ之ヲ其裁判所ニ差出シ裁判所ニ於テ
ハ其起訴ヲ許ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シ

(講義)豫審ニ於テ被告人免訴ノ言渡ヲ受ケ其決定確定シタルトキハ一事不再理ノ原則ニ基キ罪
名ノ變更アルモ同一ノ事件ニ付キ再ヒ訴テ受クルコトナカス罪名ノ變更トハ例ヘハ竊
盜トシテ豫審ニ繫屬セル被告人ニ對シ更ニ贓物故買ノ名稱ヲ付スルカ如キナラフ
然レトモ右原則ニ一ノ例外アリ本條但書ニ所謂新ナル證據アルトキハ此限リニ非ラスト即チ
之ナリ之レ蓋シ豫審ノ性質ヨリ來ル必然ノ結果ニシテ元來免訴ハ無罪ナリ罪責ナシト云フニ
非スシテ只公判ニ附スルニ足ルヘキ材料ナシト云フニ外ナラサルナリ故ニ豫審判事カ豫審終
結前未タ發見セザリシ新證據ヲ新ニ發見シタルトキハ終結決定ノ確定後ト雖モ再ヒ訴テ起シ
得ルモノトス而シテ其證據カ果シテ新證據ナリヤ否ヤハ裁判所之ヲ判定スヘキモノナレハ檢事
ハ其新證據ヲ裁判所ニ差出シ其判定ヲ待テ起訴スヘキモノトス

第四編 公判

(講義)公判トハ判決裁判所ノ訴訟手續ニシテ此手續ハ豫審ノ手續ト全ク異リ豫審判事カ有罪ナ
リトシテ送付シタルモノト雖モ公判ニ於テハ之カ爲メ其被告人ヲ有罪ナリト推定スルコトナ
ク全ク無罪ノ入トシテ被告ヲ待遇セサルヘカラス換言スレハ裁判所ハ其被告事件ヲ審理判決
スルニ際シテハ豫審判事ノ意見ニ拘束サルルコトナク自由ノ心證ヲ以テ其有罪無罪ヲ決スヘ

キモノトス

第一章 通則

(講義)通則トハ審級ノ如何ヲ問ハス總テ判決ヲ爲スヘキ裁判所ニ於テ適用スヘキ規則ナリ公判
ハ豫審ト異リ公行スヘキモノニシテ憲法第五十九條ハ「裁判ノ對審判決ハ公行ス」ト明示セ
リ其所謂對審判決トハ公判ノ謂ニシテ公判ノ公行ハ各國殆ント其軌ヲ一ニス之レ裁判ノ公平
ヲ保テ裁判所ヲシテ專横ニ陷ラシメサル唯一ノ擔保ニシテ司法上ノ良制度ナリトス然レトモ
此原則ニ對シテハ一ノ例外アリ即チ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スル恐レアルトキハ其對審ヲ密行
スルコトヲ得之レ固ヨリ對審ノミニ關シ判決ニ付テハ常ニ公行セサルヲ得ス而シテ其對審ノ
公開ヲ停止スルニ付テハ裁判所ハ評決ノ上如何ナル理由ノ下ニ公判ヲ公開セサル旨ヲ告知シ
傍聽人ヲ退廷セシムヘシ此場合ニ於テ若シ判決ヲ言渡ス必要アルトキハ再ヒ公衆ヲ入廷セシ
ムルヲ要ス

第一百七十六條 公判ハ判事、檢事、裁判所書記出廷シテ之ヲ爲スモノ

トス

(講義)公判裁判所ノ構成ハ裁判所構成法ノ規定スル所ニシテ其數一ナラス判事或ハ一人或ハ三
人五人若クハ七人タルナリ而シテ判事ノ公判ニ在リテハ更ニ檢事、書記ノ出廷ヲ必要トシ判
事、檢事、書記ノ三者備ハリ初メテ其構成ヲ全フスルモノトス故ニ此三者ハ終始間斷ナク出
廷シ居ルコト開廷ノ必要條件タルナリ

第一百七十七條 被告人ハ公廷ニ於テ身体ノ拘束ヲ受クルコトナシ但守

卒ヲ置クコトアル可シ

公判

(講義)被告人ヲシテ充分ニ辯論ヲ爲サシメント欲セハ其身体ヲ拘束セサルヲ可トス何トナレハ何人ト雖モ身体ノ拘束ヲ受クルトキハ從テ其精神ニ多大ノ變化ヲ與ヘ自由ニ意思ヲ開陳スル能ハサルハ人情ノ常態ナレハナリ蓋シ被告人ハ或行爲ニ基キ檢事ノ訴撃ヲ受クルト雖モ之ニ對シテハ辯論反駁スル天賦ノ權ヲ有ス此權ヲ實ニ社會ノ公訴權ト并存シテ其間何等ノ輕重ナキナリ本條被告人ハ公廷ニ於テ身体ノ拘束ヲ受クルコトナシト規定シタルハ被告人自由辯論ノ權ヲ明ニシタルナリ然レトモ刑事被告人ノ多クハ無賴ノ徒ナレハ時ニ或ハ逃走ヲ企ツル恐レナシトセス故ニ本條ハ但書ヲ設ケ守卒ヲ置クヲ得セシメタリ

第七十八條 裁判長ハ何時ニテモ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ對シ拘引狀ヲ發スルコトヲ得 (三十二年法律第七十三號ヲ以テ改正)
 裁判所ハ被告人ヲ訊問シタル後何時ニテモ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ對シ拘留狀ヲ發スルコトヲ得

(講義)公判ハ直接ニ被告人ヲ訊問シ犯罪ノ事實ト被告人ノ情狀トヲ審査シ事實ノ真相ヲ得ルヲ以テ目的トスレハ被告人ヲシテ公判廷ニ出頭セシムルコトヲ必要トス故ニ普通ノ場合ハ呼出狀ヲ以テ出頭ヲ命スルモ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ在リテハ呼出狀ノ送達ハ時ニ或ハ逃走、證據湮滅ヲ促スノ動機タルナキヲ保セス之ヲ以テ之等被告人ニ對シテハ裁判長ハ拘引狀ヲ發スルコトヲ得ルナリ
 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ對シテハ拘留狀ヲ發スルコトヲ得ヘシト雖モ未タ訊問セサル被告人ニ對シテハ裁判所ハ其事件ノ模様如何ヲ詳ニセス從テ拘留ノ必要ナルト否トヲ識別スル能ハサルハ拘留狀ヲ發スルニハ必スヤ被告人ヲ訊問シタル後ナラサルヘカラサルナリ之レ本條第二項ノ存スル所以ナリ

第七十九條 被告人ハ辯論ノ爲メ辯護人ヲ用ユルコトヲ得

辯護人ハ裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任ス可シ但シ裁判所ノ允許ヲ得タルトキハ辯護士ニ非サル者ト雖モ辯護人ト爲スコトヲ得

(講義)辯護人ノ撰任ハ素被告ノ自由ノ權利ニシテ必スシモ撰任スヘキ義務ナキモノトス而シテ辯護人ハ必スシモ辯護士タルコトヲ要セス裁判所ノ許可ヲ受クルトキハ辯護士以外ノ人ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得ルナリ然レトモ重罪事件ニハ必ス辯護人ヲ付スルコトヲ要スルモノニシテ若シ被告人ニ於テ辯護人ノ撰任ヲ爲ササルトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ其裁判所所屬辯護士中ヨリ辯護人ヲ選任スヘキモノトス而シテ其立會ナキトキハ審理判決共ニ無効タルナリ

第七十九條ノ二 左ノ場合ニ於テ被告人自ラ辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判所ハ檢事ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ付スルコトヲ得 (全上ヲ以テ追加)

- 第一 被告人十五歳未満ナルトキ
- 第二 被告人婦女ナルトキ
- 第三 被告人聾者又ハ啞者ナルトキ
- 第四 被告人精神病ニ罹リ又ハ意識不十分ナルノ疑アルトキ
- 第五 被告事件ノ模様ニ因リ裁判所ニ於テ辯護人ヲ必要ナリトスル

トキ
前項ノ辯護人ハ裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ選
任ス可シ但辯護士一名ヲシテ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ
得

(講義) 輕罪事件ニ付テハ被告人ハ辯護人ヲ撰任スルト否トハ全ク其自由ナリト雖モ本條第一號
乃至第五號ノ場合ニ於テハ被告人自ラ辯護人ヲ撰任セザランカ時ニ或ハ十分ナル辯護ヲ爲ス
能ハスシテ意外ノ不利益ヲ被ルコトアルヘシ故ニ裁判所ハ檢事ノ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ
辯護人ヲ撰定シ之等被告ヲ庇護シ得ルナリ乍併右辯護人ハ各被告人ニ一名ヲ付スルヲ要セス
一名ノ辯護人ヲシテ數名ノ被告人ヲ辯護セシムルコトヲ得ルモノトス

第百八十條 辯護人ハ裁判所ニ於テ訴訟記録ヲ閱讀シ且之ヲ抄寫スル
コトヲ得

(講義) 辯護人ハ被告辯護ノ地位ニ立ツモノナレハ被告事件ニ付テハ其事實ノ詳細ヲ知悉スルノ
要アリ從テ訴訟記録ノ閱覽及ヒ謄寫ヲ爲スコトヲ得ルナリ然レトモ被告人其者ハ此閱覽謄寫
ヲ爲スヲ得ス何トナレハ被告人ハ自己身上ニ係ルヲ以テ自己ニ不利益ナル部分ハ之ヲ抹殺シ
又ハ毀棄スルノ恐レアルヲ以テナリ

第百八十一條 被告人ノ法律上代理人ト爲リ辯論ニ與カル
コトヲ得

(講義) 法律上代理人トハ被告人ニ對シ親權ヲ有スル父母若クハ無能力者ノ後見人等ノ類ニシテ
之等ノ人ハ常ニ無能力者ヲ保護スル責任ヲ有スルモノナレハ被告事件ニ關シテモ補佐人トシ
テ辯論ニ與カルコトヲ得ルナリ法律上ノ代理人ニ對シ此權利ヲ付與シタル所以ノ者ハ
何ソヤ他ナシ法律上ノ代理人ヲ有スル者ハ皆民法上ノ無能力者ニシテ自ラ十分ニ辯護權ヲ行
使スル能ハサレハナリ
補佐人ハ辯護人ノ如ク訴訟記録ヲ閱覽抄寫スルノ權ヲ有セス辯護人ト補佐人トハ其名稱ヲ異
ニスルモ事實上ノ作用ニ至リテハ等シク被告人ノ利益ヲ保全シ其權利ヲ伸張スルモノニシテ
其間大差ナキナリ然ルニ辯護人ニ限り訴訟記録ノ閱覽抄寫ヲ許シ補佐人ニ之ヲ許ササルハ解
クヘカラサルノ事ニシテ憲法ノ不備ト云フヘキカ

第百八十二條 被告人出頭シテ辯論スルコトヲ肯セサルトキハ對席ト
シテ裁判ヲ爲ス可シ

被告人審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲シ裁判長ヨリ退廷又ハ拘留ヲ
命セラレタルトキ亦同シ若シ辯論二日ニ涉ルトキハ更ニ被告人ヲ出
頭セシム可シ

(講義) 被告人訟廷ニ出席スルニ拘ハラス辯論ヲ爲スヲ肯セサルトキハ辯護權ヲ拋棄シタルモノ
ト看做シ對席ノ裁判ヲ爲スモノトス
裁判所構成法第九條ニ依レハ裁判長ハ審問ヲ妨ケル者又ハ不當ノ行狀ヲ爲ス者ヲ法廷ヨリ
退カシメ又ハ拘留スルノ權ヲ有ス故ニ被告人ニシテ退廷又ハ拘留ヲ命セラレンカ之レ畢竟自
己カ開廷中ニ訟廷内ノ秩序ヲ紊リタル自然ノ結果ナレハ裁判所ハ被告人ノ在延セサルニ拘ハ
ラス引續キ辯論ヲ進行シ對席ノ裁判ヲ爲シ得ルナリ然レトモ若シ辯論二日ニ涉ルトキハ更ニ

被告人ヲ出頭セシメ其後ノ辯論ヲ爲サレメサルヘカラス何トナレハ辯論二日以上ニ渉ルトキハ被告人ハ其間自ラ悔悟スルコトアルヘキヲ以テ常ニ妨害若クハ不當ノ行狀ヲ爲スモノト豫斷シ得サレハナリ

第八十三條

被告人精神錯亂又ハ疾病ニ因リ出頭スルコト能ハサル

トキハ痊癒ニ至ルマテ辯論ヲ停止ス但罰金以下ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付キ被告人代人ヲ差出シタルトキハ此限ニ在ラス

辯論ニ取掛リタル後被告人精神錯亂シタルトキハ其痊癒ノ後前ニ停止シタルヨリ論ヲ爲ス可シ其他ノ疾病ニ罹ルトキハ痊癒ノ後前ニ停止シタルヨリ以後ノ手續ヲ爲ス可シ但五日間辯論ヲ停止シ又ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求アリタルトキハ新ニ辯論ヲ爲ス可シ
若シ被告事件及ヒ法律ノ適用ニ付キ既ニ辯論ヲ終リタルトキハ其痊癒ノ後更ニ取調ヲ爲スコトナク裁判ヲ爲ス可シ

(譯義)本條ハ被告人カ疾病ニ罹リ出頭スルコト能ハサルトキノ處分方法ヲ規定シタルモノニシテ精神錯亂シ又ハ疾病ニ罹リ出頭スル能ハサルトキハ辯護權ヲ實行スルコト能ハス若クハ之ヲ實行スルニ困難ヲ感スヘケレハ此場合ニ於テハ痊癒ニ至ル迄辯論ヲ停止スヘキモノトス而シテ又辯論ニ取掛リタル後精神錯亂シタルトキハ精神病者ノ多数ハ幾分カ其記憶ヲ減シ甚シキハ前ニ如何ナル手續アリタルカヲ遺忘スルモノナレハ前ニ爲シタル辯論ヲ無効トシ其痊癒

後更ニ一切ノ公判手續ヲ再開スヘキモノトス然レトモ精神錯亂以外ノ疾病ハ人ノ知覺ヲ攻撃スルモノニ非サレハ從テ前辯論ニ何等ノ瑕瑾ナキヲ以テ其疾病ノ痊癒ヲ待テ前ニ停止シタルヨリ以後ノ辯論手續ヲ爲スモノトス但シ疾病五日以上ニ及フカ又ハ否ラサルモ檢事其他訴訟關係人ヨリ請求アリタルトキハ前ノ手續ヲ更新スヘキナリ
被告事件及ヒ法律ノ適用ニ付キ既ニ辯論ヲ終リタル時ニ被告人精神錯亂シ又ハ其他ノ疾病ニ罹リタル場合ニ於テハ被告人ハ既ニ十分辯護權ヲ實行シ了リ唯々裁判所カ裁判ヲ言渡スノ手續ヲ遺スニ過キサレハ其痊癒後更ニ取調ノ必要ナキニ因リ痊癒後マテ裁判言渡ヲ停止スレハ可ナレハナリ

第八十四條

裁判所ニ於テハ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ 裁判ヲ爲ス可

カラス但辯論ニ因リ發見シタル附帶ノ犯罪ニ付テハ此限ニアラス
若シ附帶ノ犯罪ニ付キ豫審ヲ必要ナリトスルトキハ 本案ノ辯論ヲ停止スルコトヲ得

(譯義)裁判所ハ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ裁判ヲ爲ス可カラス之レ學者ノ所謂不告不理ノ原則ニシテ刑事裁判所ニ於テモ此原則ニ基キ訴追ヲ受ケサル事件ニ付キ裁判ヲ爲ス能ハサルナリ而シテ此原則ニ例外アリ附帶犯ノ場合即チ之ナリ附帶犯トハ起訴セラレタル事件ト密着ノ關係ヲ有シ裁判所カ辯論ニ因リ自ラ之ヲ發見シタル犯罪ニシテ訴權ノ執行ニ因リ受理セラレサルモノヲ云フ

附帶犯ハ不告不理ノ原則ニ對スル例外ナレハ裁判所ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ檢事ノ起訴ナキモ職權ヲ以テ裁判スルコトヲ得ヘシト雖モ若シ附帶犯ニ付キ豫審ヲ必要トスルトキハ本案ノ辯論ヲ一時停止シ其事件ヲ豫審判事ニ送致スヘキモノトス

第百八十五條

左ノ場合ニ於テハ附帶ノ犯罪ナリトス

第一 同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタルト

第二 數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタルトキ

第三 自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ免カルル爲メ他ノ罪ヲ犯シタルトキ

（備考）本條ハ附帶犯罪ノ如何ナルモノナルカヲ解釋的ニ規定シタルモノニシテ其場合三箇アリ

第一 同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタルトキ 例ヘハ前者ハ一人ノ物盜忍ヒ入り物品ヲ窃取シ尙ホ其被害者ニ恨アリテ諸種ノ物品ヲ毀損シテ立チ去リタル場合ノ如ク後者ハ甲乙兩人爭鬪スルノ機ニ乘シ丙者甲若クハ乙ノ携帶セル物品ヲ窃取シタル場合ノ如シ之等數罪ハ有形上相共ニ牽連スル處ナレハ同時ニ之ヲ審判決スルコト極メテ便ナリ之レ之ヲ附帶ノ犯罪ト爲ス所以ナリ

第二 數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタルトキ 此場合ハ通謀ヲ缺クヘカラサル要件トスルモノニシテ例ヘハ一ノ國事犯ヲ爲サンカ爲メ數人相謀リテ甲ハ大阪ニ於テ乙ハ東京ニ於テ各軍資ヲ強奪シタル場合ノ如シ之等ハ日時場所ヲ異ニスルモ尙ホ其間牽聯スル處アレハ附帶犯タルヲ失ハサルアリ

第三 自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ免カルル爲メ他ノ罪ヲ犯シタルトキ 例ヘハ甲ヲ殺サントスルニ當リ兇器ヲ携帶セサリシ爲メ或店頭ニ在リタル刀劍ヲ窃取シ之ヲ以テ殺害ヲ爲シタルカ如キ又乙者カ甲者ヲ殺サントスルモ兇器ヲキ爲メ丙者他ヨリ拳銃ヲ窃

取シ之ヲ乙者ニ貸與シタルカ如キ一ハ自己ノ犯罪ヲ容易ニシ一ハ他人ノ犯罪ヲ容易ナラシムル爲メ他ノ罪ヲ犯シタルモノトス又自己カ窃盜トシテ忍ビ込ミ其面部ヲ被害者ニ認メラレタルコトヲ悟リ後日犯罪ノ發覺セシコトヲ恐レ其被害者ヲ殺害シタルカ如キ又ハ甲カ乙ヲ毆打シ乙ハ甲ヲ取押ヘントスルニ際シ甲ヲシテ逃亡ヲ容易ナラシメンカ爲メ乙ヲ殺害シタルカ如キ一ハ自己ノ犯罪ヲ免レンカ爲メ一ハ他人ノ犯罪ヲ免カレシムル爲メ他ノ一罪ヲ犯シタルモノトス之等數罪ハ互ニ原因結果ノ關係ヲ有スルモノナレハ之レ亦附帶犯トシテ審判決スヘキモノトス

第百八十六條

檢事及ヒ被告人ハ第一審第二審ヲ問ハス 本案ノ判決アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ公訴受理ス可カラサル 申立ヲ爲スコト

ヲ得

裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ管轄違又ハ公訴受理ス可カラサル言渡ヲ爲スコトヲ得

（備考）判決ニハ本案ノ判決（終局判決）ト本案前ノ判決（中間判決）トノ二種アリ本案ノ判決ハ本案訴訟事件ノ局ヲ結フモノニシテ此判決ニヨリ裁判所ハ其本件ノ關係ヲ離脱スルモノトス 檢事及ヒ被告人ハ第一審第二審ヲ問ハス本案ノ判決アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ公訴受理スヘカラサル申立ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ其申立アリタルトキハ裁判所ハ必ス本案ヲ後チニシ先少先決問題トシテ之カ判決ヲ爲ササルヘカラス而シテ裁判所モ亦例ヘ之等ノ申立ヲキ場合ト雖モ職權ヲ以テ管轄違又ハ公訴受理ノ判決ヲ爲スヘキモノトス若シ此ノ場合ニ於テ審理ノ結果管轄違ナリ又ハ公訴ヲ受理スヘカラサルモノト決スルトキハ即チ此判決ハ終局

判決ト爲ルモトス若シ管轄違ニ非ス又ハ公訴ハ適法ニシテ受理スヘキモノナリト決スルトキハ其判決ハ中間判決ニシテ則チ本案前ノ判決ナリトス

第八十七條 裁判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ判決ヲ待タス直チニ控訴又ハ上告ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ本案ノ辯論ヲ停止ス

(講義) 裁判所カ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ則チ本案ノ判決ニ非スシテ本案前ノ判決ナリトス故ニ此ノ場合ニ於テハ進ンテ本案ノ審理裁判ヲ爲スヘキモノトス然レトモ管轄違ナリ公訴受理スヘカラストノ申立ニシテ正當ナルトキハ例ヘハ裁判所ハ進ンテ本案ノ審理ヲ爲スモ徒勞ニ歸スヘシ故ニ如斯場合ニ於テハ本案ノ判決ヲ待タス直チニ控訴又ハ上告ヲ爲シ得ヘキナリ而シテ上訴ヲ爲シタルトキハ本案ノ辯論ヲ續行スルモ亦徒勞ニ歸スルノ恐レアレハ之ヲ停止スヘキモノトス

第八十八條 調書ヲ作りタル司法警察官ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ證人トシテ之ヲ呼出スコトヲ得

(講義) 司法警察官ハ告訴人カ口述ヲ以テ告訴ヲ爲シタルトキ又ハ被告人ヲ逮捕引致シタルトキ若クハ現行犯罪ニ付キ假リニ豫審處分ヲ行ヒタルトキ等ニ於テハ調書ヲ作成スヘキモノナレハ事實ヲ詳悉スルニハ之カ説明ヲ求ムルノ要アリ故ニ法律ハ之ヲ證人トシテ呼出スコトヲ得セシメタリ
官吏公吏カ其職務ヲ行フニ付キ作成シタル調書ハ真正ニシテ一點虛偽ノ事實有ルヘカラサルモノナレハ之ヲ證人トシテ喚問スルカ如キハ專異例ニ屬スルモ司法警察官ハ專一ニ司法事務

ニ從事スルモノニ非サレハ或ハ其調書中明瞭ノ缺クナキヲ保セス故ニ豫審判事又ハ檢事ノ作りタル調書ニ對シテハ之ヲ證人トシテ呼出スコトナキニ拘ハラズ例外的規定ヲ設ケ之ヲ認許セシナリ

第八十九條 豫審ニ於テ訊問シタル證人又ハ鑑定ヲ爲シタル鑑定人ハ更ニ之ヲ呼出スコトヲ得

豫審ニ於ケル證人ノ供述書又ハ鑑定人ノ鑑定書ハ更ニ其證人、鑑定人ヲ呼出ササルトキ、證人、鑑定人呼出ヲ受ケ出頭セサルトキ又ハ豫審及ヒ公判ニ於ケル供述、鑑定ヲ比較ス可キトキハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判長ノ職權ヲ以テ之ヲ朗讀セシムルコトヲ得

(講義) 公判ハ口頭審理ヲ原則トスレハ豫審廷ニ於テ爲シタル證人ノ供述鑑定人ノ鑑定ニ付テモ事情ノ許ス限リ證人鑑定人ヲ裁判所ニ呼出シテ口頭ノ陳述ヲ爲サシムルヲ本則トスルモ若シ公判判事ニ於テ豫審ニ於ケル證言并ニ鑑定ヲ以テ充分ナリト認ムルトキハ更ニ證人鑑定人ヲ呼出スヲ要セス然レトモ左ノ場合ニ於テハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ裁判長ノ職權ヲ以テ供述書又ハ鑑定書ヲ朗讀セシメ之ヲ證據ト爲スコトヲ得ルナリ

第一 更ニ證人鑑定人ヲ呼出ササルトキ

第二 證人鑑定人呼出ヲ受ケ出頭セサルトキ

第三 豫審及ヒ公判ニ於ケル供述鑑定ヲ比較スヘキトキ

公判

第九十條 第一百五條以下ノ規定ハ公判ノ證人ニ 第三百三十五條以下ノ規定ハ公判ノ鑑定人ニモ亦之ヲ準用ス

(講義)本條ハ證人呼出及ヒ其訊問手續證人ト爲ルコト能ハサルモノ及ヒ證言ヲ拒ミ得ル者等ニ關スル第九十五條以下ノ規定并ニ鑑定人ニ關スル第三百三十五條以下ノ規定ハ公判ノ證人及ヒ鑑定人ニモ之ヲ準用スル旨ヲ規定シタルモノナリ

第九十一條 證人疾病其他正當ノ事故ニ因リ出頭スル能ハサルコトヲ説明シタルトキハ裁判所ハ其部員一名ニ命シ又ハ區裁判所判事ニ囑託シ其所在ニ就テ之ヲ訊問セシムルコトヲ得

(講義)證人トシテ裁判所ヨリ呼出テ受ケタル者ハ必ラス出頭スヘキ義務アルモ疾病其他正當ノ事由例ヘハ父母ノ疾病看護若クハ傳染病ノ爲メ交通ヲ遮斷セラレタル等出頭スル能ハサルコトヲ説明スルトキハ裁判所ハ受命判事又ハ受託判事ヲシテ之ヲ訊問セシムルコトヲ得此訊問手續ニ付テハ別ニ規定ノ見ルヘキモノナシト雖モ勿論豫審手續ニ準シ圖書ヲ作り證人ヲシテ署名捺印セシムヘキモノトス

第九十二條 檢事、被告人及ヒ民事原告人ノ請求ニ因リ呼出ス證人ノ氏名目錄ハ開廷ヨリ一日前之ヲ各相手方ニ送達ス可シ

(講義)證人ハ裁判所ノ職權ヲ以テ呼出スモノト訴訟關係人ノ請求ニ因リ呼出スモノトアリ其訴訟關係人ノ請求ニ因リ呼出ス場合ニ於テハ開廷ヨリ一日前其證人ノ氏名目錄ヲ相手方ニ送達スヘキモノトス之レ此送達ナキトキハ一方ノ者ノ提出スル證人ニ對シ反證ヲ提出スルノ準備

ナキ爲メ大ニ不利益ヲ受クヘキヲ以テ豫メ準備ヲ爲スコトヲ得セシメタルナリ然レトモ今日ノ實際ニ於テハ證人ノ召喚ハ概ネ公判廷ニ於テ審理ノ進行ニ連レ裁判所カ必要ト認メタルトキ呼出スヲ以テ特ニ此通知ヲ送達セサルモ如何ナル理由ノ下ニ何人ヲ證人トシテ召喚スルヤ各自之ヲ了知スルヲ得ルモノナレハ本條ノ如キハ實際上其適用ヲ見サルモノトス

第九十三條 證人ハ互ニ言語ヲ接ス可カラス 又供述前辯論ニ立會フ可カラス既ニ供述ヲ爲シタル後ハ公廷ニ留ル可シ但裁判長ヨリ退去ノ允許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

(講義)證人數名アリタルトキハ其供述前相互ニ言語ヲ接セシムルトキハ或ハ協議談合シテ證言ノ一致ヲ企ツル恐レアルヘク又其供述前辯論ニ立會ハシムルトキハ或ハ被告人若クハ原告人ノ意ヲ迎ヘ不實ノ供述ヲ爲スモ剛ルヘカラス又供述後之ヲ訟廷外ニ出ストキハ他證人ニ其供述シタル事實ヲ通スルノ恐レアリ故ニ本條ハ之等弊害ヲ豫防シ確實ノ證言ヲ得ンカ爲メニ設ケラレタルモノナリ

第九十四條 證人及ヒ被告人ノ訊問ハ裁判長之ヲ爲スモノトス 陪席判事及ヒ檢事ハ裁判長ニ告ケ證人及ヒ被告人ヲ訊問スルコトヲ得

訴訟關係人ハ辯論ニ必要ナリトスル事項ヲ分明ナラシムル爲メ證人ヲ訊問ス可キコトヲ裁判長ニ求ムルコトヲ得

(講義)訴訟審問ノ指揮權ハ裁判長ニ屬スト雖モ之レ獨立ノ權力ヲ有スルカ爲メニ然ルニ非ス

テ單ニ事務所理上ノ便宜ニ基キタルモノナレハ之ヲ法理上ヨリ論スルトキハ陪席判事ト雖モ亦訊問ノ權アリト云ハサルヘカラス故ニ本條第二項ハ之ニ直接訊問ヲ許シ檢事ト共ニ裁判長ニ告知シ直接ニ證人及ヒ被告人ノ訊問ヲ爲シ得ヘキモノトセリ

訴訟關係人例ヘハ民事原告人被告人ノ如キモ亦辯論ノ爲メ證人ノ訊問ヲ必要トスルコトアリ然レトモ直接訊問ヲ許ストキハ時ニ或ハ審理ノ順序ヲ亂リ若クハ審問事項ヲ錯雜ナラシムルノ恐レアレハ裁判長ニ要求シ裁判長ヲ通シテ以テ證人ノ陳述ヲ聽キ辯論ニ必要ナル事項ヲ會得スヘキモノトセリ故ニ前者ニ在リテハ裁判長ニ於テ其訊問ニ對シ許否ノ決定ヲ爲スコトヲ得サルモ訴訟關係人ノ要求ニ係ルトキハ裁判長ハ或ハ不適當又ハ訴訟ニ關係ナキ要求ナリトシテ之ヲ斥クルコトヲ得ルモノトス

第九十五條 證人又ハ鑑定人ノ供述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上

ノ刑ニ該ル可キ者ト思料シタルトキハ裁判所ニ於テ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ收押ヘ拘留狀ヲ發シ豫審判事ニ送致ス可シ

其證人又ハ鑑定人ノ供述ハ裁判所書記之ヲ錄取シ豫審判事ニ送致ス可シ

本條ノ場合ニ於テハ裁判所ニテ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ本案ノ辯論ヲ停止スルコトヲ得

(講義) 證人鑑定人ノ供述ハ被告人ノ有罪無罪ヲ決スル基本タルヘキモノナレハ若シ其供述ニシ

テ不實ナラシカ被告人ノ不利益ヲ來シ或ハ又姦惡ノ徒ヲ責罰スル機會ヲ失ヒ其弊害計ルヘカヲサレハ之等ノ場合ニ於テハ苟モ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キモノト思料シタルトキハ其公判裁判所ノ審級如何ヲ問ハス檢事ノ公訴ナキモ之ヲ收押ヘ拘留狀ヲ發シ豫審判事ニ送致スヘキモノトス豫審判事ハ其送致ニヨリ豫審ヲ爲スノ權利ヲ生スルモノニシテ之レ訴ヲ俟ツテ裁判スルノ原則ニ對スル例外ナリ

裁判所ニ於テ右處分ヲ爲シタルトキハ其供述ノ眞偽如何ハ大ニ本案ノ裁判ニ影響ヲ及ホスヘキモノナレハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ本案ノ辯論ヲ停止スルコトヲ得ルモノトス

第九十六條 被告人聾者、啞者又ハ國語ニ通セサル者ナルトキハ第

百條第一條ノ規定ニ從フ

(講義) 本條被被告人聾者、啞者又ハ國語ニ通セサル者ナル場合ノ審査手續ヲ規定シタルモノニシテ此手續ハ且テ詳述シタル第百條第一條ノ規定ニ從フヘキモノトス

第九十七條 裁判所ニ於テハ證人被告人ノ面前ニ於テ十分ナル供述

ヲ爲スコトヲ得サル可シト思料シタルトキハ其證人ノ供述中被告人ヲ退廷セシムルコトヲ得但裁判長ハ證人供述ヲ終リタル後被告人ヲ入廷セシメ其供述シタル事項ヲ告知ス可シ

本條ノ規定ハ共同被告人ニモ亦之ヲ適用ス

(講義) 公判廷ニ於テハ被告人ト對席ニテ訊問スルヲ原則トスルモ證人タルモノ被告人ノ面前ニ

テハ愛憎畏懼等ノ念ヲ生シ十分ナル供述ヲ爲ス能ハサルノ狀アルトキハ裁判所ハ其證人ノ供述中一時被告人ヲ退延セシムルコトヲ得ヘシ之レ對席ニテ訊問スヘシトノ原則ニ對スル例外規定ナリ然レトモ被告人ハ證人ノ供述ヲ辯駁スル權ヲ有スルモノナレハ其證人ノ供述シタル事項ハ之ヲ被告人ニ了知セシムルヲ要ス之レ本條但書ノ存スル所以ナリ

共同被告人數人アル場合ニ於テ共同被告人中ノ一人カ他ノ被告人ノ面前ニテ事實ノ供述ヲ憚ルトキハ右ノ例ニ準據シ其被告人ノ供述中他ノ被告人ヲ退延セシムルコトヲ得ルモノトス

第九十八條

裁判長ハ各證憑ノ取調ヲ終リタル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヤヲ問ヒ且其利益ト爲ル可キ證憑ヲ差出スヲ得ヘキコトヲ告知ス可シ

又證憑物件ハ被告人ニ示シテ辯解ヲ爲サシム可シ

(講義) 裁判長ハ裁判所ノ機關トシテ證據調ヲ爲スノ權限ヲ有スルモノナレハ常ニ被告事件ニ對スル事實ノ真相ヲ明確ナラシムルノ點ニ於テ注意セサルヘカラス故ニ證據ノ取調ヲ終ルトキハ其終ル毎ニ被告人ニ意見アリヤ否ヤヲ問ヒ且ツ被告人ノ利益ト爲ル可キ證據ヲ提出シ得ル旨ヲ告知スルヲ要ス尙ホ又證據物件ノ如キモ被告人ニ示シ其辯解ヲ爲サシムルモノトス之レ法律力辯護權ノ被告人ニ貴重ナルコト及ヒ其行使ヲ容易ナラシメントノ精神ヲ明ニシタルモノナリ

第九十九條

辯論中公判ノ手續ニ付キ異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽キ直チニ之ヲ裁判ス可シ

(講義) 公判ノ手續ニ關スル規則ハ訴訟關係人ノ利益ノ爲メニ設ケタルモノナレハ若シ裁判長ニ

於テ其規則ヲ遵守セス若シクハ之ヲ不當ニ適用シタルニヨリ辯論中被告人其他訴訟關係人ヨリ異議ノ申立ヲ爲スモノアルトキハ裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ決定ヲ爲スヘキモノトス此場合ニ檢事ノ意見ヲ聞ク所以ノモノハ既ニ述ヘタル如ク檢事ハ管ニ社會ノ爲メ公訴ノ原告タルノミナラス社會全般ノ利益ヲ保護シ又法律ノ適用ニ關シ相當ノ注意ヲ爲スヘキ義務ヲ有スレハナリ

第一百條

裁判所ニ於テハ公判ノ判決ト同時ニ私訴ノ判決ヲ爲ス可シ私訴ニ付キ取調未タ十分ナラサルトキハ公判ノ判決アリタル後其判決ヲ爲スコトヲ得

(講義) 私訴ハ公訴ノ判決ト共ニ之ヲ判決ヲ爲スヘキモノナルモ其私訴ニ付キ尙ホ取調ヲ必要トスルトキハ公訴ノ判決ヲ言渡シ然ル後私訴ニ付テ審理ノ末之ヲ言渡ヲ爲スヘキモノトス

第一百一條

被告人有罪ト爲リタルトキハ裁判所ノ職權ヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用ノ全部又ハ一分ヲ負擔ス可キ言渡ヲ爲ス可シ

免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テ公訴ニ關スル訴訟費用ハ國庫之ヲ負擔ス私訴ニ關スル訴訟費用ノ負擔ハ民事訴訟法ノ規定ニ從

(講義) 刑ノ言渡ヲ爲シタル場合ハ勿論本刑ヲ免スルノ言渡ヲ爲シタル場合ト雖モ被告人ニ罪アリト決シタルトキハ裁判費用ノ全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科スヘキモノトス之ニ反シテ被告人免訴若クハ無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキハ國庫ニ於テ其費用ヲ負擔セサルヘカラス蓋シ何人ヲ問

ハス自己ノ所爲又ハ懈怠ニヨリ他人ニ損害ヲ加ヘタルモノハ其損害ニ付キ賠償ノ責ニ任ス
キハ民事ノ犯罪及ヒ準犯罪ヲ支配スルノ一大原則ナレハ被告人ノ過失懈怠若クハ行爲ヨリ生
シタル訴訟費用ハ被告ニ於テ負擔セサルヘカラサルモ若シ免訴又ハ無罪ノ判決ヲ受ケタルヘ
キハ畢竟檢事ノ起訴其宜シキヲ得サルモノニシテ被告人ニ何等責ムヘキ過失ナクハ如斯場
合ニ於ケル訴訟費用ハ國庫ヨリ支辨スヘキヲ穩當トス之レ本條ノ規定アル所以ナリ

第二百二條 被告人有罪ト爲リタルト否トヲ問ハス沒收ニ係ラサル差
押物ハ所有者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲ス可シ

(講義)刑事上ノ差押物件ニ二種アリ一ハ官ニ沒收スヘキ物件他ハ沒收スヘカラサル物件之ナリ
沒收ニ係ラサル差押物ハ其何人ノ手ヨリ差押ヘタルヲ問ハス之ヲ還付スヘキモノトス何トナ
レハ一旦證據トシテ差押ヘタルモ既ニ終局判決ヲ爲スニ至リタル以上ハ其物件ノ流通ヲ禁止
スルノ必要ナクハナリ

第二百三條 刑ノ言渡ヲ爲スニハ罪トナルヘキ事實及ヒ證據ニ依リテ
之ヲ認メタル理由ヲ明示シ且法律ヲ適用シ其理由ヲ付ス可シ(三十
二年法律第七十三號ヲ以テ改正)

無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スニ付テモ亦其理由ヲ明示スヘシ

(講義)本條ハ判決ノ方式ヲ明ニシタルモノニシテ有罪ノ判決ヲ爲スニハ先ツ其被告ニ科スヘキ
刑罰ヲ明ニシ被告ノ所罰セラルルニ至ル原因タル事實并ニ其事實ヲ如何ナル證據ニヨリテ認
定シタルカ其事實アリトシテ被告ハ何故ニ所罰セラルルカノ理由ヲ明示シ法律ノ適用ヲ明確
ナラシメサルヘカラス

無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スニ付テモ其理由ヲ判決文ニ明示スヘキモノトス例ヘハ公訴ニ係ル
事實カ罪ト爲ラサルトキハ其罪トナラサル理由又ハ時効ニ罹ルトキハ犯時ヲ示シ時効ノ經過
ヲ明カニスルカ如シ

第二百四條 判決ノ言渡ハ辯論ヲ終リタル後即日又ハ次ノ開廷日ニ之
ヲ爲ス可シ

判決ノ言渡ハ判決主文ノ朗讀ニ因リ之ヲ爲ス其判決ノ理由ハ判決ノ
言渡ト同時ニ之ヲ朗讀又ハ口頭ニテ其要領ヲ告ク可シ

(講義)判決ノ言渡ハ辯論終結後即時又ハ次ノ開廷日ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス次ノ開廷日ト
ハ辯論終結ノ當日ト直近ノ日ヲ指スニ非スシテ裁判所ノ事務規則ニヨリ定メタル開廷ノ次日
ヲ云フナリ而シテ言渡ハ必ズ判決ノ主文ヲ朗讀スルニ依リ之ヲ爲スモノトシ其判決ヲ爲シタ
ルノ理由ハ同時ニ之ヲ朗讀スルカ又ハ口頭ヲ以テ之カ要部ヲ告知スヘキモノトス此言渡ニ依
リ判決ハ確定不動ノモノトナリ其效力ヲ完成スルナリ

第二百五條 判決ノ原本ニハ其判決ヲ爲シタル裁判所、年月日、其事
件ニ干與シタル檢事ノ官氏名ヲ記載シ判事、裁判所書記共ニ署名捺
印ス可シ

(講義)判決ノ原本ニハ左ノ條項ヲ具備スルヲ要ス
一、裁判ヲ爲シタル裁判所 此記載ヲ要スルハ其判決ハ正當ノ管轄權ヲ有スル裁判所ニ於テ
爲サレタルヤ否ヤヲ明ニスルカ爲メナリ

二、裁判ノ年月日 此記載ヲ要スルハ控訴又ハ上告期間ノ起算上必要ナルノミナラス月日ノ前後ニヨリ權利關係上ニ及ホス效果少ナカラサレハナリ

三、其事件ニ干與シタル檢察ノ官氏名 此記載ヲ要スルハ公訴權ハ檢察ノ職ニ在ルモノニヨリ行使サレタルヤ否又裁判所ハ適法ニ構成サレタルヤ否ヲ證明スル爲メナリ

四、其裁判ヲ爲シタル判事及書記ノ捺印 此條件ヲ要シタルハ法律ニ依リ裁判權ヲ有スル判事カ裁判ヲ爲シタルヤ否又其裁判所ハ適法ニ構成サレタルヤ否ヲ明ニスルカ爲メナリ

第二百六條

訴訟關係人ハ其費用ヲ以テ判決ノ正本、謄本又ハ抄本ヲ求ムルコトヲ得但上訴ノ爲メ其求ヲ爲シタルトキハ書記ヨリ二十四時間内ニ之ヲ下付ス可シ

(譯義) 公判ハ總テ口述ヲ主トスレハ裁判言渡ヲ爲スモ亦口述ノミナリテ足レリトス故ニ訴訟關係人ニシテ判決ノ正本、謄本、抄本ヲ得ント欲セハ自ラ其費用ヲ負擔シ別段ニ之カ請求ヲ爲ササルヘカラス而シテ判決ノ正本トハ裁判所ニ於テ判決原本ノ全部ヲ謄寫シタルモノニシテ執行力ヲ有スルモノナシ云ヒ判決謄本トハ正本ト同シク判決ノ全部ヲ謄寫シタルモノナリト雖モ執行力ヲ有セス單ニ其判決ノ成立并ニ其實質及ヒ理由等ヲ證スルニ過キサルモノナシ云ヒ判決ノ抄本トハ判決ノ幾分ヲ拔萃シ謄寫シタルモノニシテ執行力ヲ有セス其記載部分ヲ明示スルニ止ルモノナシ云フ

上訴ノ爲メ裁判言渡書ノ謄寫ヲ求ムルモノアルトキハ書記ハ二十四時内ニ之ヲ下付セサルヘカラス若シ此期間内ニ下付セサルトキハ訴訟關係人ハ之ニ對シテ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得ルナリ

第二百七條

對席判決ニ因リ刑ノ言渡アリタルトキハ裁判長ヨリ其言渡

ヲ受ケタル者ニ前條ノ請求及ヒ其判決ニ對シ上訴ヲ爲スヲ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ告知シ又闕席判決ニ因リ刑ノ言渡アリタルトキハ其判決ニ對シ故障ヲ爲スヲ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ記載ス可シ若シ其告知又ハ記載ナキトキハ更ニ其通知アルマテ上訴及ヒ故障期間ノ經過ヲ停止ス

(譯義) 對席判決ニ因リ刑ノ言渡ヲ爲シタル場合ニハ裁判長ハ言渡ヲ受ケタル者ニ其判決ニ對シ上訴ヲ爲シ得ヘキコト并ニ上訴ノ期間ヲ告知シ又前條ノ請求即チ判決ノ正本謄本抄本等ノ下付ヲ請求シ得ラルルコトヲ告知スヘキモノトス又闕席判決ニ因リ刑ノ言渡ヲ爲シタルトキハ裁判長ハ其判決ニ對シ故障ヲ爲シ得ヘキコト及ヒ其期間ヲ判決ニ記載スヘキモノトス本條ハ被告人ノ利益ノ爲メ定メタル規定ニシテ豫審ニ關スル第七十三條ト其趣旨ヲ同フシ被告人上訴又ハ故障ヲ爲スノ權利アルコトヲ知ラス爲メニ不當ナル刑ニ服スルコトアラシトテ慮リタルモノナレハ被告人法律ヲ熟知シ上訴又ハ故障ヲ爲シタルトキハ假令本條ノ通知又ハ記載ナシト雖モ其上訴又ハ故障ハ有效ナルハ勿論上訴又ハ故障期間ヲ經過スルモ爲メニ失權ヲ來スコトナク更ニ通知アル迄其期間ノ經過ヲ停止スルモノトス

第二百八條

裁判所書記ハ公判始末書ヲ作り左ノ事項其他一切ノ訴訟手續ヲ記載ス可シ

- 第一 公ニ辯論ヲ爲シタルニト又ハ公開ヲ禁シタルコト及其事由
- 第二 被告人ノ訊問及ヒ其供述

第三 證人、鑑定人ノ供述及ヒ宣誓ヲ爲シタルコト若シ宣誓ヲ爲ササルトキハ其事由

第四 證據物件

第五 辯論中異義ノ申立アリタルコト、其申立ニ付キ檢事其他訴訟關係人ノ意見及ヒ裁判所ノ裁判

第六 辯論ノ順序及ヒ被告人ヲシテ最終ニ供述セシメタルコト

(講義)本條ハ公判始末書ニ記載スヘキ事項ヲ規定シタルモノニシテ公判始末書トハ公判中ニ爲シタル一切ノ手續并ニ其間ニ生シタル一切ノ出來事ヲ記載スルモノヲ云フ故ニ公判判事カ其事件ニ付キ心證ヲ容ツクリタル事實及ヒ證據并ニ公判ニ關スル手續ト其規定履行ノ事實等ハ努メテ之ヲ明確ニ錄取セサルヘカラス之レ裁判ノ手續及ヒ方式ヲ履行シタルコトヲ公證スルハ上訴アリタル場合ニ於テ上級ノ裁判所ニテ其裁判ノ當不當ヲ再審スル爲メ最モ必要ナルホ以テナリ

第二百九條 公判始末書ニハ前條ニ記載シタル事項ノ外裁判ヲ爲シタル裁判所、年月日、裁判長、陪席判事、檢事及ヒ裁判所書記ノ官氏名ヲ記載ス可シ
辯論數日ニ涉ルトキハ其旨及ヒ同一ノ判事出席シタルコトヲ記載ス可シ

辯論中補充判事ヲシテ代ラシメタルトキハ其旨ヲ記載ス可シ

(講義)公判始末書ハ裁判所書記之ヲ作製スヘキモノニシテ其主要ナル記載事項ハ前條之ヲ規定セルモ其他裁判所、年月日、立會檢事ノ表示裁判長、陪席判事、裁判所書記等ノ官氏名ヲ記載スヘキモノトス而シテ又辯論數日ニ涉ルトキハ其旨并ニ同一判事ノ出席シタルコトヲ明ニシ若シ判事更迭シテ手續ヲ新ニシタルトキハ其事由ヲ明ニスヘキモノトス

第二百十條 公判始末書ハ判決言渡ヨリ三日以内ニ之ヲ整頓シ裁判長

及ヒ裁判所書記署名捺印ス可シ

裁判長ハ署名捺印セサル以前ニ公判始末書ヲ檢閲若シ意見アルトキ

ハ其紙尾ニ記載ス可シ

(講義)公判始末書ハ判決言渡ヨリ三日内ニ之ヲ整頓シ裁判長書記共ニ署名捺印スヘキモノトス裁判長ノ署名ハ果シテ正當ニ公判中ニ於ケル總テノ手續ヲ錄取シタルヤ否ヤヲ檢閲スルカ爲メニ爲スモノナレハ反對ノ意見アルトキハ書記ヲシテ之ヲ訂正セシムヘク若シ書記ニシテ訂正ヲ肯セサルトキハ裁判長ハ自己ノ意見ヲ紙尾ニ記載スヘキモノトス

第二百十一條 判決及ヒ公判始末書ノ原本ハ訴訟記録ニ添付シ其裁判

所ニ保存ス可シ若シ上訴アリタルトキハ之ヲ上訴裁判所ニ送付ス可

(講義)判決原本及ヒ公判始末書ノ原本ハ被告人ノ有罪無罪又ハ民事上責任ノ有無ヲ判定シタルノ證據タルノミナラス上訴アリタル場合ハ上級裁判所ハ之ニ因リ審理判決スヘキモノナレハ

第一審裁判所ニ於テハ之等ヲ訴訟記録ニ添付シ保存スヘキモノトス而シテ若シ上訴ヲ爲ス者アルトキハ上訴裁判所ニ於テ必要アルコト勿論ナレハ上訴アリタルトキハ之ヲ上訴裁判所ニ送付セサルヘカラス

第二章 區裁判所公判

(講義)本章ハ區裁判ニ關スル公判手續ヲ規定シタルモノナルモ豫メ注意ヲ要スルハ區裁判所公判ニ關スル第二章ノ規定ト雖モ第三章ニ別段ノ規定ナキ限り地方裁判所ノ公判ニモ亦々準用スヘキコト之ナリ

第二百十二條 區裁判所ハ左ノ場合ニ於テ其管轄ニ屬スル 違警罪及ヒ

輕罪ノ公訴ヲ受理ス

第一 檢事ノ起訴アリタルトキ

第二 豫審判事又ハ上級裁判所ヨリ事件ヲ移ス裁判アリタルトキ

(講義)本條ハ區裁判所カ公訴ヲ受理スルノ條件ヲ規定シタルモノニシテ訴訟ノ受理トハ訴訟ヲ受收シ之ヲ審理スルヲ云フ而シテ區裁判所カ公訴ヲ受理スヘキ場合ハ則チ左ノ如シ

第一 檢事ノ起訴アリタルトキ 公訴提起ノ權ハ檢事ニ屬スルモノナレハ檢事ノ起訴ニヨリ公訴ヲ受理スヘキハ別ニ說明ヲ要セスシテ明ナリ

第二 豫審判事ヨリ事件ヲ移ス裁判アリタルトキ 區裁判所ノ權限ニ屬スヘキ事件ハ豫審ヲ經サルチ原則トスルモ檢事ヨリ豫審ヲ求メタルトキ若クハ豫審判事カ現行犯罪アル場合ニ於テ直チニ豫審處分ヲ爲シタル結果區裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノト認メ豫審終結決定ニヨリ之ヲ移送シタルトキハ區裁判所ハ當然公訴ヲ受理スヘキモノトス

第三 上級裁判所ヨリ事件ヲ移ス裁判アリタルトキ 上級裁判所ヨリ事件ヲ移ス裁判アリタルトキトハ例ヘハ

(イ) 區裁判所カ他ノ區裁判所トノ間ニ管轄ノ爭ヲ爲ストキ又ハ區裁判所モ地方裁判所モ共ニ管轄違ノ言渡ヲ爲ストキハ直近上級裁判所ニ管轄指定ノ申請ヲ爲ス可ク而シテ其直近上級裁判所カ其指定ヲ爲セハ之レ則チ事件ヲ移ス裁判タルナリ

(ロ) 豫審判事ハ豫審終結ノ決定ニ於テ區裁判所ニ移スヘキ事件ヲ或ハ重罪公判ニ移シ或ハ免訴ノ言渡ヲ爲シ爲メニ檢事又ハ被告人ヨリ抗告セルニ因リ控訴院其抗告ヲ審理シテ區裁判所ニ移スヘキモノト決定シタルトキハ之レ則チ事件ヲ移ス裁判ナリ

(ハ) 大審院ニ於テ其事件區裁判所ノ權限ニ屬スルモノト決定シ管轄裁判所ヲ指定シ其事件ヲ送致シタルトキハ之レ亦事件ヲ移ス裁判ナリ

本法ニハ別ニ規定ナキモ明治十八年布告第三十號違警罪即決例ニ依リ警察署長又ハ分署長若クハ代理者カ其管轄内ニ於ケル違警罪ニ付キ即決ヲ爲シタル場合ニ於テ其言渡ニ對シ不服ナルトキハ違犯者ハ直チニ正式裁判ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノニシテ區裁判所ハ此請求ニ因リ公訴ヲ受理スヘキモノトス

第二百十三條 檢事ハ何レノ場合ニ於テモ被告人ニ對シ 呼出狀ヲ發ス可キコトヲ裁判所ニ請求ス可シ

裁判所ハ裁判所書記ヲシテ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發セシム可シ

(講義)公訴權ノ行使ハ前ニモ述ヘタルカ如ク檢事ノ職司ニシテ公訴權行使ノ一所爲タル被告人呼出ノ請求モ亦檢事ニ於テ之ヲ爲スヘキモノトス故ニ檢事ハ前條何レノ場合ヲ問ハス必ズ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發スヘキコトヲ裁判所ニ請求スヘク而シテ裁判所ハ次條ニ規定セル方式

ニ基キ裁判所書記ナシテ呼出狀ヲ發セシムヘキモノトス

第二百十四條

呼出狀ニハ呼出ヲ受ク可キ者ノ氏名、職業、住所、出頭ノ日時、場所及ヒ被告事件ヲ記載シ且被告事件違警罪又ハ罰金ニ該ル可キ輕罪ナルトキハ代人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得ヘキ旨ヲ記載ス可シ

若シ被告事件ノ記載ナキ場合ニ於テ被告人未タ其事件ニ付キ取調ヲ受ケサリシトキハ辯護準備ノ爲メ二日ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ得

(講義)本條ハ呼出狀ニ記載スヘキ條項ヲ規定シタルモノナリ茲ニ注意スヘキハ罰金以下ノ刑ニ該ルヘキ輕罪又ハ違警罪ノ場合ニアリテハ被告本人自ラ出頭スルヲ要セス代理人ヲシテ出頭セシムルコトヲ得ルモ禁錮以上ノ刑ニ該ルモノニアリテハ被告本人必ス出頭セサルヘカラストノ點ナリ此ノ結果前者ニアリテハ本人自ラ出頭セサルトキハ檢事ノ請求ニ基キ缺席判決ヲ言渡スヘキモ後者ニアリテハ本人自ラ出頭セサルトキハ缺席判決ヲ言渡スヘキモトス蓋シ違警罪及ヒ罰金ニ該ルヘキ輕罪ハ其性質輕微ノモノナレハ本人自ラ出頭シテ辯護セサルモ事實ノ真相ヲ得ルコト難カラサレ、法律ハ之等ノ事件ニ付キ特ニ代人ヲ差出シ被告人ニ代リ事實ノ詔問ニ應シ又ハ辯護ヲ爲スコトヲ許シタルナリ
被告事件ヲ呼出狀ニ記載スルハ被告人ヲシテ何故ニ法廷ニ出頭スヘキカヲ知ラシメ以テ辯護ノ準備ヲ爲サシメンガ爲メナレハ若シ此記載ナキトキハ被告人ハ辯護準備ノ爲メ出廷當日ヨリ二日間ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ得ルナリ然レトモ之レ其事件ニ付キ未タ一回モ取調ヲ受ケサル場合ニ限ルモノニシテ既ニ其事件ニ付キ取調ヲ受ケタルトキハ被告事件ヲ了知スルヲ以テ

更ニ猶豫ヲ與フルノ必要ナキナリ

第二百十五條

呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ

(講義)本條ハ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間ニ存セシムヘキ猶豫期間ヲ定メタルモノナルモ總則ノ規定ニ從ヒ路程ノ猶豫ヲ得セシムヘキハ勿論ナリ

第二百十六條

判事ハ豫審ヲ經サル被告事件急速ヲ要スルトキハ公判ニ取掛ル前檢證處分ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ檢事其他訴訟關係人ノ立會ヲ要セス

(講義)普通ノ規則ニ因ルトキハ檢證處分ニハ檢事其他訴訟關係人ノ立會ヲ要シ尙ホ公判開始ノ後ナラサルヘカラス換言スレハ公判ニ取掛ル前ニ於テハ訴訟關係人ノ立會ヲ要セスシテ檢證處分ヲ爲スコト能ハサルナリ然ルニ本條ハ特例ヲ掲ケ豫審ヲ經サル事件ニシテ其事件ノ性質急速ヲ要スルモノナルトキハ公判ニ取掛ル前檢事其他訴訟關係人ノ立會ヲ要セスシテ直チニ檢證處分ヲ爲スコトヲ得セシメタリ之レ普通規則ニ因ルトキハ或ハ時機ヲ失シ爲メニ證憑ノ湮滅ヲ來ス虞アルヲ以テナリ

第二百十七條

證人ハ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二十四時ノ猶豫ヲ以テ之ヲ呼出ス可シ又呼出ヲ受ケスシテ出頭シタル者ト雖モ異義ノ申立ナキトキハ裁判所ニ於テ證人トシテ其供述ヲ聽クコトヲ

得

(講義) 公判ニ於テ取調フヘキ證人ニハ之ニ對シ開廷前呼出狀ヲ發シ其送達ト出頭トノ間二十四時ノ猶豫期間ヲ與フルヲ普通トスルモ呼出狀ヲ發セサルニ證人自ラ裁判所ニ出頭シ證人爲ラント中立タルトキハ檢事、被告人、民事原告人等ニシテ異議ヲ申立サル場合ニ限り正式ノ呼出狀ヲ受ケタル證人ト同シク宣誓セシメ訊問スルコトヲ得ルモノトス

第二百十八條 判事ハ先ツ被告人ノ 氏名、年齢、身分、職業、住所、

出產ノ地ヲ問フ可シ

檢事ハ被告事件ヲ陳述ス可シ

(講義) 公判ヲ開廷シ被告人ノ訊問ニ先チ其氏名、年齢、身分、職業、住所、出生ノ地ヲ問フハ人違ナキコトヲ確ムルカ爲メナリ而シテ檢事ハ被告事件ノ事實即チ犯罪ノ顔末并ニ其情況ヲ陳述セサルヘカラス之レ被告事件ヲ公廷ニ顯出シ公訴ノ主旨ヲ表明スルモノニシテ口頭辯論主義ノ結果タリ

第二百十九條 判事ハ被告事件ニ付キ被告人ヲ訊問ス可シ

必要ナル調書其他證憑書類ハ書記ヲシテ朗讀セシメ又證人ノ供述ヲ聽キ其他證憑ノ取調ヲ爲ス可シ

若シ被告人ノ自白アリタル場合ニ於テ檢事、民事原告人ノ異議ナキトキハ證憑ヲ取調フルニ及ハス

(講義) 判事ハ被告事件ニ付キ前條ノ手續ヲ終ラタルトキハ被告人ヲ訊問シ有罪無罪ノ判斷ヲ下スヘキ材料ハ之ヲ原被兩造ニ示シ辯護辯駁ノ餘地ヲ存シ其間心證ヲ作ルヘキモノトス若シ被告人判事ノ問ニ答ヘ其犯罪者タルコトヲ自白シタルトキハ檢事、民事原告人ノ異議ナキトキニ限り他ノ認憑ヲ取調アルコトナク直チニ刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得ルナリ蓋シ區裁判所ノ事件ハ事輕微ニシテ假ヘ被告人ノ自白ニ基キ判斷シタル裁判ニシテ誤謬ヲ生スルコトアリトスルモ別ニ非常ナル大害ヲ及ホスコトナク自白アルニ尙ホ進シテ諸種ノ證據ヲ取調フル如キハ反テ無益ノ時日ヲ費シ爲メニ無用ノ費用ヲ増加スルニ至ルヘシトノ趣旨ニ基キ本條第二項ヲ設ケタルモノナルモ自白ハ必スシモ本案ヲ決スヘキ唯一ノ標準ニアラスシテ反テ自白ニ依リ事實ノ眞想ヲ誤ララルコトアルカ故ニ重大ナル事件ニ在リテハ自白アルモ猶他ノ證據ヲ取調フル事アルヲ注意スヘシ

第二百二十條 證憑調濟ノ後檢事ハ事實及ヒ法律適用ニ付キ 意見ヲ陳述ス可シ

被告人及ヒ其辯護人ハ答辯ヲ爲スコト得

檢事、被告人及ヒ辯護人ハ迭ヒニ辯論ヲ爲スコトヲ得但辯論ノ最終

ニハ被告人又ハ辯護人ヲシテ供述セシム可シ

(講義) 證據取調濟ノ後檢事ハ事實并ニ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ陳述シ被告人又ハ辯護人ハ答辯ヲ爲スコトヲ得尤モ辯論ノ最終ニハ必ス被告人又ハ辯護人ヲシテ供述ヲ爲サシムルヲ要ス何トナレハ最終ノ供述ハ判事ノ心證ニ感動ヲ與ヘ被告人ヲ利益スルコト尠少ナラサレハナリ

第二百二十一條 公訴ニ付キ辯論終リタル後民事原告人ハ被害ノ事實

ヲ證明シ且私訴ニ付キ其請求スル所ヲ陳述ス可シ
被告人、辯護人及ヒ民事担当者ハ答辯ヲ爲スコトヲ得

〔講義〕私訴ハ公訴ニ附帯シタル訴訟ナレハ公訴ノ辯論終リタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得
ス故ニ民事原告人ハ公訴ノ辯論ヲ了レ私訴ノ審理ニ移ルヲ待チ被害ノ事實ヲ陳述シ其舉證ヲ
爲シ法律ニ從ヒ請求スル處ヲ陳述スヘキモノトス而シテ被告人辯護人及ヒ民事担当者ハ之ニ
對シ答辯ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第二百二十二條 被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ判決ヲ以
テ管轄違ノ言渡ヲ爲ス可シ若シ被告人拘留ヲ受ケタルトキハ放免ノ
言渡ヲ爲ス可シ

本條ノ場合ニ於テ拘留ヲ要スルモノト認メタルトキハ前拘留狀ヲ存
シ又ハ新ニ拘留狀ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付ス可シ

〔講義〕區裁判所誤テ其管轄ニ屬セサル被告事件ヲ受理シタルトキハ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘク而
シテ被告人拘留ヲ受ケタルトキハ管轄違ノ言渡ト同時ニ放免ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス然レ
トモ管轄違ノ言渡ヲ爲ス際被告人ノ罪跡明確ニシテ若シ之ヲ放免スルトキハ逃亡若クハ證據
湮滅ノ恐レアルニ於テハ其管轄違ナルニ拘ハララス尙ホ拘留狀ヲ存續シ未タ發シアラサルトキ
ハ新ニ之ヲ發シテ其事件ヲ檢事ニ交付セサルヘカラス而シテ其言渡ヲ受ケタル檢事ハ之ヲ相
當ノ裁判所ニ起訴スヘキモノトス

第二百二十三條 被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬シ且犯罪ノ證據十分ナ
ルトキハ判決ヲ以テ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ

ルトキハ判決ヲ以テ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ

〔講義〕區裁判所ニ於テ審理既ニ終リ裁判ヲ爲スニハ管轄違、有罪、無罪若クハ免訴ノ四種中其
一二決定セサルヘカラス故ニ管轄違ノ場合ニ於テハ前條ニ從ヒ之ヲ言渡ヲ爲スヘキモノナレ
トモ之ニ反シテ被告事件其管轄ニ屬シ尙ホ且犯罪ノ證據十分ナルトキニ於テハ事實ト法律
トニ因リ理由ヲ付シテ刑ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

第二百二十四條 犯罪ノ證據十分ナラス又ハ被告事件罪ト爲ラサルト
キハ判決ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲シ又第百六十五條第三號以下ノ場合
ニ於テハ判決ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲ス可シ

〔講義〕公判ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲スニ二個ノ場合アリ一ハ犯罪ノ證據十分ナラサルトキ他ハ被
告事件罪トナラサルトキ則チ之レナリ被告事件罪トナラサルトキトハ例ヘハ被告人ノ行爲又
ハ不行爲ヲ犯罪ト爲スノ法條ナキトキ若クハ不論罪ニ係ル行爲ニシテ法律ニ於テ其行爲若ク
ハ不行爲ヲ犯罪ト爲ササルトキ云フ而シテ免訴ヲ言渡ス場合ハ第百六十五條第三號以下即
チ公訴時効ニ罹リ又ハ確定判決ヲ經又ハ大赦アリ又ハ法律ヲ以テ刑ヲ全免シタルトキニシテ
此場合ハ無罪ノ言渡ヲ爲スコトナク必ス免訴ノ言渡ヲ爲ササルヘカラス
免訴ト無罪トハ其效果ニ於テ異ル所ナキモ被告人ノ社會ニ對スル信用恢復ノ程度ヲ異ニスル
モノニシテ免訴ハ被告人ノ行爲不行爲ニ對シ公訴成立スル能ハサルニ依リ只其事件ヲ訴ヨリ
離脱セシムルモノナレハ事實自体ハ或ハ有罪ナルモ知ルヘカラサルニ反シ無罪ハ被告人ニ犯
罪ト認ムヘキ行爲又ハ不行爲ナキコトヲ認メ全然訴訟ノ關係ヲ離脱セシムルモノナレハ反對
論者無キニ非サルモ二者ノ區別ヲ明ニスルヲ要ス

第二百二十五條 前二條ノ場合ニ於テ私訴ニ付キ其請求價額ノ多寡ニ拘ハラズ判決ヲ爲ス可シ

(釋義)被告事件證據十分ニシテ有罪ノ言渡ヲ爲ストキハ勿論無罪若クハ免訴ノ言渡ヲナストキト雖モ公訴附帶ノ私訴ニ付テハ被害ノ事實ヲ審理シ其結果ニ基キ相當ノ裁判ヲ爲スヘキモトス乍併此場合ニ於テハ區裁判所ハ訴訟ノ目的物ノ價額ニ依リ事物ノ管轄ニ拘束セラレルコトナク私訴ニ付キ裁判權ヲ有スルナリ之レ裁判管轄ノ例外ニシテ法カ此特例ヲ認メタル所以ハ普通事物ノ管轄ニ從フトキハ私訴ヲ公訴ニ附帶シテ提起スルコトヲ爲シタル立法ノ精神ヲ貫徹スル能ハサレハナリ之ヲ例セハ毆打創傷罪ノ如キハ其罪輕微ニシテ區裁判所ノ管轄ニ屬スルモ其私訴ノ請求價額ハ時ニ或ハ數百圓ニ上リ其管轄ニ屬セスシテ管轄違ノ言渡ヲ爲ササルヘカラサルノ結果ヲ生スレハナリ之レ本條ニ於テ其請求額ノ多寡ニ拘ハラズ判決ヲ爲スハシト規定セシ所以ナリ

第二百二十六條 呼出ヲ受ケタル被告人又ハ罰金以下ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付キ其代人公判ノ斯日ニ出頭セサルトキハ檢事ノ請求スル所ヲ聽闕席判決ヲ爲ス可シ

私訴關係人出頭セサルトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ闕席判決ヲ爲ス可シ

(釋義)我訴訟法ハ口頭辯論主義ヲ原則トスレハ原被兩造ヲ出頭セシメ對席ノ上審理判決スルヲ普通トスルモ被告人公判ノ呼出ヲ受ケ其期日ニ出頭セサルトキハ檢事ノ請求スル所ヲ聽闕席

席判決ヲ爲スヘキモノトス何トナレハ此場合ニ於テ尙ホ且ツ對席ノ審判ヲ要スルモノトセハ被告人ハ奇貨置クヘシトナシ刑罰若クハ民事上ノ責任ヲ免レンカ爲メ故ラニ出頭セスノ訴訟ヲ遅延セシムルノ弊ナキヲ保セサレハナリ乍併罰金以下ノ刑ニ該ル被告事件ニ付テハ必スシモ被告人ノ出頭ヲ要セサレハ代人ヲシテ出頭セシムレハ尙ホ對席判決タルヲ失ハス被告人代人共ニ出頭セサル場合初メテ缺席判決ヲ受クヘキナリ私訴ノ闕席判決ニ付テハ民事訴訟法第二百四十六條以下ノ規定ニ從フヘキモノニシテ訴訟關係人呼出ヲ受ケ其期日ニ出頭セサルトキハ出頭シタル相手方ノ中立ニ因リ闕席判決ヲ爲スヘキナリ故ニ被告人呼出ヲ受ケ口頭辯論期日ニ出頭セサルトキト雖モ其相手方ヨリ缺席判決ノ申立ヲ爲ササルトキハ被告人ニ對シ缺席判決ヲ爲シ得サルモノトス

第二百二十七條 禁錮ノ刑ニ該ル可キ事件ニ付キ被告人出頭セスト雖モ豫審終結ノ言渡書又ハ公判ノ呼出狀ヲ本人ニ送達シタル證アルニ非サレハ闕席判決ヲ爲ス可カラズ

豫審終結ノ言渡書又ハ公判ノ呼出狀ヲ本人ニ送達スルコト能ハサル場合ニ於テハ裁判所ニテ猶豫ノ期間ヲ定メ其期間ニ被告人出頭セサルトキハ闕席判決ヲ爲ス可キ告知書ヲ其親屬又ハ其本籍若クハ最後ノ住所ノ地ノ市町村長ニ送達ス可シ若シ其本籍若クハ最後ノ地分明ナラサルトキハ同上ノ告知書ヲ少クトモ一月間裁判所ノ掲示板ニ貼付シテ公示ス可シ

(講義)禁錮以上ニ該ル可キ刑ハ凡テ体刑ヲ加フルモノナレハ被告人ノ利害ニ關スル決シテ前條ノ場合ト同一ナラス故ニ缺席判決ヲ爲スニ付テモ其手續ヲ町重ニシ豫審終結ノ言渡書又ハ公判ノ呼出狀ヲ被告本人ニ送達シタル證據アルニ非サレハ之ヲ爲スナ得サルコトトセリ之レ輕忽ニ缺席判決ヲ爲サス成ルヘク本人ノ出廷ヲ得テ適確ナル裁判ヲ與ントノ趣旨ニ基キタルモノナルモ若シ被告人ニシテ逃亡センカ送達ニハ送達ノ期ナカルヘシ然レトモ無限ニ判決ヲ延期スルハ事實許スヘキニ非サルヲ以テ裁判所ハ相常ノ猶豫期間ヲ定メ其期間ニ出席セサレハ缺席判決ヲ爲スヘシトノ告知書ヲ作り其親屬又ハ其本籍若クハ最後ノ住所ノ地ノ市町村長ニ送達シ若シ其本籍又ハ最後ノ住所地分明ナラサルトキハ右ノ告知書ヲ一ヶ月以上裁判所ノ揭示板ニ貼付シタル後初メテ缺席判決ヲ爲スヘキモノトス

第二百二十八條 闕席判決ハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ闕席者ニ送達ス可シ

闕席判決ヲ受ケタル者ハ其判決ニ對シ故障ヲ申立ルコトヲ得

(講義)闕席判決ハ裁判所ノ職權ヲ以テ送達スヘキモノニアラサレハ被告人ニ送達セント欲セハ必ス檢事其他訴訟關係人ヨリ裁判所ニ之カ請求ヲ爲ササルヘカラス此請求ニヨリ裁判所ハ初メテ之ヲ送達スヘキモノニシテ此送達ニ依リ故障申立ノ期間始マリ期間内故障ノ申立ナキニ依リ其判決ハ確定スルモノトス
故障トハ公訴タルト私訴タルト同ハス公判ニ缺席シ不利益ノ裁判ヲ受ケタルモノヨリ其判決ヲ廢棄シ訴訟ヲ判決前ノ程度ニ復セシメント申立ツル異議ノ訴ナレハ缺席者ニ於テ其判決ニ對シ不服アルトキハ判決ヲ爲シタル裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得ルナリ蓋シ缺席判決ハ出席者ノ片言ヲ聽キ爲シタルモノナレハ裁判ノ正誤ヲ得ルニハ勞ヒ此權利ヲ被告ニ認

メサルヘカラス之レ本條第二項ノ存スル所以ナリ

第二百二十九條 故障申立ノ期間ハ三日トス此期間ハ罰金以下ノ刑ヲ

言渡シタル判決及ヒ私訴ノ判決ニ付テハ闕席判決ノ送達ヲ以テ始まり禁錮ノ刑ヲ言渡シタル判決ニ付テハ被告人自ラ其送達ヲ受ケ又ハ判決執行ニ因リ刑ノ言渡アリタルコトヲ知リタル日ヲ以テ初マル

(講義)故障申立ノ期間ハ三日ニシテ此期間算定方法ハ罰金以下ノ刑ヲ言渡シタル場合若クハ私訴ノ缺席判決ノ場合ト禁錮以上ノ刑ヲ言渡シタル場合トニヨリ異ナレリ即チ前者ニ在テハ故障申立ノ期間ハ缺席判決ノ送達ヲ以テ初マル而シテ其送達ハ必ラス本人ニ爲ササルモ期間進行スヘキニ反シ後者ニ在テハ本人ニ送達スルカ又ハ本人カ其判決執行ノ處分(逮捕)ニ因リ判決アリタルコトヲ知ルニ非サレハ其期間經過スルコトナシ

抑期間ノ制タル被告人ノ懈怠ヲ防クノ精神ニ出スルモノナレハ期間前ニ被告カ故障ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ被告ニ何等懈怠ノ責ムヘキモノナケレハ致テ不可ナキカ如シト雖モ第百三十二條ニ依レハ裁判所ハ故障ノ期間ニ於テ申立ヲ爲シタルヤ否ヤチ職權調査シ此要件ヲ缺キタルトキハ判決ヲ以テ棄却スヘキモノナレハ其申立ハ必ス法定ノ期間内ニ於テ爲スヘキコトヲ強要シタルモノト解セサルヘカラス

第二百三十條 故障ヲ申立テントスル者ハ闕席判決ヲ爲シタル裁判所

ニ其申立書ヲ差出ス可シ

(講義)故障ノ申立ハ必ス欠席判決ヲ爲シタル裁判所ニ向ケ其申立書ヲ差出スヘキモノニシテ第一審裁判所ニ於ケル欠席判決ニ對スル故障ハ其第一審裁判所ニ申立テ第二審裁判所ニテ第一

審裁判所ノ判決ヲ破棄シ更ニ被告ニ有罪ノ判決ヲ爲スカ如キ場合ニアリテハ故障申立ハ第一審裁判所ニ非スシテ第二審ノ裁判所トス要スルニ故障ハ上訴ニ非スシテ裁判ノ覆審ヲ求ムル方法ナレハ必スヤ其欠席判決ヲ爲シタル原裁判所へ申立ツヘキモノナリ

第二百三十一條 裁判所ニ於テハ故障ノ申立アリタルコトヲ相手方ニ通知シ且其事件ヲ公判ニ付ス可キ期日ヲ定メ訴訟關係人ヲ呼出ス可シ

(講義)故障ハ事件ノ本案ニ對スルモノニシテ其當否ノ如何ハ本案ノ終局ヲ生スルノ結果アルモノナレハ公判ノ審理ヲ繼テ之ヲ決セサルヘカラス故ニ裁判所ニ於テ故障申立書ヲ受收シタルトキハ故障裁判所ハ先ツ其旨ヲ相手方ニ通知シ且其事件ヲ審査スヘキ期日ヲ定メ訴訟關係人ヲ呼出スヘキモノトス

第二百三十二條 裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ故障ヲ許ス可キヤ否ヤ又故障ノ期間ニ於テ申立ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査シ此要件ノ一ヲ缺クトキハ判決ヲ以テ故障ヲ棄却ス可シ

(講義)故障申立ニ依リ裁判所前條ノ手續ヲ了ヘ公判期日ニ至リ檢事其他總テノ訴訟關係人出頭シタルトキハ裁判所ハ先ツ職權ヲ以テ第一ニ故障ヲ許スヘキヤ否ヤ換言スレハ闕席判決力故障ヲ許スヘキ裁判ナルヤ否ヤヲ決定シ第二ニ假リニ其判決ニ對シ故障ヲ申立ツルコトヲ許シアリトスルモ其故障ハ之ヲ期間内ニ申立テタルモノナルヤ否ヤヲ調査スヘキモノトス而シテ故障自体力不適法ナルトキハ本案ニ入ルコトナク直チニ判決ヲ以テ之ヲ棄却スヘキモノナルニ之ニ反シ故障ノ申立適法ナルトキハ之ヲ受理シ引續キ本案ノ取調ニ係ルヘキモノニシテ此

受理ニ依リ以前ノ闕席判決ハ茲ニ消滅シ其事件ハ恰モ裁判所力新規ニ公訴ヲ受理シタルト同一程度ニ復スルモノトス

第二百三十三條 故障ノ申立ヲ受理シタル場合ニ於テハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ裁判ヲ爲ス可シ前項ノ場合ニ於テ故障申立人出席シタルトキハ更ニ故障ヲ申立ルコトヲ得ス

(講義)故障ノ申立ヲ受理シタル場合ハ前ニ述ヘタル如ク闕席判決ハ既ニ消滅シ欠席判決ナカリシ時ト同一程度ニ復スルモノナレハ更ニ通常ノ規定ニ從ヒ審理判決スヘキモノニシテ其裁判ヲ言渡スニ付テモ前欠席判決ニ拘束セラルルコトナク一ニ其所信ニ從ヒ或ハ有罪トシ或ハ無罪トシ自由ナル裁判ヲ爲シ得ヘキモノトス

故障申立人故障事件ノ公判ニ於テ再ヒ闕席シタルトキハ如何此場合ニ於テハ裁判所ハ通常ノ規定ニ從ヒ更ニ欠席判決ヲ下スヘキモノニシテ此再度ノ闕席判決ニ對シテハ故障ノ申立ヲ許サス如何トナレハ再三再四故障ヲ許ストキハ其事件ハ同審級ニ在リテ終局ノ期ナケレハナリ此場合ニ於テ故障ノ申立ヲ爲シ得サルハ右述ヘタル處ニヨリ明ナルモ上訴ヲ爲シ得サルカ又ハ上訴ヲ提起シ得ルヤハ頗ル不明ニ屬スレトモ元來故障ノ申立ハ欠席ノ場合其被告ニ特ニ與ヘラレタル恩惠ナルコトハ對席ノ場合ニ在リテハ只攻撃方法トシテ上訴ノ一アルニ反シ欠席判決ニ於テノミ故障ノ申立期間内ニ在リテハ尙上訴ヲ爲シ得ル(第二百五十二條第二項)ニ徴シテモ明カナリ故ニ被告ハ更ニ欠席シタルカ爲メ特ニ與ヘラレタル權利ノ實行ヲ停止セラルルトシテモ之カ爲メ普通ノ場合ニ於テスラ有シ得ル攻撃方法タル上訴ノ權利ヲ失フモノナリト爲スハ聊穩當チ欠クナキ能ハス故ニ此場合ニ於テモ尙ホ上訴ヲ爲シ得ルモノト解スルチ至當トス尤モ其申立期間ノ起算點ハ普通上訴ノ場合ニ於ケル第二百五十二條第一項ニ基

キ起算スヘキハ勿論タリ

第二百三十四條 第二百四十七條第二百四十八條ノ規定ハ闕席判決ニ對スル故障ニモ亦之ヲ準用ス

(講義)本條ハ期間經過ニ因リ喪失シタル故障申立ノ權利回復ニ關シ規定シタルモノニシテ天災其他避クヘカラサル事變ノ爲メ故障申立ノ期間ヲ經過スルハ止ムヲ得サルニ出テタルモノニシテ何等本人ニ過失ナケレハ上訴ノ權利ヲ回復スルコトヲ許シタル第二百四十七條第二百四十八條ノ規定ヲ準用シ故障ノ權利ヲ回復スルコトヲ得セシメタリ之カ條件手續等ハ右二條ヲ講述スル際詳説セン

第三章 地方裁判所公判

(講義)地方裁判所ハ區裁判所ト異リ合議制ノ裁判所ナレハ其權限資格等ニ付テモ大ニ異ル處アリ以下逐次之ヲ説明セン

第二百三十五條 地方裁判所ニ於テハ豫審判事又ハ上級裁判所ヨリ事
件ヲ移ス裁判ニ因リ其管轄ニ屬スル輕罪及ヒ重罪ノ公訴ヲ受理ス
又輕罪ニ付テハ檢事ノ起訴ニ因リ其公訴ヲ受理ス

(講義)地方裁判所ニ於テ公訴ヲ受理スヘキ場合ハ左ノ如シ

- 一、豫審判事ノ豫審終結ノ決定ニ依リ移サレタル輕罪、重罪ノ事件
- 二、上級裁判所ヨリ移サレタル重罪、輕罪ノ事件
- 三、檢事ヨリ直接起訴アリシ場合

以上三箇ノ場合ニ於テハ地方裁判所ハ公訴ヲ受理スヘキモノトス而シテ檢事ノ起訴ニ因リ公訴ヲ受理スルハ輕罪事件ニ限ルヘキモノニシテ重罪事件ハ必ラス豫審ヲ經由スヘキモノナレハ檢事ノ起訴ニ因リ受理スルコトナキナリ

第二百三十六條 前章ノ規定ハ此章ニ別段ノ定メナキモノニ限り地方
裁判所ノ公判ニ準用ス (明治四十一年三月法律第二十九號ヲ以テ改
正)

(講義)地方裁判所カ公訴ヲ受理シタルトキハ原則トシテ區裁判所ノ手續ヲ準用スルモ地方裁判所ト區裁判所トハ其審理スヘキ事件ニ於テ輕重アルノミナラス一ハ單獨制ニシテ一ハ合議制ナレハ其間異レル點少ナカラス爰ニ於テカ地方裁判所公判ニノミ適用セラルヘキ特別手續ノ必要アリ以條以下ハ其必要ヲ充ス爲メニ規定セラレタルナリ

第二百三十七條 重罪事件ニ付テハ開廷前裁判長又ハ受命判事ハ裁判
所書記ノ立會ニ依リ一應被告人ヲ訊問シ 辯護人ヲ選任シタルヤ否ヤ
ヲ問フ可シ

若シ辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ
辯護士中ヨリ之ヲ選任ス可シ被告人及ヒ辯護士ニ異義ナキトキハ辯
護士一名ヲシテ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得
書記ハ本條ノ訊問ニ付キ特ニ調書ヲ作ル可シ

(講義)重罪事件ハ被告ニ重大ナル關係ヲ及ホスモノナレハ其審査判決ニ付テハ其手續ヲ鄭重ニシ一層ノ戒慎ヲ加ヘサルヘカラス故ニ重罪事件ニ付テハ開延前ニ裁判長又ハ受命判事ハ裁判所書記立會ノ上一應被告人ヲ訊問シ辯護人ヲ選任セシヤ否ヤヲ問フヘキモノトス蓋シ重罪事件ハ事件錯雜ニシテ審理ノ方針并ニ基礎ヲ得ルコト容易ナラサレハ豫メ單獨判事ヲシテ被告人ヲ訊問セシメ以テ公判ニ於ケル審理ノ方針ヲ定メントスルモノナレハ其訊問ハ成ルヘク鄭重ナルヲ要スルナリ而シテ裁判所書記ハ此訊問ニ付キ調書ヲ作製スヘキモノニシテ其調書ハ豫審調書ノ如ク特ニ被告人ニ讀ミ聞ケ又ハ被告人ヲシテ署名捺印セシムヘシトノ規定ナケレハ單ニ本法第二十條ニ基キ作製スレハ可ナルナリ

若シ被告人未タ辯護人ヲ選任セス又ハ選任シ得サルトキハ裁判長ハ職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘキモノトス之レ所謂官選辯護ナリ被告人自ラ選任スルニ於テハ何處ノ辯護士ヲ以テスルモ可ナルモ官選辯護ハ必ス其裁判所所屬ノ辯護士ニ限ル而シテ被告人及ヒ辯護士ニ異議ナキトキハ一人ノ辯護士ヲシテ數人ノ被告人ヲ辯護セシムルコトヲ得ルナリ

第二百三十八條

裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキハ檢事其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ受命判事ヲシテ臨檢ノ處分ヲ爲シ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

(講義)地方裁判所ニ於テ臨檢處分ヲ爲スニハ左ノ二條件ヲ要ス

- 第一條件 事實發見ノ爲メ必要ナリトスルトキ
 - 第二條件 受命判事ニ委託スルコト
- 區裁判所ハ單獨判事ニシテ審判ヲ爲スカ故ニ臨檢ノ處分ハ容易ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモ地方裁判所ハ元來合議體ニシテ其動作自由ナラサレハ法律ハ特ニ裁判所ニ與フルニ事實發見ノ爲メ必要ナルトキハ檢事其他ノ訴訟關係人又ハ裁判所自己ノ職權ヲ以テ受命判事ヲシテ臨檢セシメ其報告ヲ爲サシムルノ權ヲ以テセリ

仍ホ證憑取調ヘサル可カラス

第二百三十九條

裁判所ニ於テハ被告人其罪ヲ自白シタルトキト雖モ仍ホ證憑取調ヘサル可カラス

(講義)區裁判所ニ在リテハ被告人自白スルトキハ別ニ他ノ證據ヲ取調フルニ及ハス直チニ判決ヲ爲スコトヲ得ルモ地方裁判所ニ在テハ例令被告人ノ自白アルトキト雖モ裁判所ハ尙ホ進シテ他ノ證據ヲ取調ヘ充分ナル心證ヲ得ルニ努メサルヘカラス之レ地方裁判所ノ事件ハ區裁判所ノ事件ニ比シ社會并ニ被告人ノ利害ニ關スルコト重大ナレハ特ニ其手續ヲ鄭重ニシタルナリ

第二百四十條

裁判所ニ於テハ被告事件區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト認メタルトキト雖モ第一審ノ判決ヲ爲ス可シ

私訴ニ付キ其請求ノ價額通常民事上區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキ亦同シ

(講義)如何ナル事件ニ付キ如何ナル裁判所カ其裁判權ヲ有スルカハ裁判所所構成法ノ規定スル所ニシテ區裁判所ノ裁判權ト地方裁判所ノ裁判權トハ整然區畫ノ存スル所ナルニ本條ハ特ニ明文ヲ揭ケテ地方裁判所ニ於テ受理シタル事件カ若シ區裁判所ノ管轄ニ屬スルトキナリトモ管轄違ノ言渡ヲ爲サス本案ノ判決ヲ與フルモノナリトセリ之レ地方裁判所ハ區裁判所ノ上級裁判所ナレハ其審査上ノ手續モ之ヲ區裁判所ノ審査手續ニ比セハ一層ノ鄭重ヲ加ヘアルヲ以テ

區裁判所ノ權限ニ屬スル事件ヲ地方裁判所ニ管轄セシムルモ毫モ被告人ニ不利益ヲ來スコトナキノミナラス若シ之ニ對シテ管轄違ノ言渡ヲ爲スヘキモノトストキハ時日ト費用ヲ空費シ何等利益スル所ナケレハナリ乍併此判決ハ地方裁判所カ區裁判所ニ對シ第二審裁判所タルノ資格ヲ以テ覆審シタルモノニ非ラズ單ニ初度ノ審理ヲ爲シタルニ過キサレハ之レ第一審ノ判決ニシテ第二審ノ判決ニ非ラサルナリ故ニ其判決ニ不服ナルトキハ控訴院ニ控訴ヲ提起シ第二審裁判所トシテ審判ヲ受クルコトヲ得ルモノトス

私訴ヲ公訴ニ附帶スルコトヲ許セルハ審理ヲ再ヒセサルノ便宜ニ出テタルモノナレハ其請求スル價格ヨリ云フトキハ假ヘ區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノナリトモ公訴事件ニシテ地方裁判所ニ係屬スル以上ハ管轄違ノ言渡ヲ爲スコトナク本案ノ判決ヲ與フヘキモノトス

第二百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリ

トスルトキハ其事件ヲ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲スコシ 檢事ノ請求アルトキ亦同シ

被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲サシムヘシ (明治四十一年三月法律第二十九號ヲ以テ改正)

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

(審議)地方裁判所ニ於テ輕罪ノ被告事件ニ付審理中檢事カ輕罪トシテ起訴シタル事件カ其實重罪ナリシコトヲ發見シタルトキ又ハ檢事ヨリ更ラニ其事件ヲ重罪トシテ訴追スルコトヲ申立

タル場合ニ於テハ其裁判所ハ如何ニ之ヲ處分スヘキカ此場合ニ於テハ其事件既ニ豫審ヲ經タルモノナルト否トニ因リ其手續ヲ異ニセリ以下各場合ヲ區別シテ説述セン

第一 豫審ヲ經サルトキ 豫審ヲ經サル場合ニ於テハ裁判所ハ其事件ヲ檢事ニ返付セス直チニ豫審判事ニ移送スルノ判決ヲ爲スヘキモノトス此場合ニ於テハ豫審判事ハ普通ノ手續ニ從ヒ豫審ヲ遂ケ其所信ニ基キテ決定スヘキナリ

第二 豫審ヲ經タルモノナルトキ 此場合ニ於テハ裁判所ハ公判ヲ止メ受命判事ヲシテ審理セシメ其報告ヲ聽キタル上ニテ公判ヲ開廷スヘキモノトス而シテ本場合ニ在リテハ受命判事ハ豫審判事ノ爲スヘキ處分ヲ爲シ得ルモノトス

何カ故ニ以上二個ノ場合ニ於テ異リタル手續ヲ設ケタルカ蓋シ豫審判事ハ終結ノ決定ヲ以テ其事件ヲ輕罪事件ナリトシテ其裁判所ニ附シタルモノナルトキハ既ニ審理ノ結果其事件ヲ輕罪ナリト裁判シタルモノナルカ故ニ特別ノ事故即チ新證據ヲ發見シタル場合ニ非サレハ豫審ヲ再ヒセサルヲ原則トスルノミナラス再度豫審判事ヲシテ其豫審ヲ爲サシムルハ恰カモ其爲シタル豫審終結決定ノ不當ナルヲ改メシムルト一般一事不再理ノ原則ニ反スレハ特ニ受命判事ヲ設ケ其事件ノ取調ヲ爲サシムルナリ

第五編 上訴

(審議)上訴トハ下級裁判所ノ與ヘタル未確定ノ裁判ニ對シ上級裁判所ニ向テ被告其他ノ訴訟關係人又ハ檢事カ其裁判ノ破棄更正ヲ求ムル攻撃方法ノ總稱ニシテ我刑事訴訟法ニ於テ上訴ト稱スヘキモノノハ之ヲ三種ニ別ツコトヲ得曰ク控訴、上告、抗告則チ之ナリ此他非常上告、再審ノ訴ナルモノアルモ全ク上訴トハ其性質ヲ異ニスレハ之ヲ區別シテ右三種ノ外ニ置ク

抑上訴ナルモノハ被告人チシテ冤枉ナカラシメ且ツ法律ノ適用ヲ正確ナラシムルノ目的ヲ以

テ設ケラレタルモノトス何故ニ然ルカ他ナシ裁判ナルモノハ司法權ニ基キ裁判所カ行フ處ノ作用ナリト雖モ其之ヲ實際ニ爲スモノハ判事其人ナレハ時ニ或ハ法ノ適用ヲ誤リ無辜ノ人ヲ罪スルコトナシトセス茲ニ於テカ法律ハ訴訟關係人ニ上訴權ヲ與ヘ上級ノ裁判所ニ向ケ之レカ覆審ヲ求ムルノ道ヲ設ケタルナリ

第一章 通則

(講義)本章ハ上訴即チ控訴、上告、抗告ニ共通スル法則ヲ規定シタルモノニシテ法條僅カニ八個ニ過キスト雖モ其適用ハ上訴全体ニ及フモノナレハ之ヲ等閑視スルヲ得サルナリ

第二百四十二條 檢事其ノ他訴訟關係人ハ法律ニ許シタル上訴ヲ爲スコトヲ得

檢事ハ被告人ノ利益ノ爲メニ亦上訴ヲ爲スコトヲ得

(講義)上訴ヲ爲ス權利ナ有スルモノハ不服ナル裁判ヲ攻撃スルニ依テ利益ヲ有スルモノナラサルヘカラス而シテ其利益ヲ有スルモノハ檢事、被告及ヒ民事原告人ナリトス故ニ之等ノ者ハ上訴ヲ爲シ得ヘキナリ然レトモ上訴ヲ爲シ得ル權利ノ範圍ニ至リテ其間異ルモノアリ少シク左ニ之ヲ説明セン

第一 檢事 檢事ハ社會ヲ代表シ公訴ノ原告人タル者ナレハ上訴ヲ爲スニ付テモ最モ廣大ナル權能ヲ有スルモノニシテ被告及ヒ民事原告人カ無罪又ハ免訴ノ裁判ニ對シ上訴ヲ爲シ得サルニ反シ檢事ハ裁判所カ不當ニ被告ヲ過重ノ刑ニ處シタルトキハ勿論無罪又ハ免訴若クハ輕キニ失スル刑ヲ言渡シタルトキト雖モ上訴ヲ爲シ得ルモノトス蓋シ檢事ハ公益ノ保護者トシテ法律ノ規定ニ基キ自己獨特ノ權能ヲ有スルモノナレハ被告人ノ利不利ニ拘ハラズ公益ニ反スル裁判ヲ攻撃シ得ルナリ何トナレハ無辜ノ良民ニシテ無罪ノ罪ニ陷ランカ實際ノ惡徒ハ刑

罰ヲ免レ兇暴ヲ逞フシ以テ公益ニ危害ヲ與フヘク又兇徒ニシテ法網ヲ免レンカ國家カ直接ニ認メタル公益ハ害セラレ爲メニ公安ヲ維持スル能ハサルヲ以テナリ

第二 被告及ヒ民事原告人 之等ノ者ハ裁判即チ判決、決定、命令ニ付テ重大ナル利害ヲ有スル者ナレハ不服、裁判ニ對シ上訴ヲ爲シ得ルハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナリト雖モ之等ノ者ハ檢事ノ如ク廣大ナル上訴權ヲ有スルモノニ非スシテ只自己ノ利益ノ爲メニ上訴ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ其裁判カ公益ヲ害スルモノナリヤ否ヤハ素ヨリ容喙ヲ許サルモノトス故ニ被告ハ無罪、免訴、管轄違、公訴不受理等ノ裁判ニ對シ上訴ヲ爲スコトヲ得サルノミナラス被告カ犯罪ノ證據不十分ナリトシテ無罪ヲ言渡サレタルトキ又ハ刑ノ期滿免除等ニヨリテ犯罪行為アルヲ認メナカラ免訴トナシタル裁判ニ對シテモ自己ノ無罪ナルコトヲ證明センカ爲メ上訴ヲ爲スコトヲ許サルナリ之レ上訴ハ裁判其者ニ對スル攻撃ノ方法ニシテ理由其者ニ對スル攻撃方法ニ非サレハナリ

第二百四十三條 辯護人ハ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得被告人ノ明言シタル意思ニ反スルコトヲ得ス

(講義)辯護人ハ上訴ニ關シ被告人ヨリ特別ノ委任ヲ受ケサル場合ト雖モ被告人ニ不利益ナリト信スル裁判ニ對シテハ被告人ニ代リ上訴ヲ爲スコトヲ得ルモ元來辯護人ハ獨立シテ上訴ヲ爲シ得ルニ非ラスシテ代理人タル資格ニ於テ爲スモノナレハ若シ被告人カ其裁判ニ對シ上訴ヲ爲ササルノ意思ヲ明言シタルトキハ其意思ニ反シテ上訴ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第二百四十四條 被告人ノ法律上代理人ハ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得

(講義)法律上代理人ノ存スル場合ハ被告ハ常ニ未成年者若クハ癡癩白痴者等ノ類ニシテ之等無

能力者ハ公訴又ハ私訴ノ判決ヲ受クルト雖モ自ラ其判決ノ當否ヲ鑑別スルノ智能ナケレハ其一身ヲ代表スヘキ法律上ノ代理人ハ自己ノ權利トシテ別ニ無能力者ノ委任ヲ受クルコトナク上訴ヲ爲シ得ヘキモノトス

法律上代理人ノ上訴權ハ獨立ナレハ假令被告ハカ上訴ヲ爲スコトヲ欲セサル旨ヲ明言スルモ法律上代理人ハ被告ノ意思如何ニ拘ハラズ自己ノ所信ニ基キ上訴ヲ爲スコトヲ得ルナリ然レトモ此法律上ノ代理人カ爲ス上訴モ被告ノ爲メニ爲スモノニシテ自己ノ爲メニ爲スニ非サルハ畢竟其上訴ハ被告人其人ノ上訴タルニ過キス故ニ例ヘ被告人ヨリ上訴スルコトアリトスルモ其上訴ハ法律上代理人ノ上訴ト相合シテ一ノ上訴タルニ止マリ二個ノ上訴并ヒ存スヘキニアラス即チ本條ニ所謂獨立シテトハ被告人ノ意思如何ニ關セス其意思ニ反シテモ尙ホ上訴シ得ヘキヲ明言シタルナリ

第二百四十五條 拘留ヲ受ケタル被告人上訴ヲ爲スニハ其申立書ヲ監獄署長ニ差出シ署長ハ之ヲ其裁判所ニ送致ス可シ

(講義) 上訴ノ申立ハ上訴ニ係ル判決ヲ爲シタル裁判所ニ其申立書ヲ提出スルチ原則トスルモ被告人現ニ拘留ヲ受ケ居ルトキハ自體ノ自由ヲ缺キ普通人ノ如ク自由ニ之ヲ裁判所ニ致ス能ハサルハ本法ハ特ニ便法ヲ設ケ之等被告人ハ其申立書ヲ監獄署長ニ差出シ署長ヨリ之ヲ裁判所ニ送致スヘキモノトセリ

第二百四十六條 檢事ヲ除ク外上訴ヲ爲シタル者ハ其判決アルマテ何時ニテモ之ヲ取下クルコトヲ得

(講義) 權利者ハ自由ニ其權利ヲ處分シ得ルモノナレハ上訴モ亦一ノ權利ナルチ以テ其權利者ニ

於テ之ヲ處分シ得ヘキハ理ノ當ニ然ルヘキ處ナリ故ニ本條ハ之カ規定ヲ設ケテ曰ク檢事ヲ除ク外上訴ヲ爲シタル者ハ其判決アルマテ何時ニテモ之ヲ取下クルコトヲ得ト而シテ此原則ヨリ檢事ヲ除外シタルハ素檢事ハ國家ノ代表者トシテ公益ノ維持者トシテ上訴ヲ爲スモノナレハ一旦上訴シタル以上ハ自己ノ一心ヲ以テ自由ニ之カ處分ヲ許サルナリ之レ公訴權ハ檢事ノ自由ニ處分スルチ得ストノ原則ヨリ出テタルモノニシテ公訴權ハ國家ニ屬シ檢事ハ唯其委任ニ依リ之カ提起實行ヲ爲スモノニ過キサルハナリ之ニ反シテ其他ノモノニ至リテハ自己又ハ被告ニ代ハリテ上訴ヲ爲スモノニシテ其者自身ノ利益ヲ保護スル爲メ上訴スルモノナレハ自己ノ利益ヲ自ラ自由ニ處分シ得ヘキハ勿論ナルチ以テ之カ取下ハ何時タリトモ爲シ得ルナリ

法律上代理人カ獨立シテ爲シタル上訴ハ被告人自由ニ之ヲ取下クルコトヲ得ス之レ法律上代理人ハ被告人ノ意思ニ反シテモ上訴シ得ル第二百四十四條ノ規定ヨリ生スル當然ノ結果ナレトモ被告人ノ爲シタル上訴ハ法律上ノ代理人モ亦之ヲ取下クルコトヲ得サルナリ之レ此場合ニ於テハ法律上ノ代理人ニ對シテ別段ニ取下ノ權利ヲ付與シ有ラサレハナリ

上訴人ハ如何ナル時期マテ上訴ノ取下ヲ爲スコトヲ得ルヤ本條ハ之ヲ規定シテ曰ク上訴ノ判決アルマテ何時ニテモ之ヲ取下クルコトヲ得ト例ヘハ被告人控訴ヲ爲シ控訴審ニ於テ事實ノ審問ニ着手シタルトキ又ハ既ニ事實法律ノ審問ヲ結了シ判決宣告ノ一點ヲ遺ストキト雖モ上訴ヲ取下クルコトヲ得ルナリ何トナレハ其宣告ナキ間ハ未タ判決アリタルニ非サレハナリ而シテ之ヲ取下ケタルトキハ其結果トシテ前審即チ其一審ノ裁判確定スルニ至ルナリ

第二百四十七條 訴訟關係人天災其他避ク可カラサル事變ノ爲メ上訴期間ヲ經過シタル場合ニ於テ其旨ヲ疏明シタルトキハ期間ヲ經過シタルニ因リ失ヒタル權利ヲ回復スルコトヲ得但障礙ノ止ミタル日ヨ

リ通常ノ期間内ニ其疏明方法ヲ申立書ニ記載シ上訴ヲ爲スコシ

(講義)訴訟關係人ハ一定ノ期間内ニ上訴ヲ爲ササルトキハ法律ハ前判決ニ服從シタルモノト看做シ期間ノ經過ト共ニ上訴權ヲ失ハシム之レ無限ニ上訴權ヲ認ムルトキハ裁判ノ確定ヲ得ルニ由ナク社會刑罰權ノ行使ヲ妨クルヲ以テナリ然レトモ天災其他避ク可カラサル事變例ヘハ水火、震災、兵亂等ノ爲メ上訴期間ヲ經過シタル場合ニ於テハ其實及ヒ理由ヲ具申スルトキハ一旦失フタル上訴權ヲ回復スルコトヲ得セシム故ニ此場合ニ於テハ訴訟關係人ハ上訴實行ノ障礙ト爲リタル事變ノ止ミタル日ヨリ通常ノ期間内ニ其疏明方法ヲ申立書ニ記載シ上訴ヲ爲スヘキモノトス

第二百四十八條 前條ノ申立アリタルトキハ裁判所書記速ニ其申立書ヲ相手方ニ送達ス可シ相手方ハ三日内ニ答辯書ヲ差出スコトヲ得

上訴ヲ裁判ス可キ裁判所ニ於テハ檢事ノ意見ヲ聽キ先ツ其申立ヲ許ス可キヤ否ヤヲ決定ス可シ

(講義)訴訟關係人ヨリ前條ノ申立アリタルトキハ裁判所書記ハ速ニ其申立書ヲ相手方ニ送達セサルヘカラス而シテ相手方ハ其送達ヲ受ケタル日ヨリ三日ノ期間内ニ答辯書ヲ差出シ申立ニ付キ其意見ヲ述フルコトヲ得ルモノトス

上訴ヲ裁判ス可キ裁判所ニ於テハ口頭辯論ヲ開カスシテ決定ヲ以テ其申立ヲ許スヘキヤ否ヤヲ決スヘキモノニシテ若シ其申立ヲ理由アリト認ムルトキハ本案ノ上訴ヲ審査スヘキモノナルモ之ニ反シテ其申立ヲ棄却スルトキハ之ニ依リ前判決ハ直チニ確定スヘキモノトス

第二百四十九條 上訴完結ノ後其訴訟記録ハ上訴審ニ於テ爲シタル裁判ノ謄本ト共ニ第一審裁判所ニ之ヲ返還ス可シ

判ノ謄本ト共ニ第一審裁判所ニ之ヲ返還ス可シ

(講義)上訴裁判所ニ於テ事件ノ局ヲ結ヒタルトキハ訴訟記録ハ第一審裁判所ニ之ヲ送付シ其裁判所ニ保存スヘキモノトス之レ訴訟記録ハ刑ノ執行上有要ノモノニシテ刑ノ執行ハ之ヲ書渡シタル第一審裁判所ノ檢事ニ於テ之ヲ爲スヘキモノナレハナリ然レトモ上訴裁判所ニ於テモ後日如何ナル判決ヲ爲シタルカヲ知ルノ要アルヘシ故ニ謄本ハ他ノ訴訟記録ト共ニ第一審裁判所ニ送付スルモ原本ハ之ヲ上訴裁判所ニ保存シ他日ノ用ニ供スヘキモノトス

第二章 控 訴

(講義)控訴ハ第一審裁判所ノ裁判ニ對スル事實上及ヒ法律上ノ點ニ關シ攻撃スルノ方法ニシテ或邦ニ於テハ陪審制度ノ裁判ニ對シ之ヲ免ササルモ我國ニ於テハ其重罪事件ナルト輕罪事件ナルトニ論ナク凡テ控訴ヲ爲シ得ヘキモノトス

第二百五十條 控訴ハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第百八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得

(講義)控訴ハ第一審裁判所ノ裁判ニ對シ法律上及ヒ事實上ノ點ニ關シ其覆審ヲ求ムルヲ以テ目的トナスモノナレハ區裁判所又ハ地方裁判所ノ第一審裁判ニ對シ之ヲ爲シ得ヘキモノトス本案ノ判決トハ終局判決ノ意味ニシテ本案前ノ判決トハ公訴不受理ノ申立ヲ却下シタル判決及ヒ管轄違入申立ヲ棄却シタル判決ヲ云フナリ上告再審ノ如キハ其攻撃方法ニ關シ法律上一定ノ制限アルモ控訴ニ關シテハ則チ事實上ノ誤認ヲ攻撃スルモ手續上ノ違法ヲ攻撃スルモ將又スルモ當事者ノ自由ナリトス則チ事實上ノ誤認ヲ攻撃スルモ手續上ノ違法ヲ攻撃スルモ將又

實休法ノ適用ヲ誤リタルヲ理由トスルモ總テ法律ノ禁セサル所ナリ然レトモ控訴自体ニ於テ相當ノ理由ナキトキハ之ヲ棄却サルルノ結果ヲ免レヌ

第二百五十一條 控訴ハ判決ノ一部ニ限り之ヲ爲スコトヲ得若シ之ヲ限ラサルトキハ判決ノ全部ニ對シ控訴ヲ爲シタルモノト看做ス可シ

(講義)控訴ハ不服ナル判決ニ對シ爲スヘキモノナレハ不服ノ點判決ノ一部ニ存スルトキハ其一部ノミニ付キ控訴ヲ爲シ又其全部ニ付キ不服アルトキハ其全部ニ付キ控訴ヲ爲スコトヲ得ルモノトス故ニ若シ一部控訴ヲ爲サント欲セハ必ス控訴ヲ爲ス部分ヲ明示セサルヘカラス其明示ヲ缺キタルトキハ裁判所ハ全部ニ對シ控訴アリタルモノトシテ審理スヘキモノトス

第二百五十二條 控訴ノ期間ハ判決言渡アリタル日ヨリ五日トス
闕席判決ヲ受ケタル者ハ故障ノ期間内故障ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ爲スコトヲ得

(講義)控訴提起ノ期間ハ對席判決ニ對スル控訴ト闕席判決ニ對スル控訴トニヨリ其期間ヲ異ニス則チ對席判決ニ對スル控訴期間ハ判決言渡アリタル日ヨリ五日ニシテ此五日ハ總則第十五條ノ規定ニ依リ其言渡アリタル日ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス欠席判決ニ付テハ法律ハ特ニ例外ヲ設ケ被告人ノ撰擇ニ從ヒ故障ノ申立ヲ爲サスシテ直チニ控訴ヲ爲スコトヲ得セシメタリ此場合ニ於ケル期間ハ故障期間則チ三日ナリヤ普通控訴期間則チ五日ナリヤ又其起算點ハ何レニ在リヤ之ニ付テハ從來學說ノ存スル處ナルモ故障申立期間内ニ在ラザレハ控訴ヲ爲スコトヲ得スト解スル方穩當ナルヘシ

第二百五十三條 本案ノ判決ニ對スル控訴ノ期間内及ヒ控訴アリタル

トキハ判決ノ執行ヲ停止ス

(講義)控訴ノ期間内ハ訴訟關係人ヨリ控訴ヲ爲スト否トニ關セス判決ヲ未確定ニ置クモノナレハ其期間内ハ判決ノ執行ヲ停止スヘキモノトス尙又控訴期間内ニ控訴ノ申立アリタルトキハ其期間後ニ至ルモ同シク判決ノ執行ヲ停止セサルヘカラス何トナレハ控訴裁判所ハ他日原判決ヲ廢棄シ又ハ之ヲ變更スルコトアルヘケレハナリ

第二百五十四條 控訴ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判所ニ差出ス可シ

裁判所ハ控訴ノ申立アリタルコトヲ速ニ直手方ニ通知ス可シ

(講義)控訴ハ上告ト異リ其控訴ヲ爲スノ理由ヲ說明スルニ及ハス從テ上告審ニ於ケルカ如ク申立書以外ニ趣意書ト稱スルカ如キ特別ノ書面ヲ提出スルヲ要セス第一審裁判所ノ言渡シタル判決ニ服スル能ハサルヲ以テ茲ニ控訴ヲ爲セリトノ意思ヲ表明スレハ足ルナリ故ニ控訴ノ申立ハ申立書ヲ第一審ノ裁判所ニ提出シテ之ヲ爲スヘキモノトス此申立アリタルトキハ裁判所ハ速ニ之ヲ其相手方ニ通知スヘキモノニシテ則チ檢事控訴スレハ被告ニ被告控訴スレハ檢事ニ通知セサルヘカラス

第二百五十五條 原裁判所ニ於テハ期間ヲ經過シタル控訴ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

(講義)訴訟關係人一定ノ期間内ニ控訴ヲ爲ササルトキハ法律上前判決ニ服從シタルモノト看做スヘキモノナレハ若シ控訴申立方明ニ法定期間ニ經過セルモノナルトキハ控訴裁判所ニ訴訟記録ヲ送付スルモ何等益スル所ナク無益ノ費用ト消失スルニ過キサレハ原裁判所ハ期間ヲ經過シタル控訴ノ申立ニ對シテハ決定ヲ以テ其申立ヲ棄却スヘキモノトセリ而シテ此

決定ニ對シ不服ナルトキハ訴訟關係人ハ直チニ抗告ノ申立ヲ爲シ得ルナリ之レ控訴權保護ノ精神ヨリ出タルナリ

第二百五十六條 訴訟記録ハ檢事ヨリ控訴裁判所ノ檢事ニ送致シ其檢事ハ之ヲ裁判所ニ差出ス可シ

公訴ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合ニ於テ被告人拘留ヲ受ケタルトキハ檢事ヨリ之ヲ控訴裁判所ノ監獄ニ移ス可シ

釋義 控訴審ニ於テハ第一審裁判所ノ爲シタル判決其他豫審書類等ヲ了知シ以テ覆審ヲ爲スヘキモノナレハ原裁判所檢事ハ訴訟記録ヲ控訴裁判所ノ檢事ニ送致シ檢事ハ之ヲ裁判所ニ差出スヘキモノトス

被告人自身ノ出廷ハ第一審第二審ヲ問ハス審査手續上有益アレハ公訴ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合ニ於テ被告人拘留ヲ受ケ居ルトキハ原裁判所檢事ハ之ヲ控訴裁判所ノ監獄ニ移送セサルヘカラス尤モ移送ヲ要スルハ公訴ノ場合ニ限ルモノニシテ私訴ニ對スル控訴申立ノ場合ナルトキハ必スシモ被告人ノ移送ヲ要セサルナリ

第二百五十七條 控訴裁判所ニ於テハ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發シタル後其裁判ニ取掛ル可シ

呼出狀ノ送達ト出頭トノ間少クトモ二日ノ猶豫アル可シ

釋義 控訴申立アリタルトキハ控訴裁判所ハ口頭辯論ヲ開キ事實ノ覆審ヲ爲スヘキモノナレハ訴訟關係人ニ對シ呼出狀ヲ發スルコトヲ要スルナリ而シテ呼出狀ノ送達ト出頭トノ間ハ少ク

トモ二日ノ猶豫ヲ存セサルヘカラス控訴裁判所ハ右合法ノ呼出狀ヲ發シタル後ハ其事件ノ審査ニ取掛ルコトヲ得ヘキモノニ反シ呼出狀ヲ發セスシテ裁判ニ取掛リタルトキハ其判決ハ瑕疵アル判決トシテ上告ノ理由ト爲リ破毀セラルヘキモノトス

第二百五十八條 控訴ノ裁判ニ付テハ地方裁判所ノ第一審ニ關スル規定ヲ適用ス

第一審ニ於テ訊問シタル證人又ハ鑑定ヲ爲シタル鑑定人ハ控訴裁判所ニ於テ其再度ノ訊問鑑定ヲ必要ナリトセサルトキハ之ヲ呼出ササルコトヲ得

釋義 控訴裁判所ノ審理手續モ別ニ第一審ト異ルナキヲ以テ法律ハ別ニ特別ノ規定ヲ設ケス地方裁判所ノ第一審ニ關スル規定ヲ適用スルモノト爲セリ

控訴裁判所ハ第一審裁判所ト同シク事實裁判所ナレハ第一審裁判所方既ニ審査シタル事項ナルト否トニ論ナク一切ノ事實ヲ覆審スヘキモノナレトモ第一審ニテ訊問シタル證人鑑定人ノ陳述ハ其調査ニヨリ調査ヲ遂ケ以テ證據ト爲スコトヲ得ヘケレハ必スシモ其證人鑑定人ヲ呼出スコトヲ要セサルナリ然レトモ控訴裁判所ニ於テ其事件ノ審理上再度ノ訊問鑑定ヲ必要ナリトスルトキハ更ニ之ヲ呼出シ得ヘキハ勿論ナリ

第二百五十九條 控訴ノ相手方ハ其判決アルマテ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得

控訴裁判所ノ檢事モ亦附帶控訴ヲ爲スコト得

(講義) 附帶控訴トハ相手方カ判決ニ對シテ控訴ヲ申立タル場合之ニ附帶シテ爲ス處ノ控訴ノ名稱ナリ而シテ此控訴ヲ爲シ得ルモノハ被告人、民事原告人、檢事ニシテ之等ノ者ハ控訴期間内ナルト又ハ期間經過後ナルトナ間ハ主タル控訴ノ判決アルマテハ何時ニテモ之ヲ爲シ得ルモノトス

附帶控訴ハ主タル控訴ニ附從ニテ爲スヘキモノナレハ主タル控訴ニ對シテハ其性質上從タル地位ニ立ツヘキモノニシテ其運命ハ常ニ主タル控訴ニ左右セラレヘキモノトス故ニ若シ主タル控訴カ取下ケラレタルトキハ從タル處ノ附帶控訴ハ其立却點ヲ失フヲ以テ當然消滅ニ歸スヘキナリ假ヘハ被告人カ無罪ナリトシテ控訴ヲ爲シタルニ依リ檢事ハ之ニ附帶シテ控訴ヲ提起シ原判決ノ適用シタル刑ヨリモ他ノ刑ヲ適用セサルヘカラスト論スルモ若シ被告人ニシテ其控訴ヲ取下ケタルトキハ獨リ附帶控訴ノミ成立スルヲ得スシテ主タル控訴ト其運命ヲ共ニシ附帶控ノ訴モ亦自然消滅スルカ如シ

第二百六十條 控訴裁判所ニ於テハ控訴ノ期間内ニ於テ申立ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査シ期間ノ經過ニ係ルモノト認ムルトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却ス可シ

(講義) 本條ハ期間ヲ經過シタル控訴ノ處分方法ヲ規定シタルモノニシテ控訴裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ控訴期間内ニ控訴ノ申立ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査シ若シ期間經過後ニ於ケル控訴ナルトキハ判決ヲ以テ其控訴ヲ棄却スヘキモノトス

第二百六十一條 控訴裁判所ニ於テハ控訴ヲ理由ナシトスルトキハ判決ヲ以テ控訴ヲ棄却ス可シ控訴ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ取

消シ更ニ判決ヲ爲ス可シ

(講義) 控訴裁判所ニ於テハ前條ノ調査ヲ終リ其控訴ヲ適當ノモノト認メタルトキハ之ニ次テ控訴ノ理由如何ニ付キ審査セサルヘカラスト而シテ其控訴ヲ理由ナシトスルトキハ控訴棄却ノ判決ヲ爲スヘク尙又控訴提起ノ權利ナキモノヨリ申立タル控訴モ同シク棄却ノ判決ヲ下スヘキモノトス而シテ若シ控訴理由アリトスルトキハ原判決ヲ取消シ更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス果シテ然ラハ如何ナル控訴ハ正當ノ理由アリヤ抑控訴ハ上告ト異リ法定ノ原因アルヲ要スルモノニアラサレハ第一審裁判ニシテ事實并ニ法律ノ點ニ於テ錯誤又ハ違法ノ廉アルトキハ之ニ對スル控訴ハ常ニ正當ノ理由ヲ有スルモノトス

第二百六十二條 控訴裁判所ニ於テハ原裁判所ノ管轄違ナルコトヲ認メタルトキハ原判決ヲ取消ス可シ此場合ニ於テ拘留ヲ要スルモノト認メタルトキハ前拘留狀ヲ存シ又新ニ拘留狀ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付ス可シ

原裁判所ニ於テ不當ニ管轄違ヲ言渡シタルトキハ其判決ヲ取消シ事件ヲ其裁判所ニ差戻スヘシ

(講義) 控訴裁判所ニ於テ第一審裁判所ハ管轄違ノ事件ニ對シ判決ヲ下シタルモノナリト認メタルトキハ第一審判決ヲ取消スヘキモノトス之レ第一審裁判所ハ權限外ノ裁判ニ對シ不當ニ裁判ヲ與ヘタルモノナレハ判決ノ不法ナルコト明ニシテ別ニ本案ノ裁判力正當ナリヤ否ヤヲ審査スルヲ要セサレハナリ此場合ニ於テハ控訴裁判所ハ被告人ヲ拘留スルヲ要スト認ムルト

キハ第一審裁判所カ發シタル拘留狀ヲ存續シ又ハ新ニ拘留狀ヲ發シ其事件ヲ檢事ニ交付スヘキモノトス
 控訴裁判所ハ第一審裁判所トシテ本案ニ付キ判決ヲ爲スノ權限ヲ有セサレハ若シ第一審裁判所カ其事件ニ付キ正當ニ管轄權ヲ有スルニモ拘ハラス不當ニ管轄違ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ原判決ヲ取消シ其事件ヲ判決ヲ與ヘタル裁判所ニ差戻シ更ニ判決セシムヘキモノトス

第二百六十三條 前條第一項ノ場合ニ於テ控訴ヲ受ケタル地方裁判所自ラ其事件ニ付キ第一審第一審第一審トシテ裁判權ヲ有スルトキハ更ニ其事件ニ付キ判決ヲ爲ス可シ但事件重罪ナルトキハ第二百四十一條ノ規定ニ從ヒ處分ス可シ

(講義) 前條第一項ノ場合ニ於テ控訴ヲ受ケタル地方裁判所自ラ其事件ニ付キ第一審裁判所トシテ裁判權ヲ有スルトキハ假ヘハ區裁判所ニ於テ自己ノ管轄ニ屬セサル重罪事件ニ對シ判決ヲ與ヘタルニ被告人ハ此判決ヲ不當トシ之ヲ地方裁判所ニ控訴シタリト假定セシム此場合ニ於テハ地方裁判所ハ區裁判所ノ判決ハ管轄權ヲ有セサル事件ニ對シ判決ヲ下シタルモノナリト認ムルモ同時ニ自ラ第一審裁判所トシテ裁判權ヲ有スルコトヲ認メタルトキハ原判決ヲ取消スニ止マラス進テ本案ニ付キ判決ヲ爲スヘキモノトス而シテ若シ其事件重罪ナルトキハ第二百四十一條ノ規定ニ從ヒ其事件ヲ豫審判事ニ送付スルノ決定ヲ爲シ若シ被告人拘留ヲ受ケサルトキハ拘留狀ヲ發スヘク又既ニ豫審判事ニ送付スルノ決定ヲ爲シ若シ被告人拘留ヲ受ケサルテ裁判スヘキノ決定ヲ爲シ受命判事ヲ選任シ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲シシムル等ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

第二百六十四條 控訴院ニ於テ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件重罪ナリトスルトキ又ハ其事件ヲ重罪ナリトシテ主タル控訴又ハ付帶控訴アリタルトキハ其公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲シシムヘシ (明治四十一年三月法律第二十九號ヲ以テ改正)

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得
 本條ノ場合ニ於テ被告人辯護人ヲ選任セサルトキハ第二百三十七條第二項ノ規定ニ從ヒ裁判長ノ職權ヲ以テ辯護人ヲ選任ス可シ

(講義) 控訴院ニ於テ輕罪事件ヲ重罪事件ナリトスルハ如何ナル場合ナリヤト云フニ左ノ二個ノ場合アリ今左ニ之ヲ説明セン
 第一 控訴院カ控訴ヲ受理シテ公判廷ヲ開ク以前カ又ハ既ニ公判廷ヲ開テ後チ地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタル事件ヲ控訴院自ラ之ヲ重罪ナリトスルトキ
 第二 地方裁判所カ輕罪ナリトシテ判決シタル事件ヲ檢事ヨリ重罪事件トシテ主タル控訴ヲ爲スルカ又ハ檢事ヨリ重罪事件トシテ附帶控訴ヲ爲シタルトキ
 ● 右二個ノ場合ニ於テハ控訴院ハ其公判ヲ中止シ受命判事ヲシテ其取調并ニ報告ヲ爲シシムヘキモノナリ茲ニ注意スヘキハ此場合ハ前條ノ場合ト異リ其事件未タ豫審判事ニ送付サルモノナリヤ否ヤハ少シモ之ヲ問フナ要セス常ニ受命判事ニ委付シ受命判事ヲシテ豫審判事ニ屬スル一切ノ處分ヲ爲シシムヘキモノニシテ豫審判事ニ送付スヘキモノニアラス之レ蓋シ控訴院ニハ豫

審判事ナキヲ以テナリ

重罪事件ニ對シテハ必ス辯護人ヲ付スヘキモノナレハ本條ノ場合ニ於テモ被告人若シ辯護人ヲ選任セザルトキハ被控長ハ職權ヲ以テ第二百三十七條第二項ノ規定ニ從ヒ辯護人ヲ選定ス可キモノナリ

第二百六十五條

被告人、辯護人又ハ法律 上代理人ノミ控訴ヲ爲シタルトキハ原判決ヲ變更シテ被告人ノ不利益ト爲スコトヲ 許サス 被告人ノ利益ノ爲メ檢事ヨリ控訴ヲ爲シタルトキ亦同シ

(講義) 被告人辯護人又ハ法律上代理人若クハ檢事ヨリ被告人ノ利益ノ爲メ控訴ヲ爲シタルトキハ控訴裁判所ハ第一審裁判ヲ取消シ更ニ裁判ヲ爲スニ當リテ事實ノ認定及ヒ法律ノ適用ニ付テハ自由ナル判決ヲ下シ得ヘキモ第一審ノ言渡タル刑ヨリ重キ刑ヲ言渡スコトヲ得サラシム之レ被告力控訴ヲ爲シ又ハ檢事法律上ノ代理人力被告ノ利益ノ爲メニ控訴シタル場合ニ於テハ其何レノ場合ナ問ハス被告其者ノ利益ヲ保護スルノ目的ニ出タルモノナレハ裁判所ニ於テ審理ノ結果前審ヨリ重キ犯罪ナリトシテ更ニ重キ刑ヲ科センカ議論ハ兎ニ角實際ヨリ見ルトキハ酷ニ失スル嫌ナキ能ハス故ニ法律ハ情實ヲ酌ミ特ニ明文ヲ掲ケテ此ノ制限ヲ設ケタルナリ

第二百六十六條

控訴申立人出頭セザルトキハ 闕席判決ヲ以テ控訴ヲ 棄却シ相手方出頭セザルトキハ 申立人ノ意見ヲ聽キ 闕席判決ヲ爲ス 可シ

(講義) 控訴申立人出頭セザルトキハ 闕席判決ヲ以テ控訴ヲ棄却スヘキモノトス凡ソ第一審ノ 闕

席判決ハ被告人缺席スルモ之方爲メニ不利益ノ推定ヲ受クルコトナシト雖モ控訴審ニ於テハ 控訴申立人缺席スルトキハ第一審ノ判決ニ服從シタルモノト推定スヘキヲ正理ナリトスルカ 故ニ本案ノ審理ヲ爲サス直チニ 闕席判決ヲ以テ控訴ヲ棄却スヘキモノトス而シテ又相手方合 式ノ呼出ヲ受ケタルニ拘ハラス開廷期日ニ出頭セザルトキハ既ニ抗辯權ヲ拋棄シタルモノトシ リトノ推定ヲ下スコトヲ得レハ控訴申立人ノ意見ヲ聽キ相手方缺席ノ 闕席判決ヲ爲スヘキモノト ス然レトモ若シ控訴申立人ニ於テ 闕席判決ヲ希望セザルトキハ更ニ期日ヲ定メ辯論ヲ再開ス ルモ何等妨ケナキナリ茲ニ注意スヘキハ本條ニ依レハ「控訴申立人出頭セザルトキハ 闕席判 決ヲ以テ控訴ヲ棄却ス」トアリ一見スルトキハ其控訴申立ハ獨リ被告人ヨリ控訴ヲ申立タル 場合ノミナラス檢事ヨリ控訴申立ヲ爲シタル場合ナモ包含スルモノ、如シト雖モ素檢事ハ裁 判所ヲ構成スル部員ニシテ其出席ナキトキハ裁判所ハ適法ニ構成サレタルモノト云フヘカラ サレハ檢事缺席スルモ本條ノ規定ヲ適用シ之ニ對シテ 闕席判決ヲ爲スヘキモノトニ非サルナリ

第三章 上 告

(講義) 上告ハ控訴ト同シク上訴ノ一種ニシテ前審ノ裁判其者ヲ攻撃スルノ方法タルコトハ二 者相異ル所ナシト雖モ控訴ハ前述ノ如ク法律上及ヒ事實上ノ點ニ關シ不服ヲ申立得ルモノナ レトモ上告ニ在リテハ唯法律ニ違背シタルコト則チ法則ヲ不當ニ適用シ又ハ法則ヲ適用セザ リシ等ヲ理由トシ前判決ヲ攻撃スル場合ニ限リ申立ツルコトヲ得ルモノニシテ其他ノ理由ヲ 以テシテハ申立ツルコトヲ得サルモノトス尙ホ控訴ノ判決ニ對シテハ若シ不服アルトキハ上 告ノ方法ニ依リ之ヲ救済スルノ道アリト雖モ上告審ニ在テハ其判決ハ最終ノ判決ニシテ再審 ノ原因アル場合ノ外ハ絕對ニ其判決ニ拘束セララルモノトス故ニ控訴ノ判決ニ在テハ言渡ト 同時ニ確定セザルモ上告審ノ判決ハ其言渡ニ依リ直チニ確定スルモノトス 凡ソ法律ノ解釋ト適用トハ全國一途ニ出ツルチ國家ノ幸福トスル所ナレハ其解釋ト適用トノ

當否ヲ定ムル上告裁判所ハ全國唯一ノ裁判所ト爲スヘキナ條理ニ於テ然リトス然ルニ現行構成法ニ依レハ上告審ハ獨リ大審院ノミナラス地方裁判所ノ控訴判決ニ對シテハ控訴院ヲ以テ上告審トセハ我國ニ在リテハ數個ノ上告裁判所現存シ甲控訴院ノ認メタル法律上ノ解釋ハ乙控訴院之ヲ認メサルコトアルヘク各自ノ所信ニ基キ相異リタル判決ヲ下セハ其結果同一ノ法律ニシテ同一國內ニ數個ノ解釋ヲ生シ判決ノ一途得テ望ムヘカラサレハ近キ將來ニ於テハ此弊或ハ除去セラレンカ

第二百六十七條

上告ハ地方裁判所又ハ控訴院ノ第二審ニ於テ爲シタル本案ノ判決及ヒ第百八十七條ニ規定シタル本案前ノ判決ニ對シ之ヲ爲スコトヲ得

(講義) 上告ハ如何ナル裁判ニ對シテ爲スコトヲ得ルヤ本條ニ依レハ上告ハ左ノ判決ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得ルナリ

第一 第二審ニ於テ爲シタル本案ノ判決 第二審ノ判決ハ地方裁判所ニ於テ之ヲ爲スコトアリ又控訴院ニ於テ之ヲ爲スコトアリ即チ區裁判所ノ判決ニ對スル控訴ニ付テハ地方裁判所ハ第二審トシテ之ヲ判決シ其地方裁判所ノ第二審ノ判決ニ對シテハ其管轄控訴院ニ上告ヲ爲スヘク又地方裁判所ノ判決ニ對シテハ控訴院ニ控訴スルモノニシテ控訴院ノ第二審ノ判決ニ對シテハ大審院ニ上告スヘキモノトス之等第二審ノ判決ニ對シ上告ヲ以テ攻撃スルニハ必スヤ本案ノ判決タルコトヲ要スルモノニシテ本案ノ判決トハ公訴ノ成否ヲ決スル終局判決ヲ云フナリ

第二 本案前ノ判決 本案前ノ判決トハ第百八十七條ニ規定シタル管轄違又ハ公訴受理ス可カラサルノ申立ヲ却下シタル判決ニシテ此判決ニ付テハ本案ノ審理ニ入ラサル前ニ於テ一ノ

請求ヲ棄却シタルモノナリト雖モ此判決ハ直チニ本案ニ關係ヲ及ホスモノナルヲ以テ本案前ノ判決ナルモノニ對シテ上告ヲ許セシナリ

裁判所ノ判斷ハ獨リ判決ニ止マラス決定、命令ナルモノアルモ上告ハ必ラス右ニ述ヘタル第一第二ノ判決ニ對スルニ非サレハ之ヲ爲ス能ハサルモノニシテ判決ナル以上ハ其對席判決ナルト缺席判決ナルトチ問ハサルナリ

第二百六十八條

上告ハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

法則ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルトキハ法律ニ違背シタルモノトス

(講義) 上告ハ前ニ述ヘタル如ク法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ上告裁判所カ法律違背ノ點ニ關シ審査權アルハ單ニ實体法上ノ點ノミニ限ラス手續法上ノ點ニ付テモ亦同一ナリトス而シテ如何ナル場合カ法律ニ違背シタルモノナルヤハ本條第二項ノ定ムル所ニシテ原裁判所カ法則ヲ適用セス又ハ之ヲ不當ニ適用シタルトキハ其裁判ハ法律違背ノ裁判ナリトス

第二百六十九條

裁判ハ左ノ場合ニ於テ常ニ法律ニ違背シタルモノトス

第一、規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ

第二、法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事裁判ニ參與シ

上 訴

タルトキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除斥ノ理由ヲ主張シタルモ其效ナカリシトキハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

第三、判事忌避セラレ其忌避ノ申請ヲ理由アリト認メタルニ拘ハラズ裁判ニ參與シタルトキ

第四、裁判所ニ於テ其管轄又ハ管轄違テ不當ニ認メタルトキ

第五、法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セザルトキ

第六、法律ニ定メタル場合ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽カザルトキ

第七、裁判所ニ於テ請求ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ爲サス又ハ職權ヲ以テ判決スルコトヲ得ヘキ場合ヲ除ク外請求ヲ受ケザル事件ニ付キ判決ヲ爲シタルトキ

第八、判決ヲ公行セズ又ハ公開ヲ禁スル言渡ナクシテ辯論ヲ公ニセザルトキ

第九、裁判ニ理由ヲ付セズ又ハ其理由ノ齟齬アルトキ

第十、擬律ノ錯誤アルトキ

（審裁）手續ノ違法カ判決ニ影響ヲ及ホスヘキヤ否ヤハ豫メ列舉シ得ヘキ所ニ非ス必スヤ各場合

ニ付キ上告裁判所ノ認定ニ依リ上告ノ理由ト爲リ得ルヤ否ヤヲ定ムヘキモノナルモ本條ニ掲記シタル第一乃至第十ノ各項目ニ適合スヘキ不當ノ判決アルトキハ上告裁判所ハ判決ニ影響ヲ及ホシタルヤ否ヤヲ監督スルコトナグ直チニ其裁判ハ原判決ニ影響ヲ及ホスモノトシ上告ノ理由アリトシテ原裁判ヲ破毀スヘキモノナリ故ニ法律ハ規定シテ附ク「裁判ハ左ノ場合ニ於テ常ニ法律ニ違背シタルモノトス」ト

以下法律カ常ニ法律違背ナリトスル各場合ニ付キ略述セン

第一、規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セザリシトキ 裁判所ハ法律ノ規定ニ從ヒ構成シテ初メテ裁判ヲ爲スノ權限ヲ有スルモノナレハ此資格ヲ缺キ爲シタル判決ハ判決ノ假面ニシテ眞ノ判決ニ非ス之レ此判決ニ對シ上告ヲ許シタル所以ナリ

第二、法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事裁判ニ參與シタルトキ 判事カ職務ノ執行ヨリ除斥セラレヘキ場合ハ第四十條ノ規定セル處ニシテ此除斥タルヤ裁判ノ公平ヲ維持スルニアリ然ルニ一旦除斥セラレタル判事ニシテ再ヒ裁判ニ參與センカ其判決タルヤ公平適實ナルモノト云ヒ難キノミナラス若シ其裁判ヲ有効ナラシメンカ第四十條ノ規定ハ徒法タルチ免レス之レ此判決ニ對シ上告ヲ許シタル所以ナリ

第三、判事ノ忌避セラレ其忌避ノ申請ヲ理由アリト認メタルニ拘ハラズ裁判ニ參與シタルトキ 判事ノ忌避セラレル場合ハ第四十一條ノ規定セル處ニシテ其忌避ノ申請ヲ理由アリト認メタルニ拘ハラズ其判事裁判ニ參與スルトキハ第二ノ場合ト同シク其裁判ハ公平無私ノモノト云フヲ得ス之レ上告ノ理由タラシムル所以ナリ

第四、裁判所ニ於テ其管轄又ハ管轄違テ不當ニ認メタルトキ 管轄ニ非サル裁判所カ事件ヲ自己ノ管轄ナリトシテ判決ヲ與ヘタルトキ又ハ法律上管轄ヲ有スヘキ事件ナルニ其裁判所カ誤テ之ニ對シテ管轄違テ言渡シタルトキハ孰レモ法律ニ違背シタル不當ノ裁判タルヤ明ナリ之レ此判決ニ對シ上告ヲ許シタル所以ナリ

第五 法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサルトキ 公訴權ノ消滅事項ハ第六條ニ規定セル所ナルニ若シ檢事ニ於テ同條第一乃至第六ノ中其一ニ當ル事件ヲ起訴シ裁判所之ヲ受理シテ判決ヲ與ヘンカ之レ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタルモノナリ尙ホ又裁判所ハ檢事ヨリ正當ナル手續ヲ以テ公訴アリタル場合ハ之ヲ審理判決スルノ責アルニモ拘ハラズ謂レナク公訴ヲ受理セサルニ於テハ一切ノ罰則ハ遂ニ其實効ナキニ至リ其害延テ那邊ニ至ルヤ知ルヘカラス之レ則チ法律ニ背キ公訴ヲ受理セサルモノニシテ前者ト共ニ法律ニ違背シタルモノタルヤ明ナリ故ニ法律ハ其裁判ニ對シ上告スルヲ得セシメタルナリ

第六 法律ニ定メタル場合ニ於テ檢事ノ意見ヲ聽カサルトキ 刑事訴訟手續中重大ナル事項若クハ公益ニ關スル事項ハ裁判所又ハ判事ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後ニアラサレハ裁判スルヲ得サルモノトス之レ裁判官ノ專權ヲ防止スルト同時ニ裁判ノ公平ヲ維持センカ爲メナリ然ルニ若シ裁判官ニ於テ檢事ノ意見ヲ聞クコトナク判決ヲ下サンカ其判決ハ法律ニ違背シタルモノタルヤ無論ナレハ此判決ニ對シテモ上告スルヲ得セシメタリ

第七 裁判所ニ於テ請求ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ爲サス又ハ職權ヲ以テ判決スルコトヲ得ヘキ場合ヲ除ク外請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シタルトキ 裁判所ハ適法ナル訴ヲ受ケタルトキハ之ニ對シテ判決ヲ下スノ職責ヲ有ス然ルニ裁判所カ單ニ訴訟ノ一部ニ付キ判決ヲ爲シ他ノ一分ニ付キ判決ヲ與ヘサルトキハ其裁判タルヤ法律ニ違背シタルモノタルコトヲ免レヌ尙又不告不理ハ訴訟上一般ノ原則ナルニモ拘ハラズ裁判所カ請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ與ヘタリトセンカ其判決ハ違法タルヲ免レヌ故ニ此場合ニ於テモ前場合ト共ニ其判決ニ對シ上告スルコトヲ許シタリ然レトモ此原則ニハ一ノ例外アリ即チ裁判所カ職權ヲ以テ判決スルコトヲ得ヘキ場合假ヘハ附帶犯罪ノ場合ノ如キハ假令請求ヲ受ケサル事件ト雖モ之ニ對シテハ判決スルコトヲ得ルモノトス此判決ニ對シテハ上告ノ理由トスルヲ得サルナリ

第八 判決ヲ公行セス又ハ公開ヲ禁スル言渡ナクシテ辯論ヲ公ニセサルトキ 裁判ノ辯論及ヒ判決ヲ公行スヘキハ憲法上ノ大原則ナルニモ拘ハラズ判決ヲ公行セス又ハ辯論ヲ公ニセサルトキハ之レ法律ニ違背シタルモノニシテ被告人ノ利益ヲ無視シタル行爲ナレハ此判決ニ對シテモ上告ヲ許シタリ然レトモ事件ノ種類情況ニ依リテハ辯論ヲ公開スルニ依リ反テ公安秩序若クハ風俗ヲ害スルノ恐レアルコトアリ此場合ニ於テハ公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シ之ヲ言渡シタルトキハ假令辯論ヲ公ニセサルモ上告ノ理由トハナラサルナリ

第九 裁判ニ理由ヲ付セス又ハ其理由ノ齟齬アルトキ 裁判ニ理由ヲ付スヘキハ第二百三條ノ規定シタル處ニシテ有罪ノ判決ヲ爲スニハ其被告ニ科スヘキ刑罰ヲ明ニシ被告ノ所罰セラルルニ至ル原因タル事實并ニ其事實ヲ如何ナル證據ニヨリテ認定シタルカ其事實アリトシテ被告ハ何故ニ所罰セララルルカノ理由ヲ明示シ法律ノ適用ヲ明確ナラシメサルヘカラス然ルニ之ヲ判決ニ指示セサルトキハ違法タルヲ免レヌ而シテ又假ヘ其裁判ニ事實及ヒ法律ノ理由ヲ付スルモ其理由完備セサルトキハ之レ亦法律ニ違背シタル判決ニシテ共ニ上告ノ理由タルヘキモノトス

第十 擬律ノ錯誤アルトキ 擬律ノ錯誤トハ事實ニ適合セサル法條ヲ問擬スルノ謂ニシテ換音セハ法律ノ適用ヲ誤リタルヲ云フ之ヲ例セハ輕罪ノ刑ヲ認メツツ重罪ノ刑ヲ言渡シ遺審罪ノ刑ヲ認メツツ輕罪ノ刑ヲ言渡スカ如キヲ云フ之等ハ法律違背ノ殊ニ著明ナルモノナレハ其判決ニ對シ上告ヲ許スヘキヤ勿論ナリ

第二百七十條 免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テハ被告人ノ利益ノ爲メ設ケタル規定ニ背キタルコト又ハ土地ノ管轄違アリト雖モ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

上 訴

(講義) 利益ナケレハ訴權ナシ故ニ法律ハ前條ノ規定ニ例外ヲ設ケテ曰ク免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テハ被告人ノ利益ノ爲メニ設ケタル規定(例ハ第二百二十條第二項ノ被告人ヲシテ最終ニ供述セシムルノ規定第二百二十七條ノ辯護人選任ノ規定等)又ハ土地ノ管轄(例ハ速捕ノ地ヲ管轄スル裁判所ニ非サルニ其管轄ナリト誤認シテ裁判シタルトキノ如シ)アリト雖モ上告ノ理由ト爲スコトヲ得スト

前ニ述ヘタル如ク上告ハ法律ニ違背シタルコト則チ法則チ不當ニ適用シ又ハ法則チ適用セザリシ等ヲ理由トシテ前判決ヲ攻撃スル場合ニ限り申立ツルコトヲ得ルモノニシテ其性質タルヤ被告人ノ利益ノ爲メニ設ケラレタルモノナレハ例ハ判決ヲ法律ニ違背スルコトアリトスルモ既ニ被告人カ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタルトキハ其判決ヲ破毀シ更ニ判決ヲ受ケルノ必要モ存スルコトナケレハ自己ノ利益ニ反スル訴ハ上訴ノ趣旨ニ反スルヲ以テ之ヲ免ササルナリ

第二百七十一條 上告申立ノ期間ハ判決ノ言渡アリタル日ヨリ三日トス

(講義) 上告ヲ申立ツルニハ上告申立書ヲ差出スヘキモノニシテ其差出期間ハ原判決ノ言渡アリタル日ヨリ三日内ニシテ若シ其期間ヲ經過シタルトキハ上告申立ノ權利ヲ喪失スルモノトス

第二百七十二條 本案ノ判決ニ對スル 上告ノ期間内及ヒ 上告ノ申立アリタルトキハ拘留及ヒ 放免ノ言渡ヲ除ク外判決ノ執行ヲ停止ス

(講義) 裁判言渡シアリタル日ヨリ三日ノ間ハ法律カ判決ヲ受ケタル者ニ與ヘタル猶豫ノ期間ナレハ其確定ノ停止セラルルハ勿論判決ノ執行モ亦停止セラルヘキモノトス而シテ若シ上告ノ申立アリタルトキハ前場合ト同シク判決ノ執行ヲ停止セサルヘカラス何トナレハ此場合直チ

三刑ノ執行ヲ爲シ得ヘシトセハ被告人ハ亦回復スヘカラスルノ損害ヲ蒙ルコトアルヘク之ヲ始ント上告ヲ爲シ得サルト一般ニシテ上告ヲ認メタル法律ノ精神ニ背戻スレハナリ然レトモ上告ノ期間内及ヒ上告ノ申立ハ常ニ判決ノ執行ヲ停止シ難キノ事情存スレハ此原則ニ對シ二個ノ例外ヲ設ケタリ

第一 拘留ノ言渡アリタル場合 此場合ニ於テハ例ヘ之ヲ執行スルモ他日無罪又ハ免訴ノ判決アルトキハ之ヲ放免スルコト容易ナルニ反シ若シ之ヲ執行セズ自由ニ放任スルトキハ犯人ハ逃亡奔竄シ社會ハ爲メニ非常ノ損害ヲ被ムルコトアルヘケレハナリ

第二 放免ノ言渡アリタル場合 放免ノ言渡ハ被告人ヲ無罪ノ人ト看做スヘキ場合ニ之ヲ爲スモノナレハ一旦之カ言渡ヲ爲シタル者ヲ拘禁シ其自由ヲ束縛スルカ如キハ甚々苛酷ニ失スルノミナラス人身ノ自由ヲ貴重スル點ヨリ見ルモ事理ニ適シタルモノト謂フヘカラス之レ此例外ノ存スル所以ナリ

第二百七十三條 上告ヲ爲スニハ其申立書ヲ原裁判所ニ差出ス可シ

原裁判所上告申立書ヲ受取リタルトキハ速ニ其謄本ヲ相手方ニ送達ス可シ

(講義) 上告ニ付テハ嚴格ナル方法ヲ要スルモノナレハ口頭ヲ以テ陳述スルヲ許サズ必ス書面ヲ以テ上告ノ意思ヲ表明スヘキモノトス而シテ其申立ハ條理ヨリ云フトキハ上告裁判所ニ提出スヘキモノナルモ之カ受理ノ權限ヲ原裁判所ニ與ヘタル所以ハ原裁判所ハ訴訟關係人其他ノ所在地ナレハ之ヲ原裁判所ニ差出サシムルトキハ其便益僅少ナラサルヲ以テナリ而シテ原裁判所ハ右ノ申立書ヲ受取リタルトキハ速ニ其謄本ヲ相手方ニ送達スヘキモノトス

本條ハ上告申立ヲ爲シタル日ヨリ五日内ニ其趣意書ヲ提出スヘシトノ規定ヲ改正シタルモノニシテ之カ改正ヲ爲ササルトキハ趣意書ハ上告成立ノ一要件ナレハ例令上告申立書ハ其期間

内ニ提出スルモ趣意書ノ提出ニシテ五日ヨリ遅ルルトキハ上告ハ其効力ヲ失シ大ニ上告人ノ
權利伸張ニ妨害ヲ來スヲ以テ本條ハ此點ニ着目シ趣意書ノ提出ヲ上告成立ノ要件トセス例令
上告趣意書ヲ差出サスシテ上告スルモ上告ハ常に成立スルモノトシテ上告人ノ權利ヲ確實ニ
ナシタルナリ

**第二百七十四條 法律ノ方式ニ違ヒ又ハ期間ヲ經過シタル上告ノ申立
ハ原裁判所決定ヲ以テ之ヲ棄却ス可シ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲ス
コトヲ得**

(講義)上告ヲ爲スニハ法律ニ定メタル方式ヲ遵奉スルヲ要ス又一定ノ期間内ニ上告ヲ爲ササル
トキハ法律上前判決ニ服從シタルモノト看做スヘキモノナレハ上告人ニ於テ其方式及ヒ期間
ヲ遵奉セスシテ上告ヲ爲シタルトキハ原裁判所ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却スヘキモノトス而シテ
上告人此規定ニ對シ不服ナルトキハ直チニ抗告ノ申立ヲ爲シ得ヘキナリ之レ上訴權保護ノ精
神ニ基キタルナリ

**第二百七十五條 上告ノ申立適法ナルトキハ 原裁判所ハ訴訟記録ヲ其
裁判所ノ檢事ニ送致シ檢事ハ之ヲ上告裁判所ノ檢事ニ送致ス可シ
上告裁判所ノ檢事ハ訴訟記録ヲ其裁判所ニ送致ス可シ**

(講義)上告ノ申立適法ナルトキハ原裁判所ハ訴訟記録ヲ其裁判所ノ檢事ニ送致シ檢事ハ之ヲ上
告裁判所ノ檢事ニ送致スヘキモノトス之レ檢事ハ一体ニテ其職務ヲ執行スルモノナリト雖モ
各司掌スル所ノ職分アリテ區裁判所檢事ノ事務ハ區裁判所所屬ノ檢事之ヲ行ヒ地方裁判所ノ

檢事ノ事務、控訴院ノ檢事ノ事務、大審院ノ檢事ノ事務ハ各々其裁判所所屬ノ檢事之ヲ行フ
モノナレハ上告ニ就テノ訴訟記録ハ原裁判所檢事ヨリ上告裁判所檢事ニ送致シ之ヲシテ其事
件ノ頭末ヲ知了セシムルノ必要アレハナリ

右訴訟記録ノ送致ヲ受ケタル上告裁判所ノ檢事ハ又之ヲ其裁判所ニ差出スヘキモノトス之レ
其裁判所ハ其記録ニ依リ事件ヲ了知シ之ニ據テ審査スヘキモノナレハナリ
**第二百七十六條 重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者 上告ヲ爲シ又ハ檢事ヨ
リ重罪ノ刑ニ該ル可キモノトシテ 上告ヲ爲シタル 場合ニ於テ被告人
自ラ辯護士ヲ選任セサルトキハ上告 裁判所長ハ其裁判所所在地ノ辯
護士中ヨリ之ヲ選任ス可シ**

(講義)上告裁判所ハ事實ノ審理ヲ爲サス主トシテ原裁判カ法律ニ違背セサルヤ否ヤヲ審理スル
モノナレハ訴訟關係人自身ニ出頭ヲ命ジ上告ノ趣意ヲ辯明セシメ又ハ答辯ヲ爲サシムルコト
ヲ要セスト雖モ上告審ハ第一審第二審ト異リ最終ノ判決ヲ爲スモノナレハ被告人ニ對シ重大
ナル利害ノ關係ヲ有ス故ニ本條ハ其手續ヲ鄭重ニシ重罪事件ニ付テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者
自ラ上告シ又ハ檢事ヨリ上告シタル場合ニ於テ被告人自ラ辯護士ヲ選任セサルトキハ上告裁
判所長ハ職權ヲ以テ其裁判所所屬ノ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘキモノトセリ
茲ニ注意スヘキハ第二百三十七條ニ依リ被告人ノ選任スヘキ辯護人ハ必スシモ辯護士タルコ
トヲ要セス裁判所ノ許可アルトキハ辯護士ニ非サルモノヲ以テ辯護人ト爲スコトヲ得ト雖モ
本條ノ辯護人ハ必ス辯護士タルヲ要スルノ點ナリトス蓋シ第一審第二審ニ於テハ事實ノ審理
ヲ爲スヘキモノナレハ辯護士ニ非サルモノニテモ十分辯護ノ任ニ耐エ得ルニ反シ上告裁判所
ハ法律適用ノ當否ヲ審査スルモノナルヲ以テ法律思想ニ乏シキモノニテハ十分其任務ヲ全フ

シ能ハサルニ依リ本條ハ特ニ辯護士ト限定シタルナリ

第二百七十七條

上告裁判所ハ遅クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ三十五日前ニ其期日ヲ上告申立人及ヒ相手方ニ通知ス可シ但辯護士ヲ選任シタル者ニ付テハ此限ニ在ラス

最初ニ公判期日ヲ定ムル前選任シタル辯護士ニ對スル呼出狀ノ送達ト最初ニ定メタル公判期日トノ間ニハ少クトモ三十五日ノ猶豫ヲ存ス可シ

(講義)上告裁判所ハ遅クトモ最初ニ定メタル公判期日ノ三十五日前ニ其期日ヲ上告申立人及ヒ相手方ニ通知スルヲ要ス此ノ三十五日ノ期間ハ辯論準備ノ猶豫期間ナレハ若シ之ヨリ短キ期間ヲ定メタルトキハ訴訟關係人ハ異議ノ申立ヲ爲シ得ヘキモノトス

第二百七十八條

上告人ハ遅クトモ最初ニ初メタル公判期日ノ十五日前ニ趣意書ヲ上告裁判所ニ差出す可シ

(講義)上告人ハ遅クトモ最初ニ初メタル公判期日ノ十五日前ニ趣意書ヲ上告裁判所ニ差出すヘキモノトス何トナレハ上告申立書ナルモノハ單ニ上告ヲ申立ツル旨ヲ記載シアルニ止マルモナレハ其申立書ノミニテハ上告ノ範圍及ヒ目的判明セサレハナリ

本條ハ上告申立ニ關スル現行法改正ノ一大眼目ナルナリ現行訴訟法ハ上告趣意書ヲ上告申立ヲ爲シタル日ヨリ五日内ニ差出ササルトキハ上告ハ不成立ニ終リ上告人ノ權利ヲ伸張スルニ於テ甚タ不便ヲ感シタリシカハ之ヲ改正シ趣意書ハ公判期日ノ十五日前ニ提出スレハ上告ハ成立スルモノトシテ上告人ノ權利ヲ確保セシナリ

第二百七十九條

上告ノ相手方ハ前條ノ期間内ニ上告ヲ爲スコトヲ得前項ノ上告ハ趣意書ヲ上告裁判所ニ差出すニ依リテ之ヲ爲ス

(講義)上告ノ相手方モ亦々上告ヲ爲シ得ルナリ本條之カ上告ヲ前條ノ期間内即チ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前トシ上告期間内ト其期間經過後トチ間ハサルハ元來訴訟關係人中ニハ多少原判決ニ服從セサル点アルモ其利害關係ノ小ナルカ爲メ手數ト費用トヲ要スルヲ恐レ自ラ進テ上告ヲ爲ササルモノナキニアラス然ルニ相手方ニ於テ其判決ニ對シ上告ヲ爲シタルトキハ止テ得ス手數ト費用トヲ要スルカ故ニ此場合ニ於テハ上告ヲ爲サスシテ其期間ヲ徒過シタル者モ亦自ラ抱ク點ヲ改メント欲スルノ意思ヲ發スルハ人情ノ常ナレハ一旦上告ニシテ有效ニ繫屬シタル以上ハ其相手方ニ上告ヲ許スモ夫カ爲メ訴訟ノ終局ヲ遅滯スルノ虞アラサレハ例令上告期間ヲ經過シタルモノト雖モ最初ニ定メタル公判期日ノ十五日前ナレハ上告趣意書ヲ上告裁判所ニ差出すニ依テ上告ハ有效ニ成立スト爲シタルナリ

第二百八十條

上告裁判所趣意書ヲ受取りタルトキハ速ニ其謄本ヲ相手方ニ送達ス可シ

(講義)法定ノ期間内ニ當事者ヨリ趣意書ヲ差出シタルトキハ上告裁判所ハ其謄本ヲ速ニ相手方ニ送達スヘキモノトス若シ裁判所其送達ヲ怠リタルトキハ相手方ハ上告ノ範圍及ヒ目的ヲ知ルコトヲ得サレハ裁判ノ開延ニ際シテハ當然其延期ヲ請求シ得ルナリ

第二百八十一條 上告ノ相手方ハ 趣意書ノ謄本ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ答辯書ヲ上告裁判所ニ差出スコトヲ得
上告裁判所答辯書ヲ受取リタルトキハ速ニ其謄本ヲ上告申立人ニ送達ス可シ

(講義)本條ハ答辯書差出ノ期間及ヒ其送達ニ關シ規定シタルナリ此規定タルヤ元來命令的ニアラサレハ答辯書ヲ差出スト否トハ一ニ相手方ノ任意ニシテ何等上告ノ成否ニ關係ナクモ相手方ニシテ趣意書ノ謄本ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ答辯書ヲ差出ササルトキハ裁判所ハ之ヲ權利ヲ抛棄シタルモノト看做シ上告申立人ノ陳述ヲ聞キ判決ヲ爲シ得ヘキモノトス然レトモ答辯書ヲ差出シタルトキハ速ニ其謄本ヲ上告申立人ニ送達セサルヘカラサルナリ

第二百八十二條 裁判長ハ受命判事ヲ定ムルコトヲ得

受命判事ハ趣意書及ヒ答辯書ヲ檢閱シ其報告書ヲ作ル可シ

(講義)上告裁判所ハ書類ニ基キ審理ヲ爲スモノナレハ之ヲ審理スヘキ數名ノ判事ヲシテ各別ニ調査ヲ爲サシムルトキハ或ハ其取調陳雜ニ流ルル恐レナキヲ保セサルハ裁判長ハ先ツ受命判事ニ命シ其事件ノ調査ヲ爲サシムルコトヲ得ルナリ而シテ受命判事ハ趣意書、答辯書ヲ檢閱シ原裁判所ハ如何ナル判決ヲ下シ何人カ之ニ對シ上告ヲ爲シ又ハ如何ナル趣意ノ上告ヲ申立テ如何ニ相手方ハ答辯シタルヤ等ヲ調査報告スヘキモノトス

第二百八十三條 檢事ニ非サル者辯論ヲ爲スニハ辯護士ヲ差出ス可シ

受命判事ハ辯論前其報告書ヲ朗讀ス可シ

檢事及ヒ辯護士ハ趣意書ニ掲ケタル事項ノ範圍内ニ於テ辯論ヲ爲ス可シ

私訴ノ上告ニ付テハ檢事最終ニ其意見ヲ陳述ス可シ

(講義)前ニモ述ヘタル如ク上告裁判所ハ事實ノ審理ヲ爲スヘキモノニアラスシテ法律適用ノ當否ヲ審案スルモノナレハ辯論ヲ爲スニ辯護士ニ非サルモノナルトキハ法律思想ニ乏シキ爲メ其任ニ耐ヘ能ハサル場合ナシトセス故ニ本條第一項ハ辯論ヲ爲スニハ辯護士ヲ差出ス可シト規定シタルナリ

受命判事ハ趣意書及ヒ答辯書ヲ檢閱シ其報告書ヲ作ルヘキモノナレハ上告事件開廷ノ日ニハ先ツ其報告書ヲ朗讀シテ以テ他判事ヲシテ調査ノ結果ヲ熟知セシメサルヘカラス之レ第二項ノ規定存スル所以ナリ

檢事及ヒ辯護士ハ趣意書ニ掲ケタル事項ノ範圍内ニテ辯論ヲ爲スヘキモノトス上告審ニ於ケル普通手續ハ上告人ノ辯護士ヨリ上告ノ趣意ヲ述ヘ檢事ニ答辯ス可ク又檢事上告ノ場合ハ檢事先ツ其趣意ヲ述ヘ被告人ノ辯護士之ニ答辯ヲ爲スヘキモノナルモ私訴ノ上告ニ付テハ先ツ上告人ノ辯護士次ニ被上告人ノ辯護士各其趣意ヲ辯明シ檢事ハ最終ニ其意見ヲ陳述ス可キモノトス何トナレハ私訴上告ニ付テハ檢事之ヲ爲スニアラシテ之ヲ爲スモノハ刑事被告人又ハ民事原告人若クハ私訴被告人ニシテ檢事ハ常ニ直接ノ關係ヲ有セス單ニ其事件カ公益ニ關係アルノ故ヲ以テ之ニ立會スルニ過キサレハナリ

第二百八十四條 上告申立人又ハ相手方ヨリ辯護士ヲ差出ササルトキハ其儘ニテ判決ヲ爲ス可シ

(講義)第二百七十六條ノ場合ヲ除ク外ハ當事者ハ必スシモ辯護士ヲ差出スコトヲ要セザレハ上告申立人又ハ相手方ヨリ辯護士ヲ差出ササルトキハ上告裁判所ハ其儘ニテ判決ヲ爲スヘキモノトス何トナレハ前ニモ述ヘタル如ク上告審ハ法律ノ點ノミ審判スヘキモノニシテ事實ノ點ニ關セザレハ訴訟人自テ辯護士ヲ必要ナシトシテ出廷セシメサルトキト雖モ趣意書并ニ答辯書ニ依リ十分審理ヲ遂ケ得ラレハナリ

第二百八十五條 左ノ場合ニ於テハ上告裁判所判決ヲ以テ上告ヲ棄却ス可シ

- 第一 上告ノ申立法律上ノ方式ニ違ヒ又ハ期間ヲ經過シタルトキ
- 第二 期間内ニ趣意書ヲ差出ササルトキ
- 第三 上告理由ナキトキ

(講義)本條ハ上告棄却ノ判決ニ關スル規定ニシテ上告裁判所左ノ三場合ニ於テハ之カ判決ヲ爲スヘキモノトス

第一 上告ノ申立法律上ノ方式ニ違ヒ又ハ期間ヲ經過シタルトキ 上告ヲ爲スニハ法律ニ定メタル方式ヲ遵奉スルヲ要ス然ルニ例令ハ判決ノ性質ヲ有セサルモノ若クハ判決以外ノ判決ニ對シ上告ヲ爲シタルトキハ其上告ハ法律上ノ方式ニ違反シタルモノナレハ上告裁判所ハ原判決ノ當否ヲ判定スルコトナク判決ヲ以テ棄却スヘキモノトス又上告ノ期間ヲ經過シタルモノナルトキハ原裁判所ニ於テ決定ヲ以テ其上告申立ヲ棄却スヘキモノナルモ若シ原裁判所力之ヲ經過シ訴訟記録ヲ上告裁判所ニ送致シタルトキハ上告裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ調査雖既ニ期間經過シタルモノナルトキハ上告ハ成立セサルモノナレハ之ヲ棄却スヘキ

ハ勿論ナリ

第二 期間内ニ趣意書ヲ差出ササルトキ 上告申立書ヲ期間内ニ提出スルトキハ上告ハ成立スト雖モ前ニモ述ヘタル如ク申立書ナルモノハ單ニ上告ヲ申立ツル旨ヲ記載シアルニ止マルモノナレハ其申立書ノミニテハ上告ノ範圍、目的判明セズ趣意書ト相俟テ初メテ完全ヘキモノナレハ趣意書ナキトキハ上告ノ目的ナキニ同シケレハ之ヲ期間内ニ差出ササルトキハ上告ヲ棄却スヘキナリ

第三 上告理由ナキトキ 上告ハ法定ノ理由アルニアラザレハ之ヲ爲スヘカラサルモノナレハ上告裁判所ニ於テ上告ノ趣旨ヲ審理シタル結果原判決ハ一モ法律違背ノ點ナシト認メタルトキハ其上告ハ理由ナキモノナレハ上告棄却ノ判決ヲ下シ原判決ヲ確定セシムヘキモノトス

第二百八十六條 上告ヲ理由アリトスルトキハ其上告ニ係ル判決ノ部分ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス言渡ヲ爲ス可シ但後二條ニ記載シタル場合ハ此限ニ在ラス

(講義)上告ノ理由アルトキハ原判決ハ違法ノ判決タルヲ免レサレハ原判決ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ同等ナル裁判ニ移シ更ラニ其事實ヲ覆審セシムヘキモノトス如何トナレハ上告裁判所ハ事實ノ裁判所ニ非サレハ自ら事實ヲ審理スルノ權ナシ故ニ後二條ニ記載シタル場合ヲ除キ判決ヲ以テ不法ノ點ヲ指示シ他ノ事實裁判所ヲシテ審理判決セシムルナリ茲ニ注意スヘキハ原判決中違法ノ點アリト雖モ若シ其部分ニシテ上告ニ係ラサルトキハ上告裁判所ハ自ら進テ之ヲ破棄スルヲ得サルナリ何トナレハ此場合ニモ尙ホ不告不理ノ原則ヲ適用シ得ヘケレハナ

第二百八十七條 擬律ノ錯誤又ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタルニ因リ
判決ヲ破棄シタルトキハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコトナク上告裁
判所ニ於テ直チニ判決ヲ爲スコシ

(講義)擬律ノ錯誤トハ前ニ述ヘタル如ク本案ニ對スル法律ノ適用ヲ誤リタル場合ヲ云フモ
ノニシテ假ハ原判決ハ詐欺取財ノ事實ヲ認定シ之ニ適用スルニ委託物費消罪ノ法條ヲ以テ
シタリトセン然ルニ被告ハ此法條ヲ適用シタルヲ不當トシ上告シタルトキハ此上告ハ擬律
ノ錯誤ヲ理由トスルモノナレハ上告裁判所ハ原判決ヲ破棄シ直チニ自ラ正當法條ヲ適用シテ
以テ本案ニ對スル判決ヲ下ササルヘカラス而シテ又原裁判カ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタルニ
因リ原判決ヲ破棄シタルトキモ前場合ト同シク其事件ニ付キ自ラ判決ヲ爲スヘキモノトス如
何トナレハ本法第六條第一乃至第六ノ理由アリテ公訴ノ已ニ消滅シタルニモ拘ハラズ尙ホ其
事件ニ對スル訴ヲ受理シ審判シタルトキハ其裁判ハ違法ノ裁判ニシテ上告ニ依リ已ニ公訴權
ノ消滅シタルコトヲ上告裁判所ニ於テ確知シタル以上ハ最早事實ヲ覆審スルヲ要セス直チニ
免訴又ハ無罪ノ判決ヲ下シ得ラレハナリ

上告裁判所ニ於テ原判決ヲ破棄シタルトキハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スヲ以テ普通トスル所
以ハ前ニ述ヘタル如ク上告裁判所ハ事實裁判所ニ非スシテ法律ノ點ノミ審理スルニ依ルモ
ノナレハ本條ノ如キ擬律ノ錯誤即チ法律ノ點ノミ爭論アリテ事實ノ確定セルモノ又ハ法律
ニ背キ公訴ヲ受理シタル場合等ノ如キニ於テハ二者共ニ當然上告裁判所ニ於テ判決スルコト
ヲ得他ノ裁判所ニ移送シ以テ事實ノ審理ヲ爲スコトヲ要セサレハ法律ハ特ニ上告裁判所ヲシ
テ本案ニ付キ直チニ判決スルヲ得セシメタルナリ

第二百八十八條 公判ノ手續規定ニ背キタルコトアリト雖モ其後ノ手
續ニ利害ヲ及ホササルトキハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スコトナク止
タ其手續ヲ破毀スコシ

(講義)公判ノ手續トハ其區域廣大ニシテ裁判所カ公訴ヲ受理シタル以後ノ手續ハ皆之ヲ包含ス
公判手續ノ違背ハ其後ノ公判手續ニ利害ヲ及ホスモノトモモ其後ノ手續ニ利害ヲ及ホササル
モノトアリ本條ノ場合ハ假ハ證人タルコトヲ得サルモノヲ證人トシテ尋問シタルモ其證言
ヲ採用セザリシトキハ之ヲ證人トシタルハ公判手續ノ違背ナリト雖モ其違背ハ毫モ判決ニ影
響ヲ及ホササルモノナルカ故ニ從テ其後ノ手續ニ何等利害ヲ及シタルモノト云フヲ得サレハ
其判決自体ヲ破棄スルノ要ナキモ違法ナル手續ハ之ヲ破棄セサルヘカラス之レ本條ノ規定ア
ル所以ナリ

第二百八十九條 判決ノ一分ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ他ノ部分
ニ關係アルトキハ其部分ヲモ破毀スコシ
擬律ノ錯誤又ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタルニ因リ被告人ノ利益ノ
爲メニ判決ヲ破毀シタルトキハ其利益ハ上告ヲ爲ササル共同被告人
ニモ及ホスコシ

(講義)判決全部ニ對シテ上告スルニ非スシテ判決ノ一部ニ對シテ上告ヲ爲シ破毀ノ理由アルト
キハ其一部ヲ破毀スヘキハ勿論ナルモ破毀カ他ノ上告ニ係ラサル部分ニ關係アルトキハ其部
分ヲモ破毀スヘキモノトス而シテ他ノ部分ニ關係アルヤ否ヤハ一ニ上告裁判所ノ判定ニ任シ
テ法律ハ何等之ニ對シ規定スル所ナシ抑モ裁判所ハ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シ得サ

ルハ訴訟法ノ原則ナリトス然ルニ本條ニ於テ上告ニ係ラサル部分ノ破毀ヲ許ス所以ノモノハ何ゾヤ假ヘハ一ノ判決アリ訴訟關係人ヨリ沒收ノ部分ニ付テ上告ヲ爲シ單ニ沒收ノ點ニ付テノミ原裁判ノ失當ヲ判斷シ判決ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ本案ニ對シテ關係ヲ及ホスコトナリテ沒收ノ一部ヲ破毀スヘク全判決ヲ破毀スルノ必要ヲ見ス然レトモ若シ其沒收シタル物件カ果シテ犯罪ノ用ニ供シタルモノナルヤ否ヤ明カナラサルトキハ本案全体ニ關係ヲ及ホスモノニシテ全判決ヲ破毀セサルヘカラス如何トナレハ本案ノ判決ハ沒收シタル物件ヲ以テ犯罪ノ用ニ供シタルモノナリヤ否ヤノ事實未確定ニシテ或ハ本案ノ事實ニ變更ヲ生スルヤモ知レサレハナリ

擬律ノ錯誤又ハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シタルニ因リ被告人ノ利益ノ爲メ判決ヲ破毀シタルトキ例ヘハ既ニ公訴ノ時効ニ罹リタル犯罪事件ノ共犯者數名ニ對シ原裁判所ニ於テ刑ヲ言渡シタル場合ニ共同被告人ノ一人ノミ其判決ニ對シ上告ヲ爲シ上告裁判所ニ於テ上告ノ理由アリトシテ原裁判ヲ破毀シタル如キ場合ニ於テハ上告裁判所カ其犯罪事件ノ公訴既ニ時効ニ罹リタリトノ理由ヲ以テ原裁判ヲ破毀シタルトキハ上告ヲ爲ササル他ノ共同被告人モ亦上告裁判所ノ判決ニ因リ利益ヲ受クルモノトス

本項ノ規定ハ不告不理ノ原則ニ對スル例外規定ナレハ上告裁判所ハ此規定ヲ擴張シテ上告ヲ爲シタル共同被告人中ノ一人ノ理由ヲ他ノ共同被告人ニ及ホスコトナ得サルナリ例ヘハ甲被告ニ對シ檢事ヨリ公益ノ爲メニ上告ヲ爲シ重刑ヲ科シタルニ依リ之ヲ他ノ上告ニ與カラサル共同被告人ニモ及ホシ重刑ヲ科スルコトナ得サルカ如シ

第二百九十條 上告裁判所ニ於テ破毀シタル事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス言渡ヲ爲ス可キトキハ原裁判所ニ接近シタル同等ノ裁判所ヲ指定ス

可シ單ニ私訴ニ係ル事件ハ之ヲ其裁判所ノ民事部ニ移ス可シ

(講義) 第二百八十六條ノ規定ニ從ヒ上告ヲ理由アリトシ其上告ニ係ル判決ノ部分ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ上告裁判所ハ如何ナル裁判所ヲ指定スヘキカ本條ハ之ヲ規定シテ曰ク原裁判所ニ接近シタル同等ノ裁判所ヲ指定ス可シト而シテ若シ單ニ私訴ニ關スル判決ノミヲ破毀シタルトキハ之ヲ同上裁判所ノ民事部ニ移スヘキモノトス故ニ例ヘハ原裁判所カ大阪控訴院ナルトキハ其事件ハ同院ニ接近シ且ツ同等ナル名古屋控訴院ニ移スカ如キ之ナリ

第二百九十一條 第二百六十五條ノ規定ハ上告ニモ亦之ヲ準用ス

(講義) 本條ハ被告人ノ不利益ニ判決ヲ變更シ得サル場合ヲ規定シタルモノニシテ其詳細ハ第二百六十五條ニ説明シタル所ト同シケレハ再說セス

第二百九十二條 第一審裁判所ト第二審裁判所トヲ問ハス法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ期間内ニ上訴スル者ナクシテ其判決確定シタルトキハ其事件ニ付キ上告ヲ受クル權アル裁判所ノ檢事ハ司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ其裁判所ニ非常上告ヲ爲スコトヲ得非常上告ヲ理由アリトスルトキハ原判決ヲ破毀シ直チニ其事件ニ付キ判決ヲ爲ス可シ

(講義)本條ハ非常上告ヲ爲スヘキ場合ヲ規定シタルモノニシテ非常上告トハ上告ヲ經スシテ確定シタル第一審又ハ第二審裁判所ノ判決ニ對シテ爲ス上告ヲ云フ

非常上告ハ上告中ノ一種ノ特例ニシテ普通上告ト同一ナラサレハ今少シク之カ差異ニ付キ一書セン

普通上告ハ確定判決ニ對シテ爲シ得サルモ非常上告ハ之ニ反シ確定判決ニ對スルニアラサレハ爲シ得サルモノトス又上訴ハ審級ノ順序ヲ追フテ之ヲ爲スヘキモノナルモ非常上告ハ第一審裁判所ノ裁判タルト第二審裁判所ノ裁判タルトナ間ハ之ヲ爲シ得ルモノトス而シテ又普通上告ハ一定ノ期間内ニ法律ニ違背シタル判決ニ對シ檢事其他訴訟關係人ヨリ之ヲ爲シ得ト雖モ非常上告ハ一定ノ期間内ニ之ヲ爲スヲ要セス裁判確定後ハ何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘキモ其場合ハ法律之ヲ限定シ擬律ノ錯誤アル判決ニ對シテノミ上告裁判所ノ檢事ヨリ之ヲ提起シ得ルモノトス之レ蓋シ此ノ上訴方法ヲ濫用シテ以テ徒ラニ裁判ノ確定ヲ動カシ惹テ公安ヲ害スルコト勿カラシメタルナリ

非常上告ヲ爲シ得ヘキ場合左ノ如シ

- 第一 法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シタルトキ
- 第二 相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルトキ
- 非常上告ノ制度ハ畢竟公益ト被告人ノ利益トヲ保護スル爲メ設ケタルモノナレハ若シ無罪ノ人ニシテ不幸ニモ刑ニ處セラレシカ社會ハ默過スルコトヲ得サルヘシ故ニ公益ノ代表者タル檢事ハ非常上告ノ方法ニヨリテ其裁判ノ更正ヲ求メサルヘカラサルナリ又相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルトキ假ヘハ輕罪ノ事實ヲ認定シタルニモ保ハラス重罪ノ刑ヲ科シ又ハ輕罪ノ刑ヲ加重シテ法律ニ定メタル刑ヨリ重キ刑ニ處シタル場合ノ如キハ元來被告人ハ無罪ノ人ニ非スト雖モ社會ノ希望ニ超過シタル刑ニ處シタルモノナレハ之レ亦之ヲ匡正セサルヘカラサルナリ

第四章 抗告

(講義)抗告トハ豫審終結決定又ハ公判ノ手續ニ關スル裁判所ノ決定ニ對シ法律ノ特ニ許シタル場合ニ限り爲ス上訴ナリ

第二百九十三條 抗告ハ法律ニ於テ特ニ許シタル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

(講義)抗告ハ法律ニ於テ特ニ許シタル場合ニ限り決定ニ對シテノミ爲スコトヲ得ル上訴ナリ而シテ法律カ抗告ヲ許スヘキ場合ヲ舉示セハ左ノ如シ

- 第一 證人鑑定人故ナク呼出ニ應セサルニ因リ之ニ對シ罰金若クハ費用ノ賠償ヲ言渡シタル決定 (第一一八條第一三六條第一九〇條)
- 第二 宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ供述鑑定ヲ肯セサルニ因リ證人鑑定人ニ對シ罰金ヲ言渡シタル決定 (第一二六條第一三八條第一九〇條)
- 第三 證人同行スルコトヲ肯セサルニ依リ之ニ對シ罰金ヲ言渡シタル決定 (第一二八條)
- 第四 重罪公判ニ付スル豫審終結決定又ハ免訴若クハ管轄違ノ豫審終結決定 (第一七二條)
- 第五 期間經過後ニ爲シタル控訴上告ノ申立ヲ棄却スルノ決定 (第二五五條第二七六條)
- 第六 忌避ノ申請ヲ不當ナリトシタル決定 (第四二條)
- 第七 刑ノ言渡ヲ受ケタルモノカ其言渡ニ付キ爲ス疑義ノ申立又ハ其執行ニ付キ爲ス異議ノ申立ニ對シ與ヘタル裁判所ノ決定 (第三二二條)

第二百九十四條 抗告ニ付テハ直近ノ上級裁判所其裁判ヲ爲スコシ

抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ抗告申立人ヨリ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ

得ス

(講義) 抗告ハ抗告ヲ申立ラレタル決定ヲ爲シタル裁判所ノ直近ノ上級裁判所之ヲ裁判スヘキモ
ノトス故ニ例ヘハ區裁判所ノ決定ニ對スル抗告ハ地方裁判所ニ於テ裁判シ地方裁判所ノ決定
ニ付テハ控訴院ニ於テ裁判シ控訴院ノ決定ニ對スル抗告ハ大審院ニ於テ之ヲ裁判スルカ如シ
抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ抗告申立人ハ更ニ抗告ヲ爲シ得サルモノトス故ニ假ヘハ重罪公
判ニ移スノ豫審終結決定ニ對シ被告人抗告ヲ爲シ抗告裁判所ニ於テ其抗告ヲ棄却シタルトキ
ハ抗告人ハ其棄却ノ決定ニ對シテハ更ニ抗告ヲ爲シ得サルカ如シ

第二百九十五條

抗告ノ期間ハ裁判ノ送達アリタル日ヨリ二日トス

(講義) 本條ハ抗告申立ノ期間ヲ定メタルモノニシテ其期間ハ裁判ノ送達アリタル日ヨリ三日内
トス控訴上告ノ期間ハ裁判言渡ノ日ヨリ起算スルモ抗告ハ決定送達ノ日ヨリ起算スヘキモノ
トス蓋シ決定ハ口頭辯論ヲ經ルニ非サルカ故ニ公判廷ニ於テ其決定ヲ言渡スモノニ非ス抗告
ノ權アルモノハ決定ノ送達ニ依リテ初メテ決定アルコトヲ領知シ得ヘキモノナレハナリ

第二百九十六條

抗告ヲ爲スニハ其申立書ヲ 原裁判ヲ爲シタル裁判所
又ハ豫審判事ニ差出ス可シ其裁判所又ハ 豫審判事ニ於テ抗告ヲ理由

アリトスルトキハ不服ノ點ヲ更正シ 又理由ナシトスルトキハ意見ヲ
付シテ三日内ニ抗告申立書ヲ 抗告裁判所ニ送致シ且豫審終結ノ決定
ニ對スル抗告ニ付テハ訴訟記録ヲモ送致ス可シ

(講義) 裁判所ノ決定ニ對スル抗告申立書ハ原裁判所ニ差出シ又豫審終結決定ニ對スル抗告申立

書ハ其決定ヲ爲シタル豫審判事ニ差出スヘキモノトス控訴上告ニ於テモ抗告ト同シク申立人
ハ申立書ヲ差出スヲ以テ上訴ノ第一着手ト爲スモ控訴ニ在リテハ其申立書ニハ不服ノ趣旨ヲ
辯述スルヲ要セス唯單ニ控訴ヲ爲スノ意思ヲ表明スレハ足ルモノナリ又上告ニ於テモ申立書
ハ事件ヲシテ上告審ニ繫屬セシムルモノニシテ單ニ不服ノ意思ヲ表示スルニ過キササルモ抗告
ハ元來書面審理ニシテ原裁判所又ハ豫審判事ハ此申立書ニ依リ原裁判ノ當否ヲ決シ又抗告裁
判所モ申立書ノミニヨリテ決定スルモノナレハ控訴上告トハ其申立書ノ性質ヲ異ニス故ニ抗
告ニ在リテハ其不服ノ趣旨ヲ明確ニ申立書ニ記載スルヲ要ス而シテ其申立書受ケタル豫審判
事又ハ裁判所ニ於テハ抗告ヲ理由アリトスルトキハ前決定ノ瑕瑾若クハ誤謬ヲ更正シ以テ抗
告ヲ停止セシメ得ヘク若シ又之ヲ理由ナシトスルトキハ抗告裁判所ノ裁判ヲ受ケサルヲ得サ
ルカ故ニ自己ノ意見ヲ付シ其申立書受ケタル日ヨリ三日以内ニ抗告申立書ヲ抗告裁判所ニ送
致シ又豫審終結ノ決定ニ對スル抗告ノ場合ニ於テハ訴訟記録ヲモ併セテ送致セサルヘカラス

第二百九十七條

抗告裁判所ニ於テハ檢事ノ意見ヲ 聽キ書類ニ依リ抗

告裁判ヲ爲ス可シ

(講義) 抗告裁判所ハ判決ヲ爲スモノニ非サレハ其審理ハ全ク書面審理ナルヲ以テ檢事ノ意見ヲ
聽キタルトキハ書類ニ依リ抗告ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス若シ抗告裁判所ニ於テ檢事ノ意見
ヲ聽クコトヲ遺忘シテ決定ヲ與ヘタルトキハ其決定ハ裁判ノ手續ヲ誤リタルモノナレハ之ヲ
理由トシテ更ニ抗告ヲ爲スコトアルヘシ

第二百九十八條

豫審終結ノ決定ニ對スル 抗告ニ付キ抗告裁判所ニ於

テ必要ナリトスルトキハ受命判事ヲシテ事件ノ取調ヲ爲シ報告ヲ爲

上 訴

サシムルコトヲ得

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

(講義)普通ノ抗告事件ハ單ニ書類ニ依リ審判スルモノナリト雖モ夫ノ豫審終結決定ニ對スル抗告事件ノ如キハ事實複雑ニシテ書類ノミニテハ事實ヲ明確ナラシムルヲ得サルコトアリ故ニ若シ抗告裁判所ニ於テ必要ナリトスルトキハ受命判事ヲ撰任シ之ヲシテ事件ノ取調ヲ爲シ且其報告ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノトス此受命判事ハ他ノ上訴ニ於ケルト同一ニ其抗告理由ニ付テ判斷スルニ非ラス唯抗告裁判所力裁判ヲ爲スコトヲ得ヘキ材料ヲ調査スルニ止マルモノナレハ之ニ豫審判事ト同一ノ處分ヲ爲スコトヲ得セシメサルヘカラス之レ本條第二項ノ規定アル所以ナリ

第二百九十九條

抗告裁判所ニ於テハ抗告ヲ許ス可キヤ否ヤ又抗告ノ期間内ニ於テ申立ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調査シ 此要件ノ一ヲ闕クトキハ其抗告ヲ棄却ス可シ

(講義)抗告裁判所ノ裁判ニ二種アリ曰ク抗告棄却ノ裁判曰ク原裁判取消ノ裁判即チ之ナリ取消ノ裁判ニ付テハ次條ニ規定セルヲ以テ茲ニハ單ニ棄却ノ裁判ニ付キ畧說セン 凡ソ抗告ハ法律ノ特許アル場合ニアラザレハ如何ナル不當ノ決定ナリト雖モ之ニ對シテ其申立ヲ爲シ得サルモノトス又何人ト雖モ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期間ヲ經過シタルトキハ其訴訟ヲ爲スノ權利ヲ失フモノトス故ニ法律ノ許ササル場合ニ於テ爲シタル抗告ナルカ又ハ決定ノ送達アリタル日ヨリ三日ヲ經過シタル抗告ナルトキハ其抗告ハ成立セサルヲ以テ抗告裁判所ハ其抗告ノ理由アルヤ否ヤヲ審査スルニ至ラスシテ之ヲ棄却スルノ決定ヲ爲スヘキモノトス

第三百條

抗告裁判所ニ於テ抗告ヲ理由アリトスルトキハ原裁判ヲ取消シ自ラ更ニ裁判ヲ爲シ又抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ棄却ス可シ

(講義)原裁判カ事實ニ反シ又ハ法律ニ違背スルモノナルトキハ抗告裁判所ハ原裁判ヲ取消シ更ニ其事件ニ付キ自己ノ所信ニ基キ相當ノ裁判ヲ爲スヘキモノトス此場合ニ於テハ其決定ヲシテ執行力アラシメ原判決ハ消滅シタルモノトス之ニ反シ抗告ノ理由ナシトシテ之ヲ棄却シタルトキハ原決定ヲシテ其效力ヲ維持セシムヘキナリ

第六編 再 審

(講義)再審トハ既に確定シタル判決ニ對シ法律ノ定メタル理由ノ存スル場合ニ於テ再ヒ其事件ヲ審理セラレシコトヲ請求スル處ノ上訴ナリ

一事不再理ハ法理ノ一大原則ニシテ一旦確定シタル事件ニ對シテハ再ヒ審理裁判ヲ爲スコトヲ得サルナリ之レハ法律ノ威信ヲ保チ一ハ社會ノ秩序ヲ維持セントスルノ意ニ出テタルモノナルモ此原則ヲ絕對的ニ遵奉センカ時ニ或ハ法律ノ威信ヲ毀ケ社會ノ秩序ヲ損スルノ反對ナル結果ヲ見ルニ至ラン抑裁判ノ要ハ一ニ其事實ノ眞ヲ得ルニアリ故ニ若シ其裁判ニシテ誤謬ノ存スルコト明カナランカ既ニ確定シタル判決(確定判決ハ最早何等ノ攻撃方法ヲモ許ササルヲ原則トス何トナレハ若シ之ヲ許ストキハ一旦終決シタル裁判モ何時起訴セラレルヤ知ルヘカラスシテ人民ノ不安心ヲ招キ安寧秩序ヲ紛擾スルノ虞アレハナリ)ト雖モ再ヒ之ヲ審理匡正スルハ理ノ當ニ然ルヘキ所以ニシテ之カ爲メ社會ノ公益ニ背馳スルコトナキハ勿論却テ公益上必要ナルモノト云ハサルヘカラス非常上告ト再審トハ實ニ此必要ヲ充サンカ爲メノ